

葵

60号 令和8年度



静岡県立中央図書館報

目 次

巻頭言	静岡県立中央図書館長 渡辺 賢一	1
静岡県立中央図書館創立 100 周年記念事業について		2
教育長、教育部長あいさつ（令和 7 年度当時）	1 記念事業概要 2 記念事業実施期間 3 記念事業一覧	
4 記念事業報告 5 沿革史	付1 新館整備に向けた取組 付2 ひび割れ発見に伴う臨時休館	
付3 新型コロナウイルス感染症への対応	6 略年表 7 歴代館長一覧 100 周年記念事業を振り返って	
I 当館の概要（令和 8 年度）		77
1 沿革 2 令和 8 年度基本方針・事業体系 3 組織図		
4 職員 5 予算 6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要		
II 事業報告（令和 7 年度）		87
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年（令和 7 年度）		88
(1) 図書館をめぐる社会情勢 (2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組		
(3) 県内市町の新図書館設置の動き (4) 県内図書館その他の動き (5) 静岡県図書館大会、関係団体実施事業等の開催		
2 利用状況統計		93
(1) 県立中央図書館利用状況 (2) 協力貸出 (3) レファレンス		
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況 (5) 歴史文化情報センター利用状況 (6) 電子図書館利用状況		
3 図書館資料充実状況		96
(1) 図書資料 (2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等		
(3) 逐次刊行物（新聞・雑誌） (4) 電子書籍		
4 図書班		99
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実 (3) 図書館利用状況		
(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出） (5) 子ども図書研究室		
(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」 (7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) 展示他 (9) 資料データ整備		
5 新聞雑誌班		107
(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実 (2) 提供情報の充実 (3) その他		
6 一般調査班		109
(1) レファレンスサービス (2) 市町立図書館などへの支援		
(3) 特別取扱資料等の保存と公開 (4) 障害者サービス (5) その他の関連事業		
7 地域調査班		114
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実 (3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援 (5) 地域資料のデジタル化		
(6) 地域貴重資料の保存 (7) 地域視聴覚資料の媒体変換 (8) 歴史文化情報センター		
8 企画班		117
(1) 図書館職員研修 (2) 利用者からの意見 (3) イベント等 (4) 図書館サポーター		
(5) 職場体験学習等 (6) 図書館広報 (7) ムセイオン静岡 (8) 浙江図書館との友好提携		
(9) 山梨県立図書館との連携協定 (10) 市町立図書館等受取サービス (11) 図書館 DX		
付属資料 令和 7 年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果		
9 振興班		131
(1) 市町立図書館振興 (2) 協力車訪問事業と資料搬送事業 (3) 令和 7 年度 第 32 回 静岡県図書館大会		
(4) 関係団体との連携 (5) 表彰（敬称略・関係団体の表彰も含む）		
10 総務班		137
(1) 図書館協議会 (2) 施設設備の維持管理 (3) 施設利用状況		
11 健康医療情報サービス		139
(1) サービス内容 (2) 関連事業		
12 歴史文化情報センター（地域調査班）		140
(1) 県史編さん収集資料の保存・整理・公開 (2) 利用状況		
13 資料紹介 草山化する伊豆の山々-正徳 5 年の瓜生野村大城小四郎上申書-		141
III 施設及びサービス案内（令和 8 年度）		145
1 図書館配置図 2 施設の概要 3 ブラウジング・閲覧室案内図 4 利用案内（令和 8 年度）		
総目次（51 号～59 号）		152

101年目の新たな一歩

静岡県立中央図書館長 渡辺 賢一

この度、静岡県立中央図書館の館長を拝命しました渡辺です。どうぞよろしくお願ひいたします。1925年(大正14年)4月に静岡県立葵文庫としてスタートした当館は、幾度かの名称変更を経て、昨年度(2025年)、創立100周年を迎えました。これはひとえに、日頃から当館をご利用くださっている県民のみなさま、そして当館の設立や運営に携わってこられた多くの関係者の方々のおかげであり、改めて心より感謝申し上げます。

創立100周年を迎えた昨年度は、新県立中央図書館の整備方針が、一旦見直されることになった年でもありました。県民のみなさまに御心配・御迷惑をお掛けしたことに対し、改めておわび申し上げます。今後、基本構想の改定に向けた検討が進められる予定ですが、引き続き、県民のみなさまの調査研究を支え、必要な資料を収集・保存し、県内の市町立図書館をつなぎ支援していくという県立図書館の役割を着実に果たしてまいります。そして、静岡県の「知の拠点」として、県民のみなさまの「調べる、考える、解決する」を全力で支えていきたいと考えています。

先日、東京都心の一角にあるウクライナ語の本を集めた図書室についての新聞記事(令和8年3月5日及び同年3月16日付け静岡新聞DIGITAL Web)が目にとまりました。記事によれば、その図書室は、日本各地の被災地などで心のケアのボランティア活動を行ってきた団体が運営する施設の一室にあり、ウクライナ出身の女性の提案によって開設されたそうです。

彼女が日々伝わる母国での戦況に心を痛めながら集めた本は、当初の約50冊から、今では1,000冊ほどにまで増えました。そしてそれらは、祖国での戦禍を逃れ日本に避難する多くのウクライナの人々にとって、心のよりどころになっているということです。中には「故郷にいるような気持ちになる」と語る方や、好きだった本を見つけて「家族や友達と過ごした楽しい時間を思い出す」と声を詰まらせる方もおり、何度もこの図書室を訪れる人もいます。

この図書室の開設を提案した女性が、「祖国の文化を守る」という思いから本を集めていることに加え、彼女が残した次の言葉が強く印象に残りました。

「本は私たちの心です。」

この言葉から、本が、人々に知識や情報を与えるだけのものにとどまるのではなく、自分の国の文化として誇りの対象となる存在であること、苦難の渦中にある人の心を支える力を持つ貴い存在であることが伝わってきます。

そして、スマートフォンの普及などにより、本離れ・読書離れという言葉が耳にすることが多い現代において、「本は守らなければならない文化である」、「本は私たちの心である」という思いを大切にしながら図書室の運営に携わっている方がいることに、襟を正される思いがするとともに、平和な日本に住む私たちは果たしてそのような態度で本に向き合ってきたのかと、自らを振り返る契機ともなりました。

本はまさに私たちの大切な文化であり、心そのものです。そのことを肝に銘じ、先人たちが長い年月をかけて積み重ねてきた文化や歴史、英知といったかけがえのない財産を守り、次代に確実に引き継いでいくとともに、それらをさらに発展させ、新しい文化を育み、静岡の未来を創り上げていく役割を果たしていきたいと思ひます。

今後とも、県民のみなさまの御期待に応えられる図書館を目指し、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。101年目の新たな一歩に当たり、引き続き御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

静岡県立中央図書館創立 100 周年 記念事業について

新たな「共創の拠点」への期待～創立百周年を祝って～	
静岡県教育委員会教育長（令和7年度当時）池上 重弘	… 3
静岡県立中央図書館 100 周年に寄せて	
静岡県教育委員会教育部長（令和7年度当時）前澤 綾子	… 4
1 記念事業概要	… 5
2 記念事業実施期間	… 5
3 記念事業一覧	… 5
4 記念事業報告	… 9
(1) 講座・講演会	… 9
ア 創立 100 周年記念講演	… 9
イ 貴重書講座	…17
ウ 子ども図書研究室講演会	…21
エ くずし字解読講座	…21
オ 城址講座	…22
(2) 特集展示	…22
(3) 企画展示	…23
(4) イベント	…24
(5) 記念動画	…24
(6) 記念品	…24
5 沿革史	…25
付録 1 新館整備に向けた取組（平成 28～令和 7 年度）	…33
付録 2 ひび割れ発見に伴う臨時休館（平成 29～30 年度）	…39
付録 3 新型コロナウイルス感染症への対応（令和元～5 年度）	…41
6 略年表	…44
7 歴代館長一覧	…74
【100 周年記念事業を振り返って】ある講師の教え～誰が為に県立はある～	
静岡県立中央図書館長（令和7年度当時）高橋 健二	…75

静岡県立中央図書館は、令和7年4月1日に創立100周年を迎えました。

令和7年度は、これを記念して各種の記念行事を行いました。

次ページでは、記念事業実施に際し、当時の教育長、教育部長から寄せられたあいさつ文を掲載します。



新たなる「共創の拠点」への期待 ～創立百周年を祝って～

静岡県教育委員会教育長 池上重弘
(令和7年度当時)

静岡県立中央図書館が創立百周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。大正14(1925)年の静岡県立葵文庫の創立から百年にわたり、県民の学びと文化の拠点として歩んでこられたその歴史は、まさに知の灯を絶やさず守り続けてきた多くの先人の努力の結晶であり、歴代館長をはじめ職員の皆様、地域の支援者の皆様、そして長年にわたり図書館を利用してこられた県民の皆様に深く敬意を表します。

県立中央図書館はこれまで、郷土資料や行政資料、学術文献等の体系的な収集・保存を通じて、地域の歴史と文化を未来につなぐ知の基盤を築いてきました。また、読書推進や生涯学習支援事業により、県民一人ひとりの学ぶ権利を保障し、地域の文化力を高める役割を果たしてきました。さらに、市町立図書館との緊密な連携や静岡県横断検索システム「おうだんくんサーチ」による県内全域のネットワーク化などを通して、単なる資料収蔵施設を超えた「知のハブ」としての価値を高めてきました。

現在、社会は急速なデジタル化と人工知能(AI)の進展という歴史的な大変動の局面にあります。単に情報を取得する場ではなく、知を編集し、評価し、活用する力を育む「知の公共空間」としての図書館の価値は、今後ますます重要度を増すでしょう。県立中央図書館は、デジタルライブラリー「ふじのくにアーカイブ」やオンライン上で利用できるレファレンスサービス、電子書籍利用サービスの拡充により、時間的・空間的制約を超えた学びの機会を提供する先進的な拠点として進化を遂げています。

こうしたデジタル・AI活用は、児童生徒の探究学習支援や大学生の研究支援、教員向けデジタル教材や学習ガイドの提供、さらに地域住民が主体的に参加するデータ活用ワークショップの実施などにつながります。今後の図書館は県民と共に新しい知を創造し、地域の課題を解決する「共創の拠点」としての役割が強く求められるでしょう。県立中央図書館は未来社会の知的インフラとして一層の発展が期待されます。

また、今日の図書館においては、多様な県民がアクセスし、共に学ぶことができる空間として、知の分野におけるインクルージョン(社会的包摂)を推進する役割も重要です。高齢者や障害のある方、外国にルーツを持つ住民など、多様な県民が情報にアクセスし、学びに参加できる環境整備へのニーズは今後ますます高まるはずです。

百周年という節目は、過去を振り返ると同時に、未来への挑戦を始める契機でもあります。時あたかも現在、県立中央図書館の移転が大きな社会的関心を呼んでいます。教育委員会としても、図書館をデジタルとリアルが融合する学びの拠点として、知の継承と創造を支える体制の整備に努めてまいります。データ利活用やAI支援の仕組みをさらに充実させるとともに、地域連携プロジェクトや共創型学習の推進により、県民一人ひとりが主体的に学び、地域の課題解決に参画できる社会を構築してまいります。

県立中央図書館が百年の蓄積を礎に、次の百年に向けて「知の公共性」と「学びの共創」を体現する拠点として発展されることを、心から期待しております。静岡県教育委員会としても、その歩みを力強く支援し、県民が知を探究し、地域を創造する未来への灯となる県立中央図書館のさらなる発展を祈念いたします。



静岡県立中央図書館 100 周年に寄せて

静岡県教育委員会教育部長 前澤綾子
(令和7年度当時 現教育長)

静岡県立中央図書館が100周年を迎えましたことに心からお祝いを申し上げます。これまで図書館の設立・運営に関わってこられたすべての方に深く敬意を表します。

図書館は、古代・中世には知識を独占する権威・権力の象徴であったかもしれませんが、現代では誰もがアクセスでき知識を共有する社会教育の場の一つ、また、民主主義をはじめとする私たちの社会基盤を保持する大切な機関として発展・変貌を遂げました。

そのような役割は変わらないとして、未来の図書館はさらにどのようになっていくのでしょうか。

私がひとつ夢見ているのは、神戸のポートアイランドのような、「知」によって駆動するダイナミックな融合拠点でありコミュニティです。図書館という情報や知識が集積する「場」に、静岡に暮らす大学の研究者や学生も、芸術関係者も、企業関係者も、多様なルーツを持つ県民・市民も自由に行き交い、アイデアを融合させ、ネットワークを広げ、新しい創造につながっていく…これから新設するシン県立図書館が、もしそんなプラットフォームを東静岡の駅前で提供できたら、とても素晴らしいと思います。

そのような役割も含めて、図書館はもはや「本が置いてある場所」だけではないのですが、しかしながらやはり「本」「読書」を抜きには語れない施設ではないかとも思うのです。

個人的な話になりますが、私の母は結婚まで司書として、静岡市立図書館に勤務していました。父が転勤族であったため、私が小学校高学年になるまで数回の引越しをしましたが、母は行く先々で読み聞かせ会や文庫活動に参加しており、そのような環境で育ったので、私も読書を生活習慣の一つにして育ちました（これは、今でも感謝しています）。読みたかった本を手に入れて、「妃のくらしも何にかはせむ」と吐露した「更級日記」の主人公の喜びは今でも私のものですし、本がたくさんある場所―書店、古書店、そして図書館に立ちこめる独特の薫りに、本の持つ手触りに、大変心惹かれます。

美智子皇后陛下（当時）が、1998年の国際児童図書評議会の大会で、心に残る講演をされました。「それ（※読書）はある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。」
「本の中で人生の悲しみを知ることは、自分の人生に幾ばくかの厚みを加え、他者への思いを深めますが、本の中で、過去現在の作家の創作の源となった喜びに触れることは、読む者に生きる喜びを与え、失意の時に生きようとする希望を取り戻させ、再び飛翔する翼をととのえさせます。悲しみの多いこの世を子供が生き続けるためには、悲しみに耐える心が養われると共に、喜びを敏感に感じとる心、又、喜びに向かって伸びようとする心が養われることが大切だと思います。」「そして最後にもう一つ、本への感謝をこめてつけ加えます。読書は、人生の全てが、決して単純でないことを教えてくれました。私たちは、複雑さに耐えて生きていかなければならないということ。人と人との関係においても。国と国との関係においても。」（引用は宮内庁ホームページより）

本を読むという行為が、社会的、経済的な価値の他にも、人間を人間らしく成長させるという大切な役割を持つということ。それこそが、図書館が無償で万人に提供できる最良の価値であり、子供から大人まで多くの人々を惹きつける源泉になっているのではないのでしょうか。県立中央図書館が、市町図書館への支援を通じてのものも含めて、いつまでも県民にとってそのような根源的な価値を提供できる場であることを期待しています。

静岡県立中央図書館創立 100 周年記念事業について

1 記念事業概要

静岡県立中央図書館は、大正 14 (1925) 年 4 月、本県における教育の普及、文化の向上を図るため、「静岡県立葵文庫」として駿府城内（現在の静岡市歴史博物館敷地内）に創設された。その後、昭和 45 (1970) 年には、県文化センター構想に基づき現在の地に移転し、令和 7 (2025) 年に創立 100 周年を迎えた。そこで、この節目の年に県民の文化活動・生涯学習の拠点としての図書館活動をさらに広く理解していただくため、各種記念事業を行うこととした。

記念事業の実施にあたっては令和 7 年度に創立 100 周年記念事業実行委員会（委員長：静岡県立中央図書館長）を決定機関として組織し、その傘下に創立 100 周年記念事業部会を実施機関として組織した。新県立図書館整備に係る諸作業にも携わる中での実施であったが、全館協力体制のもと各種事業を展開した。

2 記念事業実施期間

令和 7 年 4 月 1 日（火）～令和 8 年 3 月 31 日（火）の 1 年間 及び 当該期間を含む前後の期間

3 記念事業一覧

(1) 講座・講演会

	演題・講師	日時・会場
子ども図書研究室講演会	「豊かな心を育む絵本の世界」 瀧薫氏（社会福祉法人子どものアトリエ理事長・大阪芸術大学短期大学部教授）	令和 7 年 7 月 15 日（火） 午後 2 時～4 時 静岡県立中央図書館中集会室 オンデマンド配信：令和 7 年 7 月 29 日（火）～10 月 31 日（金）
くずし字解読講座	「初めて古文書に触れる人のために」 歴史文化情報センター職員	令和 7 年 10 月 16 日（木）、21 日（火）、23 日（木）、28 日（火） 各回とも午後 1 時 30 分～3 時 静岡県立中央図書館中集会室
創立 100 周年記念講演	講演「静岡県立中央図書館百周年に寄せて 県立図書館の存在意義と図書館探究」 鈴木善彦氏（学校法人新静岡学園理事長） ----- パネルディスカッション「図書館 これからの 100 年」 パネリスト 鈴木善彦氏 草谷桂子氏（トモエ文庫（家庭文庫）主宰） 勝山高氏（静岡県読み聞かせネットワーク会長） コーディネーター 高橋健二（静岡県立中央図書館長）	令和 7 年 10 月 25 日（土） 午後 2 時～4 時 30 分 静岡県立中央図書館会議室
貴重書講座	「静岡県立葵文庫とその事業」 青木祐一氏（葵文庫の会会員・学習院大学非常勤講師）	令和 7 年 11 月 1 日（土） 午後 1 時 30 分～3 時 静岡県立中央図書館会議室
城址講座	「新発見の『駿府御城内絵図』について～絵図から見えた、天守の姿～」 加藤理文氏（公益財団法人日本城郭協会常務理事）	令和 7 年 11 月 2 日（日） 午後 2 時～午後 3 時 30 分 静岡県立中央図書館講堂

(2) 特集展示

	タイトル	展示資料	期間・会場
貴重資料	静岡県立葵文庫	『静岡県立葵文庫概要』『静岡県立葵文庫新築落成記念絵葉書』『静岡県立葵文庫記念写真帖』『芳名録』	令和7年3月1日(土)～4月29日(火) 貴重書展示コーナー
	ハルマ辞書	『蘭仏辞典』『ハルマ和解』『ゾーフハルマ』	令和7年5月31日(土)～6月29日(日) 貴重書展示コーナー
	蘭学から英学へ	『英蘭・蘭英辞典』『新ポケット英蘭辞典』『改正増補 英和対訳袖珍辞書』	令和7年7月1日(火)～7月30日(水) 貴重書展示コーナー
	久能文庫の救荒書	『遠州救荒小録』『二物考』『農家心得草』	令和7年10月1日(水)～11月1日(土) 貴重書展示コーナー
	古活字版	『論語』『群書治要』『尚書』	令和7年11月29日(土)～令和8年1月15日(木) 貴重書展示コーナー
地域資料	静岡県立中央図書館のあゆみ	当館の創設やコレクションにゆかりのある人物、当館が発行した出版物など	令和7年5月1日(木)～5月29日(木) 地域資料特集展示コーナー
一般資料	ようこそ、100年の図書館へ。	「100年」にまつわる一般資料	令和7年7月8日(火)～7月30日(水) 総合案内カウンター前
	100年前の本に触れる	100年前に出版された本	令和7年8月1日(金)～8月28日(木) 総合案内カウンター前
	100をキーワードにした本	「100」をキーワードにした資料	令和7年8月30日(土)～9月28日(日) 総合案内カウンター前
雑誌	「100」	「100」をキーワードにした雑誌	令和7年7月1日(火)～8月28日(木) 雑誌コーナー
その他	城址講座関連展示	加藤理文氏著作及び駿府城関連資料	令和7年11月1日(土)～11月27日(木) 総合案内カウンター前
	静岡県立中央図書館・山梨県立図書館連携展示「富士山をカガクする」	富士山の「自然環境」「環境共生」「火山防災」等に関する資料	令和8年1月31日(土)～2月26日(木) 総合案内カウンター前

(3) 企画展示

タイトル	内容	期間・会場
写真で見る静岡県立中央図書館の100年	静岡県立葵文庫及び静岡県立中央図書館に関する記録写真	令和7年5月1日(木)～令和8年3月31日(火) 葵の広場
「世界児童画展」+ギャラリートーク・子どもむけワークショップ「あそびのじかん くれよんであそぼう！」	「世界児童画展ライブラリー貸出プログラム」による国内外の児童画100点	令和7年11月1日(土)～11月27日(木) 展示室 初日(11月1日)企画 ギャラリートーク：展示室 子どもむけワークショップ：中集会室

創立 100 周年特別企画！お宝発見？！収蔵庫に眠る珍品・奇品	木札類及びパネル類等、静岡県立葵文庫及び静岡県立中央図書館開館時の資料	令和 7 年 12 月 5 日（金）～令和 8 年 2 月 15 日（日） 展示室
---------------------------------	-------------------------------------	--

(4) イベント

夏休み子ども図書スペシャルウィーク
創立 100 周年記念クイズラリー

(5) 記念動画

「葵文庫～江戸幕府旧蔵書～」 「葵文庫以外の貴重書」 「静岡県立中央図書館の歴史」

(6) 記念品

クリアファイル 1000 枚 しおり 5 種 500 枚×2 種、100 枚×3 種
ブックカバー 12 種 ぽち袋台紙 8 種

(7) 刊行物の編集

静岡県立中央図書館報『葵』60 号「100 周年記念号」の編集
静岡県立中央図書館だより『文化の丘』377 号「100 年の歩み」の編集
静岡県立中央図書館だより『文化の丘』379 号「創立 100 周年を記念して」の編集

(8) 広報

・記念ロゴマークの作成、掲示



創立100周年
静岡県立中央図書館

バリエーション

静岡県立中央図書館



創立100周年



創立100周年
静岡県立中央図書館

創立 100 周年記念ロゴマーク

作成者 中签 はるひ さん

武蔵野美術大学 造形学部視覚伝達デザイン学科 4 年生（※作成当時）



正面出入口



北側出入口



階段

- ・のぼり・ポスターの作成、掲示



のぼり旗の掲出



ポスター

- ・当館 Web サイトにおける記念ページの開設（期間限定）、当館公式 X へのポスト



Web サイト



公式 X

- ・ボートレース浜名湖冠レース協賛キャンペーンへの応募

11月6日（木）第1レース
 11月7日（金）第5レース
 11月8日（土）第5レース



- ・取材協力（令和7年5月25日（日）静岡新聞朝刊 19面『しずおか学 時代の足跡編＝創立100周年 県立中央図書館 重み増す 思索の場』）

4 記念事業報告

(1) 講座・講演会

ア 創立 100 周年記念講演

これまでの 100 年、これからの 100 年

日 時：令和 7 年 10 月 25 日（土）午後 2 時～ 4 時 30 分

会 場：静岡県立中央図書館会議室

参加者：63 人

(ア) 講 演

演題：静岡県立中央図書館百周年に寄せて

県立図書館の存在意義と図書館探究

講師：学校法人新静岡学園理事長（元静岡県立中央図書館長）

鈴木 善彦（すずき よしひこ）氏

当日の講演内容を以下に要約して紹介する。

県立図書館 100 年の概観

本日、静岡県立中央図書館が創立 100 周年を迎えたこと、これは本当に意義深く、心からお祝い申し上げたいと思います。

今日いただきました講演の機会に、100 年を回顧しながら県立図書館の存在意義や図書館とは何かの探究を、そして、新県立図書館建設の問題にも触れてお話ししたいと思います。

100 年という年月を振り返りますと、この県立図書館の歩みは、実に象徴的な二つの時代に分けて考えることができます。最初の 20 年は「戦争の時代」、そしてその後の 80 年は「平和の時代」です。県立図書館は、この大きく性格の異なる時代をくぐり抜けながら、今日まで存続し続けてきました。

まず 1925 年、大正 14 年に県立葵文庫が誕生します。昌平坂学問所や林家所蔵本など徳川幕府ゆかりの貴重書をはじめ、久能文庫や静岡藩、駿府藩の学問所資料など、約 2 万 2 千冊もの蔵書を集めスタートしました。初代館長は貞松修蔵氏、職員は 16 名だったと記録されています。私自身、館長として初めて貴重書庫に入ったとき、あのモンテスキューの『法の精神』や『世界四大州新地図帳』などが目に飛び込み、鎖国下にあった江戸幕府が実は世界の文化文明に強い関心を持っていたことを実感し、大きな衝撃を受けました。静岡県の葵文庫というのは日本の図書館の中でも本当に希少な価値を持つ存在だと思います。

年表を見て気付くのですが、この葵文庫誕生の年に、同時に「治安維持法」が公布されたのは、偶然とはいえ非常に象徴的です。治安維持法は、思想・言論・出版の自由を強く制限し、軍国主義を支える法律でした。こうした中で、自由な思想や多様な価値観を保障する図書館は、真っ先に弾圧の対象となっていきます。閲覧制限がかけられ、資料は切り取られ、法律違反には死刑もあり得る治安維持法の時代に、特高警察の厳しい監視と圧力の中で司書は業務を行わざるを得ませんでした。あの、小林多喜二の『蟹工船』、河上肇の『貧乏物語』、そして、ルソーの『社会契約論』まで閲覧禁止になりました。県立葵文庫では 1940 年に 550 冊、翌年には 620 冊程の図書が閲覧禁止処分になりました。ここでも、図書資料の一部が切り取られました。



戦争の末期となると、静岡も度重なる空襲にさらされ、葵文庫では講堂の一部が焼失しました。それでも当時の館長、加藤忠雄氏が必死の消火活動で7万冊もの本を守り抜いたといえます。また、貴重書はリヤカーで西奈村や玉川村など周辺の7箇村等に疎開させたとのこと。戦禍は図書館の活動に大きな制約や圧迫をもたらしたことを改めて思い知らされます。こうした歴史を私は司書のレファレンスを通して県立図書館職員の研究資料からも学びましたが、先輩方の真摯な調査研究の姿勢に尊敬の念を覚えます。

1945年、日本は終戦を迎え、民主化改革が始まります。「国民主権」、「平和主義」、「基本的人権の尊重」という3つの原理から成る日本国憲法が制定されました。特に戦前あられだけ弾圧された精神活動の自由が保障されたことは、図書館活動に大きな励みになりました。さらに、1947年制定の「教育基本法」では、学校教育だけでなく社会教育の概念が明記され、その中心的機関として図書館が位置づけられます。1950年には図書館法が成立し、図書館は初めて法体系によって、その役割と使命が明確に規定されました。

この法整備の意義は極めて大きなものでした。戦前のように、憲法の規定でさえ治安維持法のような他の法律によって自由が簡単に制限される体制とは異なり、憲法、教育基本法、図書館法に至る一貫した法律の支えのもとで、基本的人権は図書館において保障されるということになります。これを受けて1954年に日本図書館協会が発した「図書館の自由宣言」では、前文で図書館は基本的人権のひとつとして「知る自由」をもつ国民に資料と施設を提供することを最も重要な任務とするとし、「収集の自由」、「貸出しの自由」、「利用者の秘密の保護」、「検閲の拒否」という4つの条文を掲げて「知る自由」を擁護しています。このように、憲法をはじめとする法律から日本図書館協会の自由宣言に至るまで、図書館と基本的人権との不可分な関係を確認することができます。これはまさに、図書館の存在意義と言えます。

1970年には、駿府城跡内の葵文庫からこの谷田の地に新しい県立図書館が移転開館します。その何年も前から県はこの地を文化の拠点にしようという「文化センター構想」をもっていました。真っ先に完成したのが図書館でした。いかに県が図書館に期待したかがわかります。21世紀に向けての新たな図書館が誕生することになります。谷田の地には図書館を皮切りに、その後美術館や県立大学などが整備され、まさに、わが県の文化の拠点になっていきます。

2000年前後、平成の大合併で自治体再編が進み、静岡県にあった74自治体は最終的に35にまでなりました。この合併に際し、多くの図書館が吸収され無くなっていくのではないかとたいへん心配されましたが、静岡県ではそうはならなかった。合併前に約70館だった条例設置の図書館は、合併後には確か、91館になり、これはすごいことだと日本図書館協会の方からも評価されました。合併を機に静岡県の自治体、市町の図書館が再編されて、各地で新たな図書館活動が繰り広げられるようになりました。

同じ2000年は国会が超党派で「子ども読書年」と定めた年ですが、この時の決議文は格調に満ちた子どもたちに寄り添うもので、私は読むたびに感動を覚えます。資料に入れましたのでぜひお読みください。21世紀における読書の意義が国権の最高機関で決議されたことは実に意義深い歴史的な出来事でした。

静岡県ではこれを受け、「子ども読書計画」を

子ども読書年に関する決議（抜粋）

（略）

われわれは、二十世紀の反省と教訓の上に立って、新しい世紀を担う地球上のすべての子どもたちに、人権を尊重し、恒久平和の実現と繁栄に努め、伝統的な文化遺産を継承することを託さなければならない。

（略）

読書は、子どもたちの言葉、感性、情緒、表現力、創造力を啓発するとともに、人としてよりよく生きる力を育み、人生をより味わい深い豊かなものとしていくために欠くことのできないものである。

本院は、この読書の持つ計り知れない価値を認識して、子どもたちの読書活動を国を挙げて応援するため、平成十二年、西暦二〇〇〇年を「子ども読書年」とすることとする。右決議する。

（平成11年8月9日 第145回国会参議院本会議）

作り、副題として「読書県しずおかをめざして」というスローガンを全国に先だって宣言することができました。この頃、県立図書館に対し子どもの図書資料が不足しているという声や要望があり、これを契機に子ども図書資料を広く収集し、「子ども図書研究室」開設へとつながっていきました。

このように、戦後の民主化改革と図書館活動は相互に支え合いながら前進をしたと思います。100年を振り返り、20年の戦時下とその後の民主化の中にあった図書館を紐解くと、図書館は平和の中でこそ存在しうるし、逆に図書館があることが平和に資するとも言える、そのように思います。

「県立図書館の存在意義」探究

県立図書館の歴史を概観しましたので、ここで県立図書館の存在意義とは何なのか、この点について私なりに探究してきた経験をお話したいと思います。私は1998年に県立図書館に赴任し、4年間館長を務めました。100年という歴史の中で、1998年から2001年まで2世紀をまたいで勤務したという巡り合わせでした。

赴任当初は、学校現場のように生徒たちの姿も見えず、入学式や体育大会や文化祭などの行事があるわけでもなく、どこか寂しさを感じていたのも事実です。意欲に欠けた館長でした。しかし、そうも言われていられないと気持ちを切り替え、私なりに勉強しなくてはいかんと考えました。私の先生はまずは司書をはじめとする職員の皆さんでした。皆さんすごい仕事をしていました。そして読もうと思えば60万冊もの本がありました。「図書館経営論」などこの頃に読みました。さらにいろいろな図書館を実際に見て回ろうと、4年間でおよそ100館を訪ねました。

その結果、県立図書館の基本方針が随所に見えてくるんですね。県民の生涯学習を支えよう、市町村図書館を応援しよう、ふさわしい資料を収集し保存する資料情報センターであること。私自身、こうした方針に異論はなく市町の図書館と違う県立ならではの存在意義が理解出来ました。しかし同時に、私の中にだんだん疑問が広がってきました。県立図書館は「二線図書館」、つまり県民に直接サービスする市町村図書館が「一線」で、県立はこれを後方から支える存在だ、という説明に。そうには違いないけれど、図書館は利用されてこそではないか、という素朴な疑問です。

その頃、県立図書館は大きな危機に直面します。2000年の頃、資料費の予算が8,000万円ぐらいから7,000万になり6,000万円になり、とマイナスシーリングがかかってくる。県の財政は逼迫し、この先どうなるのか。新しい資料が入らず、利用者は減り、さらに予算が削られるという悪循環が始まる機運でした。年間利用者数も20万人から15万人へと減少していました。そんな中、ある利用者から一通の手紙が届きました。長い手紙でしたが、要約すると「静岡県に引越して楽しみにしていた県立図書館に行ってみたが読みたい本がなく、薄暗く、本は埃っぽく、まるで家の物置のようだ」、「静岡に引っ越してきたのに楽しみが消えた、館長さん、何とか考えてください」と。ショックでした。私はこの訴えを職員と共有しました。皆で変えるチャンスにしようと呼びかけました。利用されてこそこの図書館、県立図書館ならではのサービスを展開しよう。すると、待っていたかのように、職員の皆さんが次々にアイデアを出してくれました。例えばインターネットの利用講座、貴重書の講座、書庫の見学ツアー、夜間開館や年末年始の開館にも踏み切りました。年末年始の開館には合計1,500名ほどの方が来館しましたが、それを支えてくれたのも有志職員の皆さんでした。感謝しかありません。グランシップに分館みたいのを出したり返却ポストを設置したり、職員のアイデアは次々と形になっていきました。

また、図書館協議会の委員には専門家だけでなく市民の方にもお願いして加わってもらいました。利用者の率直な声を聴きたかったからです。協議会には良い点だけでなく、雨漏りや苦情、蔵書不足といった課題もあえて公開し、開かれた図書館協議会を目指しました。新聞記者の取材もあり、「県立図書館の蔵書、全国ワースト4」の見出しで課題が大きく報じられ、注目を集めました。すると、市民から選ばれた委員を中心に「県立図書館サポーターネットワーク」が立ち上がり、資料費増額を求めて短期間に1万4千人もの署名を集めてくださいました。この署名は知事にも届けられ、結果として資料費は

V字回復し、最終的に1億円まで増額され、それが9年間削られませんでした。図書館って頑張れば支援者が現れる、そう感じました。

私が図書館を終えて教育長になった時にも石川知事にはたいへんお世話になり、県立図書館の専門性から司書を公募したいと知事に訴えた際も勇気づけられました。「数年で5名を」と遠慮がちな私の提案に対し「何か変化させる時はちまちまやらずにどんとやるべし」とおっしゃられました。とても勉強になりました。司書の公募はそれを契機に「5名」の後も今日まで続いています。

図書館探究活動と「図書館の発見」

私が、図書館を探究したいということでやったことのひとつが、静岡県内にある74の図書館を実際に回ってみるという試みでした。協力車を利用して、業務の合間を縫って職員の皆さんに連れて行ってもらいましたが、市町村図書館を回って、これが「一線図書館」ということかと、本当に勉強になりました。その中で最も印象に残っているのが、龍山、佐久間、細江を回った行程でした。まず龍山村、森に囲まれ、人口は2千人ほど。現在は浜松市の一部ですが、当時は静岡県で唯一の村立図書館でした。閲覧室には誰もおらず、書架には木や森に関する本がずらりと並んでいました。利用者はいないんだなと思い、事務室で尋ねました。すると司書の方は、「雨の日になると、山から木こりの方たちが下りてきて、ノートを広げ、木や森の勉強をしていけます」。これが私の「図書館の発見」でした。図書館とは、ゆったりと本を楽しむ場所であると同時に、こうして生活のために木こりの方が降りてきて勉強する場でもある、図書館は生活保障しているんだと。これは一大ショックでした。



佐久間町では、館内に病院からのインフルエンザ流行に関する注意事項や、学校で子どもたちが取り組んでいる絶滅危惧種の蝶の保護活動など学習の様子が掲示されていました。山あいの町では、人々が頻りに各施設を移動できるわけではないので図書館が町の情報センターとして機能している、これもとても新鮮でした。

細江町へ行くと、六か月検診の赤ちゃんが、母親の膝で読み聞かせを受けていました。傍らには司書さんがいてさらに保健師

さんもいて、皆で子育てをやっている。あ、図書館っていうのは子育ても応援するんだと。これも「図書館の発見」でした。静岡県で最初にブックスタートを始めた細江町立図書館でした。

この他にも、ビジネス支援に力を入れている静岡市立御幸町図書館とか、公民館に職員が本を携えて分館の役割を提供している伊豆地区の図書館、不登校の子どもが一人もいないのは図書館が子どもたちの居場所になっているからだという竜洋町立図書館など、お話ししたいことばかりです。このように図書館は普遍的な図書館サービスに加えて、その図書館ならではの住民に寄り添ったサービスをしているんだということに気がついたということです。いずれも貴重な「図書館の発見」でした。

ところで、当時、大井川の西岸地域には、図書館がひとつもありませんでした。なぜでしょうか？ そんな中、1999年、最初に吉田町が素晴らしい図書館を作ったのが大きなインパクトでした。利用者や景観に配慮し、1年間で利用登録40%を記録した図書館です。町民の自治意識を高めた図書館。その後、金谷町や川根町でも関係の方々の熱意によって図書館ができていきましたが、いずれも県立図書館が建築だけでなく、運営や人事等についても相談に乗り、出来る限りの支援をしてきました。金谷町立図書館では県立の職員が館長として派遣され立ち上げに尽力してくれました。

大井川筋で最も遅くまで図書館ができなかったのが牧之原市、当時の榛原町と相良町です。ここに図

書館ができた大きな要因は市民が地道に活動したことによります。市民有志 20 名が勉強を重ね「市民を元気にする図書館 7つの提言」を出し、機運が盛り上がっていきます。さらに、図書館友の会ははじめ、様々な市民団体による継続的な活動。そうした動きに、行政も真摯に応え、図書館協議会を年間 10 回以上やるという熱の入れようで民と官がスクラムを組んで検討を重ねました。私も委員長として毎回の熱い議論を時間内に収めるのに苦勞してきました。

その結果、2021 年に誕生した図書館が「いこっと」です。マルシェや子育てコーナー、喫茶などの民間施設と自由に行き来ができる垣根の低い図書館です。全国からたくさんの視察も来ています。また、2023 年には旧榛原町に「いろ葉」というこぢんまりとしているけれど花に囲まれた温かな図書館も開館しました。学びの図書館、と言えます。牧之原市に 3 年間で 2 館の誕生です。「いこっと」には 3 年間で 30 万人もの利用者が利用し、買い物や子育てのついでに立ち寄れる図書館は、市民生活の中に自然に溶け込んだと感じます。「いろ葉」も初年度で 7 万人が活用しました。今や、二つの図書館は市民にとって欠かせない居場所、そんな図書館が牧之原に誕生。この作業に 6 年間関わられたのは本当に良かったなと思っています。

新県立図書館を考える

私が館長を務めていた頃から、県立図書館の老朽化は大きな課題でした。そこで 2000 年頃から、私は慶應義塾大学の糸賀先生に座長をお願いし、新館構想の検討をしました。それから実に 25 年かかってようやく図書館を作ろうという状況になっています。その間、書庫の天井に無数のひび割れが起り、耐震診断も E ランクであるし新館の必要性はますます高まりました。本格的には平成 17 年頃から、県の関係部署が中心となり、識者の意見も取り入れながら基本構想が練られていきました。

構想の中身を見ると、県民の知の創造を支援する図書館とか、県民に開かれた図書館とか、静岡文化の交流・創造・発信センター、「読書県しずおか」の推進センターなどが描かれています。いいですね。

今回は、図書館に直接関わる方々の新県立図書館に望む声を確認してみたいと思いました。新たな静岡県立図書館を望む会による市町立図書館職員へのアンケート¹からは、市町では購入が難しい専門書や高額書、地域資料をしっかりと収集・保存してほしいとか、専門職確保による市町支援の充実、相互貸借などのネットワーク強化、分担収集、研修の充実などといった声が寄せられています。貴重な声の数々です。

また、県立図書館職員からは、県立図書館の存在意義として調査研究、資料保存、市町支援という県立図書館の根幹機能は必ず守りたい、そのうえで県民が交わり、新しい文化を育む図書館でありたいという声を伺いました。これも、大事な声です。こうした声を、今話題になっている新県立図書館建設に反映していただきたいと思います。

最後に、私がこの講演を受けて、県立図書館の存在意義とか、図書館を探究しながら、次の 100 年に向けた県立図書館への願い・存在意義を 5 つに集約しました。

- 1 自由や人権、多様性を尊び、平和を保障する図書館であること
- 2 県民の学びと生活を幅広く保障する図書館であること
- 3 県立図書館にふさわしい専門性に富んだ機能とサービスを有する図書館であること。特に、デジタルとの共存とか駅前の立地を生かした新たな交流・創造を図る図書館であること
- 4 市町立図書館に対しきめ細かく柔軟に支援できる図書館であること
- 5 公平・公正で多彩な出会いと、子どもたちの未来にも配慮できる教育委員会による管理運営の図書館であること

以上、5 つの願いをこの講演を通して私なりに再確認し、講演を閉じさせていただきます。

¹静岡図書館友の会「県内市町図書館などにアンケート実施」 <https://shizutomo.jp/enquete20200301>

ご清聴ありがとうございました。

(イ) パネルディスカッション

テーマ：図書館 これからの 100 年

パネリスト：学校法人新静岡学園理事長 鈴木 善彦氏

パネリスト：トモエ文庫（家庭文庫）主宰 草谷 桂子（くさがや けいこ）氏

パネリスト：静岡県読み聞かせネットワーク会長 勝山 高（かつやま たかし）氏

コーディネーター：静岡県立中央図書館長 高橋 健二

講演に引き続き行われたパネルディスカッションでは、パネリストや会場の参加者から図書館に関する思いを語っていただきました。その中からいくつかを要約して紹介します。（敬称略）

（コーディネーター 高橋健二）

県立図書館の役割を参加者全員で確認するため、「知ろう！語ろう！県立図書館！」というサブタイトルをつけてみた。県立図書館は市町村立図書館の基準を「準用」しつつ、その上に県立特有の支援機能を持つ点が特徴である。蔵書面では、市町村立が生活密着型・地域密着型であるのに対し、県立は学術的・専門的・広域的・長期保存的な資料を担い、それによって市町村立を支えている。資料の永年保存や県内図書館を結ぶハブ機能など、県立図書館特有の機能がある。見た目は同じ「図書館」でも、こうした支援機能が乗っかっているのが県立図書館だというように見てもらえたらいい。



（パネリスト 草谷桂子）

利用者として、県立・市立図書館、あざれあ、アイセルなどを目的に応じて使い分けてきた。県立図書館に関しては、子ども図書研究室ができてからは鈴木先生のおっしゃったように「1.5 線」（一線（市町村立）と二線（県立の支援機能）の間）の役割を果たしていると感じている。全点収集された本を調査・研究し、必要な本を地元図書館で借りるという活用をしている。県立図書館に児童部門ができたことで、子どもの本に関わる人々にとって大きな支えとなっており、とても感謝している。



（パネリスト 勝山 高）

静岡県読み聞かせネットワークは、平成 13 年に当時の中央図書館長鈴木氏が県の諮問を受けて立ち上げた団体である。その際、「行政が上から統制するのではなく、ボランティアの主体性を育てる」という方針が示され、それが現在のネットワークの理念となっている。

地元の小学校の閉校に際し、設立当時の地籍図や地域資料を調査する必要があったが、市町立では難しく、県立図書館のレファレンスで豊富な資料提供を受け、県立の「底力」を実感した。また、「白いタカ」（岩波少年文庫）は評価の高い児童書だが、市町立では所蔵が少なく閉架中心である一方、子ど

も図書研究室では「長く読み継がれてきた本」として開架で提供されている。これらの事例から、県立図書館の強みは資料の蓄積だけでなく、司書の専門性と見識の高さにあると実感した。

市町立図書館支援について

(参加者)

小規模な市町立図書館では、資料費の制約により高価・専門書の購入を見送らざるを得ない。利用者からリクエストがあった際は、県立図書館から借りて提供することで対応している。除籍する際も県立図書館に所蔵があれば安心して処分でき、後にリクエストがあれば借用できる。高度なレファレンスが必要な場合も、県立図書館に依頼して回答を得ている。県立図書館の支援がなければ、市町立図書館の運営は成り立たないといっても過言ではないくらいお世話になっている。

(参加者)

「協力車」による定期的な巡回で、市町の図書館同士の情報共有や運営課題の相談が行われ、より良い図書館運営に役立っている。市町の司書と県立司書の顔の見える関係を大切にしていきたい。

(参加者)

県立が専門資料の収集や高度なレファレンスを担うことで、市町は限られた予算を別のサービスに集中でき、県全体として効率的で質の高い図書館サービスが実現している。こうした効果を数値的に示せるとよいのでは。

図書館への思い あなたにとって図書館とは

(参加者)

新聞の購読料は高額で、複数紙を購読すると月に1万円以上かかる。図書館で複数の新聞を無料で読むことができるのは大きなメリット。同じ事件でも、新聞ごとの扱い方を比較できる点が非常に有益である。新聞閲覧は、私にとって「なくてはならない」図書館の利用法である。

(参加者)

読み聞かせボランティアをやっているが、選書は悩み。好きな本に偏りがちになってしまうがそれではよくない。図書館で新刊を実際に読んでみたり、図書館職員からのおすすめ本の紹介を受けたりすることが大きな助けになっている。

(参加者)

平家物語に興味を持ち、先生から小学館の歴史文学全集がよいと勧められたが、当該全集は現在入手しにくく、新品では購入できない。Amazonの中古で上下巻を購入したところ、2冊で約1万円かかった。実際に読んで非常に感銘を受けたが、全50巻のうちまだ2巻しか読めていない。そんな折り、偶然近所の図書館に立ち寄ったところ、全集が全巻そろっているのを発見。高額な本を購入しなくても、近所にあるんだと知り、いたく感動した。

(参加者)

NDLデジコレ(国立国会図書館デジタルコレクション)をよく利用しているが、デジコレの最大の利点は、OCRによる全文横断検索が可能な点である。県立図書館のデジタルライブラリーはOCRがなく、見



出しレベルの検索にとどまっている。精度 99%程度でもいいのでOCRをかけたデジタルライブラリーの整備を進めてほしい。

読書について これからの県立図書館に期待すること

(パネリスト 勝山 高)

子どもの不読傾向は小学校中学年頃からすでに始まっている。不読の理由としてメディア過多や忙しさが挙げられるが、端的には「親が読まない」ことが大きい。図書館大会で講師をしていただいた渡辺鉄太さんが「男の子を本好きにしたければ、お父さんが図書館に連れていけばよい」と書いているがこれは本当のことだと思う。理屈を並べる前に、まず親自身が読書を楽しむということが、読書のスタートだと感じる。

(パネリスト 草谷桂子)

社会のインフラが大切。保育園・幼稚園に本があること、学校図書館が充実していること、そこには、専門性をもった司書がいることがまず大事になる。

社会のインフラとして図書館がどうあるべきかを考えるべき。図書館は、研究や学習成果の出版、社会への還元などを通じて、社会全体の発展に寄与している。本を読まないから図書館はいらない、ではなく、本を読まないすべての人にとっても図書館が大事だということに立ち返ることが大切である。

(参加者)

小学3年生にボランティアで読み聞かせをした際、学校図書室に該当する本が所蔵されておらず、校長に相談したが、「子どもは絵本しか読まない」と却下された。幼稚園での読み聞かせでも、定番の昔話に対して子どもも先生も馴染みがなく、驚きを感じた。本を図書館に寄贈した際、人気本の傷みが激しく、更新が十分に回っていないと感じた。

(参加者)

静岡県の学校図書館は、資料費が全国ワースト5位とされている。学び続ける人を育てる土台として、学校図書館は極めて重要な存在である。学校図書館も県立図書館のネットワークの一部として位置づけ、学校図書館の専門性を支援する仕事も県立図書館に期待したい。

(参加者)

学校図書館は学び続ける人を育てる土台。県立図書館と学校図書館が「顔の見える関係」を築くことが、若年層にとって良い図書館環境につながる。

パネリストだけでなく、会場参加者からも時間いっぱいまで様々な意見をいただき、図書館に対する様々な思いを共有する場となりました。



会場後方には、静岡県立葵文庫開館式の際の式辞や祝電、静岡県立中央図書館移転開館時の資料などを展示



当日は、葵の広場で1日限定の図書館カフェも開催

イ 貴重書講座

演 題：静岡県立葵文庫とその事業

講 師：葵文庫の会会員、学習院大学非常勤講師

青木 祐一（あおき ゆういち）氏

日 時：令和7年11月1日（土）午後1時30分～3時

会 場：静岡県立中央図書館会議室

参加者：38人

今回の貴重書講座では、「静岡県立葵文庫とその事業」と題し、創立100周年を記念して、当館の前身である静岡県立葵文庫が戦前の静岡において果たした役割について解説いただいた。以下に同講座の内容を青木氏にまとめていただいたので紹介する。

はじめに

静岡県立中央図書館は2025年、創立100周年を迎えました。前身となる静岡県立葵文庫は、大正14（1925）年4月1日に開館しました。かつて葵文庫があった駿府城三の丸の地は現在、静岡市歴史博物館となっており、博物館の前には「葵文庫由来跡」という記念碑が立てられています。

また、県立中央図書館には徳川宗家16代で静岡藩主であった徳川家達筆の『紙本墨書扁額「葵文庫」』（請求記号：S709/48）が所蔵されています。これは、静岡と徳川家との深い縁を示すものです。

本講座では、葵文庫が設立されるまでの経緯、また開館後に葵文庫が実施してきた各種の事業と、果たしてきた役割についてお話ししました。

1. 初代県知事・関口隆吉による「久能文庫」の構想

葵文庫設立の前史として、初代静岡県知事・関口隆吉（1836～1889年）による、「久能文庫」の提唱があります。関口は旧幕臣であり、勝海舟や山岡鉄舟とも親交があった静岡にゆかりの深い人物です。明治維新後は新政府に出仕し、地方官や元老院議員、地方巡察使などを歴任し、静岡県令・県知事となりました。在任中は、治山治水事業などに尽力しましたが、その構想の中に図書館の建設がありました。関口は欧米にならった図書館を建設しようと考え、自ら図書・資料の収集につとめました。彼が記した明治19（1886）年11月の『久能文庫設立趣意書』（貞松修蔵／写、請求記号：Q010-1）には、旧幕府時代の文書をはじめ、静岡に関する歴史、地理、統計、法律、沿革など諸分野に役立つ資料を網羅的に収集・公開することを目的として掲げています。そして、久能山東照宮の境内に千鳥破風造り2階建ての「久能文庫」を建設し、経費700円を寄附で賄うことを予定していました。



関口は、静岡県にとって有用な情報資源として、図書や文書・記録類を収集することを意図していました。例えば、収集された資料の中には『農家心得草』（請求記号：Q616-2）のような飢饉に備える実用書などが含まれていますが、これらは明治維新後に静岡の開墾事業に関わった関口の問題意識を反映したものと考えられます。

この「久能文庫」は、明治23（1890）年3月の完成を予定していましたが、関口が鉄道事故で亡くなったことにより、実現しませんでした。しかし、関口が収集した蔵書は、現在の特殊コレクション「久能文庫」として引き継がれています。



2. 「葵文庫」の設立構想とコレクションの来歴

関口の死後30年余を経て、県立図書館構想はようやく具体化することになります。大正10（1921）年、静岡県会（現在の県議会）は、徳川家記念事業として県立図書館である「葵文庫」の設立を提案・議決しました。そして、建設費17万円のうち14万2千円を寄附金で賄うこととなります。寄附金集めには渋沢栄一が全面的な協力・支援をし、徳川家達や徳川慶喜の孫である慶光らが寄附をしました。

葵文庫のコレクションの基礎となったのは、先に述べた関口隆吉による「久能文庫」とともに、旧幕府の系譜をひく「静岡学問所」の蔵書でした。明治維新により静岡藩が成立した際、徳川家とその家臣とともに、旧幕府が所蔵していた多くの書籍が静岡にもたらされました。これら旧幕府が蓄積していた当時最先端の知識は、静岡学問所における教育の基礎として用いられたのです。静岡学問所は静岡藩の教育・研究機関として、洋学、漢学、和学を中心に、藩士だけでなく庶民や他藩からも留学生がやってくるほど高い水準の教育が行われました。

静岡学問所の蔵書は、幕府の教育・研究機関であった蕃所調所、洋書調所、開成所、昌平坂学問所などの蔵書の一部が、徳川家とともに静岡にもたらされたものです。こうして設立された葵文庫は、旧幕府の蔵書を基礎として、徳川家を記念する事業の一環として構想された、静岡と徳川家との縁を象徴するものだったのです。

『静岡県立葵文庫一覧』（請求記号：S010/9）には、「葵文庫設立趣意書並計画概要」として、葵文庫を県下各図書館の中核とすること、調査研究の便と読書趣味に資すること、また静岡に関係する偉人やその他の文書類も収集することが掲げられています。こうして、静岡学問所の蔵書約3,800冊と「久能文庫」の蔵書約2,000冊を基礎として、葵文庫は開館を迎えることになります。

3. 静岡県立葵文庫の開館

大正14（1925）年4月1日、静岡県立葵文庫は開館しました。『静岡県立葵文庫開館式祝辞類』（請求記号：S010/1）には、文部大臣・岡田良平や静岡市長・伴野欣平らの式辞、徳川家達からの祝電も含まれています。

建物は2階（一部3階）建てで、館内の様子は『静岡県立葵文庫記念写真帖』（請求記号：S010/17）や『（静岡県立葵文庫案内）』（請求記号：S010/33）などから知ることができます。閲覧室（定員180

名)、婦人室(定員48名)、調査室(定員16名)、児童室(定員63名)、講堂(定員480名)に加え、屋上運動場が設けられていました。屋上では天体観測をする写真も残されています。

開館時間は、春夏季は午前8時～午後9時、秋冬季は午前9時～午後9時と、静岡市内中心地という立地もあって、夜間まで開館していました。入館料は無料でしたが、図書の貸出には使用料として3円の納付が必要でした。

葵文庫の基本事業として、①館内閲覧、②館外貸出、③巡回文庫、④講座が掲げられています。そして、講座の内容をパンフレットにして県内に配布する取り組みも行われていました。大正14年度の開館日数335日、利用者数138,144人でした。

昭和5(1930)年には昭和天皇の静岡行幸があり、葵文庫に立ち寄って貴重書を天覧したり、屋上から風景を眺めたりした写真が残されています。この昭和天皇の行幸によって、現在の「御幸通り」が整備されました。



4. 郷土資料展覧会の開催

葵文庫の主要な事業のひとつとして、「郷土志料展覧会」があります。これは、事業方針にも掲げられている教育的展覧会であり、年に1～2回、期間を区切って定期的に郷土資料の実物を公開するものでした。

その意義として、館報である『葵文庫ト其事業』第16号(昭和2年10月1日発行、請求記号:SZ01/12)では、「郷土志料と図書館」と題して、府県立図書館の重要な使命のひとつとして、郷土資料の収集・保存について述べています。ここで述べられている郷土資料とは単なる「考古趣味」ではなく、過去の歴史資料が現在にとっての重要な情報資源となることが強調されています。その上で、郷土資料が常にその価値に気づかれないまま散逸する危機にさらされており、その防止を目的として郷土資料展覧会を開催するという事業の目的が述べられています。この展覧会事業は郷土資料の収集と同時に、郷土資料のもつ価値と保存の重要性を一般に普及・啓発するための事業として位置づけられていました。

また、この郷土資料展覧会は、単に葵文庫の所蔵資料を展示するだけでなく、県内から広く貴重資料を募って展示しているところに特徴があります。その意義としては、先に述べた通り、①郷土資料の調査研究に資すること、②郷土資料の散逸防止を呼び掛けること、③所蔵者に対して郷土資料の保存について注意喚起を図ることが挙げられます。つまり、県立図書館の重要な使命として、郷土資料の収集・保存があり、地域に残る歴史資料保存の重要性を訴えるという役割を果たしていたことがわかります。

5. 博物館設立と公文書保存の提唱

初代文庫長・貞松修蔵(在任:1924～1936年)は、館報である『葵文庫ト其事業』において、図書館業界におけるさまざまな最新情報や自らの意見を掲載しています。

例えば、『葵文庫ト其事業』第25号(昭和3年7月1日発行)では、「博物館設立について」という論考を寄せています。貞松は学校教育を補完する施設として、図書館と博物館の重要性を述べた上で、博物館の設置を提唱しています。科学が発達し、産業・芸術が社会にさまざまな影響を及ぼしている

現在、歴史や産業の発展を展示する施設としての博物館の設置を求めています。いまや県立の総合的な博物館施設をもたない最後の県となった静岡県において、戦前にその必要性が主張されていたことは注目すべき点です。

また、公文書の保存についても述べています。『葵文庫ト其事業』第38号（昭和4年8月1日発行）では、「公文書と図書館：都市に完全なる図書館設立の提唱」として、現在および未来の国民に必要な情報資源として公文書保存の必要性を主張しています。まず貞松は、日々作成される行政文書が、現在の国民生活上の重要な記録であると同時に、この記録が未来に有用な歴史資料になるという、資料としての公文書の有用性を指摘します。さらに、現在は秘密の文書でも、一定の期間を経過すれば公開されるべきであるとも主張します。これらの主張からは、貞松が現在の公文書館やアーカイブズ、また公文書管理法の理念にもつながるような重要な視点をもっていたことがうかがえます。つまり、貞松が提唱する「完全なる公共図書館」とは、現在の図書館と公文書館、双方の機能を兼ね備えたものをイメージしていたとみてよいでしょう。

これらの記事からは、博物館にせよ、公文書の保存にせよ、いずれも現在の社会教育や文化情報政策につながる重要な視点を貞松が持っていたことがわかります。これらの施設が、未だに静岡県において実現していないということについては、改めて認識しておく必要があります。

おわりに：静岡の「知の殿堂」「知の集積庫」としての葵文庫

以上のように、葵文庫設立までの経緯と開館後の事業についてみてきました。葵文庫の名前は設立までの経緯から、静岡と徳川家との深いつながりを示しています。また、その特徴は以下の4点にまとめられます。

- ① 関口隆吉が収集した「久能文庫」および幕府旧蔵の書籍や文書・記録類が、蔵書・コレクションの基礎となっていたこと。
- ② 郷土資料として文書・記録類が積極的に収集・保存・公開されていたこと。
- ③ 市民向けの講座や郷土資料展覧会などを通じた教育普及活動により、郷土資料保存の重要性が訴えられていたこと。
- ④ 博物館の設置や図書館への公文書の移管と保存・公開が提唱されていたこと。

葵文庫の成立により、江戸時代や明治以降の貴重な資料が集められ、一般に公開されることになりました。葵文庫はまさに、静岡の「知の殿堂」「知の集積庫」としての機能を果たしていたと評価することができます。葵文庫の設立から100年。この先100年も新しい図書館の建設とともに、その役割を果たしていただきたいと思います。



【参考文献】

青木祐一「静岡県立葵文庫とその事業：アーカイブズの観点から」（『学習院大学文学部研究年報』59輯、2012年）

オ 城址講座

演 題：新発見の「駿府御城内絵図」について～絵図から
見えた、天守の姿～

講 師：公益財団法人日本城郭協会常務理事
加藤 理文（かとう まさふみ）氏

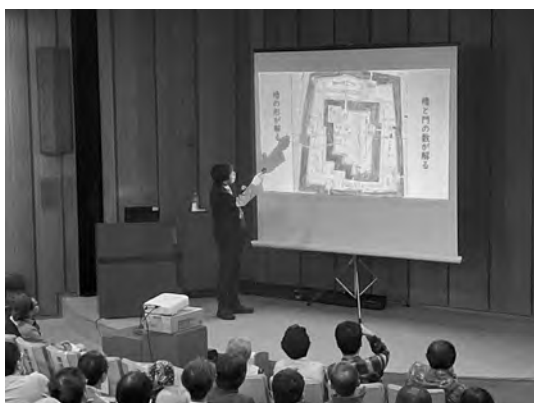
日 時：令和7年11月2日（日）午後2時～3時30分

会 場：静岡県立中央図書館講堂

参加者：166人



例年好評いただいている加藤氏の城址講座を今年も開催した。通算10回目となる今回は、8月上旬に報道されて話題となった新発見の「駿府御城内絵図」について講演いただいた。加藤氏によると今回発見された駿府城の絵図は、櫓ひとつひとつの大きさや平面形が描かれているため、天守台上にどのような建物が建っていたかが判明するのが最大の特徴であり、当館が所蔵する「駿府城御本丸御天主台跡之図」（請求記号：S222/48）に重ね合わせるとぴったりあてはまるとのことであった。他に二の丸北側の御花畑樹木屋敷



（薬草園）まで上水道がひかれていたことや、戦闘的な建物が余すところなく描かれていて本丸及び二の丸をほとんど全部多門櫓で囲って防備を嚴重にしていたこともわかるなど、大御所時代の駿府城の姿かたちを克明に伝える第一級の資料との評価であった。大変注目すべき内容であり、駿府城に縁のある当館としても創立100周年記念事業にふさわしい講演会となった。なお、当日は当館が所蔵する駿府城絵図を集成した資料集を参加者限定で配布したほか、館長所有の甲冑の試着体験も行った。

(2) 特集展示

当館内の各所で実施している特集展示でも、創立100周年にちなんだ資料の展示を行った。当館100年の歴史に関連する資料展示だけではなく、当館の由来ともいえる葵文庫をはじめとする貴重書の展示や、「100」をキーワードにした様々な視点に基づいた資料展示を展開した。



地域資料特集展示

「静岡県立中央図書館の
あゆみ」



雑誌特集展示

「100」



一般資料特集展示

「ようこそ100年の図書館へ」



貴重書展示

「静岡県立葵文庫」

(3) 企画展示

当館内の葵の広場（インフォメーションホール）や展示室で、当館 100 年の歴史に関する展示や 100 にちなんだ展示を行った。特に、当館に保管されていたながら日の目を見ることがなかった木札類やパネル類の特別公開を行った。

創立 100 周年特別企画！「お宝発見？！収蔵庫に眠る珍品・奇品」の展示より



左から「大本営」「行在所」「静岡連隊区徴兵署」
展示期間中に「大本営」の由来が判明した。



「大御総督宮様 会計御用達」（木札・高張提灯）
官軍東征時、静岡で資金調達した際のもの



フィリピン・ミンダナオ島原住民像
遺骨収集事業に際し知事に贈られたもの



「静岡県立葵文庫棟札」と初代文庫長「貞松修蔵」、
「渋沢栄一」肖像写真



静岡県立葵文庫開設当初の祝辞なども展示



文化センター構想の計画図面や航空写真など

(4) イベント

ア 夏休み子ども図書スペシャルウィーク

例年開催の夏休み子ども図書ウィークを拡充して実施した。(詳細 p122)

イ 創立 100 周年記念クイズラリー

静岡県立中央図書館に関するクイズ全 6 問に、館内 5 か所にあるヒントを巡って答えるクイズラリーを開催した。全問正解者には記念品をプレゼントした。前後期で問題を変えて実施した。

開催期間 前期 令和 7 年 12 月 5 日 (金)
～令和 7 年 12 月 14 日 (日)

後期 令和 7 年 12 月 16 日 (火)
～令和 8 年 1 月 15 日 (木)

参加者 270 人



(5) 記念動画

令和 5 年度に静岡県で開催された「東アジア文化都市 2023 静岡県」に際し、創立 100 周年を迎えるにあたって 3 本の動画を作成した。これら動画は YouTube の当館公式チャンネルで一般公開した。



静岡県立中央図書館の歴史 (5 分 26 秒)



葵文庫 (11 分 35 秒)



葵文庫以外の貴重書 (11 分)

(6) 記念品

創立 100 周年記念として、当館の変遷を表す写真を使用したオリジナルクリアファイル、様々な意匠のしおり、当館所蔵の貴重資料の図柄を使用したブックカバー及びぼち袋台紙を作成し、クイズラリーの全問正解者等に配布した。



クリアファイル (A4 判)



しおり各種



ブックカバー (A4 判)



ぼち袋台紙 (A5 判)

5 沿革史

(1) 近代図書館へのあゆみ

本県における近代的図書館設立の最初の企画は、明治19年第3代県令となった関口隆吉氏が、欧米風の公開図書館を久能山に設立しようと企図したところにある。

氏は自己の蔵書を中心にその計画を進めたが、同22年不慮の列車事故で5月逝去された。このため、近代的図書館設立計画は実現を見ずに終わったが、その蔵書2,058冊は、のちに葵文庫が設立された際遺族から寄贈され、特殊コレクション久能文庫となった。

明治40年、私立丁未図書館が安西1丁目の瑞光寺内に約2千冊の図書をもって開設された。同寺の住職柴田普門、医師松岡友吉、静岡県静岡市立静岡商業学校三浦元利の3氏の尽力によるものであった。これが静岡付近における最初の公開通俗図書館となった。

明治43年、静岡市教育会が付設事業として通俗図書館を開設すると、丁未図書館は閉館となり、その蔵書は通俗図書館に寄贈された。しかし、同館も9月に静岡県教育会附設図書館が静岡市城内に設立されると、これに合併された。この図書館は、その後大正13年の静岡県立葵文庫設立を契機に閉館し、その蔵書（和漢書8,308冊、雑誌763冊）は静岡県立葵文庫に引き継がれた。

(2) 静岡県立葵文庫の創立

大正8年8月、関屋貞三郎氏が本県知事に任命された。この年静岡市に旧制の高等学校設立が決定し、図書館設立の気運も高まりつつあった。

時あたかも、篤志家の熊沢一衛氏は本県社会事業に5万円の寄附を申し出ていた。関屋知事はこれを基に、当地の文化と縁の深い徳川家の記念事業として県立図書館の設立を決意した。その創設費を15万円と予定し、大部分は寄附に仰ぐこととして渋沢栄一氏にはかった。そして同氏の斡旋尽力により、徳川家を始めその縁故者の賛助を得た。

大正10年3月、関屋知事のあとを受けて就任した道岡秀彦知事は、関屋知事の計画を踏襲して「葵文庫設立趣意書並計画概要」を発表した。

曰く「図書館は民衆教化の一大機関にして学校教育の達成並に社会教育の振興上極めて重要な施設なるは今更縷説する迄もなし……茲に於て静岡市に県立図書館を建設して県下各図書館の中核となし相提携して調査研究の便と読書趣味の涵養とに質し且つは又県に因ある偉人傑士其他の文書等をも蒐集して温故知新俯仰感憤の便ともなさんとす。…」

大正10年11月、県立図書館設立費17万円を2か年継続事業として県会に提出しその議決を得た。翌大正11年11月17日設立認可を得て設計に着手し、関東大震災後の大正12年12月起工、翌大正13年10月静岡県立葵文庫が竣工した。葵文庫の名称は、徳川家の記念事業として出来た図書館であること、蔵書中に幕府旧蔵のものが多数入っているところから、徳川家の家紋に因んでつけたものである。



初代文庫長には貞松修蔵氏が就任し、11月10日より図書収集等開館準備を開始した。よってこの日を葵文庫の記念日とした。大正14年3月28日開館式を挙る。以後3日間記念の図書展覧会及び第一回文化講座を開催した。この講座の中で、京都帝国大学図書館長新村出氏（関口隆吉氏子息）は、「葵文庫の歴史的背景と其将来」と題し、駿河文庫を中心に府中学問所に触れ、近世近代文化史上

における輝かしい静岡について述べられ、駿河御譲本の『春秋公羊伝上、下』2冊を寄贈された。

かくして大正14年4月1日、静岡県立葵文庫は開館した。当時蔵書は静岡師範学校より移管された『厚生新編』の稿本をはじめ、幕府の蕃書調所（後に洋書調所・開成所と改称）、昌平坂学問所、林家旧蔵の和漢洋の図書3,887冊、静岡中学で所蔵していた和漢洋書3,614冊、県教育会附設図書館の蔵書、さらに関口隆吉氏の久能文庫の他、寄贈されたものに新たに購入した約3千冊を加え2万2千冊で、職員は文庫長以下16名であった。

(3) 昭和初期の葵文庫

こうして開館した葵文庫は、その使命を公衆に図書を閲覧させることとし、館内閲覧、貸出、巡回文庫、講座の4点を事業の基本として活動を開始した。昭和4年には、郷土の生んだ鴻儒山梨稲川の百年祭記念事業として『山梨稲川集』全4冊を刊行した。

昭和5年5月28日から一週間、本県の民情、特に産業及び教育等の実状視察のため天皇陛下の行幸があった。その第1日目の28日、陛下は当文庫に行幸された。明治以来地方の公私立の図書館に行幸があった例はなく、当文庫はその最初の光栄に浴することとなった。

当日、陛下は予定より約5分程早く御到着、しばし御休憩ののち貞松文庫長が当文庫の沿革と現況を御説明し、終って目録室・天覧図書陳列室を御見学、最後に屋上で市街を展望され、予定の時刻午後4時50分次の商品陳列所に向かわれた。

なお、この行幸を記念して8月、蕃書調所及びその後身である開成所の旧蔵本中、重複する洋書を東京帝国大学に129冊、東京外国語学校に86冊を移譲した。

昭和8年11月開館10周年記念式典を挙行、その記念事業として同10年『厚生新編』の複本を作成した。

また、昭和8年に図書館令が改正され、中央図書館制度の導入により県内図書館を指導する権限が付与された。当文庫も静岡県の中央図書館に指定され、県内各地に出向いて町村図書館の運営や蔵書の整理、整理技術等の講習会の開催や図書館用品の斡旋をしたりしながら、中央図書館として県内図書館の指導育成に努めた。

(4) 戦時下の葵文庫

昭和12年の日中戦争の勃発により、物心ともに暗い戦争の時代に入り、図書館もまた時局の推移にともない戦争への協力の度合が強化されていった。

国防思想陣の強化、銃後精神の確立、国民精神作興のため、図書が国論の統一と国策の徹底に利用され、図書館の機能が利用されることになった。

昭和14年末、国民精神総動員文庫の巡回が始まり昭和16年5月には翼賛文庫の貸出しが開始され、7月には『青年読書指導目録』が発行された。

一方、思想対策上あるいは防諜上の取締りにより、主に社会科学・自由主義関係図書を中心に発禁、没収、閲覧禁止扱いとなるものが増加した。また、この年の6月から出版用紙が割当配給制になったので、出版事情が悪化し、管内図書館に対する新刊書の優先配給の仕事も中央図書館の任務となった。たとえば、大正15年7月以来毎月発行してきた館報『葵文庫ト其事業』は、昭和15年7月から紙質を落し隔月発行となり、昭和18年10月25日発行の第183号をもって中断した。

昭和16年12月、戦争は太平洋戦争へと拡大し、戦時体制は一層強化された。この年5月の日本図書館協会総会では、文部大臣諮問の「大東亜共栄圏建設即応スベキ国民読書指導ノ方策如何」及び協会提出の「国民必読図書群ノ制定並ニ普及ニ関スル件」に就いて、協議が行われている。同じく中央図書館長会議では、特に読書指導者の獲得錬成と読書会運営の問題について協議された。国民

思想指導に基づく読書指導が図書館最大の任務となったのである。

昭和19年2月、文部省と大政翼賛会主催のもとに、富士郡西山本門寺において読書指導者思想錬成講習会が開催され、本県でも昭和17年6月に、当文庫講堂において戦時読書指導者協議会が行われた。その他、展覧会や講演も国体、時局、軍事に関するものに限られた。

戦局は次第に悪化し、図書館員は応召され工場などへ徴用された。建物の接収なども行われ休館状態に陥った図書館もあった。また、空襲爆撃を受け、貴重な蔵書とともに館舎も焼失したところも数多かった。当文庫でも、本土爆撃の危険が迫った昭和20年3月、貴重図書を市外7カ所に疎開した。6月19日事務室日記は次の如く記している。

「20日零時頃ヨリ午前3時半マデB29多数（約110機ト大本营ヨリ発表サル）静岡市来襲、油脂、エレクトロン、小型爆弾ヲ混投、全市火災ニ包マル……宿直加藤文庫長初期防火ニ努力シタルモ四囲ノ火勢漸ク猛烈トナリ、本館便所ニ迄燃エタルタメ烈風ヲ伴ヒ、危険セマリタルヲ以テ小使中村夫婦ヲ武徳殿ニ避難セシム。事務室ヨリ東校ノ火ハ便所ニ又講堂裏ノ火ハ講堂便所ニ燃エ移リ、烈風火ヲ煽リ火勢ハ次第ニ猛烈トナリ、加藤文庫長ノ努力及バズ、遂ニ如何トモスル能ハズ、講堂及ビ小使室両便所及物置ヲ烏有ニ帰ス、然レドモ本館及書庫ヲ残シ得タルハ不幸中ノ幸ナリ、全市火災ハ午前4時頃下火トナリ漸次鎮火ス……………」

蔵書は貸出中の通俗図書約1,500冊を焼失したが、書庫が無事であったので、基本図書の焼失をまぬがれた。まことに不幸中の幸であったといえよう。

8月15日、太平洋戦争は日本の無条件降伏によって終結した。

(5) 戦後の葵文庫

昭和21年疎開してあった貴重図書を回収し、新刊書の配給、不用図書活用のための交換会の開催、天体望遠鏡による観望会の開催等、戦後の新しい活動を開始した。

昭和23年に米軍は戦時中の閲覧禁止図書の解除を行う一方、国粹主義、軍国主義的出版物の没収等、思想取締りの干渉もしたが、アメリカの図書館事情を紹介し、戦後日本の図書館発展に寄与する面も多分にあった。

昭和25年新しく図書館法が公布され、文化立国が声高に叫ばれ、図書館は一層重要性を増してきた。新図書館法の要点は従来の図書のみではなく、視聴覚資料までも備え付けて教養・調査研究に役立ち、地域社会のレクリエーションセンター、インフォメーションセンターとして幅広い奉仕をなすことなどにあった。

当館もまたその趣旨に添うべく、図書の利用以外に講演会、座談会、映画会、幻灯会、レコード鑑賞会、音楽会、展覧会、子供会、読書指導、その他年度が下るとともにスクエアダンス、中南米音楽コンサート、英語の歌を歌う会等実に広範な活動を行っている。先に発足した視聴覚ライブラリーの資料も教育事務所を通じて学校、青年団、町内会、職域団体、子供会などに貸出し利用された。

なお、昭和23年占領軍総司令部民間情報局によって設けられていた静岡CIE図書館は、講和条約発効後アメリカ文化センターと改称し、米大使館の手によって運営されていたが、昭和28年1月、日米文化センターと改称、日米の共同経営に移され、葵文庫分館として運営されることになった。当時日本では入手し難い外国図書を豊富に持ち、また視聴覚資料も備え付けられ、日米文化の交流と本県文化の向上に果たした役割は大きい。

昭和32年6月、相談室を開設して手紙、電話によるレファレンスを受け付け、遠隔地の人々の利用を図った。

昭和35年それまで県の広報課と社会教育課で行っていた移動文化館は、当館において運営される

こととなり、館外読書活動は貸出文庫に加えて幅広く積極的に行われることになった。翌昭和36年、自動車文庫あおい号が誕生した。また、家庭における読書の推進をはかるため「茶の間ひととき読書運動」の展開や、遠洋漁業に従事する人々の余暇利用のため、船員文庫が設置された。同文庫は漁船一隻あたり30～50冊を貸出し、遠く南太平洋やアフリカ東岸で操業する漁船員をなぐさめた。

その他、館内行車として郷土研究講座や本を読み合う会を毎月一回開催した。こうして、昭和40年1月それらの運動を根として第1回県読書大会が静岡市青葉小学校を会場として開催され、800名が参加した。

(6) 県立中央図書館の開館

図書館の移転新築に対する要望は昭和30年頃から起った。位置が道路の三叉路に当り、戦後の交通量の激増にともない、騒音甚しく、環境として不相当であり、全体的に30余年を経て老朽化し、県立図書館としての新しい活動をするにそぐわないというのであった。

設立当時一大偉容を誇り、葵文庫設立趣意書並計画概要に「市街の喧騒と遠ざかり図書館の位置として好適の地なり」とあるのを思えば今昔の感に堪えない。

昭和38年、県は「教育文化の振興」を県政の重点施策とし、この年よりの継続事業として、静岡の中間地区である草薙に大規模な「県文化センター」の建設を企図して建設準備委員会を設置、基本計画の策定を開始した。

委員会は神奈川、京都など他府県の文化施設8カ所の視察を行い、その結果等を検討し構想をまとめた。それは、センターを構成する施設を図書館、美術館兼博物館、体育館、音楽ホールとし、それらの施設が相互に有機的な連携をもち、文化エリアとしての機能をもつようにするというものであった。

図書館の性格については、産業資料、地方行政資料、郷土資料などの充実やレファレンス・サービスの充実、さらに二線図書館として県内地方図書館に対する援助の強化を目的とし、利用者は一般成人を対象とするなど、いわゆる調査研究を中心とした資料図書館を目指したものであった。

昭和40年度には園地の設計と体育館建設に着手し、広報課内に新たに文化センター建設準備室が設置された。

これに対して、教育委員会は、昭和40年10月より、当館を中心に新図書館研究委員会を設けて、新図書館構想策定のための調査研究に入った。

翌昭和41年8月、企画調整部長より図書館の意見聴取があり、研究委員会ではその成果である「新図書館の望ましい姿」を付して、新図書館については重大な関心を持っている旨、教育長名で回答した。

昭和42年9月、県会において議決を得、12月着工。昭和44年50万冊収蔵可能な書庫をはじめ、視聴覚モデルルーム、レクチャールーム、その他各種集会室をもつ鉄筋コンクリート地上3階、地下1階、延面積8,056平方メートルの新図書館が完成した。総工費は4億8,500万円であった。

昭和44年6月30日、駿府城の一角で昭和の激動期を生きてきた静岡県立中央図書館葵文庫が、その45年の歴史に終止符を打って閉館し、新図書館への移転作業に入った。7月、県文化センター設置条例が制定され、長い間県民に「葵文庫」の名称で親しまれてきたが、



新図書館は、装いも新たに静岡県立中央図書館と称することになった。8月、静岡市谷田の新図書館に移転し開館の準備に入った。

昭和45年4月18日、静岡県文化センターを開所、静岡県立中央図書館の開館式を挙行了。式は竹山祐太郎知事をはじめ、国・県会議員・市町村長及び教育・文化・その他各方面の関係者約500名が参集して行われ、20日から一般公開された。

(7) 新生図書館の5年

新図書館は「資料図書館として、いわゆる読書の間から調査研究の間として、積極的かつ能動的に、県民生活の向上に資する学術・文化活動に対応した産業・行政・郷土資料を中心とした情報をまず提供しなければならない」とする初代館長高林静夫氏のもとに各種業務を開始した。

館内組織も昭和33年から続いた庶務課・整理課・奉仕課の3課制から、庶務課・資料課・整理課・事業課の4課制に改編され、職員も葵文庫時代の35名から43名に増員された。4課には、資料収集とレファレンス・サービスを中心業務とする資料課と、展示・集会事業等の施設運営と読書普及・視聴覚資料の収集を中心業務とする事業課が新設された。また、主に資料収集とレファレンス業務について司書を補完するために指導主事制度が導入された。

資料図書館をめざした新図書館の大きな特色は、逐次刊行物の収集とレファレンス・サービスの充実にあった。情報量とその速さにおいて、図書は雑誌を中心とする逐次刊行物に遠く及ばない。この観点に立てば、資料図書館として情報センターをめざす当館が、逐次刊行物の収集に努めるのは当然であったといえよう。昭和43年度購入雑誌65タイトルは、50周年を迎えた昭和50年度には580タイトルにのぼり、全国27位から都立中央(1,600)・愛知県立図書館(672)に次いで第3位となった。

また、県立図書館として県民全体に対するサービスを考えた場合、当然第一にあげられるのはレファレンス・サービスである。葵文庫時代の昭和42年度の統計では、利用案内を除いたレファレンス件数は641件、うち来館70%、電話23%、文書7%(44通)である。これに対して昭和50年度は1,677件、来館18%、電話77%、文書5%(84通)である。来館70%という数字は、葵文庫が多分に市民図書館的要素を持っていたことを示すものであり、逆に電話・文書の82%は、県立図書館への脱皮を示す数字といえよう。

こうした中で貸出文庫活動も変化し、活動を移動図書館の巡回にしぼり、従来の自動車文庫の配本格的性格を読書普及的性格に改め、図書館未設置地域を重点地区として10町村を対象に読書普及、文化活動の振興をねらって巡回活動を行った。巡回時には一町村一カ所に長時間駐車し、合同読書会、茶の間ひととき読書懇談会、視聴覚資料利用のための集会などを開いた。

昭和49年4月、各課に2係をおく1課2係制がしかれ、庶務・管理・閲覧・調査相談・図書・逐次刊行物・普及・視聴覚の8係が設けられ組織が整備された。しかし、前年のオイルショックは図書館運営にも大きな打撃となった。

資料購入費は図書館にとって生命の糧である。昭和45年度の資料費3千3百万円は葵文庫時代の約6倍にあたり、これは都立日比谷・埼玉県立熊谷図書館に次いで全国第3位であった。これによって以後、年平均1万4千冊の増加をみたが、オイルショックは資料費を半減させ、3千万円台を回復するには昭和53年まで待たなければならなかった。こうした中で昭和50年11月、創立50周年記念事業が行われた。前年、昭和45年より刊行されてきた『文化』にかわって旧名に復した館報『葵』の特集号で、小島毅館長は、「調査相談(レファレンス)が中枢的業務となってきたことは、創業の方策の一つの発展と評価できるが、二次資料の作成・専門資料の系統的・継続的収集、県内利用網の確立などが今後の課題である」と5年間の活動を総括した。

(8) 60周年を迎えて

創立50周年からの10年は、低成長の時代であり、資料費の低迷が続き、再び県立図書館としての役割が問われた時期である。

その中で県図書館協会との協力のもとに資料出版事業を開始し、昭和51年10月最初の出版として、幻の書といわれた『静岡県政史話』を復刻出版した。次いで昭和53年3月県下全図書館が所蔵する郷土資料をまとめた『静岡県郷土資料総合目録』を出版して、事業を軌道に乗せた。

また、当館長年の懸案であった蔵書目録刊行事業も昭和54年度より開始し、昭和55年11月その第1冊を刊行して以来、昭和60年度で6冊目を数えるに至った。

60周年という、人間ならば還暦を迎えた昭和60年、記念事業を行う一方、技術革新と情報メディアの著しい発達の中で、県立中央図書館協議会（会長岡本弘之）より、「今後の静岡県立中央図書館の在り方」について答申を受けた。それは、従来からいわれている資料及びレファレンス機能のより一層の充実と利用促進の上に、コンピューターの導入による業務の効率化、迅速化と各種図書館とのネットワークシステムの形成を求めるものであった。

(9) 70周年（平成7年度）まで

60周年から70周年を迎えるまでの間には、昭和62年度からの静岡県図書館振興策の実施、平成2年度の静岡県で初めての全国図書館大会の開催、さらに、平成3年度から3ヵ年計画で図書館の電算化に向けての作業の開始と平成6年3月の電算システム稼動（館報「葵」26号～28号）など、当館及び静岡県の図書館にとって大きなうねりがあった10年間であった。

特に、静岡県公立図書館振興対策は、静岡県の図書館元年と言われ、その後の静岡県の図書館発展に大きな影響を与えた。

平成7年には、70周年を迎え、記念展示や講演会を開催した。

(10) 80周年（平成17年度）まで

70周年から80周年の間は、平成10年5月に「静岡県生涯学習情報提供システム（愛称マナビット）」のインターネット化により、県立図書館の所蔵情報が検索可能となり、10月には静岡県立中央図書館ホームページがオープンした。さらに平成16年3月には電算システムの更新により、「静岡県横断検索システム（愛称：おうだんくん）」の構築や、5月にはインターネットによる予約・貸出延長など新サービスの提供が実施された。

また、平成10年度からは本格的な改革に着手し、平成12年度には館内全職員参加のもと、静岡県立中央図書館中期計画を策定した。これにより、開かれた図書館、信頼される図書館、成長し続ける図書館を基本理念として、改革が計画的、持続的に実施された。県立図書館サポーターネットワークの支援等もあり、資料費の増額も実現した。

平成11年3月には、静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）内にグランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設し、芸術関係の雑誌の閲覧やビデオテープの貸出しを実施した。

平成13年4月より、児童図書の購入を開始し、平成15年4月県立図書館コーナーの移転に伴い、絵本を配架、貸出やおはなし会を開始した。

平成14年1月から7月の間、地震対策緊急工事のため休館した。閲覧室及び書庫の図書の箱づめや再配架作業は膨大なものであった。また、その間は休館中のサービスとして静岡県女性総合センター（現静岡県男女共同参画センター）「あざれあ」に県立図書館コーナーを開設した。

平成14年6月には、2度目の全国図書館大会（2003年度開催）の要請があった。静岡県図書館協

会臨時理事会等を経て同年7月10日正式決定し、2003年度の全国図書館大会は急遽本県開催となった。開催までの準備期間は1年余りであったが、従来の3日間の大会期間を2日間の開催としボランティアの集会を設定するなど静岡の特色を出して、2,400人を超える関係者が一堂に会した大会となった。

平成13年12月「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行、平成14年8月「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画について（通知）」をうけて、静岡県は平成16年1月に「静岡県子ども読書活動推進計画―読書県しずおかをめざして―」を公表した。これに基づき、平成16年6月18日には、子どもの読書活動推進のために市町村図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として、県立中央図書館に「子ども図書研究室」を開設した。

平成17年度、創立80周年記念事業を実施した。

(11) 90周年（平成27年度）まで

80周年から90周年の10年は、平成17年度の電算システム更新後、ホームページの全面更新、静岡県横断検索システム「おうだんくん」、Web個人サービス（インターネットによる予約および貸出延長）、新メールマガジンの開始から始まった。その後の5年ごとのシステム更新で、平成22年度はWebサイトの全面リニューアルを行い、平成27年度はクラウドシステムとなり、電算室のスペースも縮小した。

平成19年度は、中国浙江図書館からの研修員を受け入れ、「姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印、平成21年「友好提携書」を当館にて締結した後は、資料の交換を継続して行っている。

平成21年3月11日、県立中央図書館、県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県立大学との4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」の提携は「ムセイオン静岡」と名付けた活動となり、その後6機関から11機関へ増加している。

施設の老朽化に伴い、新館建設が喫緊の課題であるなか、平成21年に耐震補強工事、平成24年に大規模改修工事を行い、一部書庫の整備も進んだ。「あすなる県立図書館収蔵庫」へ移動していた葵文庫、久能文庫を始めとする貴重資料は、平成21年9月25日に本館へ里帰りし、新たに整備した新収蔵庫へ納めた。また、慢性的な書庫の狭隘化を緩和させるため、平成22～23年度は緊急雇用事業による書庫の最適化や、資料移動による書庫の再編を進め、平成27年度は集密書架を2か所に設置した。

閲覧室では、既設のビジネスコーナーに加え、平成23年7月より健康医療情報コーナーを開設した。

平成11年3月にオープンした「グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナー」は、平成15年4月1日より2階へ移転し「グランシップ県立図書館コーナー」とし、これまでの雑誌とビデオのほか、主に絵本を配架したが、平成18年4月には「えほんのひろば」の愛称をつけ、平成20年度より絵本のための配架とした。

平成16年6月に開設した子ども図書研究室は、大規模改修工事にあわせてレイアウトを変更した。また、平成26年度より夏から秋にかけて日曜開放を行った。

平成27年6月には山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結した。

平成27年度、創立90周年を迎え、記念事業を実施した。

(12) 100周年（令和7年度）まで

90周年から100周年の10年は、社会の仕組みや価値観が大きく変化した時期であった。新型コロナウイルス感染症の流行は人々の生活様式に大きな影響を与えた。またデジタル化の進展、急速なAI技術の普及は人々の情報との接し方を大きく変え、当館としてもこうした時代の変化への対応を迫られることとなった。さらに、長年の懸案であった新館計画が具体化し新館建設に向けての検討が進んだ一方、ひび割れの発見に伴う臨時休館を経験したり、工事入札までこぎつけた新館計画が入札不調となるなど激動の10年間であった。

平成28年4月祝日開館の開始、6月「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス（市町受取サービス）」本格導入と利用者の利便性を高める試みが進んだ。

平成29年4月から6月にかけて実施された当館の長寿命化改修の可能性を検討する専門家の調査で閲覧室の床（1階書庫天井）にひび割れが認められた。この調査結果を受け、緊急避難的に7月4日から7月31日まで臨時休館した後、安全対策を実施しながらできるサービスを徐々に復旧し、平成31年3月にすべての業務を再開した。（詳細は「付録2」を参照）

この「ひび割れ」発覚は、かねてから検討を重ねてきた新県立図書館構想に大きな弾みをつけることとなり、東静岡駅南口県有地への全館移転整備を前提とした検討へと大きく動き始める。その後の紆余曲折を経て、県立図書館単独での整備計画となり、令和6年には設計も完了し、工事入札となったが物価高騰等の影響で不調となった。（詳細は「付録1」を参照）

令和2年1月から日本国内に広まった新型コロナウイルス感染症は、図書館界にも大きな影響を与えた。当館でも臨時休館や利用制限等の対応を取ることになる。非常時における図書館のあり方を考える契機となった。（詳細は「付録3」を参照）

コロナ禍のもとでの外出行動の抑制や3密の回避は、これまでデジタル活用が進まなかった領域においてもデジタル化を加速させることとなった。当館でも、令和3年10月電子図書館サービスを開始し、同時にWebでの利用者登録等の手続きを可能にして、市町受取サービスともあわせ、当館に来館しなくてもサービスを受けることができる体制を整えた。他にも貸出カード（バーコード）のスマートフォン表示や、県内全ての県市町自治体Webサイトで公開しているPDFファイルを全収集するPDF自動収集システム（クローラー）を開発するなど、令和3年度は当館においてもDX化が進められた。

令和2年9月7日グランシップ改修工事のためグランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」を閉室、同10月1日県立中央図書館に子どもコーナー「どんぐりひろば」を開設した。また、令和5年11月静岡中央ビルの老朽化による建替工事に伴う移転作業のため、歴史文化情報センター休館、令和6年4月県立中央図書館内に移転して業務を再開と、分散されていた当館の機能が谷田の地に集約された。

令和5年11月13日静岡県図書館大会第30回記念大会は、齋藤藤孝明治大学文学部教授を招請しての講演会、グランシップ中ホールのロビーとホワイトでは県図書館協会加盟館所有の20年以上前の図書館に関する写真や読書週間等のポスター100点を展示、デジタルサイネージで「静岡県立中央図書館の歴史」の動画を上映など盛大に開催した。また、令和7年12月1日の第32回静岡県図書館大会では全国公共図書館研究集会（サービス部門／総合・経営部門）も兼ねて開催され、全国から図書館員が集まる催しとなった。

令和7年度、創立100周年を迎え、記念事業として、創立100周年記念講演、これまで公開する機会のなかった木札類の史料を特別企画として展示、クイズラリーの開催など、様々なイベントを積極的に展開した。

付録 1 新館整備に向けた取組（平成28～令和7年度）

1 当館の課題と過去の検討経緯（～平成27年度）

当館は、昭和44年に現在地に移転開館して後、現在に至るまでに多くの課題を抱えるに至った。施設の老朽化が進み、空調設備や下水設備等の度重なる不調、館内の照度不足等問題点が多く、利用者から改善の要望が継続して寄せられている。館内には段差が多く存在しユニバーサルデザインへの対応も十分ではない。駅から遠い立地、駐車場不足等も懸案事項となっている。また、資料棟は、平成13年度に倒壊防止応急補強工事を実施しているものの、未だ恒久的な対策は施されていない。収蔵施設の狭隘化も深刻な問題となっている。開館当初の収蔵規模は約50万冊であったが、その後館長室等を書庫に転用して書庫不足に対応しているものの、蔵書数は令和7年度末現在で約100万冊に達し、そのうち約20万冊はやむなく館外保管となり利用不可の状態が続いている。

こうした施設の状況や図書館を取り巻く環境を踏まえ、平成6年度以降、教育委員会内において新県立図書館の担う役割について検討を重ねている。平成17年度には、平成12年度の有識者による検討結果を受け、新しい図書館が担うべき役割と機能、これからの図書館ネットワークの在り方、資料・情報の収集・保存方針、施設・設備の整備計画、立地構想、民間活力との協働等について検討し、具体的な提案として「新県立図書館基本構想内部検討まとめ」を作成した。平成23年度からは、「県立図書館在り方検討会」を設置し、平成17年度の提案を踏まえて、県立中央図書館の10年後の目指す役割や姿、望ましい施設、求められる組織像について議論を重ね、平成24年度に「県立図書館在り方検討会報告書」をまとめた。しかし、こうした検討結果が新館整備に向けた具体的な動きに結びつくまでには至らなかった。

2 新館計画始動、「文化力の拠点」＋分館方式による整備（平成28年度）

こうした中、平成28年6月県議会本会議において当館の課題が議論されたことが大きな弾みとなり、新館の計画は具体化していくこととなる。

県では、東静岡駅南口県有地の活用が長らく懸案であったが、平成27年3月に「文化力を活かした地域づくり基本構想」を策定し、この地に「文化力の拠点」施設を建設する計画を進めていた。図書館の課題が県全体に共有されたことにより、この施設を利用して図書館の収蔵庫不足を補う検討が始まることとなったのだ。

平成28年11月から翌年3月にかけて、「県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」を開催し、「新県立中央図書館基本構想案」の協議を行った。この時点では検討の前提として、谷田の現施設は活用しつつ、「文化力の拠点」との機能分担により機能の強化・課題の解消を図るというものであった。駅前の新施設ではにぎわいの空間で多くの人に利用される生涯学習支援・読書推進機能、現施設では落ち着いた環境を活かした研究支援機能といった役割分担を検討していたが、蔵書が二分されることによるデメリットや現施設の長期に渡る利用の可否など課題も残った。また、平成28年8月に文化力の拠点専門家会議が示した「文化力の拠点基本計画（案）」では図書館の機能は、5,000㎡（共用部含め8,300㎡）とされていて限定的なものであった。

「県立中央図書館施設整備の検討に関する有識者会議」委員（◎は委員長）

◎糸賀 雅児	慶応義塾大学文学部教授
岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド代表取締役
小幡 壯	静岡県立大学図書館長、静岡県立中央図書館協議会委員長
林 左和子	静岡文化芸術大学文化政策学部教授、静岡県読書活動推進会議委員長
高山 厚志	浜松市立中央図書館長、静岡県図書館協会副会長
草谷 桂子	トモエ文庫主宰、静岡図書館友の会

3 東静岡駅南口「文化力の拠点」への全館移転方針（平成29～30年度）

平成29年4月から6月にかけて、現有施設の長寿命化改修の可能性等を検討するため、専門家等による調査を実施したところ、補強は可能であるが、収蔵能力が大幅に減少し、狭隘化がさら

に深刻となることが分かった。(この際、閲覧室床の大規模なひび割れも発見された。p39付録2参照)調査結果を受けて、県教育委員会では東静岡への全館移転が妥当ではないかとの方針を決定し、文化・観光部とも調整を重ねた。9月には、県民有志の会が東静岡への全面移転を知事へ要望、その後、県議会9月定例会において東静岡への全館移転整備の方針が知事から示された。

10月から「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」を設置し、前年度に検討した機能分化を前提とした基本構想案を、全館移転を前提として検討し直した。11月から12月にかけては、一般県民や市町立図書館職員の意見を整備に反映させるため、それぞれを対象とした意見交換会を県内4か所で開催した。こうした検討を踏まえ、平成30年3月、教育委員会は「文化力の拠点」施設における新県立中央図書館基本構想」を取りまとめた。

なお、「文化力の拠点」施設は、新県立中央図書館を核とした施設を先行整備することが決まり、副知事をリーダーとした庁内横断的な「文化力の拠点」プロジェクトチームを設置し、具体的な検討を始めることとなった。

平成30年度、教育委員会は、基本構想で示した新館の実現に必要なサービスや資料整備、施設整備等について具体例を挙げた計画を検討するため、平成29年度に設置した「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」を開催するとともに、パブリックコメントを実施して、平成31年3月に、『文化力の拠点』施設における新県立中央図書館基本計画」を取りまとめた。

一方、「文化力の拠点」の形成に取り組む県文化・観光部は、県立中央図書館を中心とする施設の先行整備や導入する機能の内容や規模、民間活力を活用した事業手法などの「施設整備に係る県方針」を取りまとめた。

「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」委員 (◎は委員長)
平成29年度

◎糸賀 雅児	慶應義塾大学名誉教授
岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド代表取締役
小幡 壯	静岡県立中央図書館協議会委員長、静岡県立大学附属図書館長
草谷 桂子	トモエ文庫主宰、静岡図書館友の会
林 左和子	静岡文化芸術大学文化政策学部教授
堀川 仁	静岡市立中央図書館長、静岡県図書館協会副会長

平成30年度

◎糸賀 雅児	慶應義塾大学名誉教授
市川 智章	静岡市立中央図書館長、静岡県図書館協会副会長
小幡 壯	静岡県立中央図書館協議会委員長、静岡県立大学附属図書館長
草谷 桂子	トモエ文庫主宰、静岡図書館友の会
林 左和子	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科教授

4 「文化力の拠点」計画の白紙化、図書館単独整備へ方針転換（令和元年度）

令和元年度には、Society5.0を踏まえた「20XX年の社会環境・情報環境を描く」をテーマにする社会教育課と当館との合同ワークショップや館内検討ワーキングを設置し、「新県立中央図書館管理運営計画」や文化・観光部で進めている「文化力の拠点」の整備案に対応する要求水準書の検討を行った。令和2年3月に「新県立中央図書館管理運営計画」の原案が完成した。

一方、施設本体である「文化力の拠点」施設整備では、「文化力の拠点」の事業スキームを構築するために「文化力の拠点」の形成に向けた事業計画案公募（プレ公募）を平成31年3月から5月に実施し、応募のあった提案事業者と協議を重ねたが合意には至らなかった。「文化力の拠点」の核となる県立図書館については計画がすでに固まっているのに対し、その他の施設については、平成29年度以降民間事業者意向調査を繰り返してきたものの結局適当な民間提案を得ることができず、具体的な整備案がまとまらない状況となっている。

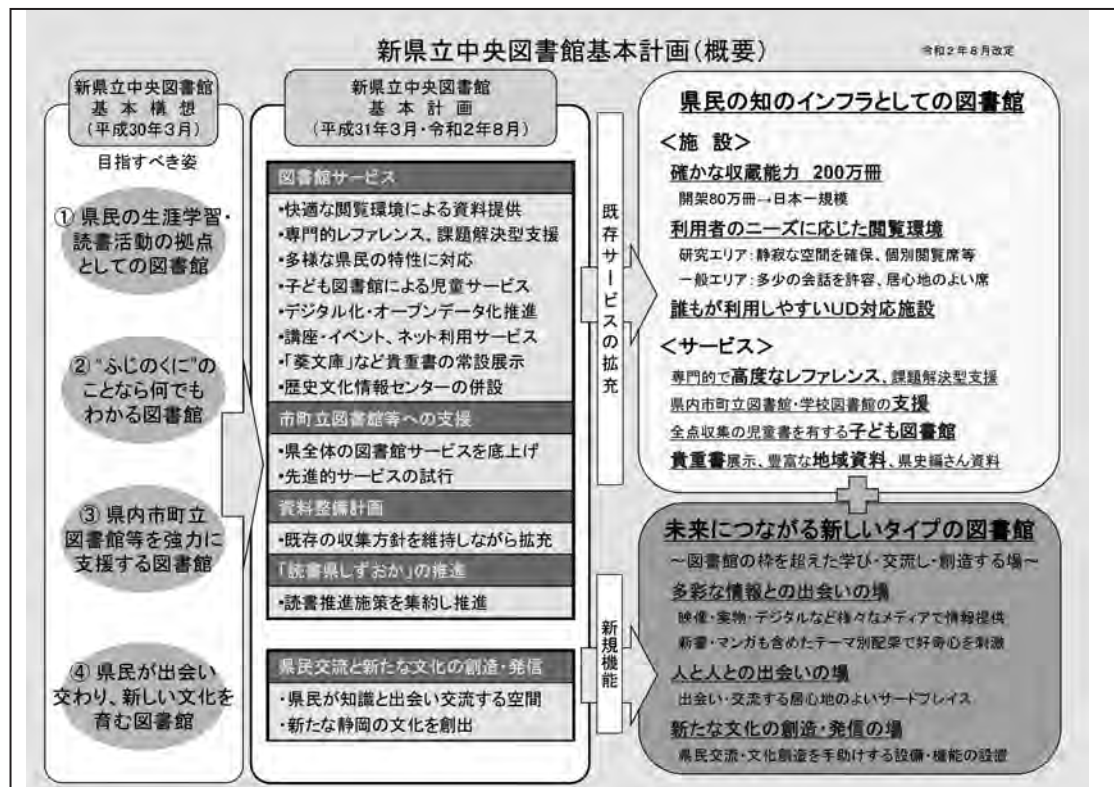
このため県は、令和元年12月県議会定例会において、図書館を中心とした魅力ある第1期整備を県が主体となって行うことにより、図書館の早期移転と高い集客を実現し、地域の魅力を上げることで民間投資意欲を高めて第2期整備につなげていくとの方針を示した。しかし「文化力の拠点」の中身が見えず以前の説明と大きく異なる方針転換に対して県議会に不信感があり、理解が得られなかった。県議会各会派が慎重な検討を求める中、議会に対する知事の発言が政治問題化したこともあり、「文化力の拠点」計画はいったん白紙とすることとなった。令和2年度当初予算に計上予定であった「県立中央図書館を中心とした文化力の拠点整備」の基本・実施設計費は見送られ、JR東静岡駅南口の県有地整備は県立中央図書館の単独整備とすること、整備は教育

委員会で行うこと、に方針転換された。令和2年1月、予算案発表間近の急転直下の変更であった。

5 東静岡駅南口での新県立中央図書館整備に向けて（令和2～3年度）

令和2年度の組織改編で、文化・観光部文化力の拠点推進課は廃止される一方、県教育委員会社会教育課内に図書館整備班が組織され、施設整備の業務全体が教育委員会に移管された。

平成31年3月に策定済みの『文化力の拠点』施設における新県立中央図書館基本計画は「文化力の拠点」施設の整備を前提としているものであったため、図書館単独整備として見直しを行う必要が生じた。このため、平成30年3月に策定した基本構想を維持しつつ「文化力の拠点」整備を前提とした要素を削除し、「新県立中央図書館基本計画」として令和2年8月に改定した。



その一方で、新型コロナウイルス感染症流行の影響により大幅な財源不足が発生する恐れがあることから、静岡県は大規模な施設整備事業について見直しを図る方針となり、見直し対象6施設のひとつに県立中央図書館も挙げられた。これを受けて計画の総点検を実施した結果、整備の必要性は従来どおり認められ、見直しの方向性として「アフターコロナに対応した「新しい図書館」としての機能を検討する」「広くアイデア等を募り、新しい図書館の実現と県費負担抑制の両立を目指す」こととなった。(令和2年9月)

この方針の一環として、県社会教育課では令和2年12月1日から令和3年1月15日までの間、新図書館アイデアコンペを実施した。幅広い世代から、ウィズコロナ、アフターコロナ時代に対応しつつ、新しい県立図書館が(で)できることについて、従来の常識や概念にとらわれない自由な発想のアイデアを募集し、215件の応募作品の中から32件の優秀作品を決定し、令和3年2月17日に公表した。

基本計画を踏まえ、新図書館の建設にあたり必要となる基本的な設計要件をまとめた「新県立中央図書館整備計画」を令和3年3月に策定した。ここで、施設の全体規模や、整備内容、整備スケジュールなどを初めて示すことができた。(次頁の掲載資料は令和3年9月改定後のもの)

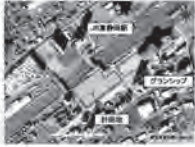
令和3年度には県教育委員会社会教育課内に新図書館整備室が設置され、運営企画班と施設整備班の2班体制で新図書館の整備を進めることになった。

新県立中央図書館整備計画（令和3年9月）概要版

1 計画の概要

【計画の背景】
本計画は、令和2年度までに策定した「新県立中央図書館基本構想」及び「新県立中央図書館基本計画」を受け、新県立中央図書館整備の実現に向けて、導入機能や施設計画、標準手法などについて取りまとめたものです。

【計画地の概要】
【所在地】 静岡市駿河区東静岡二丁目
【敷地面積】 2.43ha（東西約230m、南北約120m）
【用途地域等】 商業地域（容積率500%、建ぺい率80%）
【地区計画】 東静岡地区（市決定）＜既施設地区＞
・建築物の用途制限（住宅、工場等建築不可）
・敷地面積の最低限度（1,000㎡）等



3 導入する機能

（※詳細は別紙）

導入機能	内容	予定規模（㎡）	管理・運営方針
従来の図書館機能	読書・閲覧室 / 読書相談サービスコーナー / 知能情報コーナー / 児童室 / 読み聞かせの部屋 / 子どもの図書研究室 / 貴重書展示コーナー / 歴史文化情報センター / 学芸展示 / イベントホール / 会議室 / 公開講座 / 研修室 / 就業支援 等	15,100㎡程度	専門管理は専業主業を維持し、専業主業は既設のノウハウを継承し、入れ替えを認める
新しい形の図書館機能	情報発信コーナー / データ連携サービスコーナー / デジタルコンテンツスペース / 多目的ホール / ミニシアター / ラウンジ / カフェ / デジタルコンテンツ事務局 等	4,500㎡程度	民間のノウハウを積極活用するため、特定業種専科等の運営手法を探索
【施設計】		19,600㎡程度	
緑地広場・テラス	○アフターコロナ時代に対応した外観空間による閲覧スペース、憩いやつらぎの場		
駐車場（平面）駐車場	○新県立中央図書館及びグランシップ利用者用駐車場（150台） ○新県立中央図書館利用専用駐車場		維持管理・運営に係る経費を管理費で負担し、民間事業者による管理を想定
歩行者用通路（ハイパシタイル等）	○東静岡駅と新県立中央図書館を連絡		維持管理・運営に係る経費を管理費で負担し、民間事業者による管理を想定

2 施設整備のコンセプト

新県立中央図書館基本構想
令和2年9月

＜目指すべき姿＞

- ① 県民の生活学習・読書活動の拠点としての役割
- ② 「ふれあいのこころ」を核としたまちづくりの拠点
- ③ 県内初級図書館等を強力に支援する図書館
- ④ 風土が伝い変わり、新しい文化を育む図書館

新県立中央図書館基本計画
令和3年9月

＜施設サービス＞

- ・快適な閲覧環境による資料提供
- ・専門的ノウハウ、読書解決支援
- ・多様な読者の特性に対応
- ・子ども読書による読書サービス
- ・デジタル・コンテンツ・IT化推進
- ・講座・ネット利用サービス
- ・（新文庫）新書重要の読書展示
- ・歴史文化情報センターの開設
- ・市民生活情報等への支援
- ・読書サービスの向上
- ・読書サービスの向上

読書振興計画
・読書振興活動を推進しながら読書活動の活性化を図る
・読書活動の活性化を図る

歴史文化と新たな文化の創造・発信
・歴史文化と出会い交流する空間
・新たな文化を創造

新県立中央図書館の特色
読書の架けのインフラとしての図書館

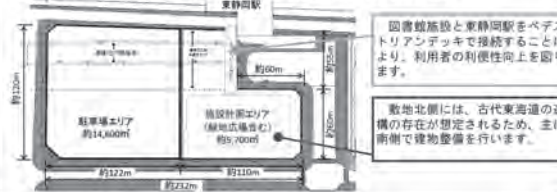
＜施設＞
読書活動の活性化、読書活動の推進
読書のニーズに応じた読書環境
読書活動の推進、読書活動の推進
読書活動の推進、読書活動の推進

＜サービス＞
読書活動の推進、読書活動の推進
読書活動の推進、読書活動の推進
読書活動の推進、読書活動の推進

アフターコロナ時代への対応
読書活動の推進、読書活動の推進
読書活動の推進、読書活動の推進

4 施設計画

敷地東側を緑地広場を含む施設計画エリアとし、西側を駐車場エリアとします。



図書館施設と東静岡駅をペDESTリアンデッキで接続することにより、利用者の利便性向上を図ります。

敷地北側には、古代東海道道の遺構の存在が想定されるため、主に南側で建物整備を行います。

6 事業手法

広くアイデアと人材を求めつつ、コストと性能の確実性を担保出来る方式を検討し、アフターコロナ時代に対応した「新しい図書館」を確実かつ早期に実現する事業手法とします。

○発注方式
設計「プレ・デザインを取り入れた改良版公募型プロポーザル」
工事「一般競争入札（総合評価落札方式）（想定）※今後検討

○概算事業費
180億円程度
※設計、建築（図書館施設、ペDESTリアンデッキ、駐車場等）、備品・システム費を含む。

7 スケジュール

整備計画	設計	開工	竣工
	令和3年度	令和4年度	令和5年度

建築設計者の選定は、コストと性能を担保しつつ、より良いアイデアを柔軟に受け入れて新図書館が目指すべき姿を実現できるよう、改良版公募型プロポーザル方式を採用した。具体的には、公募に先立ち、プレ・デザインの手法により、事前に設計の諸条件を整理し、要求水準（目標とする性能）を具体的に提示することで提案者とのイメージ共有を図るとともに、試設計モデルをベースに概算工事費を算出させ、予算内に収まっていることを確認した。

プロポーザル実施にあたっては、建築や図書館に見識のある委員により構成された審査委員会を組織して審査を行った。

提案募集の公告を令和3年10月1日、1次審査を12月2日に行い、書類審査により21者の提案書から2次審査に進む6者を選定した。その後、2次審査として令和4年2月19日にグランシップを会場に公開プレゼン

テーション及び審査委員会によるヒアリングを行った。その際には、県民が傍聴できるようサテライト会場を設置し、プレゼンテーションの動画も後日配信した。審査委員会による審議の結果、最も優れた提案をした者として「C+A1※・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業」を特定し、令和4年3月30日に設計業務委託契約を締結した。

また、新図書館に向けた図書館電算システムについて、技術動向の調査や先進事例調査・ヒアリング等の調査を取りまとめた「静岡県立中央図書館新システム基本構想」の策定を進めた。併せて、

審査委員会（敬称略）

分野	区分	氏名	所属・職名
建築	委員長	長谷川 逸子	長谷川逸子・建築計画工房（株）代表取締役
	副委員長	北山 恒	横浜国立大学 名誉教授
	委員	千葉 学	東京大学大学院工学系研究科 教授
	委員	貝島 桃代	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 教授
図書館等	委員	古瀬 敏	静岡文化芸術大学 名誉教授
	委員	岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド（株）代表取締役
	委員	是住 久美子	田原市図書館 館長
	委員	難波 喬司	静岡県副知事

1※C+A：シーラカンズアンドアソシエイツ

アフターコロナに対応した図書館として、新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議を開催し、新図書館におけるDXの方向性について協議するとともに、DXに対応したこれからの図書館サービスや電算システムのあり方などについて「新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議報告書」として委員会の提言をとりまとめた。

6 基本設計から実施設計（令和4～6年度）

令和4年度からは、プロポーザルで提案された内容を元に、県立中央図書館ならではの視点を共有しながら、次のような設計方針で基本設計を進めた。

- ① 資料体を中心にスパイラルアップする連続的な平面構成
- ② 低層階から上層階へ、ゆるやかにつながるグラデーショナルなゾーニング
- ③ 吹き抜けによりセキュリティと構造（免震）クリアランスを確保する合理的な計画
- ④ 高層階へのわかりやすい利用者動線と物流動線
- ⑤ グランシップ前広場を立体的に連続させアクティビティを誘発する外部空間



上記の設計方針を基に、平面図や模型を活用しながら、新図書館整備室や建築設計者とワークショップを重ね、現図書館の課題や新館に対する意見を集約し、利用者だけでなく、職員にとっても使いやすい図書館を目指した。

一方、脱炭素化社会の実現に向け建築物への木材利用の促進が求められたことから、県としてさらなる木材を活用する方針が新たに加わった。居心地の良い落ち着いた空間を目指し、木材の良さ、見た目の美しさを感じられる活用として、木使い推進プランの目標数量（約200m³）に加え、さらに300m³の木材を活用し、合わせて500m³程度使用することに決着した。大幅な予算増を伴う変更でもあり、県としてその検討に時間を要したため、設計業務期間を1年延長し、開館予定時期を令和9年度前半から同年度後半に見直した。

令和5年7月、基本設計が完了しその概要版を公表した。引き続き、実施設計を進め、令和6年9月、設計が完了した。

設計作業と並行して、埋蔵文化財未調査エリアの発掘調査や、移転に伴う汚損等を避けるための貴重書の外装、新館で新たに行うサービス用の資料購入などの準備も進めた。

《新館（設計完了時）の概要》

- ・地上9階建てで延べ床面積は約20,000m²、収蔵可能冊数は最大200万冊
- ・書庫を可視化した「資料体」を館の中央に配置して公開書庫とし、閲覧室等と合わせて最大80万冊を閲覧可能
- ・低層階にホールやセミナールーム、カフェなど賑わいのある交流スペースを設置
- ・内装に木材を使い、温かみのある空間を作り上げるとともに、県産家具の活用も検討
- ・富士山が眺望できる閲覧席やテラスを配置



設計期間中に急激な物価高騰があったことに加え、軟弱地盤対策の追加工事が必要になったことから、総事業費は、計画当初（令和2年度）見込んでいた192億円から298億円へと1.55倍に膨らむことが判明した。

7 入札不調、計画の見直し（令和6～7年度）

令和6年10月、建築工事の入札公告を行ったが応札者がなく、不調となった。東静岡駅と結ぶペDESTリアンデッキ等の一部機能を見直し、令和7年度秋以降の着手を目指して再入札の準備を進めた。

この最中、本事業の財源として見込んでいた国庫交付金が予定どおり充当できないことが徐々に判明する。総事業費298億円のうち、136億円を国土交通省所管の社会資本整備総合交付金をあてこんでいたが、令和7年1月、国土交通省から「県からの要望に全額応えることは困難」との連絡があったのだった。国土交通省との調整・協議を続けたものの、大幅な財源不足が生じることは避けられないことが明らかとなった。

この状況を受け、令和7年県議会6月定例会において、新県立中央図書館の整備については、「一旦立ち止まって整備方針を見直す」、「年内を目途に方向性を出せるよう、庁内に部局横断的なプロジェクトチームを立ち上げ検討を進める」という方針を知事が表明した。

県議会9月定例会においては、新県立中央図書館整備事業費の減額補正予算が可決された。

整備計画が白紙化したことにより、当初予定していた収蔵可能数や施設規模、図書館の機能などは、経済性、機能性、東静岡のまちづくりとの一体性の視点を重視して再整理されることになった。こうした状況に危機感を感じた市民団体からは県に要望書を提出するという動きもあった。

新県立中央図書館整備等PTは副知事をトップに、教育委員会、企画部、スポーツ・文化観光部で構成され、多角的な視点で見直しを行い、令和7年12月に「新県立中央図書館整備の見直しの方向性」を発表した。

新県立中央図書館整備見直しの方向性（概要版）

新県立中央図書館整備等PT

1 検討の前提

- ①新県立中央図書館を東静岡地区に整備する
- ②静岡市と進めてきた「まちづくりの方向性」を尊重する
- ③厳しい財政状況を踏まえ、県の財政負担を軽減する

2 図書館機能の見直し

(1) 基本的な考え方

- ・社会情勢の大きな変化を踏まえ、図書館機能を見直し
- ・基本的なコンセプトは踏まえつつ、「経済性」や「機能性」を重視し、サービス水準と費用対効果に優れた施設を目指す

(2) 見直しの方向性

ア デジタル技術の活用

- ・県民が、住んでいる場所や時間を問わず、利用できる環境を目指す
- ・利便性が高く、効率的に運営される図書館を実現

イ 市町立図書館との役割分担

- ・県立図書館の役割は「市町立図書館の補充・支援」を基本
- ・市町立図書館の機能と重複しないように見直し
- ・蔵書を相互に利活用する「図書館ネットワーク」を強化

ウ 収蔵能力

- ・今後30年間で見込まれる150万冊程度を上限に見直し

エ 蔵書の保管方法

- ・蔵書の分散化を含め、最適な手法を選択

オ 新たな交流と価値の創出

- ・東静岡地区全体の機能を最適化する観点から機能を見直し

3 最適な事業手法・東静岡地区のまちづくり

(1) 基本的な考え方

- ・静岡市とのまちづくりの一体性を重視
- ・民間活力の最大限の導入を軸として、県の財政負担の軽減を目指す
- ・県有地の一体的な活用（2.43ヘクタール）を基本

(2) 事業手法の方向性

- ・最適な施設の配置や整備手法（例えばPPP/PFI、定期借地権方式による公募など）を検討

4 今後のスケジュール

- ・「見直し」の方向性）に沿って、具体的な機能や整備手法などを決定
- ・令和10年代中頃～後半の開館を目指す

＜現計画との比較＞

区分	現計画	見直しの方向性
建設地	東静岡駅南口県有地 東側（0.97ha）	県有地全体（2.43ha）で 最適な配置を検討
施設規模	19,800㎡	縮小
整備手法	県直営方式	民間活力の導入を軸として 最適な整備手法を検討 〔PPP/PFI、 定期借地による公募など〕
事業費	298億円	削減
開館時期	令和10年度	令和10年代中頃～後半
デジタル 技術の活用	利便性向上 ほか （ICタグなど）	積極的に導入 （電子書籍など）
市町立図書館 との役割分担	指導・助言、 職員研修 ほか	機能が重複しないよう見直し 図書館ネットワークを強化
収蔵能力	200万冊	150万冊程度を上限
蔵書の 保管方法	一体保管	蔵書の分散化を含め 最適な手法を選択
新たな交流と 価値の創出	セミナールーム カフェ、ラボ ほか	東静岡地区全体の機能を 最適化する観点から見直し

新県立中央図書館の整備計画は、こうして大きくスケジュールを遅らせることとなったが、図書館が県民の生涯にわたる学習や本県の発展を支える「知のインフラ」として不可欠な社会資本であるという認識のもと、時代に応じた図書館に求められる機能や整備手法などを見直した上で今後も進めていく。

— 38 —

付録2 ひび割れ発見に伴う臨時休館（平成29～30年度）

1 概要

平成29年4月から6月にかけて当館の長寿命化改修の可能性等を検討するため、専門家による調査を実施したところ、資料棟2階閲覧室床（1階書庫・事務室及びB1階車庫の天井）にひび割れが認められた。

この調査結果を受け、県教育委員会は、利用者の安全を確保するため、安全対策を実施することとし、それに伴い当館を7月4日から臨時休館することとした。

2 安全対策

平成29年度は、閲覧室床の荷重超過を解消するための資料の軽減作業と、閲覧室床の状態やひび割れ発生原因の詳細調査を実施した。

閲覧室資料の軽減作業は、狭隘化が進んでいた書庫の資料約20万冊を外部保管場所（旧埋蔵文化財センター）に移動してから、閲覧室の資料約20万冊のうち約10万冊を書庫に移動して、12月末に完了した。

詳細調査は1月に完了し、調査の結果、ひび割れの原因は、荷重増等による建物全体の重量増、コンクリートの乾燥収縮、不同沈下、過去の地震等の要素が複合的に作用したものと推定され、構造的な問題はなく、ひび割れの補修を行えば、当面は床を使用し続けることは可能であることがわかった。調査結果を受けて、閲覧室床の荷重軽減のため開架冊数を20万冊から10万冊に減じ、過密状態にあった閉架書庫の資料と併せて20万冊を外部保管とした。平成30年度には閲覧室床ひび割れ補修工事等の安全対策を行い、3月に完了した。

3 臨時休館及びサービスの再開

当館にとって資料棟のひび割れ発見は晴天の霹靂であった。まずは利用者の安全確保を第一に平成29年7月4日から、臨時休館（閉館）とし、資料棟を利用する全てのサービスを一時中止した。

この後、できるサービスから順次再開していくこととし、同年7月18日から、電話等による簡易なレファレンスを再開、同年8月1日からは資料棟を使用せずインフォメーション棟のみを使用して不完全ながらも開館を再開した。

同年12月1日から、県内市町立図書館等への資料貸出（協力貸出）業務を再開した。

平成30年1月10日からは、インフォメーション棟のブラウジングコーナーに、カウンターを開設し、事前予約資料の閲覧・貸出サービス、レファレンスサービスなどを再開、合わせて、インターネット予約による資料の市町立図書館等受取サービスを再開した。同年1月26日から、予約なしでの資料の閲覧・貸出サービスを再開した。

安全対策の完了を受け、平成31年2月25日からの閲覧室再開準備のため臨時休館（閉館）を経て、3月14日から全てのサービスを再開できた。ただし、外部保管場所に移動した約20万冊の資料を使ったサービスは実施できない状況は続いている。

突然のひび割れ発覚から1年8か月に渡り閲覧室の利用ができないという当館始まって以来の非常事態であり、利用者には大きな不便をおかけしたが、当館にとってはこの状況で何ができるか、どう乗り越えるかを常に問われる期間でもあった。

※次ページ「臨時休館以降のサービスの推移」一覧表参照

臨時休館以降のサービスの推移

サービス内容	開館時間	閲覧室の利用	資料貸出(個人)	インターネット予約による市町立図書館受取	協力貸出(県内市町立図書館)・相互貸借	レファレンス	新聞閲覧	オンラインDB・検索用パソコン	インターネット閲覧パソコン	複写サービス	学習コーナー(自習室)・休憩コーナー	会議室・小中集会室・講堂	子ども図書研究室	えほんのひろば(グランシップ)	歴史文化情報センター(静岡中央ビル)
H29 7/4 から	臨時休館	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	利用不可	予約済のみ利用可	利用不可	通常どおり(貸出可)	通常どおり
H29 7/18 から															
H29 8/1 から															
H29 12/1 から	開館 9:00 ～ 17:00 (夜間開館なし)	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり(貸出可)	通常どおり	通常どおり
H30 1/10 から															
H30 1/26 から															
H30 6/1 から	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり(貸出可)	通常どおり	通常どおり
H30 10/1 から															
H31 2/25 から	臨時休館														
H31 3/14 から	すべての業務の再開(閲覧室開室)														

付録3 新型コロナウイルス感染症への対応（令和元～5年度）

新型コロナウイルス感染症の流行は社会全体に大きな影響を与えたが、図書館も例外でなく、非常事態時において図書館がどうあるべきかを否応なく迫られる事態であった。

●令和元年度

12月に中国湖北省武漢市で最初の症例が確認されて以降、日本でも令和2年1月中旬に国内で初めての感染者が確認され徐々に増加していった。内閣総理大臣が3月3日からの臨時休校要請を行うに至り、県内図書館では長時間利用の自粛要請や座席の間引き等の感染対策が本格化していった。先行き不透明な不気味な雰囲気のまま年度があけていった。

●令和2年度

4月7日から7都府県に緊急事態宣言が発出され、続く4月16日には緊急事態宣言が全国拡大という状況となり臨時休館する館が増加。4月28日にはすべての県内市町立図書館が臨時休館となった。その後、5月には本県の緊急事態宣言が解除となり、徐々にサービスが再開され、6月3日に県内すべての市町立図書館が開館再開した。

当館においては4月18日から5月11日まで臨時休館を行ったのち、開館後も感染のまん延状況をにらみつつ図書館サービスを調整していく日々となった。12月に当館主管で開催した関東・甲信越静地区図書館地区別研修では史上初めてライブ配信での開催となった一方、静岡県図書館大会は感染拡大状況が見通せない中でのリスクが大きいことから中止とするなど、行事の開催には悩みが大きかった。感染状況に合わせた新しい生活様式に沿った図書館運営を行い、全面休館する図書館は少なくなったが、「図書館の自由」や「知る権利」「学ぶ権利」をどのように守っていくのかを模索する1年となった。

●令和3年度

新型コロナウイルス感染症は終息が見通せず、引き続き対応に迫られる1年となった。感染状況に応じてサービスの制限を行いつつ、感染対策を行いながら多くの館で開館を継続した。

コロナ禍で全国的に電子図書館サービスの導入が飛躍的に進んだ。当館においても10月から電子図書館サービスを開始したが、この他にも図書館DX実証実験として9月に貸出カード（バーコード）のスマートフォン表示を、10月に利用者登録等のWeb申込サービスをそれぞれ開始した。

県内図書館においては電子図書館・動画公開・Web講演会など非来館サービスの提供を行う館が増え始めるとともに、貸出冊数や期間を増やす取組もみられた。また、サーマルカメラや空気清浄機を導入するなど各館で感染対策を続けられた。感染の第3・4波ともに、静岡県は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置には至らず、夏に向けておはなし会や来館イベントを再開していったが、7月下旬からの第5波で感染が急拡大し、8月20日には静岡県に緊急事態宣言が発出され、おはなし会や来館イベントは中止や延期となった。そのような中でも県内市町立図書館（室）の臨時休館は2施設のみで、多くの市町立図書館は一部サービスを制限しつつも開館を続けた。10月1日に緊急事態宣言が解除されると、おはなし会や来館イベントを再開し、閲覧席や学習室も多くの館で利用できるようになった。なお、静岡県図書館大会は当館を運営会場として初のオンラインにて開催した。

●令和4年度

コロナ禍が続く中で、社会全体に「ウィズコロナ」という考え方が広まり、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針が変わっていった。

7月のオミクロン株の流行による感染の第7波では、それまでを上回る規模で感染が拡大したが、まん延防止等重点措置の適用は行われなかったことから、イベントの中止や延期などの対応を行った館は少なかった。その後、流行期においても感染対策を行った上での開館が定着していった。令和4年12月中旬から令和5年2月にかけて、感染者数が増加し、医療ひっ迫警報が出されるなどしたが、

その後、感染者数は減少し、3月初めに国評価レベルは1まで下がった。3月13日からはマスクの着用は個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることとなったことから、各図書館でもこれに応じた対応をとることとなった。

なお、静岡県図書館大会は3年ぶりにグランシップで開催した。開催に当たっては、間隔を空けて座席を指定し、会場ごとに消毒液を準備するなど感染症対策に留意した。

●令和5年度

5月8日には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更された。その後は各図書館の判断で対策を行うこととなった。これにより、それまで実施されてきた様々な対策（マスク着用、パーテーション設置、座席の間引き等）が撤廃、または大きく緩和され、多くの図書館でコロナ前の状態に戻る、または近づくこととなった。県内図書館でもカウンターに設置されていたパーテーションは撤去、カウンターで業務につく職員もマスクの着用は個人の判断に委ねる、などの対応をとる館が多くなった。その後、感染者数が増加傾向となる時期もあったが、5類への変更以前のように、国からの各種制限等の指示はなく、従前どおりの図書館運営を行う館がほとんどとなった。

当館の新型コロナウイルス感染症対策として、主な取り組みを以下の表に示す。

新型コロナウイルス感染症の状況		当館の対応内容
R2年 3/4～	館内での予防対策	館内換気、職員のマスク着用、館内消毒の強化 4月末まで「えほんのひろば」でのおはなし会中止
4/7～	静岡県以外で緊急事態 宣言発令	学習室・閲覧室椅子の間引き、インターネットPC・OPACの半減 (4/11～)閲覧室椅子の撤去、AVブースの利用停止、学習コーナー・休憩コーナーの閉鎖、対面レファレンスの中止(クイックレファレンスのみ、手作り簡易シールド設置) 5月末まで「えほんのひろば」でのおはなし会中止
4/18～		臨時休館(～5/11)(えほんのひろば、歴史文化情報センターも同様) (4/18～4/27はシステム更新により休館は予定済み) (4/28～)臨時休館継続のまま、郵送・電話によるレファレンス、郵送複写、郵送による登録、障害者への郵送貸出、WEB予約等再開 夜間開館中止(～7/21)、土日祝日開館対応中止(～5/11)
5/12～	静岡県緊急事態宣言解除	制限付きで再開 ・4/11～の状態(閲覧室の椅子撤去ほか) ・各カウンターの簡易シールド、返却本の消毒など (5/19～)閲覧室の椅子の一部復旧 (6/2～)赤外線カメラの設置により、学習コーナー・休憩コーナー椅子の間引きして開室。新聞コーナー・インターネット端末の椅子復旧
7/8～	警戒レベル3 (県内注意、県外警戒)	セルフ貸出器導入 (7/22～)夜間開館再開
7/29～	警戒レベル4 (県内警戒、県外警戒)	休憩コーナー閉鎖 (8/1～)閲覧室椅子全面撤去、学習コーナー閉鎖 えほんのひろばも長椅子使用不可
9/12～	警戒レベル3 (県内注意、県外警戒)	閲覧室椅子一部復旧 学習コーナー、休憩コーナー開放(一部椅子の制限) (10/1～)子どもコーナー開室、おはなし会再開
11/10～	警戒レベル4 (県内注意、県外警戒)	(11/24～)子どもコーナー おはなし会中止
R3年 1/13～	警戒レベル5 (特別警戒)	
2/8～	警戒レベル4 (県内注意、県外警戒)	(4/6～)子どもコーナーおはなしかい再開(講堂)
5/14～	警戒レベル5 (特別警戒)	子どもコーナーおはなしかい中止

8/8～	警戒レベル6 (厳重警戒) まん延防止等重点措置 (県内静岡市ほか)	休憩コーナー閉鎖 クイックレファレンス
8/20～	静岡県緊急事態宣言	学習コーナー閉鎖、閲覧室座席追加間引き
9/24～	警戒レベル5 (特別警戒)	夜間開館中止 (予約本受取、電話によるレファレンス是对応)
10/1～	警戒レベル4 (県内警戒、県外警戒) 緊急事態宣言解除	閲覧室座席一部復旧、OPAC 全台復旧 子どもコーナーおはなしかい再開 (講堂) 夜間開館再開
10/15～	警戒レベル3 (県内注意、県外一部警戒)	学習コーナー、休憩コーナー開放 (一部椅子の制限)
10/22～	警戒レベル2 (県内注意、県外注意)	
12/3～	国評価レベル1 (維持すべきレベル)	(12/7～)閲覧室座席 15 席増 (1/17～1/28 蔵書点検のため休館)
R 4 年 1/11～	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル)	
1/27～	まん延防止等重点措置 (県内全市町)	(1/29～)休憩コーナー閉鎖、クイックレファレンス 子どもコーナーおはなしかい中止、子ども図書研究室ツアー中止
3/23～	まん延防止等重点措置 解除	休憩コーナー開放、レファレンス再開 子どもコーナーおはなしかい再開、子ども図書研究室ツアー再開
6/10	国評価レベル1 (維持すべきレベル)	(7/1～)閲覧室全席復旧、学習コーナー全席復旧
7/12	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル)	(7/13～)閲覧室座席一部制限、学習コーナー座席一部制限
7/29	(医療ひっ迫警報)	
10/1	(医療ひっ迫注意報)	
10/21	(感染再拡大注意報)	
11/11	(感染再拡大警報)	
12/16	(感染拡大初期)	
12/23	国評価レベル3 (医療負荷増大期) (医療ひっ迫警報)	
R 5 年 1/13	(医療ひっ迫防止対策強化宣言)	
2/11	(医療ひっ迫警報)	
2/17	(感染拡大初期) (医療ひっ迫注意報)	(3/1～)閲覧室全席復旧 学習コーナー全席復旧 休憩コーナー全席復旧
3/3	国評価レベル1 (感染小康期)	
3/13～	マスク着用の緩和 (着用は個人の判断に委ねる)	マスク着用の緩和 利用者：個人の判断に委ねる 職員：窓口業務中等は着用
5/8～	感染症法上の位置付け が5類へ変更	カウンターのパーテーションを撤去 マスク着用について、職員も常時個人の判断に委ねる (5/16～)検温装置撤去

6 略年表

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			明治 5年		三島神社内に書籍縦覧所開場
			明治 6年		富士郡大宮町に開化講設置
			明治10年		沼津書籍館設立
			明治11年	1月	静岡県立書籍館、県立師範学校附属として開館（無料）
			明治16年		田方郡塚本村に私立観光文庫設立
			明治19年		関口隆吉氏久能文庫企画
			明治21年	8月	沼津尋常小学校に沼津文庫開館
			明治35年	9月	浜松青年同志会、私立浜松青年書籍館設置 → 私立浜松図書館 → 市立
			明治40年	9月	私立丁未図書館設立（静岡市安西 瑞光寺）
			明治42年	9月	浜名郡新津小学校に新津村立図書館設立
			明治43年	9月	静岡県教育会附設図書館設立
			明治43年		静岡市教育会、市第二尋常小学校内に通俗図書館開設
			明治45年	1月	田方郡上大見小学校に八岳文庫設置 → 八島文庫
			大正 2年	7月	磐田郡三川小学校に三川村立図書館設立
			大正 2年	10月	駿東郡玉穂不二文庫設立 → 不二文庫
			大正 3年	4月	小笠郡西山口小学校に西山口図書館設立
			大正 3年	9月	田方郡戸田小学校に戸田文庫設立 → 戸田小学校児童文庫
			大正 4年	1月	田方郡土肥町に土肥文庫設立
			大正 4年	3月	三島町立図書館設立 → 市立
			大正 4年	8月	大正記念町立伊東図書館設立 → 市立
			大正 4年	10月	熱海町立図書館設立 → 市立
			大正 4年	12月	村立葦山文庫設立
			大正 4年		御即位記念須山村立図書館設立
			大正 5年	3月	村立千代田図書館設立 → 静岡市立千代田
			大正 5年	5月	焼津町立焼津尋常小学校附属図書館設立 →市立
			大正 6年	4月	駿東郡北郷文庫設立
			大正 6年	5月	田方郡小室村立大正記念図書館設立
大正8年	8月	関屋知事、県立図書館設立を決意す			
			大正 9年	10月	浜名郡曳馬図書館設立 → 浜松市立曳馬
			大正 9年		浜名郡伊佐見村立図書館設立
大正10年	3月	「葵文庫設立趣意並計画概要」を発表	大正10年	1月	浜名郡蒲村立図書館設立 → 浜松市立蒲
大正10年	11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、県立図書館設立を県会に提案議決、設立費17万円	大正10年	7月	雄踏村立図書館設立 → 町立
大正11年	11月	静岡県立葵文庫設立認可	大正11年	4月	賀茂郡稲生沢村立図書館設立
			大正11年		揚原文庫設立

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			大正11年	12月	下田町立図書館設立 → 市立
大正12年	12月	起工	大正12年	4月	浜松高等工業学校（静岡大学）図書館設置
大正13年	10月	竣工	大正13年	1月	浜名郡白脇図書館設立 → 浜松市立白脇
大正13年	10月30日	貞松修蔵静岡県立葵文庫初代文庫長就任 開館準備事務を開始	大正13年	6月	新居町図書館設立 → 町立
大正13年	11月	静岡師範学校保管の徳川幕府旧蔵の和漢洋図書、静岡中学校所蔵の和漢洋図書、文庫に移管	大正13年	10月	静岡高等学校（静岡大学）図書館設置
大正13年		静岡県教育会附設図書館の図書全部が寄贈される、同館は閉鎖			
大正13年		関口壯吉氏より、父隆吉の蔵書久能文庫を寄贈			
大正14年	3月	新村出氏より駿河御譲本春秋公羊伝（上、下）2冊寄贈	大正14年	2月	浜名郡村立知波田図書館設立
大正14年	4月1日	静岡県立葵文庫開館（蔵書22,000冊、職員16名）	大正14年		浜名郡富塚図書館設立 → 浜松市立富塚
			大正14年	10月	県、「町村図書館設置要項並町村図書館準則」公布
			大正14年	11月	志太郡村立小川図書館設立 → 焼津町立小川児童
大正15年	7月	館報「葵文庫ト其事業」創刊			
大正15年	7月	田中光顕氏より、大法炬陀羅經巻18、1冊寄贈			
			昭和 2年	11月	駿東郡小山町立図書館設立
昭和3年	11月3日	徳川頼貞氏、駿河版群書治要巻1-50（4,13,20欠）47冊を寄贈			
昭和4年	6月	山梨稲川百年祭記念事業として、山梨稲川集全4冊を刊行	昭和 4年	1月	三ヶ日図書館設立 → 中央公民館図書室
			昭和 4年	3月	志太郡大洲村立図書館設立
			昭和 4年	4月	志太郡青島町立図書館設立
			昭和 4年	7月	大宮町立図書館設立 → 富士宮市立
昭和5年	5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日目、県立葵文庫に行幸、稀覯書等を天覧	昭和 5年	4月	磐田郡村立井通共愛図書館設立
昭和5年	8月	蕃書調所、開成所旧蔵本中重複する洋書を、東京帝国大学、東京外国語学校に移譲			
			昭和 6年	9月	清水市立図書館設立
			昭和 7年	11月	静岡県図書館協会発足
昭和8年	9月	改正図書館令により、静岡県立葵文庫が本県の中央図書館に指定される	昭和 8年	5月	「静岡県図書館協会々報」創刊
昭和8年	11月1日	10周年記念式典を挙行			
昭和9年	2月	寺崎乙次郎氏蔵書寄贈、斗南文庫と命名			
昭和10年	9月	厚生新編複本完成	昭和10年	9月	静岡県、「図書館令施行細則」「町村立図書館設置経営要項」公布
昭和11年	3月	貞松修蔵文庫長退任、星子政雄文庫長事務取扱			
昭和11年	6月	相京伴信文庫長事務取扱			
昭和11年	12月	内山真竜等、遠州国学者の文献収蔵			
昭和12年	8月30日	シヨメールの百科全書を邦訳した厚生新編を複製頒布			
昭和14年	9月	七沢甚喜文庫長事務取扱			
昭和14年	12月	国民精神総動員文庫の巡回を始める			
昭和15年	7月	加藤忠雄文庫長に就任			
昭和15年	8月	大浜公園に海浜文庫開設			
昭和16年	5月	翼賛文庫貸出開始			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和17年	6月	本文庫において、戦時読書指導協議会を開催			
			昭和19年	2月	読書指導者思想錬成講習会、於西山本門寺
			昭和19年	3月	決戦読書指導研究会、於焼津東小学校
			昭和19年	5～6月	決戦下勤労者教育のための読書指導者懇談会 東（沼津商工会議所）・中（葵文庫）・西部 （浜松市立図書館）で開催
昭和20年	3月	貴重図書を外外7カ所に疎開	昭和20年		静岡薬学専門学校図書館設置 → 静岡薬科大学 → 静岡県立大学附属図書館
昭和20年	6月20日	静岡大空襲 戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失	昭和20年	6月	浜松大空襲により浜松市立図書館建物焼失
			昭和20年	7月	清水市立図書館、空襲で全館全蔵書焼失
昭和21年		県立葵文庫にCIE読書室設置	昭和21年	4月	佐野一夫、私立富士文庫設立。一般に無料公開 → 昭和62年3月31日閉館
昭和21年		清水真一氏（島田市）より十糧屈折赤道儀式望遠鏡の寄贈を受け屋上に天文室を設置、天文研究会発足（～昭和38年）	昭和21年	10月	静岡県読書文化協会発足
			昭和22年	3月	県立静岡農業専門学校（静岡大学）図書館設置
			昭和23年	4月	静岡県議会図書館開館
			昭和23年	7月	静岡市公会堂にCIE図書館開館 → アメリカ文化センター → 日米文化センター（昭和28年1月）
			昭和24年	5月	磐田市立図書館設立
昭和25年	12月	県視聴覚ライブラリーを県立葵文庫内に設置	昭和25年	5月	大須賀町立町民図書館設立 → 町立
			昭和25年	5月	気賀町立図書館設立 → 細江町立
			昭和25年	7月	舞阪町立図書館設立
			昭和26年	2月	浜松短期大学図書館設置
			昭和26年	4月	吉原市立図書館設立 → 富士市立中央
			昭和26年	6月	静岡県図書館協会再発足
			昭和26年	9月	町立掛川図書館設立 → 市立
			昭和26年	10月	島田市立図書館設立
			昭和27年	3月	清水市立図書館開館
			昭和27年	4月	沼津市立図書館沼津文庫設立
			昭和27年		県移動文化館発足（静岡県教育委員会社会教育課）～35年
			昭和27年		静岡県市立図書館協議会発足
			昭和27年		富士川町立図書館設立 → 中央公民館図書室
昭和28年	4月1日	日米文化センターが県立葵文庫に併置	昭和28年	1月	日米文化センター発足
			昭和29年	7～8月	文部大臣委嘱図書館専門職員講習 会場静岡大学
			昭和30年	11月	日本大学国際関係学部図書館開館
昭和31年	3月	加藤忠雄文庫長退任	昭和31年	11月	市立焼津図書館、図書の家庭配達制度を実施
昭和31年	4月	岡谷潔文庫長就任			
昭和31年	11月1日	図書館法に基づき静岡県立中央図書館葵文庫と名称変更			
昭和32年	3月	岡谷潔館長退任	昭和32年	6月	浜松市社会教育課内に移動文化館（BM）誕生
昭和32年	4月	山本松市館長就任	昭和32年	10月	熱海市立図書館、巡回文庫「お茶の間図書館」活動を開始
昭和32年	6月	相談室を開設			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和33年	2月	館報「葵」第1号発行	昭和33年	5月	島田市立図書館、公民館等7ヵ所に巡回文庫開設
昭和33年	9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置			
昭和35年	3月	山本松市館長退任	昭和35年	4月	森町立図書館設立
昭和35年	4月	岡本滋館長就任	昭和35年	10月	静岡県読書推進運動協議会結成
昭和35年	9月	本を読み合う会発足	昭和35年	12月	佐野記念館三島市立図書館開館
昭和36年	4月	自動車文庫「あおい号」開始			
昭和36年	9月	茶の間ひととき読書運動開始			
昭和36年		郷土研究講座、船員文庫始まる			
昭和36年	10月	静岡県立中央図書館 大井文庫図書目録 発行			
			昭和37年	4月	東海大学附属図書館清水分館開館
			昭和37年	5月	雄踏町立図書館開館（中央公民館内）
			昭和37年	10月	沼津市立駿河図書館開館
昭和38年	3月	岡本滋館長退任	昭和38年	6月	三島市立図書館、館外貸出・団体貸出開始
昭和38年	4月	今泉勇館長就任			
昭和38年	9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始			
			昭和39年	6月	沼津市立駿河図書館、沼津文庫の蔵書を市立第一小学校より移管
			昭和39年	10月	浜松市立図書館に社会教育課内のBM配属される
昭和40年	3月	今泉勇館長退任	昭和40年	1月24日	第1回静岡県読書大会開催（静岡市）
昭和40年	4月	小林篤館長就任	昭和40年	12月5日	第2回静岡県読書大会開催（静岡市）
昭和40年	10月	館内に新図書館研究委員会を設け、研究討議するとともに、移転準備のための資料設備等を実施			
昭和41年	8月	「新図書館の望ましい姿」を付し、企画調整部の意見聴収に回答	昭和41年	1月	静岡英和女学院短期大学図書館設置
			昭和41年		常葉女子短期大学（常葉学園短期大学）図書館設置
			昭和41年	4月	静岡県立大学短期大学部附属図書館開館
			昭和41年	11月	伊東市立図書館、伊東郷土研究会を組織
			昭和41年	11月4日	第3回静岡県読書大会開催（浜松市）
昭和42年	4月	日米文化センターを、静岡県日米協会に移管	昭和42年	1月	静岡女子大学附属図書館設置 → 静岡県立大学
昭和42年	12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工	昭和42年	4月	熱海市立図書館開館
			昭和42年	9月	明治百年記念郷土資料展（県内11会場巡回展示）
			昭和42年	10月15日	第4回静岡県読書大会開催（沼津市）
昭和43年	3月	静岡県立中央図書館葵文庫 現代詩ライブラリー目録 昭和43年3月31日現在 発行			
昭和43年	3月	静岡県立中央図書館葵文庫 郷土資料目録 昭和43年3月31日現在 発行	昭和43年	7月	財団法人裾野市鈴木育英図書館開館
			昭和43年	8月	近世文書解説講習会（～昭和46年）（静岡県図書館協会）
			昭和43年	9月	静岡大学附属図書館開館
			昭和43年	11月17日	第5回静岡県読書大会開催（清水市）
昭和44年	3月	静岡県立中央図書館葵文庫 久能文庫目録 発行	昭和44年	4月	聖隷学園浜松衛生短期大学図書館開館
昭和44年	3月18日	新図書館完工	昭和44年	8月	藤枝市立図書館設立

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和44年	3月	小林篤館長退任	昭和44年	11月9日	第6回静岡県読書大会開催（磐田市）
昭和44年	4月	高林静夫館長就任	昭和44年	12月	静岡市立図書館設立 → 静岡市立中央
昭和44年	6月30日	県立中央図書館蔵文庫を閉館、新館移転作業を開始			
昭和44年	7月12日	静岡県文化センター設置条例が制定され、静岡県立中央図書館と名称変更			
昭和44年	8月1日	新館移転を完了、開館準備事務を開始。静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）が制定され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置			
昭和45年	3月20日	静岡県立中央図書館協議会条例及び静岡県文化センター使用料条例を制定	昭和45年		袋井市立図書館設立
昭和45年	4月	静岡県立中央図書館蔵 江戸幕府旧蔵図書目録 発行	昭和45年	11月	御殿場市立図書館設立
昭和45年	4月18日	静岡県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙げる。20日から一般、開館時間：9時～17時、日曜日休館、貸出冊数・期間：2冊・15日	昭和45年	11月6日	第7回静岡県読書大会開催（静岡県立中央図書館）
昭和45年	7月20日	館報「文化」1号 発行			
昭和46年	5月23日	日曜日開館開始（開館時間：9時～16時 閲覧室、展示室の利用に限る）	昭和46年	1月	常葉学園短期大学附属図書館之山文庫開館
昭和46年	6月	産業技術資料協議会発足 → 平成13年6月解散	昭和46年	3月	沼津市立駿河図書館、「図書館郷土資料叢書」を刊行
昭和46年	7月1日	「地方史静岡」創刊号発行 → 第29号（平成13年4月25日発行）	昭和46年	4月	沼津工業高等専門学校図書館開館
			昭和46年	4月	天竜市立図書館開館
			昭和46年	4月	浜北市立図書館設立
			昭和46年	5月	磐田市立図書館、茶の間読書運動市内全小学校で実施
			昭和46年	5月	浜北市立図書館、茶の間ひととき読書推進運動開始
			昭和46年	9月	藤枝市立図書館、藤枝市茶の間ひととき読書連絡会発足
			昭和46年	11月1日	第8回静岡県読書大会開催（富士市）
昭和47年	4月	文化センター建設事務所廃止、園地管理が図書館の所管になる	昭和47年	4月	常葉学園短期大学之山文庫分館開館
昭和47年	11月	学制百年記念展開催	昭和47年	4月	静岡大学附属図書館浜松分館開館
			昭和47年	7月	掛川市立図書館開館
			昭和47年	9月	宗教法人世界救世教松風文庫開館
			昭和47年	9月	財団法人培本塾附属図書館開館
			昭和47年	11月1日	第9回静岡県読書大会開催（天竜市）
			昭和47年	11月	磐田市立図書館、農協あおぞら文庫10カ所開設
			昭和47年		島田市榛原地区、広城市町村圏組合事業移動図書館開始。市内ステーション10カ所。これにともない島田市立図書館、巡回文庫ステーションを縮小
			昭和47年		静岡子どもの本を読む会発足
昭和48年	3月	高林静夫館長退任	昭和48年	7月	吉田町中央公民館図書室開館
昭和48年	4月	小島毅館長就任			
昭和49年	3月	静岡県立中央図書館郷土資料目録2 昭和43年4月～昭和49年3月 発行	昭和49年	2月22日	第10回静岡県読書大会開催（静岡県立中央図書館）
昭和49年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、各課に2係制を導入 貸出、複写の受付を16時30分まで（日曜日は15時）とする	昭和49年	3月	公共図書館業務に関する現状と勤務の改善について（陳情）
昭和49年	7月	七夕豪雨により園地一部崩壊	昭和49年	4月	浜松市立南図書館設立

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和49年	9月	静岡県立中央図書館・館報「葵」1号発行			
			昭和49年	11月17日	第11回静岡県読書大会開催（三島市）
			昭和49年		静岡県市立図書館協議会、図書館網策定研究委員会設置
昭和50年	11月	50周年記念事業を行う	昭和50年	3月	浜北市立図書館、地域家庭文庫開設
昭和50年	11月10日	50周年を記念して「50年のあゆみ」を発行	昭和50年	11月7日	第12回静岡県読書大会開催（掛川市）
昭和51年	4月	「レファレンス」創刊（No.1：昭和51.4－No.204：平成3.3）→「県立中央図書館だより・レファレンス」（No.205：平成5.4－No.243：平成8.7）→「静岡県立中央図書館だより」（No.244：平成8.9－No.325：平成22.4）→「文化の丘・静岡県立中央図書館だより」（No.326：平成22.6－）	昭和51年	4月	下田市立下田図書館開館
			昭和51年	6月	小山町立小山図書館開館
			昭和51年	10月	県図書館協会出版事業を開始、「静岡県政史話」を復刻出版
			昭和51年	11月5日	第13回静岡県読書大会開催（静岡市）
			昭和52年		小笠町中央公民館図書室開館
			昭和52年	4月	大井川町中央公民館図書室開館
			昭和52年	5月	浜岡町原子力広報研修センター図書室開館
			昭和52年	11月10日	第14回静岡県読書大会開催（富士宮市）
昭和53年	3月	小島毅館長退任	昭和53年	3月15日	「静岡県郷土資料総合目録 昭和50年3月31日現在」（静岡県立中央図書館、静岡県図書館協会編）静岡県図書館協会発行
昭和53年	4月	宗知信館長就任	昭和53年	4月	浜松短期大学図書館開館
昭和53年	11月	静岡県行政資料目録 昭和52年度刊行分 発行	昭和53年	4月	浜松市立城北図書館設立
昭和53年	12月	宗知信館長退任	昭和53年	4月	長泉町民図書館設立
			昭和53年	4月	「静岡県の図書館」（静岡県図書館協会）創刊
			昭和53年	7月	沼津市立駿河図書館駅北分室（インバシプラザ4階）開設
			昭和53年	11月15日	浜松医科大学附属図書館開館
			昭和53年	11月9日	第15回静岡県読書大会開催（浅羽町）
			昭和53年	12月20日	「静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告1－3巻 復刻版」静岡県図書館協会発行
昭和54年	1月	堀通雄教育次長が館長を兼務	昭和54年	4月	豊田町立西公民館図書室開館
昭和54年	4月	渡辺悦郎館長就任	昭和54年	4月	浜松市立西図書館設立
			昭和54年	5月	藤枝市立図書館開館
			昭和54年	8月	大須賀町立図書館開館
			昭和54年	11月13日	第16回静岡県読書大会開催（焼津市）
			昭和54年	12月1日	「静岡県管内全図 復刻版」静岡県図書館協会発行
昭和55年	2月	静岡県行政資料目録 昭和53年度刊行分 発行	昭和55年	4月	浜松市立積志図書館設立
昭和55年	11月	静岡県立中央図書館蔵書目録の刊行開始。静岡県立中央図書館蔵書目録 第3巻 自然科学・工業・産業 昭和54年3月31日現在 発行	昭和55年	4月	常葉学園大学附属図書館開館
			昭和55年	4月	榛原町民文化センター図書室開館
			昭和55年	11月	富士市立西図書館開館
			昭和55年	11月	伊東市立伊東図書館開館

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			昭和55年	11月14日	第17回静岡県読書大会開催（清水市）
昭和56年	2月	静岡県行政資料目録 昭和54年度刊行分 発行	昭和56年	4月	浜松市立中央図書館開館
昭和56年	3月	渡辺悦郎館長退任	昭和56年	4月	水窪町山村開発センター図書室開館
昭和56年	4月	石川嘉延教育次長が館長を兼務	昭和56年	10月	東海大学女子・商経短期大学部図書館開館
昭和56年	4月	貸出冊数を3冊とする	昭和56年	11月	御殿場市立図書館開館
昭和56年	9月	西村二郎館長就任	昭和56年	11月12日	第18回静岡県読書大会開催（御殿場市）
昭和56年	11月	静岡県立中央図書館所蔵 古文書目録 発行	昭和56年	11月20日	「静岡県郷土資料総合目録 追加版1 昭和54年12月31日現在」 静岡県図書館協会編・発行
昭和57年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第1巻 総記・哲学・歴史 昭和56年3月31日現在 発行	昭和57年	4月	浜松市立東図書館設立
昭和57年	3月	静岡県行政資料目録 昭和55年度刊行分 発行	昭和57年	10月27日	第19回静岡県読書大会開催（浜北市）
昭和58年	2月	静岡県立中央図書館所蔵 児童文学研究書目録 昭和52年12月現在 発行	昭和58年	4月	静岡県社会福祉協議会社会福祉資料室開館 → 福祉情報センター
昭和58年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第2巻 社会・科学 昭和57年3月31日現在 発行	昭和58年	4月	浜松市立北図書館設立
昭和58年	4月	書庫入納を16時30分まで（日曜日は15時）とする	昭和58年	10月27日	第20回静岡県読書大会開催（静岡市）
昭和58年	5月	久能文庫展・講座開催	昭和58年	10月	島田市立図書館開館
昭和58年	11月	第1回葵文庫展・講座開催			
昭和59年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第4巻 芸術・語学・文学 昭和58年3月31日現在 発行	昭和59年	2月1日	「静岡県水産誌 復刻版」 静岡県図書館協会発行
昭和59年	3月	西村二郎館長退任	昭和59年	4月	浜松市立南陽図書館設立
昭和59年	4月	松井哲館長就任	昭和59年	5月	三ヶ日町中央公民館図書室開館
昭和59年	5月	日本の現代詩展・講座開催	昭和59年	7月18日	静岡市立中央図書館開館
昭和59年	9月	関口家文書追贈（近藤啓吾氏仲介）	昭和59年	8月	新居町立図書館開館
昭和59年	11月	第2回葵文庫展・講座開催	昭和59年	10月30日	第21回静岡県読書大会開催（三島市）
昭和60年	3月	松井哲館長退任	昭和60年	4月	静岡県立大学短期大学部図書館設置
昭和60年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第5巻 旧分類図書・洋書 昭和59年3月31日現在 発行	昭和60年	4月	清水町立図書館開館
昭和60年	3月	静岡県行政資料目録 昭和56年1月～昭和59年12月 発行	昭和60年	6月	焼津市立図書館開館
昭和60年	4月	鈴木嘉弘館長就任	昭和60年	11月1日	第22回静岡県読書大会開催（焼津市）
昭和60年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び静岡県視聴覚ライブラリー設置を制定	昭和60年	11月	富士川町中央公民館図書室開館
昭和60年	6月	60周年記念近代歌人・静岡県現代歌人展・講座開催			
昭和60年	11月6日	県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申			
昭和60年	11月	60周年記念葵文庫・久能文庫展・講座開催			
昭和61年	3月	静岡県立中央図書館新聞雑誌目録 昭和60年改訂 発行	昭和61年	3月1日	「目で見る・静岡県図書館白書'85-いまと、これからをめざして-」（静岡県図書館協会）発行
昭和61年	4月	日曜日の閉館時間を17時とする	昭和61年	4月～	「静岡県新総合計画」の策定、（S61～70年度）（静岡県）
昭和61年	4月～	静岡県公共図書館振興対策のとりまとめ	昭和61年	4月	浅羽町立図書館設立
昭和61年	9月5日	浙江省友好代表団来館	昭和61年	4月	相良町立図書館開館
昭和61年	10月23日～24日	関東地区都県立図書館副館長会議（会場：静岡市）	昭和61年	4月	函南町中央公民館図書室開館
昭和61年	11月5日～14日	静岡県立中央図書館所蔵雑誌展	昭和61年	4月	大東町北公民館図書室開館

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和61年	11月11日～18日	葵文庫・久能文庫展・講座開催	昭和61年	7月	菊川町立図書館菊川文庫開館
			昭和61年	8月14日	静岡市立追手町図書館開館（静岡市役3階）→ 閉館（平成16年）
			昭和61年	10月30日	第23回静岡県読書大会開催（浜松市）
			昭和61年	11月	本川根町民文化会館図書室開館
			昭和61年	11月	伊豆長岡町文化センター図書館開館
			昭和61年	11月	由比町中央公民館図書室開館
昭和62年	3月	「葵文庫」碑建立（葵文庫跡地）	昭和62年	1月	静岡英和女学院短期大学図書館開館
昭和62年	3月31日	特許関係資料が発明協会静岡県支部へ移転	昭和62年	3月	「静岡県教育中期計画」の策定（S61～70）（静岡県教育委員会）
昭和62年	11月19日～20日	関東地区都県立図書館運営研究会（静岡市）	昭和62年	3月31日	私立富士文庫閉館
昭和62年	11月20日	静岡県立中央図書館郷土資料目録 昭和60年9月30日現在 発行	昭和62年	4月	静岡県立大学附属図書館開館
			昭和62年	4月	静岡県、公立図書館整備振興策の策定・発足（S62年～H3年）
			昭和62年	4月	富士市立東図書館開館
			昭和62年	4月	引佐町立図書館設立
			昭和62年	4月	静岡市の図書館を考える会発足
			昭和62年	5月	図書館システム研究会設置（静岡県教育委員会）
			昭和62年	10月27日	第24回静岡県読書大会開催（富士市）
昭和63年	3月1日	図書館利用規定を改正し、市町村立図書館等への協力貸出しを充実	昭和63年	3月	「身近に図書館を」－公立図書館の振興のために－（昭和62年静岡県図書館システム研究会報告書）静岡県図書館システム研究会発行（事務局：静岡県教育委員会）
昭和63年	3月	鈴木嘉弘館長退任	昭和63年	4月	静岡学園短期大学図書館開館
昭和63年	4月	石田徳行館長就任	昭和63年	4月	常葉学園浜松大学附属図書館開館
昭和63年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、事業課が振興課に、普及係が協力係に変更	昭和63年	4月14日	天城湯ヶ島町立図書館天城文庫開館
昭和63年	7月1日	生涯学習情報コーナー開設	昭和63年	6月7日	松崎町立図書館開館
昭和63年	8月	協力車試行運行	昭和63年	6月	静岡競輪場ライブラリー開館
昭和63年	10月13日～14日	関東地区市区町村図書館運営研究会（伊豆長岡町）	昭和63年	6月	図書館専門職員の養成等に関する要望（県立大学・常葉大学）
昭和63年	11月	JLA事務局長より県教育長へ平成2年度・全国図書館大会の開催要請・了承	昭和63年	7月	袋井市立図書館新館開館
			昭和63年	9月	市制百年を機に県都静岡の図書館をよくする会発足
			昭和63年	10月29日	第25回静岡県読書大会開催（袋井市）
			昭和63年		図書館を考える磐田市民の会（1986年発足）「新しい磐田市民の図書館をめざして」刊行
平成元年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第6巻 増加の部 昭和62年3月31日現在 発行	平成元年	3月	「くらしに図書館を」－よりよい住民サービスを目指して－（昭和63年度静岡県図書館システム研究会報告書）静岡県図書館システム研究会発行（事務局：静岡県教育委員会）
平成元年	4月	協力車運行の制度化	平成元年	3月1日	「ね！おはなしよんで一読み聞かせの手引き・0歳から6歳までの絵本」（親子読書推進協議会）発行
平成元年	5月20日	「よみたい絵本・そろえたい絵本－これから選定をするために」県立中央図書館編・発行	平成元年	3月29日	富士宮市立中央図書館開館
平成元年	6月	資料相互貸借協定の締結・発効	平成元年	4月1日	南伊豆町立図書館開館
平成元年	10月17日～22日	初代県知事・関口隆吉関係資料展	平成元年	5月25日	「目で見る・静岡県図書館白書'89－いまと、これからのめざして－」（静岡県図書館協会）発行
平成元年	10月	「図書館だより」創刊（No.1：平成1.10－No.42：平成5.3） → 「県立図書館だより・レファレンス」	平成元年	5月29日	第1回静岡県図書館振興大会が県立中央図書館を会場に開催される

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成元年	10月	静岡県立中央図書館久能文庫目録 増補改訂版 発行	平成元年	6月	佐久間町立図書館開館
平成元年		全国図書館大会に向けて、準備会・分科会検討委員会設置、基本事項・本県運営の分科会構成等 検討、本県案作成	平成元年	7月1日	静岡市立薬科図書館開館
			平成元年	7月17日	湖西市立図書館開館
			平成元年	8月12日	大仁町立図書館開館
			平成元年	10月	静岡県図書館協会資料相互貸借協定の締結・発効
			平成元年	11月	芝川町中央図書館開館（条例未制定）
			平成元年	11月10日	第26回静岡県読書大会開催（富士川町）
			平成元年	12月	湖西市と新居町で自治体間での相互利用開始
平成2年	1月	未設置町村自治体関係職員等研修会（静岡会場・新居町・菊川町） 県・日図協共催	平成2年	3月1日	「静岡県郷土資料総合目録 新版」（静岡県図書館協会編）静岡県図書館協会発行
平成2年	3月	石田德行館長退任	平成2年	4月	常葉学園富士短期大学附属図書館開館
平成2年	4月	石割忠夫館長就任	平成2年	4月	蒲原町立図書館設立
平成2年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 総索引（図書昭和62年3月31日現在、雑誌・新聞 平成元年3月31日現在）発行	平成2年	4月18日	富士市立富士文庫開館
平成2年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成元年12月 発行	平成2年	6月	町民センターおかべ図書室開室
平成2年	3月	静岡県立中央図書館所蔵静岡県関係地区目録発行	平成2年	8月	舞阪町立図書館設立
平成2年	4月	全国図書館大会 第1回実行委員会	平成2年	8月	龍山村立図書館開館
平成2年	5月	全国図書館大会 第1回運営委員会	平成2年	9月	土肥町立図書館設立
平成2年	10月24日～26日	全国図書館大会（第76回静岡大会）「'90年代の図書館を考える－図書館法制定40周年を迎えて－」開催（参加者1800人）	平成2年	9月	細江町立図書館開館
			平成2年	10月	「目で見ると・静岡県白書'90－いまとこれからをめざして－」（静岡県図書館協会）発行
			平成2年	10月20日	「静岡県の図書館ガイド－全国図書館大会記念－」（静岡県図書館協会）発行
			平成2年	11月28日	第27回静岡県読書大会開催（大仁町）
平成3年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第7巻 1987.4－1989.3 発行	平成3年	3月20日	「よみたい絵本。そろえたい絵本－これから選定をするために－」（静岡県図書館協会絵本目録委員会編）静岡県図書館協会発行
平成3年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成2年12月 発行	平成3年	3月30日	「参考図書リスト－これから選定をするために－」（静岡県図書館協会参考図書目録委員会編）静岡県図書館協会発行
平成3年	4月	電算導入3ヵ年計画開始（概要設計等）	平成3年	4月	竜洋町立図書館開館
平成3年	7月	静岡県図書館関係新聞記事索引 昭和52年1月～平成2年12月 発行	平成3年	4月1日	戸田村立図書館開館
平成3年	9月	関口隆吉氏 孫・関口久能氏の「甥姪の会」から久能氏の7回忌に「久能文庫目録 増補改訂版」を復刊（平成3年9月1日発行）し寄贈いただく	平成3年	7月20日	大須賀町立図書館開館
			平成3年	10月1日	長泉町立図書館開館
			平成3年	10月14日	第2回静岡県図書館振興大会開催（静岡県立中央図書館）
			平成3年	10月26日	第28回静岡県読書大会開催（舞阪町）
			平成3年	11月1日	豊田町立図書館開館
			平成3年	11月	裾野市民文化センター図書室開館
平成4年	3月	静岡県立中央図書館新聞雑誌目録 平成3年度新版 発行	平成4年	4月	聖隷クリストファー看護大学図書館開館
平成4年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成3年12月 発行	平成4年	4月	浜松市立南図書館開館
平成4年	3月	石割忠夫館長退任	平成4年	4月	富士フェニックス短期大学図書館開館

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成4年	4月	渡瀬祥光館長就任	平成 4年	4月	小山町立図書館設立
			平成 4年	6月	静岡精華短期大学附属図書館開館
			平成 4年	7月21日	静岡市立南部図書館開館
			平成 4年	7月	磐田市立・豊田町立・竜洋町立図書館間で相互貸借についての業務提携が成立（福田町を含め広域利用が開始）
			平成 4年	7月	東伊豆町立図書館設立
			平成 4年	8月	春野町立図書館開館
			平成 4年	8月	島田・藤枝・焼津・大井川・岡部町で「志太地区3市2町図書館協議会委員交流会」が発足
			平成 4年	10月	第1回（平成4年度）静岡県図書館大会（図書館振興大会と読書大会を合併）開催（菊川文化会館）
			平成 4年	11月	大井川町立図書館設立
			平成 4年	12月	清水市立中央図書館設立
平成5年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第8巻 1989.4-1991.3 発行	平成 5年	3月	「静岡県図書館協会60年のあゆみ」（静岡県図書館協会）発行
平成5年		静岡県・浙江省友好提携10周年を記念し、「浙江省寄贈文庫コーナー」を開設	平成 5年	3月28日	富士宮市立西富士図書館開館
平成5年	5月20日～21日	平成5年度関東地区公共図書館協議会総会及び研究発表会開催（浜松市）	平成 5年		「静岡県教育中期計画後期推進計画（平成5～7年度）」（静岡県教育委員会）
			平成 5年	5月	県女性総合センター「あざれあ図書館」開館
			平成 5年	6月	磐田市立図書館新築開館
			平成 5年	7月24日	浜岡町立図書館開館
			平成 5年	7月	沼津市立図書館開館
			平成 5年	9月	細江町立図書館が町内2校の小学校図書室に利用者端末機を設置
			平成 5年	10月18日	第2回（平成5年度）静岡県図書館大会開催（富士宮市民文化会館）
平成6年	3月29日	電算システムによる業務を開始、電算導入に伴い、図書館等利用規定を改正	平成 6年	4月	静岡産業大学図書館開館（磐田市）
平成6年	3月	静岡関係雑誌記事索引 平成5年3月現在 発行	平成 6年	5月	厚生総合図書館開館（沼津市）
平成6年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成5年6月受入分 発行	平成 6年	6月	子どもの本の研究資料館「遊本館」開設
平成6年	3月	渡瀬祥光館長退任	平成 6年	6月	賀茂村中央公民館図書室設置
平成6年	4月	中村信也館長就任	平成 6年	6月	川根町立図書館開館
平成6年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更	平成 6年	7月20日	裾野市立鈴木図書館開館
平成6年	4月1日	貸出冊数・期間を5冊・22日とする	平成 6年	10月24日	第3回（平成6年度）静岡県図書館大会開催（竜洋町なぎの木会館）
平成7年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第9巻 1991.4-1994.3 発行	平成 7年	1月	静岡県内大学等の附属図書館懇談会（静岡大学附属図書館）
平成7年	10月1日～11月29日	静岡県立中央図書館創立70周年記念 特別展示「県立葵文庫・中央図書館70年のあゆみ」	平成 7年	2月	第1回図書館づくり交流会開催
平成7年	11月27日	静岡県立中央図書館創立70周年記念特別講演会「書物と静岡」山口昌男氏（静岡県立中央図書館）	平成 7年		静岡県「新世紀創造計画（1995～2004）」発表
平成7年	11月16日～17日	関東地区公共図書館協議会市町村立図書館運営研究会（静岡県伊豆長岡町）	平成 7年		県立・県図書館協会・市立図書館協議会の研修を一つに体系化し実施
平成7年	12月1日～H8年1月30日	静岡県立中央図書館創立70周年記念 特別展示「温故知新」、研究発表（「静岡学問所・沼津兵学校ゆかりの人々と明治期の教科書」（松本泉）、「葵文庫に見る英米地理書について」（大庭穰治）「館蔵浮世絵の紹介」（田中文雄））	平成 7年	4月15日	森町立図書館開館
			平成 7年	10月4日	富士市立中央図書館開館
			平成 7年	10月23日	第4回（平成7年度）静岡県図書館大会開催（島田市民総合施設プラザおおるり）

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			平成 7年		東海大学附属図書館沼津分館と沼津市立図書館オンライン化、相互貸借開始
平成8年	1月	静岡県立中央図書館郷土資料目録、昭和60年10月～平成7年3月 発行	平成 8年	4月	静岡県生涯学習情報システム（愛称マナビット）運用開始に伴い静岡県郷土資料総合目録データベースの検索が可能となる（平成14年3月廃止）
平成8年	3月	中村信也館長退任	平成 8年	4月23日	静岡市立西奈図書館開館
平成8年	4月	真杉慶夫館長就任	平成 8年	6月1日	修善寺図書館開館
平成8年	10月17日～18日	関東地区都県立図書館協議会会長会議（静岡市・清水市）	平成 8年	7月7日	豊岡村図書室開館
			平成 8年	7月7日	水窪町文化会館図書室移転
			平成 8年	8月	沼津市・熱海市・伊東市図書館相互利用協定締結
			平成 8年	8月	沼津市・清水町・南伊豆町・戸田村図書館相互に直接貸出可能となる
			平成 8年	10月28日	第5回（平成8年度）静岡県図書館大会開催（沼津市民文化センター）
			平成 8年	12月1日	三島市立図書館中郷分館サービス開始（仮開館）
平成9年	1月31日	静岡県立中央図書館蔵書目録 第10巻 分類編・索引編（一般資料 1994.4～1996.3 郷土資料 1995.4～1996.3） 発行	平成 9年	4月	東部4市3町（沼津・三島・御殿場・裾野・清水・長泉・小山）が広域利用開始
平成9年	4月	貸出時間を16時45分までとする	平成 9年	4月1日	菰山町立図書館開館
平成9年	7月	郷土資料総合新着情報（年4回）を発行、静岡県図書館協会加盟館に配付。所蔵館情報を収集しマナビットで提供開始。（平成13年まで）	平成 9年	4月15日	浜松市立可新図書館開館
平成9年	9月	静岡県立中央図書館外国語図書目録 1997年4月現在 発行	平成 9年	4月22日	静岡市立長田図書館開館
平成9年	11月	関東地区公共図書館協議会整理部門研究会（熱海市）	平成 9年	4月30日	三島市立図書館開館
平成9年	12月	静岡県立中央図書館蔵書書名索引 1987.4～1997.3 発行	平成 9年	5月	松崎町立図書館開館（条例未制定）
			平成 9年	10月27日	第6回（平成9年度）静岡県図書館大会開催（アクトシティ浜松）
			平成 9年	11月	静岡県大学図書館協議会を設立し、平成7年発足の静岡県内大学附属図書館長懇談会を解消
			平成 9年		静岡市立図書館所蔵情報のCD-ROM化実施
平成10年	3月	真杉慶夫館長退任	平成10年	3月	静岡市立図書館蔵書目録CD-ROM「本の玉手箱」の作成、頒布開始
平成10年	4月	鈴木善彦館長就任	平成10年	4月1日	引佐町立図書館増改築後開館
平成10年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、資料課地域資料係が調査課地域調査係に、調査課逐次刊行物係が資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係が、一般調査係に変更	平成10年	4月	常葉大学教育学部生涯教育科司書課程開講（昼・夜間）
平成10年	4月1日	開館時間を金曜日に限り20時までとする	平成10年	5月1日	静岡県生涯学習情報システム（愛称マンビット）インターネット化
平成10年	5月	マナビットのインターネット接続	平成10年	7月1日	雄踏町立図書館新館開館
平成10年	6月21日	静岡新聞に毎週日曜日、「静岡県立中央図書館・お答えします」を連載開始	平成10年	11月2日	第7回（平成10年度）静岡県図書館大会開催（ホテルセンチュリー静岡）
平成10年	9月	図書館協力ハンドブックPLUM 発行（以後、毎年発行）			
平成10年	10月1日～2日	全国公共図書館研究会参考事務分科会（熱海市）			
平成10年	10月30日	静岡県立中央図書館HPがオープン。「葵文庫（江戸幕府旧蔵図書）」目録の全タイトルを、和漢書は英訳、洋書は和訳し全資料の表紙と表題紙を画像データ化し、一部は全データ化した。そのほかの貴重資料もデジタルアーカイブし、ホームページに掲載した			
平成10年	12月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成10年版 発行			
平成10年	12月	年末年始（12月29日・30日・1月2日・3日）9-17時開館の試行を実施			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成11年	1月1日	閲覧カウンターを、レファレンスカウンターと、貸出・返却カウンターに分け、従来の受付を貸出・返却カウンターとし、閲覧室内のレイアウト及び利用システムの変更を行った	平成11年	7月21日	吉田町立図書館開館
平成11年	1月1日	インターネット利用者用開放端末2台を設置した	平成11年	10月18日	第8回(平成11年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成11年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第11巻 分類編・索引編(一般資料・郷土資料 1996.4-1998.3) 発行			
平成11年	3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設			
平成11年	3月13日	県立中央図書館閲覧室とグランシップ情報ラウンジ・県立中央図書館コーナーにて、個人貸出用ビデオの貸出(3点8日間)開始			
平成11年	4月1日	歴史文化情報センターが、県教育委員会文化課から県立中央図書館に移管			
平成11年	4月1日	歴史文化情報センター内で静岡県史収集資料のデータベース化及び公開継続			
平成11年	4月1日	コイン式コピー機を導入、複写料金を1枚30円から20円に変更。貸出冊数を5冊から10冊へ。県外在住者への貸出を可能とする。手荷物等の館内持ち込みを可能とする。貸出延長の電話での受付を開始。			
平成11年	5月1日	遠隔地域在住の県民に対して、個人貸出資料を市町村立図書館を経由して返却できる制度を開始			
平成11年	6月16日	インターネットでのレファレンス受付開始			
平成11年	7月1日	雑誌(1999年1月号からの一般雑誌)の個人貸出開始			
平成11年	11月1日	県庁県民サービスセンターに図書の返却ボックスを設置			
平成12年	1月	「しずおか情報ネットワーク整備事業」による、CD-ROM版「デジタル葵文庫」作成「デジタル葵文庫」インターネット提供開始	平成12年	2月15日	三ヶ日町立図書館開館
平成12年	1月	インターネット利用者端末を8台に増設	平成12年	4月1日	静岡文化芸術大学図書館・情報センター開館
平成12年	3月	「富士山資料データベース」インターネット提供開始	平成12年	8月	富士市立中央図書館開館
平成12年	3月	静岡県立中央図書館新聞雑誌目録 平成11年改訂新版(付・静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌目録 平成11年版)発行	平成12年	8月19日～20日	「子ども読書年フェスティバルinしずおか」が、ツインメッセしずおかで開催される
平成12年	4月1日	水～金曜日までの開館時間を19時までとする	平成12年	10月30日	第9回(平成12年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成12年	4月1日	雑誌個人貸出資料の市町村図書館での返却が可能になる			
平成12年	4月1日	静岡県関係記事論文と郷土雑誌目次がインターネットで検索できるようになる			
平成12年	5月1日	電子資料(CD-ROM)閲覧と図書の付録CD-ROMの貸出開始			
平成12年	5月29日	静岡新聞連載「静岡県立中央図書館・お答えします」終了			
平成12年	6月	「浮世絵データベース」インターネット提供開始(東大との連携)			
平成12年	8月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録 平成12年版 発行			
平成12年	10月1日	大活字本の購入提供開始			
平成12年	10月	静岡県内各教育委員会から発行されている副読本一覧目録「静岡県立中央図書館所蔵静岡県関係副読本目録」を発行し、静岡県図書館協会加盟館に配付した			
平成12年	11月	お答えします総集編 発行			
平成12年	12月1日	県教育委員会への教育関係資料の情報提供開始			
平成13年	2月15日	個人貸出資料の返却図書館に「静岡県女性総合センター(あざれあ)図書室」が加わる	平成13年	6月	掛川市立中央図書館新館開館
平成13年	3月	静岡県視聴覚ライブラリー視聴覚資料目録 平成12年12月31日現在 発行	平成13年	7月	浜北市立図書館新館開館
平成13年	4月	児童図書の購入開始	平成13年	11月5日	第10回(平成13年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成13年	4月	郷土資料の「調査案内データベース」をインターネットに公開			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成13年	5月	第1回静岡県自費出版大賞 応募作品展を開始			
平成13年	6月	静岡県立中央図書館所蔵子どもが使える郷土資料図書目録 発行			
平成13年	7月	静岡県立中央図書館所蔵東海道関係図書目録発行			
平成13年	8月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成13年版 発行			
平成13年	10月	静岡県郷土史研究団体リスト 発行			
平成13年		利用者懇談会の実施			
平成13年		中学生の職場体験受け入れ			
平成14年	1月1日～7月	地震対策緊急整備工事のため休館	平成14年	1月	小笠町立図書館開館
平成14年	2月18日	地震対策緊急整備工事着工 休館中のサービスとして、静岡県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを開設	平成14年	2月23日	静岡県読み聞かせネットワーク設立総会（あざれあ）
平成14年	3月	鈴木善彦館長退任	平成14年		静岡県総合教育センター図書室が地域住民への貸出開始
平成14年	4月	恩田征弥館長就任	平成14年	4月	浜松市立中央図書館駅前分室をフォルテビル4階に開設
平成14年	5月	インターネット図書システム（旧マナビット）の提供開始	平成14年	5月	浅羽町立図書館が工事のため休館（平成15年4月まで）
平成14年	5月31日	地震対策緊急整備工事完成	平成14年	7月15日	静岡県読み聞かせネットワークだより「読み聞かせじょうずのフージーちゃん」創刊
平成14年	6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉鎖	平成14年	7月	福田町立図書館開館
平成14年	8月1日	地震対策緊急工事終了、県立図書館業務を再開	平成14年	10月	静岡大学附属図書館及び浜松分館が日曜・祝日も開館
平成14年	8月1日	図書・雑誌の貸出数を20冊、ビデオ等の貸出期間を22日、電子複写コピー料金を1枚10円にする	平成14年	10月28日	第11回（平成14年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成14年	8月	児童書の協力貸出開始			
平成14年	8月	ホームページ情報発信を拡充 ・調査案内データベースに静岡新聞掲載「お答えします」、レファレンス事例等を追加 ・児童書、視聴覚資料、外国語図書の検索を可能に ・検索結果に帯出区分（貸出可能かどうか）を追加 ・「新着図書情報検索」の提供			
平成14年	9月	静岡県図書館協会加盟館に、静岡県立中央図書館所蔵の郷土資料の全書誌データとアプリケーションを収録したCD-ROMを配付、以後作成の書誌データはHPから配信			
平成14年	9月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成14年版 発行			
平成14年	10月12日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動、同センター「図書コーナー」で月一回の閲覧開始			
平成14年	10月	特定テーマに関する資料や情報を探するための手順をまとめた「静岡県立中央図書館 パスファインダー」（A4版）を作成（以後、随時作成）			
平成14年		歴史文化情報センターで小中学校への出張授業実施			
平成15年	4月1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開、絵本の個人貸出開始	平成15年	4月1日	市町村合併により清水市立中央図書館 → 静岡市立清水中央図書館に名称変更
平成15年	4月	「静岡県立中央図書館数値目標」決定	平成15年	4月	河津町文化の家（町立図書館）開館
平成15年	4月	メールマガジン開始	平成15年	4月	静岡市立北部図書館開館
平成15年	5月	草柳大蔵コーナー設置	平成15年	4月	浅羽町立図書館閲覧室拡張工事終了に伴い開館
平成15年	7月2日	ビジネスコーナー設置	平成15年	10月	静岡産業大学情報センターが藤枝校に設立され、新たに図書館が市民に一般公開される

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成15年	9月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成15年版 発行（以後、静岡県内新聞雑誌総合目録としてインターネット対応に移行となる）	平成15年		浜岡町立図書館書庫増設工事
平成15年	11月27日～28日	第89回 全国図書館大会（静岡大会）開催			
平成16年	3月18日	新電算システムに移行し、ホームページ全面リニューアル、「静岡県横断検索システム（愛称：おうだんくん）」、静岡県内新聞雑誌総合目録の稼働。また、静岡県内郷土資料目録の稼働により郷土資料の書誌データのダウンロードが可能となった	平成16年	1月	「静岡県子ども読書活動推進計画『読書県しずおか』をめざして」公表
平成16年	3月26日	子ども図書研究室講演会「子どもの読書活動の推進をめざして」（荒井督子氏）	平成16年	4月1日	伊豆市発足に伴い、中伊豆町立中央公民館図書室と天城湯ヶ島町立図書館天城文庫が条例設置図書館に → 伊豆市立中伊豆図書館、伊豆市立天城図書館開館
平成16年	3月	恩田征弥館長退任	平成16年	4月1日	市町村合併により修善寺図書館 → 伊豆市立修善寺図書館に名称変更
平成16年	4月	岩崎崎館長就任	平成16年	4月1日	市町村合併により土肥町立図書館 → 伊豆市立土肥図書館に名称変更
平成16年	5月	WEB個人サービス（インターネットによる予約・貸出延長）提供開始	平成16年	4月1日	御前崎市の発足に伴い、浜岡町立図書館 → 御前崎市立図書館に名称変更
平成16年	5月	静岡県内新聞雑誌総合目録のインターネットによる修正等講習会開催（以後、毎年開催）	平成16年	4月1日	富士市立西図書館安全対策のため休館（平成16年11月1日まで）
平成16年	6月	静岡県立中央図書館所蔵子どもが使える郷土資料図書目録 改訂2版 発行	平成16年	6月13日	静岡市立清水興津図書館開館
平成16年	6月	新メールマガジン発行（趣向登録が可能）	平成16年	7月22日	浜松市立はまゆう図書館開館
平成16年	6月18日	子ども図書研究室開室。オープニングセレモニーと記念講演会「子どもの読書活動を支える大人の役割」（富田美樹子氏）	平成16年	9月17日	静岡市立御幸町図書館開館
平成16年	6月18日	子ども図書研究室開館時間：火～金曜日の13時～17時は職員在室、その他の曜日・時間は施設開放とし職員は随時対応	平成16年	11月2日	富士市立西図書館仮設館に開館
平成16年	6月18日	子ども図書研究室だより 創刊	平成16年	11月22日	第12回（平成16年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成16年	7月	図書館活用・ビジネスセミナー開始（平成19年度まで）			
平成16年	12月	来館キャンペーン「知ればなるほど！県立中央図書館」			
平成16年	12月	閲覧室案内図インターネット公開			
平成16年	12月18日	開館中のブックポストの利用を可能にする			
平成17年	2月	静岡県点字図書館と共催による視覚障害者サービス担当者会議を開催	平成17年	1月17日	市町村合併により菊川町立図書館菊川文庫 → 菊川市立図書館菊川文庫に名称変更
平成17年	4月1日	県で初、司書職採用による職員2名を配置	平成17年	1月17日	市町村合併により小笠町立図書館 → 菊川市立小笠図書館に名称変更
平成17年	4月	雑誌最新号の貸出開始日の明示を平成17年1月から3月の施行を経て実施	平成17年	3月19日	金谷町立金谷図書館開館
平成17年	4月	創立80周年記念・ミニ展示（平成18年3月まで毎月更新）	平成17年	4月1日	市町村合併により賀茂村中央公民館図書室 → 西伊豆町中央公民館図書室に名称変更
平成17年	4月	高精細画像「世界四大洲新地図帳」をインターネット公開	平成17年	4月1日	市町村合併により伊豆長岡町立図書館 → 伊豆の国市長岡図書館に名称変更
平成17年	5月	高精細画像「御巡行御道筋絵図」をインターネット公開	平成17年	4月1日	市町村合併により菰山町立図書館 → 伊豆の国市立菰山図書館に名称変更
平成17年	5月14日	新聞のCD-ROMパソコン機の設置と閲覧開始	平成17年	4月1日	市町村合併により大仁町立図書館 → 伊豆の国市立中央図書館に名称変更
平成17年	6月1日	館内にブックカートとかごを常備	平成17年	4月1日	市町村合併により戸田村立図書館 → 沼津市立戸田図書館に名称変更
平成17年	6月	オリジナルブックカバーを作成し、来館者に配布（平成18年3月まで毎月更新）	平成17年	4月1日	市町村合併により大須賀町立図書館 → 掛川市立大須賀図書館に名称変更
平成17年	6月14日	「葵文庫」木製扁額レプリカ（天竜林業高校より寄贈）引き渡しセレモニー開催	平成17年	4月1日	市町村合併により大東町北公民館図書室 → 掛川市立大東北公民館図書室に名称変更
平成17年	6月27日	子ども図書研究室開室1周年記念講演会「今を生きる子どもと本」（間崎ルリ子氏）	平成17年	4月1日	市町村合併により袋井市立図書館 → 袋井市立袋井図書館に名称変更
平成17年	9月1日	「しずおか」の貴重書（伊豆文学フェスティバル実行委員会、静岡県立中央図書館編）発行	平成17年	4月1日	市町村合併のより浅羽町立図書館 → 袋井市立浅羽図書館に名称変更
平成17年	9月3日～11日	創立80周年記念特別展示「葵文庫・久能文庫～貴重書に見る日本と世界」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により磐田市立図書館 → 磐田市立中央図書館に名称変更
平成17年	9月4日	創立80周年記念講演会「葵文庫洋書にみる東西文明交流史」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により福田町立図書館 → 磐田市立福田図書館に名称変更

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成17年	9月5日～16日	静岡県庁21階展望ロビーにて、特別展示「貴重書『葵文庫』と古地図の世界」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により竜洋町立図書館 → 磐田市立竜洋図書館に名称変更
平成17年	11月6日	創立80周年記念「図書館文化祭」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により豊田町立図書館 → 磐田市立豊田図書館に名称変更
平成17年		歴史文化情報センターより譲り受けた、新聞製本版の提供を開始	平成17年	4月1日	市町村合併により豊岡村図書室 → 磐田市立豊岡図書館として開館（条例制定）
平成17年		個人情報保護法に関連し、個人情報を含む資料について一部袋とじ等の処理を行う（平成27年緩和）	平成17年	4月1日	松崎町立図書館（条例制定）
			平成17年	4月23日	子ども読書の日・特別講演会開催（県読書推進運動協議会、静岡県、県読みきかせネットワーク共催）
			平成17年	5月5日	市町村合併により島田市立図書館 → 島田市立島田図書館に名称変更
			平成17年	5月5日	市町村合併により金谷町立金谷図書館 → 島田市立金谷図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により天竜市立図書館 → 浜松市立天竜図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により浜北市立図書館 → 浜松市立浜北図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により春野町立図書館 → 浜松市立春野図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により龍山村図書館 → 浜松市立龍山図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により佐久間町立図書館 → 浜松市立佐久間図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により水窪町文化会館図書室 → 浜松市立水窪図書館として開館（条例制定）
			平成17年	7月1日	市町村合併により舞阪町立図書館 → 浜松市立舞阪図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により雄踏町立図書館 → 浜松市立雄踏図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により細江町立図書館 → 浜松市立細江図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により引佐町立図書館 → 浜松市立引佐図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により三ヶ日町立図書館 → 浜松市立三ヶ日図書館に名称変更
			平成17年	9月20日	市町村合併により本川根町民文化会館図書室 → 川根本町文化会館図書室に名称変更
			平成17年	10月11日	市町村合併により相良町図書館 → 牧之原市立相良図書館に名称変更
			平成17年	10月11日	市町村合併により榛原町民文化センター図書室 → 牧之原市立榛原図書館として開館（条例制定）
			平成17年	10月17日	第13回（平成17年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成18年	1月5日	「図書館間協力における現物貸借で借り受けた図書の複製に関するガイドライン」策定に伴い「他館借受図書複写申込書」様式を設定	平成18年	2月6日	複合施設「くれないどる芝楽」内に芝川町中央図書館移転（条例制定）
平成18年	1月	雑誌・ビデオ・DVD・朗読CDの購入希望用紙設置	平成18年	3月31日	市町村合併により蒲原町立図書館 → 静岡市立蒲原図書館に名称変更
平成18年	2月1日	資料複写申込書の様式変更	平成18年	4月1日	掛川市立大東図書館開館
平成18年	3月	『図書館のビジネス支援 はじめの一步』作成	平成18年	9月	静岡産業大学図書館と磐田市立図書館が相互貸借資料および個人返却資料の搬送を開始
平成18年	3月	岩崎功館長退任	平成18年	10月1日	浜松市立図書館合併前旧システムを統合、個人貸出冊数及び貸出期間を統一 ICタグによる管理・サービスを開始
平成18年	4月	天野忍館長就任	平成18年	10月1日	浜松市立城北図書館移転新築開館窓口業務を民間委託、ビジネス支援サービス開始
平成18年	4月1日	司書職で採用の職員2名を追加配置	平成18年	10月	浜松大学附属図書館が静岡県公共図書館等の資料相互貸借に関する協定に加盟
平成18年	4月	静岡大学附属図書館と相互貸借資料および個人返却資料の搬送を試行で開始	平成18年	11月	浜松市立中央図書館駅前分室に県内初の指定管理者制度導入
平成18年	4月	グランシップ県立図書館コーナー名称に「えほんのひろば」を加える 木曜日午後のおはなしかい開始を14時30分から15時に変更	平成18年	11月6日	第14回（平成18年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成18年	4月	子ども図書研究室の開室日時を火～金曜日の14～17時に変更			
平成18年	5月	図書館活用・ビジネスセミナーの開催（平成19年3月まで）			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成18年	5月26日	子ども図書研究室講座第1回開催			
平成18年	6月	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」毎週火曜日に「0さいからのおはなしかい」を実施			
平成18年	6月	子ども図書研究室書庫を閉架書庫から開架書庫へ			
平成18年	6月28日	子ども図書研究室講演会「「読み聞かせ」から「ひとり読み」へ」（宮川健郎氏）			
平成18年	6月	県庁東館ギャラリーにて子ども図書研究室の活動等展示紹介			
平成18年	7月	「日経アーキテクチュア」による耐震性能に関するアンケート調査の実施			
平成18年	8月	県民の日イベント事業として、オリジナルブックカバー作成・配布			
平成18年	8月	草柳大蔵氏取材資料展示			
平成18年	8月	「静岡県子ども読書フェスティバル」を静岡県読み聞かせネットワークと共催			
平成18年	9月	「えほんのひろば」にて「ちょっとおにいさんおねえさんむけの絵本」を排架			
平成18年	10月～11月	「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」協力展示			
平成18年	10月21～29日	「図書館文化祭」開催			
平成18年	11月24・25日	「関東地区都県立図書館副館長会議」を静岡市ベガサート等を会場に開催			
平成18年	12月2日～1月17日	子ども図書研究室講座第2回 土曜コース・平日コース（各2回連続）開催			
平成18年		「調べる、考える、解決する…県立中央図書館」のキャッチフレーズ、県広報アドバイザーの提案を採用			
平成18年		新しい時代に対応した図書館サービスの具体的な展開を図るため、第2次中期計画を策定			
平成18年		近隣4機関（県立中央図書館、県立大学、県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）が協同して情報発信していこうとする会合を設置			
平成18年		音声読み上げソフト「ヨメール」の設置、カウンターへ耳マークと筆談用紙の設置			
平成18年		国立国会図書館から貸出しを受けた資料の複写が可能になる			
平成18年		新着図書コーナーを再編成し、一般資料・地域資料・視聴覚資料・新規受け入れ雑誌を展示			
平成18年		静岡県読書ガイドブック「本とともだち」編集へ参加			
平成18年		ブラング文庫新聞コレクション静岡県内刊行分のマイクロフィルム223枚を購入			
平成18年		ウェブページ上で簡単横断検索機能の提供を開始			
平成19年	4月1日	司書職で採用の職員1名を追加配置	平成19年	3月1日	県立中央図書館と静岡市立図書館の共催による「公立図書館ビジネス支援サービス研修」開催
平成19年	4月	「子ども図書研究室だより」の発行が毎月→隔月になる	平成19年	4月1日	県民センター岡部図書館（条例制定）→岡部町立図書館に名称変更
平成19年	4月11日	カラーコピーの提供開始	平成19年	4月18日	県図書館協会の総会において、日本建築専門学校図書館の加盟が承認、私立の専門学校としては初の加盟館となる
平成19年	4月	当館HP内に子ども図書研究室HPを開設	平成19年	6月29日	図書館協議会にて、静岡市立図書館への指定管理者制度の試行導入が一旦白紙に戻し、非常勤嘱託員へ切り替えによる正規職員の削減を図る方針が示される
平成19年	5月28日	館内案内テープを更新、閉館予告を30分前と5分前に流す	平成19年	8月1日	市役所の建替え計画に伴い、熱海市立図書館が東京電力熱海営業センターの3～5階に移転して開館、同時に市民ボランティアを導入する
平成19年	6月28日	子ども図書研究室講演会「グリム童話とアンデルセン童話のうそと真実の姿」（宮下啓三氏）	平成19年	8月5日	第7回静岡県子ども読書フェスティバル開催
平成19年	7月2日	マイクロフィルムの複写料金を70円から50円に改正	平成19年	8月7日	静岡県読書推進フォーラム開催
平成19年	9月18日	浙江図書館員1名を静岡県海外技術研修員として受入（平成20年2月22日まで）	平成19年	10月15日	第15回（平成19年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成19年	10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印	平成19年	11月28日	県図書館協会と県教育委員会の共催による公立図書館等職員研修のひとつとして、県外視察が行われ、山梨県の富士河口湖生涯学習交流館を訪問
平成19年		学校図書館司書教諭研修への講師派遣開始			
平成19年		書庫狭隘化に伴い、書庫内の壁面に書架増設			
平成20年	3月3～8日	浙江省図書館調査団（県立図書館職員3名）が訪中	平成20年	2月29日	静岡大学附属図書館、学術機関リポジトリの試験公開開始
平成20年	3月31日	全国視聴覚教育連盟から脱退	平成20年	3月	静岡県立大学附属図書館が故岡村昭彦氏の蔵書を集めた「岡村文庫」を開設
平成20年	4月9日	総合案内カウンター内にAEDの設置	平成20年	3月1日	県読書推進運動協議会・県立図書館共催の特別講演会「落語は想像力で楽しめる～落語の未来は読書にかかっている!?!～」開催
平成20年	4月	歴史文化情報センターで県史編纂資料インターネット公開開始、遠隔地コピーサービスを開始する	平成20年	3月25日	富士市立図書館の在り方検討委員会が「指定管理者制度の導入は行わない」とする報告書を提出
平成20年	4月	子ども図書研究室の資料を最新2年分について発行年ごとまとめて排架する	平成20年	4月1日	市町合併により西伊豆町立中央公民館図書館→西伊豆町立図書館（条例制定）に名称変更
平成20年	4月	えほんのひろばの資料を絵本のみとし、ビデオテープを本館へ移す	平成20年	4月1日	市町村合併により川根町民文化会館図書室→島田市立川根図書館に名称変更
平成20年	6月18日	子ども図書研究室講演会「すばらしい翻訳・困った翻訳 - 絵本の翻訳ウラ話」（灰島かり氏）	平成20年	4月1日	静岡大学附属図書館、学術機関リポジトリの正式公開開始
平成20年	6月	両カウンターにコミュニケーションボードの設置	平成20年	4月4日	富士市立西図書館が「富士交流プラザ」内に移転開館
平成20年	7月	歴史文化情報センターでインターネット「くずし字解説講座」開始	平成20年	4月20日	富士市立中央図書館大淵分室開室
平成20年	9月	県立中央図書館、県立美術館及び國學院大学院友会静岡県中部支部が連携して「徳川家康と静岡」展を開催	平成20年	4月	静岡県立大学附属図書館がAVライブラリーを改装しリニューアルオープン
平成20年	11月8日	図書館文化祭を実施、館長講演会等を行う	平成20年	5月	静岡県教育委員会が「県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会」発足させる
平成20年		職場体験学習（生徒）事業化開始	平成20年	6月2日	浜松医科大学附属図書館、学術機関リポジトリの正式公開開始
			平成20年	6月13日	静岡市立中央図書館麻機分館開館
			平成20年	7月23日	沼津市立図書館協議会が「指定管理者制度の導入は行わない」旨の答弁
			平成20年	9月1日	下田市立図書館と沼津市立図書館が「図書館資料相互利用に関する協定」締結
			平成20年	10月1日	浜松市立中央図書館駅前分室移転
			平成20年	10月25日	静岡県読書推進フォーラムが三島市民文化会館で開催
			平成20年	10月27日	第16回（平成20年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
			平成20年	11月	合併により県内38市町の中で図書館未設置町は函南町と川根本町の2町となる
			平成20年	11月1日	市町合併により由比町立中央公民館図書館→由比生涯学習交流館図書館に名称変更
			平成20年	11月1日	市町合併により大井川町立図書館→焼津市立大井川図書館に名称変更
			平成20年	11月5日	市町合併により富士町立中央公民館図書室→富士市立中央図書館富士川分室に名称変更
			平成20年	12月25日	浜松市立図書館協議会で他の図書館への指定管理者制度の導入拡大を見送る考えを示す
			平成20年		浜松医科大学附属図書館、学外の地域医療従事者への図書貸出開始
			平成20年		子どもの読書活動推進担当連絡会が発足、静岡県子ども読書アドバイザー養成講座開催
平成21年	1月31日	歴史文化情報センターで「資料に学ぶ静岡県の歴史」刊行	平成21年	1月1日	市町合併により岡部町立図書館→藤枝市立岡出山図書館岡部分館に名称変更
平成21年	2月23日～28日	浙江図書館交流代表団が来静、県内図書館の視察及び当館との情報交換などを行う	平成21年	2月28日	藤枝市立駅南図書館が「B i v i 藤枝」内に開館
平成21年	2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結	平成21年	4月	静岡大学附属図書館が入退館管理システムおよび書庫入出管理システムを導入
平成21年	3月11日	県立中央図書館、県立美術館、財産法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県立大学の4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結	平成21年	5月	浜松学院大学が高校生への閲覧サービスを開始

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成21年	3月31日	静岡県視聴覚ライブラリー連絡協議会の解散	平成21年	5月	県教育委員会が「県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会」を開催
平成21年	3月	天野忍館長退任	平成21年	8月	聖隷クリストファー大学図書館が新図書館システムを導入
平成21年	4月	土屋光永館長就任	平成21年	8月	県教育委員会が「県子ども読書アドバイザー養成講座」を開講
平成21年	6月23日	子ども図書研究室講演会「赤ちゃんの発達と絵本」（榊原洋一氏）	平成21年	8月11日	早朝に発生した地震により、1館が半日休館、5館が終日休館
平成21年	7月～9月末	耐震補強工事のため休館	平成21年	9月5日	静岡市立中央図書館美和分館開館
平成21年	9月25日	葵文庫、久能文庫ほか、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなる県立図書館収蔵庫」から当館収蔵庫に移動	平成21年	10月19日	第17回（平成21年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成21年	10月10日	国民文化祭協賛事業 講演会「人の動きから見た静岡藩の求心力」（樋口雄彦氏）開催（県立美術館講堂）			
平成21年	10月15日	歴史文化情報センターで「関口隆吉関係書籍集」刊行			
平成21年	10月	インフォメーション棟設備を資料棟に移設し開館（耐震補強工事は継続、夜間開館及び一部のサービスは休止）			
平成21年	10月	平成22年度予算は「事業仕分け」の結果により7%削減			
平成21年	10月	「しずおかの貴重書（改訂版）」の発行			
平成21年	10・11月	国民文化祭協賛事業として「江戸から明治へ静岡の貴重書と初代県知事関口隆吉展」開催（県立美術館・グランシップ）			
平成21年	11月3日	国民文化祭協賛事業 講演会「関口隆吉と静岡県政」（上野秀治氏）開催（グランシップ）			
平成21年	11月	緊急雇用創出事業による県内歴史資料所蔵状況等の調査開始（平成22年度まで）			
平成21年	11月17日	高圧ケーブルの交換に伴う休館（～23日）			
平成21年	12月	「文化の丘づくり事業推進に関する協定」にグランシップ及び県舞台芸術センター（SPAC）が参画、「ムセイオン静岡」と改称			
平成21年		緊急雇用創出事業による「葵文庫活用事業」開始（平成24年度まで）			
平成21年		静岡県子ども読書アドバイザー企画認定委員会の委員に参加			
平成21年		新収蔵庫・書庫8（旧電気室）・書庫9（旧車庫）の設置と子ども図書研究室書庫の拡張、書庫6を書庫6・7に分割、貴重書庫を貴重書庫1に、旧収蔵庫を貴重書庫2に名称変更			
平成21年		利用者用トイレの改修、多目的トイレの設置			
平成22年	1月27日	新刊児童図書巡回展示・研修会開始	平成22年	2月	静岡福祉大学附属図書館が焼津市立図書館と相互貸借開始
平成22年	2月1日	「ムセイオン静岡」発行	平成22年	3月	市町合併により芝川町立中央図書館 → 富士宮市立芝川図書館に名称変更
平成22年	2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完了	平成22年	3月23日	市町合併により湖西市立図書館 → 湖西市立中央図書館に名称変更
平成22年	2月25日	県庁内で「移動県立中央図書館」実施	平成22年	3月23日	市町合併により新居町立図書館 → 湖西市立新井図書館に名称変更
平成22年	4月1日	法務文書課所属の歴史的な文書閲覧室サービス機能を歴史文化情報センターに移転	平成22年	4月	静岡大学附属図書館がラーニング・コモンズスペースや情報端末を用意したセミナールーム等を設ける
平成22年	4月1日	システム更新・耐震補強工事による休館（～5月31日）	平成22年	5月	浜松市立中央図書館内に県内市町初の学校図書館支援センターが設置される
平成22年	5月1日	図書館システム・県図書館ネットワークシステムを更新、「おうだんくんシステム」と呼称し ポータル、コミュを追加、「おうだんくん」を「おうだんくんサーチ」に名称変更	平成22年	7月	島田市立島田図書館移転計画を含む、「島田市中心市街地交流拠点施設基本計画」が完成
平成22年	5月1日	静岡県関係資料及び雑誌の名称を、地域資料・地域雑誌に変更	平成22年	7月～9月	静岡文化芸術大学図書館・情報センターが「ユニバーサルデザイン絵本コンクール2010」を開催

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成22年	6月1日	耐震補強工事および電算システム入替作業が終了、直接サービス再開。携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能になる。葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込により本館で随時閲覧可能	平成22年	8月	第37回全国学校図書館研究大会開催（静岡市）
平成22年	6月18日	子ども図書研究室講演会「子どもの発達とわらべうた」（木村はるみ氏）	平成22年	8月28日	「第10回静岡県子ども読書フェスティバル」パートⅠが日本平動物園等を会場に開催
平成22年	6月	全生庵より関口隆吉・山岡鉄舟関係書簡9点を寄贈	平成22年	9月	「日本学校図書館学会」静岡県支部が発足
平成22年	6月	デジタルライブラリーを開始	平成22年	10月18日	第18回（平成22年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成22年	6月～12月	「国民読書年2010！しずおか」事業実施、記念フォーラム及び館内企画展・講演会を開催	平成22年		「ふじのくに3776友好訪中事業」により、県図書館協会の土屋会長と県読書推進運動協議会の鈴木会長が浙江省図書館を訪問
平成22年	6月	「浙江省文庫と你好上海万博」と題して資料の展示と関連講演会を開催			
平成22年	7月	歴史文化情報センターで県史資料デジタル画像をインターネットで公開			
平成22年	7月	「地域資料ちいさなコーナー」開始			
平成22年	9月1日	「葵文庫」の約半数の全文がウェブ上で閲覧可能となる			
平成22年	9月	子ども図書研究室の団体利用受付開始			
平成22年		静岡文化芸術大学ユニバーサルデザイン絵本コンクール審査委員への参加			
平成22年		緊急雇用事業により、書庫最適化事業及び閲覧室雑誌架増設と整理を実施（平成23年度まで）			
平成22年		レファレンス研修「出前講座」の事業化			
平成22年		レファレンス協同データベース事業への事例登録開始			
平成22年		貴重書庫1を書庫3に、貴重書庫2（旧収蔵庫）を貴重書庫に名称変更し、一部の貴重書を新たに増設した収蔵庫へ整理しなおす併せて旧書庫3・6～8を書庫6～9に名称変更。書庫9に16ミリフィルムを移動			
平成22年		「住民生活に光をそそぐ交付金」による資料購入、空調・上水道・防火扉の工事、講演会開催およびAVブース等備品整備（平成23年度まで）			
平成22年		児童資料の背ラベル変更。著者記号を1桁から3桁に変更（平成23年度末作業終了）			
平成23年	1月1日	視聴覚モデルルームを会議室に、レクチャールームを講堂に名称変更	平成23年	1月	浜松市立流通元町図書館開館
平成23年	1月8日	貴重書常設展示コーナー設置	平成23年	2月	磐田市立豊岡図書館、移転後、業務開始
平成23年	2月1日	当館デジタルライブラリーが国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)から検索可能となる	平成23年	2月26日	「第10回静岡県子ども読書フェスティバル」パートⅡが県立中央図書館にて開催
平成23年	2月4日	「健康医療情報コーナー」プレオープン	平成23年	3月15日	県東部を震源とする地震により、富士宮市立図書館や富士市立中央図書館の建物に被害
平成23年	2月24日	国立国会図書館関西館「公立図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議」にて事例報告	平成23年	3月23日	富士宮市立芝川図書館移転開館
平成23年	3月31日	土屋光永館長退任	平成23年	3月	静岡県が「子ども読書活動推進計画」の第2次計画を策定
平成23年		歴史文化情報センターで「幕末・明治初期の文化財紹介」をインターネット公開	平成23年	4月	御殿場市が図書館サービスの一部を市の第3セクターに委託
平成23年		利用者用ロッカー室内に監視カメラ設置	平成23年	6月	浜松市が地区館に順次指定管理者制度を導入していく計画を示す
平成23年	4月1日	谷野純夫館長就任	平成23年	8月	静岡市で図書館協議会が図書館の管理運営形態は直営がふさわしいとの報告書を提出
平成23年	5月～11月	電子書籍関連プロジェクト研究調査実施	平成23年	9月	掛川市が雑誌スポンサー制度を導入
平成23年	6月16日	子ども図書研究室講演会「子どもと昔話」（藤井いづみ氏）	平成23年	10月24日	第19回（平成23年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成23年	7月9日	健康医療情報コーナーを開設、併せて講演会「医療を医学と言葉と文学」（海堂尊氏）開催	平成23年	10月29日	富士宮市立図書館ⅠCシステム導入

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成23年	7月	テーマ絵本貸出開始	平成23年	10月	常葉学園大学付属図書館改修、ラーニングスペース、キャレスペース等整備
平成23年	7月	歴史文化情報センターで県内古文書調査の収集資料をインターネット公開開始	平成23年	11月26日	第10回静岡県子ども読書フェスティバル講演会開催
平成23年	7月～10月	電子図書館体験プロジェクト実施	平成23年		島田市が島田図書館の移転予定先施設の工事に着手
平成23年	8月4～7日	夏休み子ども図書スペシャル実施	平成23年		島田市が雑誌スポンサー制度を導入
平成23年	9月	東日本大震災で被災した岩手県山田町立図書館に職員2名を派遣	平成23年		順天堂大学保健看護学部図書館が県図書館協会に加盟
平成23年	9月10日	ふじのくに文化の丘フェスタ開催「ふれあいカフェ とも」（授産所製品等の販売）を期間中設置	平成23年		厚生保育会厚生総合図書館が県図書館協会より退会
平成23年	9月～10月	「電子書籍端末展示会」を開催	平成23年		浜松医科大学附属図書館が東日本大震災被災地区の医科大学・病院への文献提供を開始
平成23年	11月29日～12月2日	関東・甲信越静地区図書館地区別研修（静岡市）	平成23年		磐田市が雑誌スポンサー制度を導入
平成23年	12月	静岡県舞台芸術センター（SPAC）による「おはなし劇場」を毎月第4日曜日に開催開始	平成23年		図書館未設置の函南町が図書館建設工事に着手
平成23年		協力車の4・8月運行停止	平成23年		静岡理科大学附属図書館改修、ラーニングコモンズ設置
平成23年		書庫の狭隘化状況を鑑み、資料保存検討委員会で検討、加除式JISや県立図書館目録など1,116冊を除籍			
平成23年		書庫最適化事業によりK分類図書を書庫9に、一般資料を書庫1～3に、地域資料を書庫5・6に移動			
平成23年		雑誌の書庫出納に関する統計を開始			
平成24年	1月	「まちの保健室」実施	平成24年	4月1日	静岡県立大学附属図書館改修、ラーニングコモンズ設置
平成24年	1月26日	デジタルライブラリーに「葵文庫」約1,100冊の画像を追加	平成24年	4月1日	浜松医科大学附属図書館が常葉医療専門学校図書室と合併
平成24年	2月1日～3月15日	閲覧室等空調設備、資料棟屋上防水、防火設備等改修、非常用照明設備、分電盤改修等大規模改修工事のため休館	平成24年	4月1日	常葉大学付属図書館同一学校法人下の大学統合に伴い名称変更 常葉大学附属図書館静岡瀬名図書館 常葉大学附属図書館浜松図書館 常葉大学短期大学部附属図書館の山文庫
平成24年	3月16日	大規模改修工事が終了、リニューアルオープン	平成24年	4月	浜松市が積志図書館・西図書館に指定管理者制度を導入
平成24年	3月16日	国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始	平成24年	4月	社会福祉法人厚生保育会厚生総合図書館が閉室、県図書館協会から脱退
平成24年	4月1日	子ども図書研究室がリニューアルオープン、児童書約1万冊（複本）の直接貸出開始	平成24年	4月	御殿場図書館が図書館サービスの一部を市の第3セクターに委託
平成24年	4月	5年ぶりに司書職1名採用される	平成24年	6月	焼津市立図書館が雑誌スポンサー制度を導入
平成24年	6月	一般向けの図書館講座を「葵レク」と総称、年間24回の予定で実施	平成24年	6月	静岡大学が金沢大学・名古屋大学と「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」を締結
平成24年	6月1～28日	県立学校連携展示（科学技術高校）	平成24年	7月～9月	「大切な人に贈る1冊—県民メッセージコンテスト」開催
平成24年	6月20日	「おうだんくんサーチ」がスマートフォンに対応、静岡県公報と県民サービスセンターの情報も検索対象に加わる	平成24年	8月9日	静岡産業大学図書館改修、アクティブラーニングのためのスペース開設
平成24年	6月20日	新着児童図書を語る会「新刊サロン」の開始	平成24年	8月	静岡市図書館協議会が図書館の管理運営形態は直営がふさわしいとの報告書提出
平成24年	7月7日	埋蔵文化財センター常設展開始、「古代からの贈り物—発掘調査から知る静岡県の歴史」開設	平成24年	9月22日	島田市立島田図書館が移転開館、「読書通帳」の導入
平成24年	7月～9月	「ふじのくにBookダービー」とパネル巡回展示開催	平成24年	10月	牧之原市立図書館が雑誌スポンサー制度を導入
平成24年	7月20日	子ども図書研究室講演会「子どもの科学の本を知る」（塚原博氏）	平成24年	10月29日	第20回（平成24年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成24年	8月	歴史文化情報センターで「授業の種」をインターネット公開開始	平成24年	12月1日	第1回静岡書店大賞の受賞作品発表
平成24年	8月4～5日	夏休み子ども図書スペシャルⅡ開催	平成24年	11月1日	伊豆の国市立図書館と三島市立図書館が相互貸借利用協定締結
平成24年	10月27日～11月1日	文化の丘フェスタ開催			
平成24年	11月25日	大人の読書講演会「五十歳を超えて作家になるということ」（百田尚樹氏）			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成24年		「静岡県関係住宅地図目録」改訂			
平成25年	3月	「葵文庫」全925タイトル2,708冊の電子化完了・公開	平成25年	2月	聖隷クリストファー大学に新図書館開館
平成25年	7月	第18回N I E 全国大会静岡大会の開催に合わせて、新聞の活用を啓発する展示を開催	平成25年	4月7日	函南町立図書館開館
平成25年	7月19日	子ども図書研究室講演会「かわいだけが子どもの本？」(清水真砂子氏)	平成25年	4月	岡出山図書館岡部分室 → 藤枝市立岡部図書館として移転、開館
平成25年	8月6～10日	夏休み子ども図書ウィーク開催	平成25年	4月	旧島田図書館が島田図書館分館として開館
平成25年	9月8日	大人のたしなみセミナー講演会「ボーカロイドがめざしたもの」(剣持秀典氏)	平成25年	4月	牧之原市立榛原図書館がリニューアル開館
平成25年	11月30日	大人のたしなみセミナー講演会「猿猴庵『絵本駱駝具誌』を読む」(木下直行氏)	平成25年	4月	浜松市立東図書館・南図書館・北図書館・南陽図書館・浜北図書館が指定管理者制度を導入
平成25年	10月2日	「ムセイオン」6機関協定締結	平成25年	4月	浜松市立天竜図書館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける
平成25年	12月8日	ブックレクチャー講演会「編集者血風録！本はいかにして創られるか」(見城徹氏)	平成25年	4月	常葉大学附属図書館静岡水落図書館が開館
平成25年		「教職員初任者研修」の社会体験研修の受入開始	平成25年	4月	浜松医科大学付属図書館がラーニングcommonsを開設
			平成25年	5月	島田市立島田図書館が「読書通帳」の1冊目を使い切った利用者を「読書通帳多読賞」として表彰
			平成25年	9月25日	静岡文化芸術大学図書館情報センター学術リポジトリ構築・公開
			平成25年	10月28日	第21回(平成25年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
			平成25年	11月1日	富士市と静岡市が「市立図書館の相互利用に関する協定」を締結
			平成25年	12月5日	第2回静岡書店大賞の受賞作品発表。図書館員も投票に参加。
			平成25年	12月27日	県内公共図書館共同での電子図書館運営に関する検討報告書を提出
平成26年	2月14日	県内公共図書館協同での電子図書館運営に関する検討報告書を受理	平成26年	4月	浜松市は新たに7館指定管理者制度導入
平成26年	2月23日	富士山関係資料デジタルライブラリー66点公開	平成26年	4月	静岡文化芸術大学図書館情報センターで学生証・教職員証・利用者カードのICカード化
平成26年		「地域学習に役立つ図書リスト」作成(平成16年発行「子どもが使える郷土資料図書目録改訂2版」の改訂)	平成26年	10月1日	静岡大学附属図書館浜松分館リニューアルオープン、多文化交流エリア等整備
平成26年	6月15日	歴史文化情報センターで「伊豆歴史散歩」をインターネット公開	平成26年	11月1日	浜松市立中央図書館が浜松市文化遺産デジタルアーカイブ一般公開
平成26年	6月18日	「子ども図書研究室」が開室10周年	平成26年	12月8日	第22回(平成26年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成26年	6月19～20日	関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会(静岡市)	平成26年	12月4日	第3回静岡書店大賞発表(学校図書館に携わる人が投票に参加)
平成26年	6月22日	子ども図書研究室開室10周年講演会「絵本がつながる世界の人のびと」(依田和子氏)			
平成26年	7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内利用開始			
平成26年	7月20日～10月26日	子ども図書研究室の一部を日曜日開放(9～12時、13～15時)			
平成26年	8月2日～11月25日	グランシップ工事休館のため「えほんのひろば」を本館小集会室Aにて開室			
平成26年	8月5～10日	夏休み子ども図書ウィーク開催			
平成26年	9月6日	ブックレクチャー「里山の楽しみ方」(今森光彦氏)			
平成26年	9月20日	大人のたしなみセミナー「古文書からみた静岡の地震・津波」(磯田道史氏)			
平成26年	10月25日～11月9日	文化の丘フェスタ開催			
平成26年	12月10日	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」5館試行(富士宮市立中央、函南町立、磐田市立中央、浜松市立中央、歴史文化情報センター)(平成27年1月26日まで)			
平成26年		「静岡県関係地図目録」・「静岡県内住宅地図目録」・「静岡県内地形図目録」・「静岡県の絵葉書(第一期)目録」を改訂、新たに「静岡県史全35巻目次」を作成			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成26年		書庫狭隘化対策のため、地域資料の複本の3冊目以降を除籍			
平成26年		歴史文化情報センター内に「大人の読書」コーナー設置			
平成27年	2月15日	大人のたしなみセミナー「ビブリオバトル」開催	平成27年	1月14日	静岡福祉大学附属図書館バリアフリー文庫設置
平成27年	3月4日	藤原明徳氏より「宮田日記」寄贈される	平成27年	3月	日本大学国際関係学部図書館編集による「昭和30年ころの伊豆と富士山上田彦次郎ガラス転板写真」発行
平成27年	3月31日	谷野純夫館長退任	平成27年	3月	浜松医科大学附属図書館でラーニングコモンズ増設
平成27年	4月1日	河原崎全館長就任	平成27年	3月1日	裾野市立鈴木図書館雑誌スポンサー制度導入
平成27年	4月24日～5月10日	図書館電算システム更新作業による休館。デジタルライブラリーの機能強化	平成27年	4月1日	三島市立図書館雑誌スポンサー制度導入
平成27年	4月	貴重書庫横の元県史保管室に、書庫10より16ミリフィルムを移動	平成27年	4月1日	静岡県立大学看護学部の移転に伴い、静岡県立大学短期大学部附属図書館の名称に「静岡県立大学附属小鹿図書館」が併記される
平成27年	5月	『静岡県の絵葉書 第1期』5,094枚をデジタルライブラリーで公開	平成27年	4月	小山町立図書館が指定管理者制度導入
平成27年	5月	地域資料の小説・児童書の背ラベル変更。図書記号を数字からカナ3文字に	平成27年	4月	浜松医科大学附属図書館で時間外業務の外部委託開始
平成27年	6月2日	「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」締結	平成27年	4月20日	三島市立図書館レファレンスコーナー入口にICゲート設置
平成27年	6月25日	子ども図書研究室講演会「日本の昔話の変遷ー桃太郎を中心にー」（石井正己氏）	平成27年	5月1日	磐田市立図書館でいわたデジタルアーカイブ一般公開開始
平成27年	7月19日～11月8日	子ども図書研究室の一部を日曜日開放（10時～12時、13時～16時）	平成27年	7月1日	焼津市立図書館は公民館図書室でのサービス拡大、全館をオンラインで結ぶ
平成27年	8月	静岡県発行の行政資料電子データの収集・デジタルライブラリーで公開	平成27年	7月24日	静岡市立清水中央図書館で徳川文庫（慶喜家コレクション）デジタル資料公開
平成27年	8月6～11日	夏休み子ども図書ウィーク開催	平成27年	8月	島田市立川根図書館開館
平成27年	8月30日	戦国時代の城址講座「徳川幕府の城ー天下政権の築城ー」（加藤理文氏）	平成27年	11月9日	第23回（平成27年度）静岡県図書館大会（グランシップ）
平成27年	9月1日	郵送による利用者登録開始	平成27年	11月1日	静岡市立図書館雑誌スポンサー制度導入
平成27年	9月12日	大人のたしなみセミナー「エンペラー家康の駿府外交」（小林一哉氏）	平成27年	12月3日	第4回静岡書店大賞発表
平成27年	10月1日	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」4館先行導入（富士宮市立中央、函南町立、磐田市立中央、浜松市立城北）	平成27年		徳川家康公顕彰400年関連巡回展示（県内3か所の図書館）
平成27年	10月18日	ブックレクチャー「本を読んで天下を取った家康ー家康の読書遍歴を追うー」（小和田哲男氏）			
平成27年	10月31日	貴重書講座「静岡県立葵文庫の大正と昭和」（田中文雄氏）			
平成27年	11月3日	大人のたしなみセミナー「脳を知って、脳を活かす」（池谷裕二氏）			
平成27年	10月24日～11月8日	文化の丘フェスタ開催			
平成27年		徳川家康公顕彰400年における取組として徳川関連図書・浮世絵展示、ブックカバー作成を行う			
平成28年	2月	書庫狭隘化に伴い、旧車庫と館外奉仕室に集密書架設置、書庫10、書庫11とし、貴重書庫横の書庫を書庫12とする			
平成28年	2月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入	平成28年	3月31日	伊豆の国市立長岡図書館利用休止（耐震不足・老朽化）
平成28年	4月	祝日開館開始	平成28年	4月1日	浜松市立都田図書館開館
平成28年	6月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」7館追加（沼津市立、富士市立中央、三島市立、伊東市立伊東、藤枝市立駅南、掛川市立中央、県総合教育センター）して本格導入	平成28年	4月	東伊豆町立図書館が「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞
平成28年	6月21日	子ども図書研究室講演会 石井桃子さんドキュメンタリー映画上映会「子どもに本をー石井桃子の挑戦 ノンちゃん牧場」（森英男氏）	平成28年	7月1日	東伊豆町立図書館がインターネットによる資料検索と予約サービス開始
平成28年	6月28日	県議会において、県立中央図書館の老朽化・狭隘化が進んでいる現状に鑑み抜本的な再整備が必要との教育長答弁	平成28年	10月4日	磐田市立図書館が県内初電子図書館サービスを開始

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成28年	7月31日	大人のたしなみセミナー「ガンブラ商品開発からアニメ制作まで！コンテンツビジネスの開発戦略と企業経営」（松本悟氏）	平成28年	11月7日	第24回（平成28年度）静岡県図書館大会（グランシップ）
平成28年	8月5日～11日	夏休み子ども図書ウィーク開催	平成28年	12月6日	第5回静岡書店大賞発表
		東静岡駅南口県有地に県が計画している「文化力の拠点」施設へ図書館機能の一部を移転する案が浮上			
平成28年	8月24日	文化力の拠点専門家会議が計画（案）提示～図書室機能8,300㎡（共用部含む）			
平成28年	9月4日	大人のたしなみセミナー「城址講座 今だからこそ、熊本城の魅力にせまる」（加藤理文氏）			
平成28年	10月1日	ブックレクチャー万城目学氏講演会			
平成28年	10月12日	教育長の諮問機関「中央図書館施設整備の検討に関する有識者会議」を設置。以降、4回の会議を実施。東静岡と谷田との機能分化を前提とした検討			
平成28年	10月22日～11月6日	文化の丘フェスタ開催			
平成28年	11月16日、18日	新刊児童図書巡回展示研修会（沼津市立図書館、静岡県総合教育センター）			
平成29年	2月	当館ウェブサイトをスマートフォンに最適化	平成29年	1月28日	菊川文庫が開館30周年・小笠原図書館が開館15周年記念式典・記念講演を開催
平成29年	2月17日	「ムセイオン」7機関協定締結	平成29年	3月30日	熱海市立図書館Twitterを運用開始
平成29年	4月1日	静岡県文化センターの組織及び運営に関する規制の一部改正により、組織体制のうち「係」を「班」に再編し、総務課総務係と総務課管理係が総務課総務班に統合される	平成29年	5月	清水町立図書館、静岡市立中央図書館、静岡市立御幸町図書館、伊豆の国市立中央図書館、伊豆市立修善寺図書館等で学校記念誌のページが切り取られる被害が確認された
平成29年	4月1日	歴史文化情報センターに関することが調査課の分掌となる			藤枝市立図書館で「そらいろ図書館」開始
平成29年	4月	子ども図書研究室の全点収集児童書から職員が選定した図書リスト「選定図書リスト」作成と公開を決定（初回公開日：平成29年5月10日）	平成29年	8月29日	改修工事のため磐田市立豊田図書館休館 改修後の施設「磐田市ひと・ほんの庭にこっと」設置条例制定。磐田市立図書館から豊田図書館を除館する条例改正を行う
平成29年	4月～6月	補強可能性調査を実施。調査の過程で閲覧室床のひび割れを発見	平成29年	10月7日	富士宮市立中央図書館が、身体に障害のある市民への図書郵送サービス開始
平成29年	6月27日	子ども図書研究室講演会「人を育てる『言葉』」（松井るり子氏）	平成29年	11月6日	第25回（平成29年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成29年	7月4日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（7月31日まで） 歴史文化情報センターなど一部をのぞきすべての事業を一時中止	平成29年	12月1日	静岡文化芸術大学図書館・情報センターが電子書籍「NetLibrary」（EBSCOhost eBook Collection）サービス提供を開始
平成29年	7月18日	電話、ファックス、ウェブサイトからのレファレンス（情報端末等の検索により回答可能な簡易なものに限る）を再開	平成29年	12月5日	第6回静岡書店大賞
平成29年	8月1日	子ども図書研究室、学習コーナー、休憩コーナー、会議室の利用等一部開館。新聞の閲覧台を移設し、当日の主要8紙の閲覧再開			
平成29年	8月5日～11日	夏休み子ども図書ウィーク 臨時休館に伴い開催中止			
平成29年	9月3日	大人のたしなみセミナー「静岡に築かれた後北条・武田の城」（加藤理文氏）			
平成29年	9月25日	県議会9月定例会で東静岡「文化力の拠点」施設への全館移転整備の方針が示される			
平成29年	10月1日	ブックレクチャー「文芸編集者の仕事『火花』ができるまで」（浅井茉莉子氏）			
平成29年	10月30日	教育長の諮問機関「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」を設置。以降、4回の会議を実施。東静岡「文化力の拠点」施設への全館移転を前提とした検討			
平成29年	10月21日～11月5日	文化の丘フェスタ開催			
平成29年	11月22日、29日	新刊児童図書巡回展示研修会（沼津市立図書館、静岡県立中央図書館）			
平成29年	11月28日～12月7日	新館整備に関する意見交換会を開催。一般県民参加3回、市町立図書館職員参加1回			
平成29年	12月1日	県内市町立図書館等への資料貸出（協力貸出）業務再開			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成30年	1月10日	インフォメーション棟のブラウジングコーナーにカウンターを開設し、事前予約資料の閲覧・貸出サービス、レファレンスサービス、蔵書及びオンラインDB検索、インターネット閲覧、静岡新聞過去3年分・全国主要紙過去1年・マイクロフィルムの閲覧再開、インターネット予約による市町立図書館等受取サービスを再開 学習コーナー20席拡大	平成30年	2月10日	浜松市が「はままつ電子図書館」の実証実験を開始
平成30年	1月26日	予約なしで資料の閲覧・貸出サービス再開	平成30年	3月	川根本町文化会館図書室がおうだんくんサーチ参加
平成30年	3月6日	「新県立中央図書館基本構想」策定	平成30年	4月	裾野市民文化センター図書室が指定管理者による運営となる
平成30年	3月31日	河原崎全館長退任	平成30年	4月16日	JR草薙駅前に常葉大学のキャンパス内に常葉大学附属図書館（草薙）新設
平成30年	4月	県内各市町立図書館および学校図書館等における児童図書資料に関わる研修として子ども図書研究室講師派遣の試行を開始	平成30年	6月10日	静岡市立南部区図書館内に「地域福祉共生センター」がオープン
平成30年	4月1日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正	平成30年	6月16日～17日	静岡市立中央図書館麻機分館が開館10周年記念行事を開催
平成30年	4月1日	三科守館長就任	平成30年	6月28日	静岡大学附属図書館浜松分館が改築・改修工事をしてリニューアルオープン
平成30年	5月7日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管	平成30年	8月9日	袋井市立袋井図書館が「視覚障害者専用データ収集（および送信）サービス」のデータ提供登録
平成30年	6月1日	夜間開館再開	平成30年	8月11日	「磐田市ひと・ほんの庭にこっと」オープン蔵書冊数約5万冊のうち約3万冊が児童書
平成30年	6月27日	子ども図書研究室講演会「本、図書館の力～海外の現場から～」(山本英里氏)	平成30年	10月	浜松学院大学図書館がリポジトリを導入
平成30年	8月4日～10日	夏休み子ども図書ウィーク開催	平成30年	10月1日～3日	台風24号により県内各地の図書館で停電、雨漏り、休館などの影響を受けた
平成30年	9月2日	大人のたしなみセミナー「豊臣秀吉の城～豪華絢爛な数々の城の姿～」(加藤理文氏)	平成30年	11月19日	第26回(平成30年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成30年	10月1日	工事施工のため、書庫4～6・書庫10(雑誌、地域、視聴覚ライブラリー)の資料を使ったサービスを停止	平成30年	12月1日	熱海市立図書館電子図書館開始
平成30年	10月7日	ブックレクチャー「静岡の青い空から広がった私の小説と科学」(瀬名秀明氏)	平成30年	12月3日	牧之原市立図書館が図書館協会を設置
平成30年	10月20日～11月4日	文化の丘フェスタ開催	平成30年	12月4日	第7回静岡書店大賞
平成30年	10月23日	「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」を開催。基本構想をもとに基本計画を検討。2回目3月7日			
平成30年	11月7日、9日	新刊児童図書巡回展示研修会(掛川市立図書館、静岡県立中央図書館)			
平成30年	12月18日～1月15日	基本計画に関するパブリックコメント実施意見294件			
平成31年	1月18日	書庫5、書庫6、書庫10(視聴覚ライブラリー、雑誌類)の資料を使ったサービスを再開	平成31年	1月25日	静岡市立薬科図書館が開館30周年記念講演会を開催
平成31年	2月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了	平成31年	4月1日	伊豆市立天城図書館が天城湯ヶ島市民活動センター内に移転開館
平成31年	2月25日	閲覧室再開準備のため臨時休館(閉館)、歴史文化情報センターなど一部を除きすべてのサービスを休止	平成31年	4月1日	菊川市立図書館がTwitterを開設
平成31年	3月14日	ブラウジングコーナー、学習コーナーを復元、閲覧室を開放し、全てのサービスを再開(ただし、外部保管場所に移動した約20万冊の資料の利用は実施できない状態が継続)	平成31年	4月23日	令和元年度子供の読書推進活動優秀実践校図書館文部科学大臣表彰で、函南町立図書館が代表授与の図書館となる
平成31年	3月20日	「新県立中央図書館基本計画」策定	令和元年	7月～11月	富士宮市立中央図書館が開館30周年記念事業を開催
平成31年	4月	県内各市町立図書館および学校図書館における児童図書資料に関わる研修として子ども図書研究室講師派遣を本格実施する	令和元年	11月15日	沼津市立図書館がTwitterを運用開始
令和元年	7月9日	子ども図書研究室講演会「ことばを育むわらべうた」(落合美知子氏)	令和元年	11月18日	第27回(令和元年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
令和元年	8月3日～9日	夏休み子ども図書ウィーク開催	令和元年	12月3日	第8回静岡書店大賞
令和元年	9月14日	大人のたしなみセミナー「チームでうまくいくコミュニケーション～ラグビーから学んだこと～」(小野澤宏時氏)	令和元年	12月3日	袋井市立図書館がTwitterを運用開始

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
令和元年	10月11日～	浙江図書館員1名を静岡県海外技術研修員として受入（令和2年2月25日まで）	令和元年	12月	熱海市立図書館が教育現場と連携し、小学校の朝読書に電子書籍を活用
令和元年	10月20日	大人のたしなみセミナー「駿府城～豊臣・徳川2つの天守を探る～」（加藤理文氏）			
令和元年	10月19日～11月4日	文化の丘フェスタ開催			
令和元年	10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館			
令和元年	11月6日、8日	新刊児童図書巡回展示研修会（掛川市立図書館、沼津市立図書館）			
令和2年	1月	「文化力の拠点」計画が白紙化、東静岡には県立中央図書館を単独整備する方針に転換	令和2年	1月6日	浜松市が「はままつ電子図書館」の本格運用開始
令和2年	3月4日	新型コロナウイルス感染症対策のため、4月末まで「えほんのひろば」おはなしかい中止	令和2年	3月	新型コロナウイルス感染症対策のため、県内の一部の図書館で利用制限などが始まる
令和2年	4月	公式YouTubeチャンネル本格運用開始	令和2年	4月7日	静岡県立農林環境専門職大学開学し、附属図書館新設
令和2年	4月7日	県外で緊急事態宣言発令のため、学習室・閲覧室椅子の間引き、インターネットPC・OPACの半減	令和2年	4月	静岡県立農林環境専門職大学附属図書館が静岡県図書館協会に加盟
令和2年	4月11日	閲覧室椅子の撤去、AVブースの利用停止、学習コーナーの閉鎖、対面レファレンスの中止（クイックレファレンスのみ、手作り簡易シールド設置）、「えほんのひろば」でおはなしかい中止（5月末まで）	令和2年	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館していた図書館が再開を始める
令和2年	4月18日～27日	図書館電算システム更新作業による休館	令和2年	7月15日	清水町立図書館と保健センターとの複合施設「まほろば館」移転開館
令和2年	4月18日～5月11日	全国で緊急事態宣言発令 新型コロナウイルス感染防止対策のための臨時休館	令和2年	11月16日	静岡県図書館大会（静岡市清水文化会館マリナート）新型コロナウイルス感染症感染拡大のため開催中止し、次回開催を第28回とする
令和2年	4月28日～	臨時休館のまま、郵送・電話によるレファレンス、郵送複写、郵送による登録、障がい者への郵送貸出、WEB予約等再開 夜間開館中止（7月21日まで） 土日祝日開館対応中止（5月11日まで）			
令和2年	5月12日	静岡県緊急事態宣言解除により、制限付きで再開（閲覧室の椅子撤去、各カウンター簡易シールド、返却本の消毒など）			
令和2年	5月19日	閲覧室の椅子一部復旧			
令和2年	6月	新刊サロンの動画配信を当館YouTubeで始める			
令和2年	6月2日	赤外線カメラ設置により、学習コーナー・休憩コーナー椅子の間引きして開室 新聞コーナー・インターネット端末の椅子復旧			
令和2年	7月8日	警戒レベル3（県内注意、県外警戒） 非接触貸出器導入			
令和2年	7月22日	夜間開館再開			
令和2年	7月29日	警戒レベル4（県内警戒、県外警戒） 休憩コーナー閉鎖（9月11日まで）			
令和2年	8月	「新県立中央図書館基本計画」改訂			
令和2年	8月1日	公式Twitter (X) 本格運用開始			
令和2年	8月1日	警戒レベル4（県内警戒、県外警戒） 閲覧室椅子全面撤去、学習コーナー閉鎖（9月11日まで）えほんのひろば長椅子使用不可			
令和2年	8月1日～10日	夏休み子ども図書ウイーク 展示のみ実施			
令和2年	9月7日	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」閉室			
令和2年	9月12日	警戒レベル3（県内注意、県外警戒） 閲覧室椅子一部復旧 学習コーナー、休憩コーナー開放（一部椅子の制限）			
令和2年	10月1日	警戒レベル3（県内注意、県外警戒） 子どもコーナー「どんぐりひろば」開設・おはなしかい再開			
令和2年	10月23日～11月10日	子ども図書研究室講演会 「外国文学は世界への窓、心のフィルター」（原田勝氏）動画配信（YouTube）			
令和2年	10月24日～11月8日	文化の丘フェスタ開催			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
令和2年	11月1日～30日	図書館総合展に出席 運営委員会特別賞受賞			
令和2年	11月8日	講演会「岡村昭彦の知の系譜～昭彦に連なる幕末・維新・明治のネットワーク～」(小幡壯氏)			
令和2年	11月13日、18日	新刊児童図書巡回展示研修会(沼津市立図書館、静岡県立中央図書館) 外部講師による講座を中止し、当館職員による新刊児童図書紹介のみの短時間開催とする			
令和2年	11月24日	警戒レベル4(県内警戒、県外警戒) 子どもコーナー「どんぐりひろば」おはなしかい中止			
令和2年	12月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」3館追加(下田市立、焼津市立焼津、湖西市立中央)、当該サービスの貸出期間を30日間に変更			
令和2年	12月1日～4日	関東・甲信越静地区図書館地区別研修(オンライン)			
令和2年	12月1日～1月15日	「新しい県立図書館」アイデアコンペ実施 応募総数215件			
令和3年	3月	「新県立中央図書館整備計画」策定	令和3年	1月29日	沼津市立図書館が電子図書館を開設
令和3年	3月	「県立中央図書館司書育成指針」策定	令和3年	2月27日	富士宮市立芝川図書館が開館10周年記念講演会を開催
令和3年	4月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」1館追加(県民サービスセンター)	令和3年	1月	「御殿場市立図書館等整備基本構想」策定
令和3年	4月6日	子どもコーナー「どんぐりひろば」おはなしかい再開(講堂)	令和3年	3月	「伊東市新図書館基本構想」策定
令和3年	4月30日	三科守館長退任	令和3年	4月	県教育委員会社会教育課内に新図書館整備室が設置される
令和3年	5月1日	赤石達彦館長就任	令和3年	4月	静岡社会健康大学院大学附属図書館が開館
令和3年	5月14日	子どもコーナー「どんぐりひろば」おはなしかい中止	令和3年	4月	「伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等業務」について、公募型プロポーザルを実施
令和3年	7月13日～8月20日	子ども図書研究室講演会「『絵本の魅力』～ジェンダーの視点で楽しむ～」(草谷桂子氏) 動画配信(YouTube)	令和3年	4月	富士市立図書館がYoutubeチャンネルを開設
令和3年	8月1日～7日	夏休み子ども図書ウィーク一部開催	令和3年	4月1日	静岡社会健康医学大学院大学の開学に伴い、静岡社会健康医学大学院大学附属図書館が開館
令和3年	8月8日	休憩コーナー閉鎖、レファレンスをクイックレファレンスに限定	令和3年	4月1日	静岡社会健康医学大学院大学附属図書館が静岡県図書館協会に加盟
令和3年	8月20日	学習コーナーを閉鎖、閲覧室の座席を追加間引き、夜間開館中止	令和3年	4月17日	牧之原市図書交流館(愛称:いこっと)が開館
令和3年	9月	「新県立中央図書館整備計画」、「新県立中央図書館管理運営計画」更新	令和3年	4月23日	子ども読書活動推進フォーラムがオンラインで開催
令和3年	9月	図書館だより「文化の丘」の発行を年4回から年2回に変更	令和3年	4月23日	令和3年度子供の読書活動優秀実践校図書館文部科学大臣表彰で、藤枝市立図書館が代表授与の図書館となる
令和3年	9月1日	貸出カード(バーコード)のスマートフォン表示サービス開始	令和3年	5月24日～8月5日	浜松市立中央図書館が施設の老朽化による大規模改修工事のため休館
令和3年	10月1日	新県立中央図書館設計業務委託公募開始 改良版公募型プロポーザルにて	令和3年	7月	「御殿場市立図書館基本計画及び基本・実施設計業務委託」について公募型プロポーザルを実施
令和3年	10月1日	利用者登録等Web申込サービス開始	令和3年	8月5日	静岡市立中央図書館がリニューアルオープン
令和3年	10月1日	電子図書館サービス開始	令和3年	8月6日～15日	静岡県立大学附属図書館が高校生を対象とした図書館開放(オープンライブラリー)を実施
令和3年	10月1日	閲覧室座席一部復旧、OPAC全台復旧、子どもコーナー「どんぐりひろば」おはなしかい再開(講堂)	令和3年	9月1日	浜松市立中央図書館が有料宅配サービスを試行開始
令和3年	10月15日	夜間開館再開	令和3年	10月5日	掛川市立図書館が電子図書館サービスを開始
令和3年	10月19日～11月7日	文化の丘フェスタ開催	令和3年	11月8日～10日	第28回(令和3年度)静岡県図書館大会オンライン(Zoom)開催(静岡県立中央図書館)
令和3年	10月22日	学習コーナー、休憩コーナー開放(一部椅子の制限)	令和3年	11月28日	磐田市ひと・ほんの庭にこっとが来館者50万人を達成し、記念セレモニーを開催
令和3年	10月31日	文化の丘マルシェ開催	令和3年	12月7日	第9回静岡書店大賞

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
令和3年	11月27日	グランシップ企画事業「冬のおくりもの」に「帰ってきた！えほんのひろば」としてクリスマスや冬の絵本を出張展示、おはなしかいを実施	令和3年	12月19日	磐田市立竜洋図書館が開館30周年記念講演会を開催
令和3年	12月2日	新県立中央図書館設計業務プロポーザル1次審査 21者から6者を選定			
令和3年	12月3日、9日	新刊児童図書巡回展示研修会（静岡県総合教育センター、静岡県立中央図書館）外部講師による講座を中止し、当館職員による新刊児童図書紹介のみの短時間開催とする			
令和4年	1月29日	休憩コーナー閉鎖、クイックレファレンスに限定、おはなしかい中止、子ども図書研究室ツアー中止			
令和4年	2月19日	新県立中央図書館設計業務プロポーザル2次審査 グランシップを会場に公開プレゼンテーション実施			
令和4年	3月	「県立中央図書館司書育成指針」改訂			
令和4年	3月	県市町発行PDFファイル自動収集開始	令和4年	1月	「伊東市新図書館基本計画」を策定
令和4年	3月23日～6月20日	休憩コーナー開放、レファレンス再開、おはなしかい再開、子ども図書研究室ツアー再開	令和4年	1月	「御殿場市立図書館基本計画及び基本・実施設計業務委託」について、事業者決定を行う
令和4年	3月30日	新県立中央図書館設計業務委託契約締結受託者 C+A・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体	令和4年	3月	県図書館協会が加盟館（室）の各コロナ禍における各時期のサービス状況をまとめた会報を発行
令和4年	3月31日	赤石達彦館長退任	令和4年	3月	静岡県が『「本とともだち」プラン（第三次静岡県子ども読書推進活動計画-後期計画-）』を策定
令和4年	4月1日	柴雅房館長就任	令和4年	3月	公益財団法人培本塾附属図書館が静岡県図書館協会を脱退
令和4年	4月1日	インフォメーションホールに愛称「葵の広場」命名	令和4年	6月	河津町立文化の家図書館が創立20周年を迎える
令和4年	4月	子ども図書研究室の開室時間を開館日の14時～17時とし、職員の在室を開始	令和4年	6月15日	富士市立図書館が電子図書館サービスを開始
令和4年	5月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」3館追加（裾野市立鈴木、袋井市立袋井、松崎町立）	令和4年	6月23日	御殿場市立図書館が図書館条例を改正
令和4年	5月	視聴覚者情報総合ネットワーク（サビエ）に入会、サビエ施設・団体会員に登録	令和4年	7月	磐田市立中央図書館が新築開館30周年を迎え、年間を通して記念イベントを開催
令和4年	7月1日～12日	閲覧席全席復旧、学習コーナー全席復旧	令和4年	7月	静岡市立南部図書館が開館30周年を迎え、記念イベントを開催
令和4年	7月5日	子ども図書研究室講演会「言葉の発達、思考の発達を助ける絵本読みと読書」（今井むつみ氏）（後日YouTubeにて動画配信：7月26日～9月2日）	令和4年	7月29日	磐田市立福田図書館が開館20周年を迎え、記念イベントを開催
令和4年	7月13日～	閲覧席座席一部制限、学習コーナー座席一部制限（令和5年2月28日まで）	令和4年	8月6日	浜松市立中央図書館が大規模改修工事を終え、リニューアルオープン
令和4年	7月30日～8月5日	夏休み子ども図書ウィーク開催	令和4年	9月	島田市立島田図書館開館10周年記念事業を開催
令和4年	9月	「新県立中央図書館システム基本構想」策定	令和4年	9月14日	袋井市立袋井図書館が凸版印刷株式会社の絵本紹介システムの実証実験を実施
令和4年	9月27日	「令和4年9月大雨災害情報リンク集」をウェブサイト公開	令和4年	9月24日～26日	島田市立島田図書館が移転開館10周年を迎える
令和4年	10月	令和2年2月より毎月実施していた市町立図書館（室）のコロナ対策調査を終了	令和4年	9月24日～29日	静岡市立清水中央図書館及び清水興津図書館が台風15号による断水のため臨時休館
令和4年	10月1日～31日	ブックフェスタしずおか開催協力	令和4年	9月24日～29日	静岡市立南部図書館が台風15号の浸水被害により、清掃と除菌のため臨時休館
令和4年	10月18日～11月6日	文化の丘フェスタ開催	令和4年	9月30日	藤枝市立図書館が電子図書館サービスを開始
令和4年	10月28日、11月2日	新刊児童図書巡回展示研修会（沼津市立図書館、静岡県立中央図書館）当館職員による新刊児童図書紹介のみの短時間開催	令和4年	10月1日	磐田市立中央図書館が公式Lineアカウント開設
令和4年	11月23日	グランシップ企画事業「冬のおくりもの」に「帰ってきた！えほんのひろば」としてクリスマスや冬の絵本を出張展示、ボランティアによるおはなしかいを実施	令和4年	10月5日	湖西市立図書館が電子図書館サービスを開始
			令和4年	10月9日	磐田市立福田図書館が開館20周年記念コンサートを開催
			令和4年	10月9日～11月9日	焼津市立焼津図書館が開館100周年記念式典、記念イベントを開催
			令和4年	10月9日～11月9日	焼津市立大井川図書館開館30周年記念式典、記念イベントを開催

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			令和4年	11月1日～	森町立図書館が吊り天井改修工事のため休館（令和5年2月28日まで）
			令和4年	11月21日	第29回（令和4年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
			令和4年	11月28日	第29回（令和4年度）静岡県図書館大会開催（第5分科会オンライン）
			令和4年	12月	三島市立図書館デジタルアーカイブ開設
			令和4年	12月	三島市立図書館X（旧Twitter）開設
			令和4年	12月6日	第10回静岡書店大賞
令和5年	3月1日	閲覧席、学習コーナー、休憩コーナー全席復旧	令和5年	2月26日	東伊豆町立図書館開館30周年記念イベントを開催
令和5年	3月13日	マスク着用の緩和	令和5年	2月28日	吉田町立図書館がりんごの棚（バリアフリーコーナー）を設置
令和5年	4月	新館用児童資料の購入を開始	令和5年	4月	河津町立文化の家図書館が創立20周年を迎え、記念として来館者に職員手作りのしおりをプレゼント
令和5年	6月	どんぐりひろばで図書館サポーターによる壁面展示が開始	令和5年	4月1日	下田市立図書館が「まちじゅう図書館」事業を開始
令和5年	7月	新県立中央図書館基本設計の概要を公表	令和5年	4月1日	御殿場市立図書館が指定管理者制度による運営を開始
令和5年	7月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」2館追加（御殿場市立、島田市立島田）	令和5年	4月7日	函南町立図書館が開館10周年を迎え、「かななみ知恵の和館」のロゴマークを募集
令和5年	7月2日	子ども図書研究室講演会「絵本作りの過程で教わったこと」（寺久保未園氏）	令和5年	4月23日	令和5年度子どもの読書推進活動優秀実践校図書館文部科学大臣表彰で、清水町立図書館が代表授与の図書館となる
令和5年	7月29日～8月4日	夏休み子ども図書ウィーク開催	令和5年	5月1日～	静岡市立薬科図書館が大規模改修工事のため休館（令和6年4月19日まで）
令和5年	8月24日、30日	新刊児童図書巡回展示研修会（掛川市立図書館、静岡県立中央図書館） 当館職員による新刊児童図書紹介のみの短時間開催	令和5年	5月1日～	牧之原市立榛原図書館が図書館改修工事により休館（令和6年4月20日まで）
令和5年	10月17日～11月5日	文化の丘フェスタ開催	令和5年	6月	磐田市立中央図書館が移転・新築開館30周年記念イベント（教育シンポジウムや「動物画家・藪内正幸原画展」、市役所での記念展示など）を年間を通して開催
令和5年	10月21日	東アジア文化都市2023静岡県専門協働プログラム 貴重書講座スペシャル開催協力「欧米への江戸幕府の眼差し－葵文庫の洋書を中心に－」（岡部幹彦氏）・貴重書等紹介動画公開	令和5年	7月8日～9日	富士宮市立西富士図書館が開館30周年記念行事を開催
令和5年	10月28日	LibraryConcert開催（静岡県立清水南高等学校生徒）	令和5年	7月15日～9月15日	函南町立図書館が開館10周年を記念し、文芸作品（エッセイ、短歌、俳句、川柳）を募集し、希望する応募者に冊子形式で配布・館内に展示（10月28日～11月23日） 著作者の許諾を得た作品をWEBサイトで公開
令和5年	11月1日	歴史文化情報センターが移転のため休館（令和6年4月1日まで）	令和5年	7月下旬～8月25日	磐田市ひと・ほんの庭にこつとが開館5周年を迎える記念として、テレビ番組の公開録画等、様々なイベントを開催
			令和5年	7月24日	御前崎市立図書館が開館30周年を迎える
			令和5年	8月5日	函南町立図書館「かななみ知恵の和館」のロゴマークが決定
			令和5年	8月11日	磐田市ひと・ほんの庭にこつとが開館5周年を迎え、人形劇、コンサートなどイベント開催
			令和5年	8月15日～10月1日	函南町立図書館が開館10周年を記念し、短編小説を募集 希望する応募者に冊子形式で配布・館内に
			令和5年	9月3日	御前崎市立図書館が30周年記念講演会「角野栄子講演会 魔法の宅急便と旅」を開催
			令和5年	10月	新御殿場市立図書館の建築工事の入札が不落
			令和5年	10月13日	浜松市立図書館が図書館システムの更新を行い、図書館利用アプリの提供とマイナンバーカードで貸出できるサービスを開始
			令和5年	11月～	静岡市立御幸町図書館が開館20周年先行イベント・記念事業開催（令和6年9月まで）
			令和5年	11月13日	第30回（令和5年度）静岡県図書館大会 第30回記念大会（グランシップ）
			令和5年	12月	新御殿場市立図書館の建築工事について、再度入札で施工業者が決定し着工

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			令和5年	12月5日	第11回静岡書店大賞
			令和5年	12月26日	静岡市立中央図書館が開館40周年を迎え、記念として伝統工芸品の展示、本のおみくじの配布、ライブラリーコンサートを開催（令和6年1月12日まで）
令和6年	1月16日	埋蔵文化財センター常設展示終了	令和6年	1月	御殿場市新図書館の建築着工
令和6年	3月31日	柴雅房館長退任	令和6年	1月4日～ 2月29日	袋井市立袋井図書館が改修工事のため休館
令和6年	4月	雑誌所蔵資料データ公開体制構築のため、 バーコード貼付作業を開始	令和6年	3月1日	静岡市立図書館が電子図書館、利用者登録の 電子申請、スマートフォンでの利用者バー コード表示の各サービスを開始
令和6年	4月	新館用ティーンズ向け資料およびユニバーサル 資料の購入を開始	令和6年	3月16日	伊豆の国市立図書館図書館システム更新
令和6年	4月1日	高橋健二館長就任	令和6年	4月1日	富士市立中央図書館が毎週水曜日に託児サー ビスを開始
令和6年	4月2日	歴史文化情報センターが本館にて業務開始	令和6年	4月20日	静岡市立藁科図書館が大規模改修工事を経て リニューアルオープン
令和6年	6月1日	ワークステーションを設置し、雑誌所蔵デー タ公開体制構築のためのバーコード貼付作業 を開始	令和6年	4月21日	牧之原市立榛原図書館が「牧之原市立文化の 森図書館いろ葉」に名称を変え、リニューア ルオープン
令和6年	6月30日	子ども図書研究室講演会「日本の読者に届け たい翻訳文学」（三辺律子氏）	令和6年	4月25日	伊豆の国市立図書館が電子図書館サービスを 開始
令和6年	7月10日～ 31日	新刊児童図書巡回貸出事業を袋井市立袋井図 書館を協力館として試行	令和6年	5月	静岡市立御幸町図書館が開館20周年を迎える 記念として、館内に隠れた同館のキャラク ターを探すイベントを開催
令和6年	7月27日～ 8月3日	夏休み子ども図書ウィーク開催	令和6年	5月8日	御殿場市立図書館が毎週水曜日に託児サー ビスを開始
令和6年	8月4日	新刊サロンを新刊児童図書紹介と名称を変更 して年2回の開催と後日配信を行う（2回 目：令和7年2月26日開催）	令和6年	6月1日	湖西市新居図書館が100周年を迎え、記念イ ベントを開催し、その他、記念ロゴの作成、 ロゴ入りトートバックの抽選プレゼント、ロ ビーにケーキの装飾を設置し、利用者に装飾 してもらうなどを行う
令和6年	9月19日	新刊児童図書展示研修会（沼津市立図書館）	令和6年	6月7日	焼津市立大井川図書館がりんごの棚（バリア フリー図書）を設置
令和6年	9月	新県立中央図書館実施設計完了、物価高騰等 を反映し総事業費298億円と試算	令和6年	6月13日	静岡市清水興津図書館が20周年を迎え、記念 としてオリジナルグッズが当たるくじ引き大 会を開催
令和6年	9月30日	インターネット上に公開されている静岡県内 自治体の行政資料PDFを自動収集するための システム（クローラ）によって資料を収集し 公開することについて、許諾のあった県機 関・28市町から収集した約35万件の行政資料 PDFの公開を開始	令和6年	7月	三島市立図書館が「絵本のまち三島」公式 ホームページを開設
令和6年	10月15日～ 11月4日	文化の丘フェスタ開催	令和6年	8月	静岡市立御幸町図書館が開館20周年を迎える 記念として、静岡市歴史博物館とコラボした クイズラリーを中学生以下を対象として開催
令和6年	11月13日	新県立図書館建築工事入札に参加業者がなく 不調、計画の見直しへ	令和6年	9月	静岡市立図書館が、電子図書館の教育現場で の活用を図るため、市内の小中学生約4万3 千人に利用IDを一斉配布
			令和6年	9月	静岡市立御幸町図書館が開館20周年を迎える
			令和6年	9月10日	長泉町民図書館が、絵本や児童書を中心とし た電子図書館を開設
			令和6年	10月1日	藤枝市立図書館が電子図書館オーディオブック サービスを開始
			令和6年	10月11日	富士市立図書館が電子図書館オーディオブック サービスを開始
			令和6年	10月26日	焼津市立大井川図書館がボードゲームの貸出 サービスを開始
			令和6年	11月10日	静岡市清水興津図書館が開館20周年を迎える 記念として、子ども向けワークショップを開 催
			令和6年	11月11日	第31回（令和6年度）静岡県図書館大会開催 （グランシップ）
			令和6年	12月3日	第12回静岡書店大賞
			令和6年	12月10日～	熱海市立図書館が空調設備・エレベーター改 修工事に伴い休館（令和7年3月20日まで）

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			令和6年	12月18日～	伊東市立図書館が、図書館が入っている市生涯学習センター中央会館の外壁が一部崩落したため、3月末まで臨時休館し、予約資料の受取窓口を設ける対応を行う（令和7年3月31日まで）
令和7年	1月15日	書庫狭隘化により、一部雑誌を外部保管	令和7年	1月	静岡市立御幸町図書館が開館20周年を迎えた記念として、出張読み聞かせを開催
令和7年	1月15日～31日	図書館電算システム更新作業・蔵書点検による休館 おうだんくんシステムをリニューアル	令和7年	1月7日	袋井市立図書館が電子図書館を開設するとともに、市立図書館と学校図書室の蔵書を一元管理する「まちじゅう図書館」の運用を開始
令和7年	2月4日	インド大使館図書贈呈式&ヨガセッション	令和7年	1月17日～19日	静岡市清水興津図書館が20周年を迎え、記念としてくじ引き大会を開催
令和7年	2月24日	LibraryConcert第二章開催（静岡県立大学アカペラサークル）	令和7年	1月18日	静岡市清水興津図書館が20周年を迎え、記念として静岡福祉大学附属図書館との共催事業として講演会を開催
令和7年	4月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」2館追加（熱海市立、菊川市立小笠）	令和7年	2月	静岡市立御幸町図書館が開館20周年を迎え、記念としてシニア向けの切り絵講座を実施
令和7年	4月1日	創立100周年記念事業を年間にわたり展開	令和7年	2月1日	菊川市立図書館が電子図書館サービスを開始 電子雑誌閲覧サービスを開始
令和7年	5月19日	新県立図書館整備に大幅な財源不足が生じることを県が公表	令和7年	2月16日	静岡県読み聞かせネットワークが講演「東京子ども図書館の児童サービス～50年の歩みの中で～」（鈴木晴子氏）を開催
令和7年	6月18日	新県立中央図書館整備について「一旦立ち止まって整備方針を見直す」「庁内に部局横断的なプロジェクトチームを立ち上げ検討を進める」という方針を知事が表明	令和7年	3月21日	熱海市立図書館がリニューアルオープン
令和7年	7月	新館用資料の購入を停止する	令和7年	4月1日	下田市立図書館が移動図書館車を運用開始
令和7年	7月～9月	新刊児童図書巡回貸出事業を東伊豆町立図書館と浜松市立中央図書館を協力館として試行	令和7年	4月1日	富士市立図書館が電子雑誌閲覧サービスを開始
令和7年	7月15日	子ども図書研究室講演会「豊かな心を育む絵本の世界」（瀧薫氏）	令和7年	4月11日	東都大学附属図書館沼津文官が県図書館協会に加盟
令和7年	7月28日～8月8日	夏休み子ども図書スペシャルウィーク開催	令和7年	4月23日	島田市立図書館3館（島田図書館、金谷図書館、川根図書館）が「りんごの棚」を設置
令和7年	8月1日～3日	グランシップ企画事業「世界子ども劇場」に「帰ってきた！えほんのひろば」として世界の昔話絵本などを出張展示、ボランティアによるおはなしかいを実施	令和7年	5月11日	X「静岡.図書館気分」（静岡県内図書館情報提供X）の運用開始（静岡県立中央図書館、静岡県図書館協会共同運用）
令和7年	8月27日	令和6年9月時点では許諾を得られていなかった残り7市町からも収集・公開の許諾を得られ、クローラによって収集された行政資料PDFを公開	令和7年	7月1日	浜松市立西図書館が移転・リニューアルオープン
令和7年	9月17日	新刊児童図書出張展示研修会（藤枝市立駅南図書館）	令和7年	9月1日	御殿場市立図書館が電子図書館・電子雑誌閲覧サービスを開始
令和7年	10月1日	子どもコーナーに「りんごの棚」を設置	令和7年	9月～12月	熱海市立図書館が開館110周年を迎え、記念講演会を9月～12月にかけて毎月1回行う
令和7年	10月14日～11月3日	文化の丘フェスタ開催	令和7年	10月30日	環境農林専門職大学附属図書館が静岡県内横断検索システム（おうだんくんサーチ）に参加
令和7年	10月25日	創立100周年記念講演（鈴木善彦氏、草谷桂子氏、勝山高氏）	令和7年	12月1日	第32回（令和7年度）静岡県図書館大会開催（全国公共図書館研究集会を兼ねる）
令和7年	12月1日～2日	全国公共図書館研究集会開催（静岡市、12月1日は静岡県図書館大会を兼ねる）	令和7年	12月2日	第13回静岡書店大賞
令和7年	12月5日～	創立100周年記念クイズラリーを開催し、オリジナルブックカバー、しおり、クリアファイルを全問正解者に配布（令和8年1月15日まで）			
令和7年	12月	新県立中央図書館整備等PTが「新県立中央図書館整備の見直しの方向性」を発表			

7 歴代館長一覧

	氏名	図書館の名称	職名	在任期間	着任年度	在任期間
1	貞松 修蔵	静岡県立葵文庫	文庫長	大正13年 10月30日 ~ 昭和11年 3月	1924	11年5月
2	星子 政雄	静岡県立葵文庫	文庫長事務取扱	昭和11年 3月 ~ 昭和11年 5月	1936	3月
3	相京 伴信	静岡県立葵文庫	文庫長事務取扱	昭和11年 6月13日 ~ 昭和14年 9月5日	1936	3年3月
4	七澤 甚喜	静岡県立葵文庫	文庫長事務取扱	昭和14年 9月 ~ 昭和15年 6月	1939	10月
5	加藤 忠雄	静岡県立葵文庫	事務取扱・文庫長	昭和15年 7月 ~ 昭和31年 3月	1940	15年9月
6	岡谷 潔	静岡県立中央図書館葵文庫	社会教育課長・文庫長	昭和31年 4月 ~ 昭和32年 3月	1956	1年
7	山本 松市	静岡県立中央図書館葵文庫	館長事務取扱	昭和32年 4月 ~ 昭和35年 3月	1957	3年
8	岡本 滋	静岡県立中央図書館葵文庫	館長	昭和35年 4月 ~ 昭和38年 3月	1960	3年
9	今泉 勇	静岡県立中央図書館葵文庫	館長	昭和38年 4月20日 ~ 昭和40年 3月	1963	2年
10	小林 篤	静岡県立中央図書館葵文庫	館長	昭和40年 4月 ~ 昭和44年 3月	1965	4年
11	高林 静夫	静岡県立中央図書館葵文庫 静岡県立中央図書館	館長	昭和44年 4月 ~ 昭和48年 3月	1969	4年
12	小島 毅	静岡県立中央図書館	館長	昭和48年 4月 ~ 昭和53年 3月	1973	5年
13	宗 知信	静岡県立中央図書館	館長	昭和53年 4月 ~ 昭和53年 12月31日	1978	9月
14	堀 通雄	静岡県立中央図書館	教育次長兼館長	昭和54年 1月1日 ~ 昭和54年 3月	1979	3月
15	渡辺 悦郎	静岡県立中央図書館	館長	昭和54年 4月 ~ 昭和56年 3月	1979	2年
16	石川 嘉延	静岡県立中央図書館	教育次長兼館長	昭和56年 4月 ~ 昭和56年 8月	1981	5月
17	西村 二郎	静岡県立中央図書館	館長	昭和56年 9月 ~ 昭和59年 3月	1981	2年7月
18	松井 哲	静岡県立中央図書館	館長	昭和59年 4月 ~ 昭和60年 3月	1984	1年
19	鈴木 嘉弘	静岡県立中央図書館	館長	昭和60年 4月 ~ 昭和63年 3月	1985	3年
20	石田 德行	静岡県立中央図書館	館長	昭和63年 4月 ~ 平成2年 3月	1988	2年
21	石割 忠夫	静岡県立中央図書館	館長	平成2年 4月 ~ 平成4年 3月	1990	2年
22	渡瀬 祥光	静岡県立中央図書館	館長	平成4年 4月 ~ 平成6年 3月	1992	2年
23	中村 信也	静岡県立中央図書館	館長	平成6年 4月 ~ 平成8年 3月	1994	2年
24	真杉 慶夫	静岡県立中央図書館	館長	平成8年 4月 ~ 平成10年 3月	1996	2年
25	鈴木 善彦	静岡県立中央図書館	館長	平成10年 4月 ~ 平成14年 3月	1998	4年
26	恩田 征弥	静岡県立中央図書館	館長	平成14年 4月 ~ 平成16年 3月	2002	2年
27	岩崎 功	静岡県立中央図書館	館長	平成16年 4月 ~ 平成18年 3月	2004	2年
28	天野 忍	静岡県立中央図書館	館長	平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	2006	3年
29	土屋 光永	静岡県立中央図書館	館長	平成21年 4月 ~ 平成23年 3月	2009	2年
30	谷野 純夫	静岡県立中央図書館	館長	平成23年 4月 ~ 平成27年 3月	2011	4年
31	河原崎 全	静岡県立中央図書館	館長	平成27年 4月 ~ 平成30年 3月	2015	3年
32	三科 守	静岡県立中央図書館	館長	平成30年 4月 ~ 令和3年 4月30日	2018	3年1月
33	赤石 達彦	静岡県立中央図書館	館長	令和3年 5月1日 ~ 令和4年 3月	2021	11月
34	柴 雅房	静岡県立中央図書館	館長	令和4年 4月 ~ 令和6年 3月	2022	2年
35	高橋 健二	静岡県立中央図書館	館長	令和6年 4月 ~ 令和8年 3月	2024	2年
36	渡辺 賢一	静岡県立中央図書館	館長	令和8年 4月 ~	2026	

【100周年記念事業を振り返って】

ある講師の教え ～誰が為に県立はある～

静岡県立中央図書館長 高橋 健二
(令和7年度当時)

令和7年度は創立100周年で、元館長の鈴木善彦先生による記念講演会など、当館の歴史や役割に関して学ぶ機会が多かった。図書館に関する興味関心がこれまで以上に高まった私は、県内図書館職員向けの講演もいくつか拝聴した。広報、運営、資料管理など多面的に学ぶ機会を得たが、中でも強烈なインパクトを受けた講師がいる。みうらじゅん作『アウト老のすすめ』にある「周りを呆れさせるパワーは歳を取れば取るほど増してくる」を具現化したような“老獺”（尊敬の意味をこめて）かつ軽快な口調。御年〇〇歳にして、辛口コメントの中にもユーモアを交え参加者を魅了する。全国の図書館で講演活動をされているらしく、公共図書館の事情（ウラ事情も）に精通している方だった。講演後、是非個人的にお話したいと館長室にお招きし、しばし意見交換する機会を得た。最初は楽しい雑談だったが、話の終盤は真面目な雰囲気でも熱く想いを語っておられた。以下はその記録である。

【講師】静岡県は新県立図書館建設計画の見直しで揺れていますが、そんなホットな静岡県立中央図書館長に伺いたい。県立図書館は何のためにあるんですか。

(館長) 文科省の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」にある都道府県立図書館の説明として、まず「域内の図書館への支援」が挙げられているので、それが一義的役割かと…。

【講師】そのとおり！県立図書館の業務は全て市町図書館支援の視点から説明できます。では、なぜ県立図書館でも市町と同様に貸出業務をするのですか。それが支援になりますか。

(館長) それは…

【講師】すぐ答えが出ないようでは修行が足りないです。都道府県立図書館職員は、域内図書館職員対象の研修で講師を務めたり、運営相談にのったりします。その際、図書館の実務が分かっていると適切なアドバイスができない。だから、通常業務をしっかりと行うことが大切なのです。次の質問です。なぜ県立は市町村立より多くの蔵書が必要ですか。

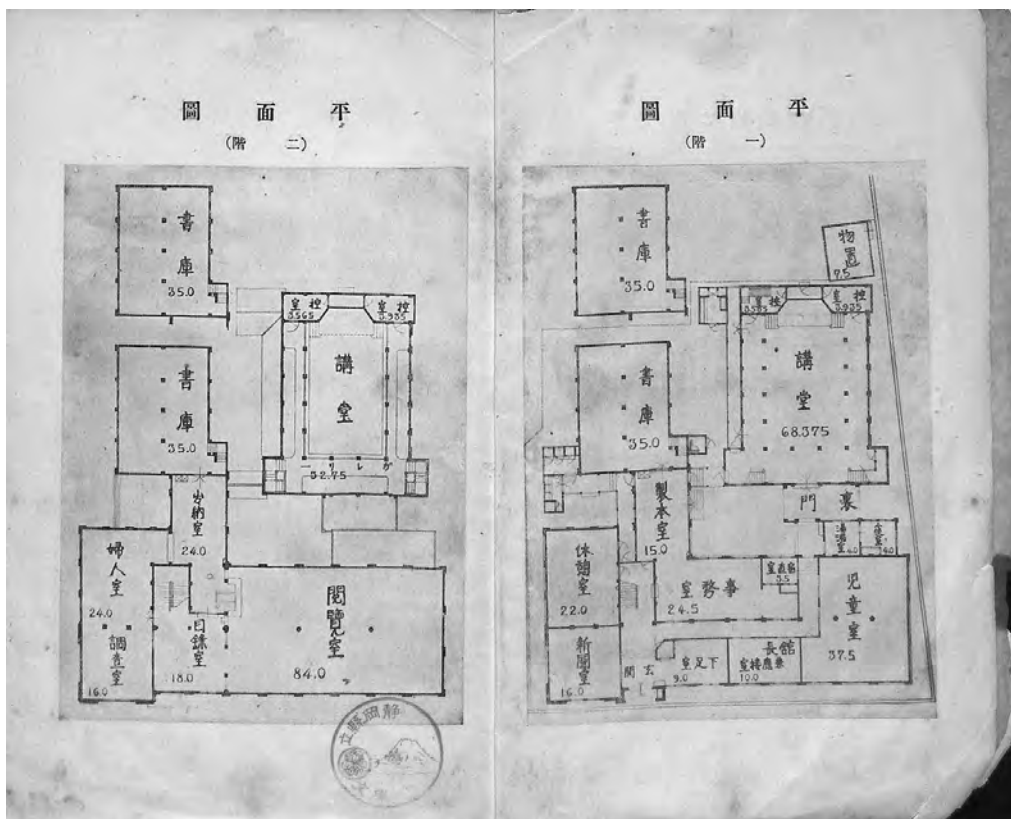
(館長) 市町の業務を支援・補完するために、市町の図書館では所蔵していない専門的な資料を揃えることに加え、市町の図書館では廃棄対象となる古い資料でも、県民の調査研究に役立つ資料なら保存する必要があるから…でしょうか。

【講師】自治体にも人口の大小がありますので、特に資料が少ない小さな自治体の図書館支援を想定して資料選定してください。また、資料が豊富な県立図書館は調査研究の拠点という意味合いが強く、どの都府県立でも市町村立と比べて調査研究のための来館者が多い傾向にあります。そのためレファレンスに迅速に対応できる体制整備が必須です。他県では資料を分散保管した結果、取り寄せに時間がかかり、あまりにも不便なことから利用者離れが発生した事例もあり、それこそ税金のムダ！豊富な蔵書が一括管理されることで、域内図書館の効果的な支援・補完や、住民の充実した調査研究活動が可能になるんです。

自治体の財政難から施設や蔵書の縮小、人件費の抑制などを迫られるケースがありますが、図書館側も一義的役割である「域内図書館の支援・補完」の視点から全業務を説明できないと、市町との「二重行政」だと言われても仕方がない。「県立図書館は、市町図書館の支援・補完を通じて、全ての県民の方々をサポートします！」という横断幕でも掲示して、全職員が共通認識をもって日々の業務に取り組めるよう工夫してはいかがでしょうか。

意見交換が終わると、電車で遅れないようにと講師は慌ただしく去って行かれた。100周年記念の年に再認識した県立図書館のレゾナントルを、多くの人と共有すべくここに記しておく。

当館所蔵資料より



『静岡県立葵文庫概要』(S010/40)より抜粋
大正14年(1925年)3月 静岡県立葵文庫編

I 当館の概要（令和8年度）

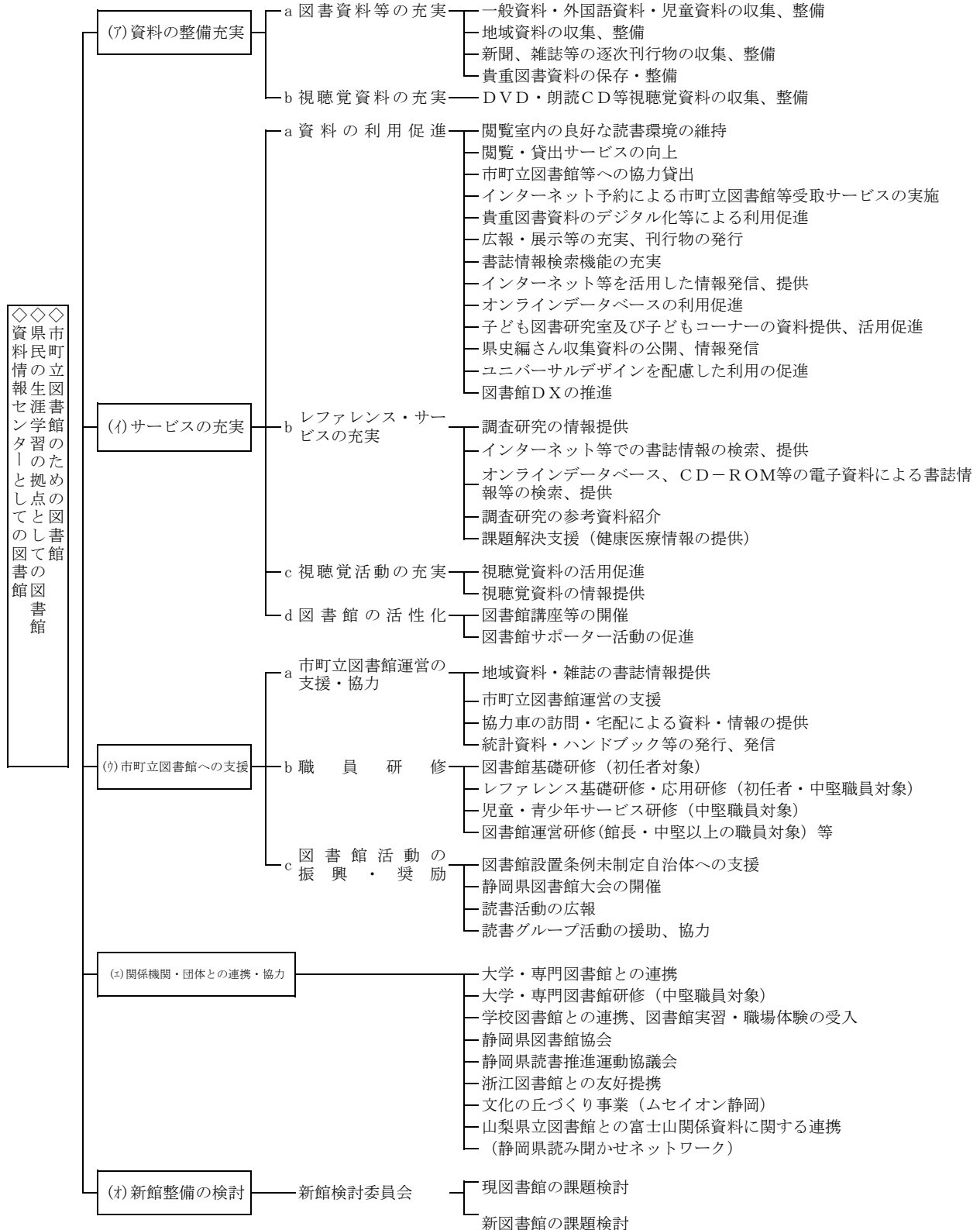
1 沿 革

大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。 設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀観書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙行
昭和12年8月30日	シヨメールの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「静岡県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定 され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙行。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和62年4月	静岡県公共図書館振興対策事業の実施（5か年計画）
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊 行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長
平成10年10月1日	Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等）
平成11年3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成11年4月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成12年4月1日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成12年6月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざ

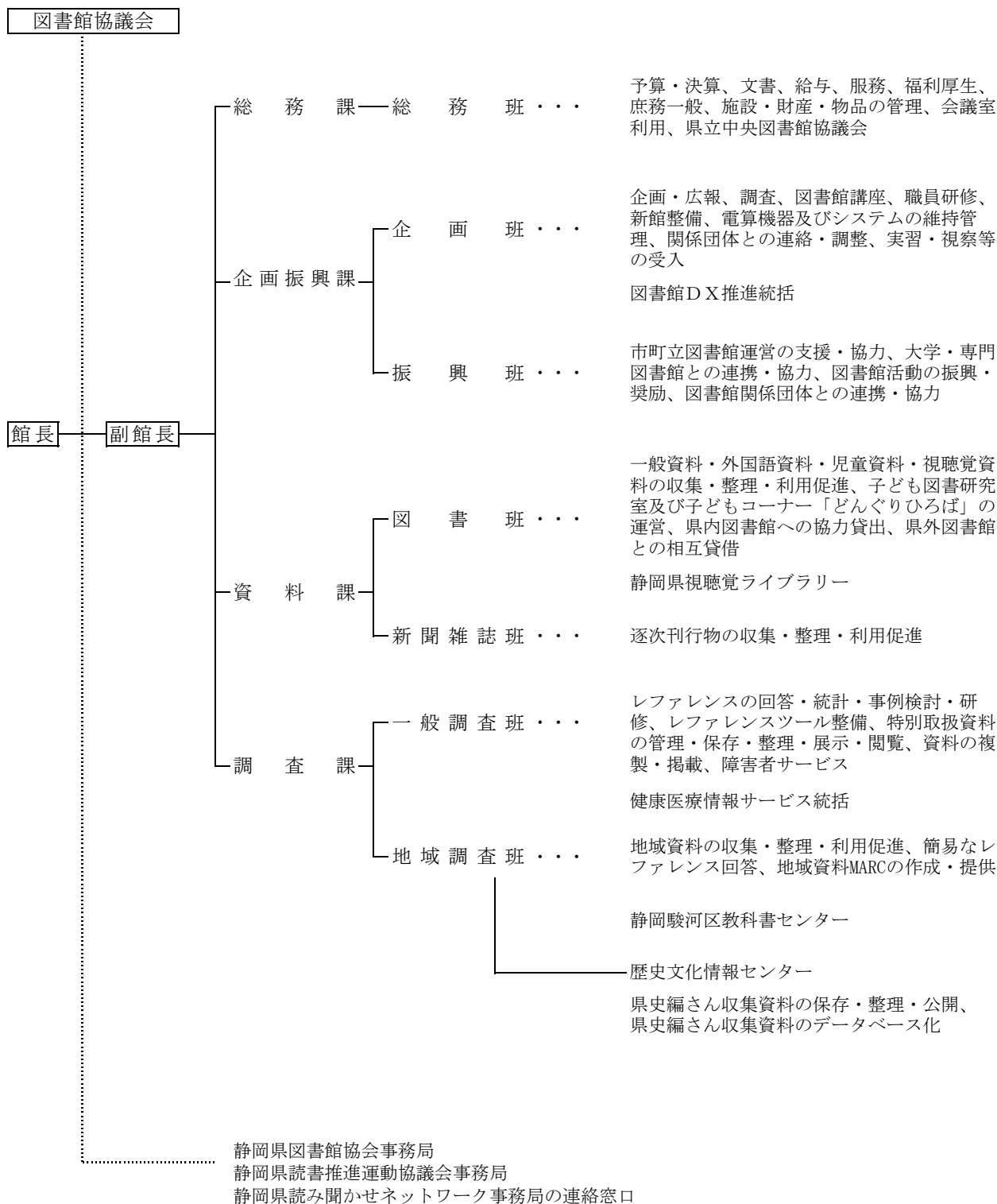
	れあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年 5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年 6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年 8月 1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始
平成15年 4月 1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年 7月 2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年 3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年 6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年 4月 1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成17年 9月 1日	『「しずおか」の貴重書』刊行
平成19年 9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年 2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年 2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年 3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年 7月 1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月 1日～平成22年 3月30日）
平成21年 9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」より当館に移動
平成21年10月 2日	『「しずおか」の貴重書（改訂版）』刊行
平成21年10月15日	『関口隆吉関係書簡集』発行
平成22年 2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年 5月 1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌に変更
平成22年 3月31日	耐震補強工事関連作業及びシステム更新作業のため休館（～5月31日）
平成22年 6月 1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン 携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能
平成22年 6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年 9月 1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文がインターネットから閲覧可能
平成23年 1月 8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年 2月 1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携、当館デジタルライブラリーが、PORTAから検索可能
平成23年 5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年 7月 9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静岡地区図書館地区別研修開催（～12月 2日）
平成24年 1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年 2月 1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（～3月15日）
平成24年 3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始
平成24年 4月 1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年 6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年 6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年 7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダ

	ービー」開催（～9月）
平成24年7月7日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年3月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年4月	歴史文化情報センター「授業の種」公開
平成26年2月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年4月1日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年6月2日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年8月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開
平成28年2月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入
平成28年4月	祝日開館開始
平成28年6月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」本格導入
平成29年7月4日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（～7月31日）8月1日以降「閲覧室の利用」以外の業務を順次再開
平成30年3月	「新県立中央図書館基本構想」策定
平成30年4月1日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正
平成30年5月7日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管
平成31年2月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了
平成31年3月14日	閲覧室の利用を再開
平成31年3月	「新県立中央図書館基本計画」策定
令和元年10月11日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～令和2年2月25日）
令和元年10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館
令和2年3月	「新県立中央図書館管理運営計画」策定
令和2年4月18日	新型コロナウイルス感染防止対策のため臨時休館（～5月11日） （4/18～4/27はシステム更新による休館）
令和2年8月	「新県立中央図書館基本計画」改訂
令和2年9月7日	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」閉室
令和2年10月1日	子どもコーナー「どんぐりひろば」開設
令和2年12月1日	令和2年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修会開催（～12月4日、ライブ配信）
令和3年3月	「新県立中央図書館整備計画」策定 「県立中央図書館司書育成指針」策定
令和3年9月	「新県立中央図書館整備計画」「新県立中央図書館管理運営計画」更新
令和3年10月1日	電子図書館サービス開始
令和4年3月	「県立中央図書館司書育成指針」改訂
令和4年9月	「新県立中央図書館システム基本構想」策定
令和5年7月	新県立中央図書館基本設計の完成、概要の公表
令和5年11月1日	静岡中央ビルの老朽化による建替工事に伴う移転作業のため、歴史文化情報センター休館 （～令和6年4月1日）
令和5年11月13日	第30回記念大会静岡県図書館大会を開催
令和6年1月16日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示終了
令和6年4月2日	歴史文化情報センターが本館にて業務再開
令和6年9月	新県立中央図書館実施設計完了
令和6年10月	新県立中央図書館新築工事の入札不調
令和7年4月1日	創立100周年記念事業を年間にわたり展開
令和7年6月	「新県立中央図書館整備計画」の方針見直し表明
令和7年12月1日	令和7年度全国公共図書館研究集会（サービス部門／総合・経営部門）を第32回静岡県図書館大会と併せて開催（～12月2日）
令和7年12月	「新県立中央図書館整備の見直しの方向性」公表
令和8年4月	「静岡県立中央図書館デジタルアーカイブ基本方針及び実施計画」制定

2 令和8年度基本方針・事業体系



3 組織図



4 職 員

		館 長 渡 辺 賢 一	
		副 館 長 瀧 み や こ	
総 務 課	総務課長 (兼)		瀧 み や こ (副館長)
	総務班	総務班長	太田 夏子
		主 査	吉村亜矢子
		主 任	東元 香澄
	主 事	池田 匡汰	
企 画 振 興 課	企画振興課長		阿 部 幸 子
	企画班	企画班長	青木 修
		主 幹	藤ヶ谷昌則
		主 査	渡辺 勝
	主 査	入月 卓也	
資 料 課	資料課長		木 村 知 美
	図書班	図書班長	三枝 春奈
		主 査	仲本 由加
		主 査	眞子 みな
		主 事	上村まりを
		主 事	山中 菜緒
技 能 員	加藤 桂子		
調 査 課	調査課長		鈴 木 由 美
	一般調査班	一般調査班長	八木 麻美
		教育主査	水野 彰紀
		教育主査	神谷たつえ
		主 事	湯川 愛結
地域調査班	地域調査班長	水井千保子	
	教育主査	遠藤 香菜	
	主 任	板橋 由佳	
	主 事	川崎みのり	
	(歴史文化情報センター)		
	教育主幹	渡邊二三彦	
	教育主査	尾上 容子	
	主 任	大林 元	

5 予 算

(単位：千円)

事業名	R 8 予算額	説 明
県立中央図書館管理運営費	198,000	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・県立中央図書館の施設等維持管理及び修繕工事に要する経費 ・資料棟の構造耐久性調査に要する経費
県立中央図書館資料充実費	76,000	<ul style="list-style-type: none"> ・図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費 ・電子書籍の充実及び各種データベースの利用に要する経費
合 計	274,000	

6 資 料

(1) 収集基本方針

ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く収集する。

イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）収集する。特に選定された児童図書は、さらに複数部収集する。なお、15歳から18歳未満対象（YA）の図書についても選書及び収集に配慮する。

ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

エ 外国語資料

県民（在住外国人を含む）の日本理解や国際理解及び生涯学習のための資料を幅広く収集する。

オ ティーンズ資料

ティーンズ（13歳から18歳）を対象とした資料及び各分野の基本的資料、ティーンズ世代の関心が高い分野について収集する。

カ 逐次刊行物（新聞、雑誌）

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実努める。地域雑誌の収集にも留意する。

キ 視聴覚資料

文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

ク 電子書籍

高校生・大学生から社会人を対象とした、「知識の拡充」及び「経験の補完」を支援する資料を収集する。

※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種類縁機関との機能を考慮している。

(2) 資料概要

ア 一般資料

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

イ 児童資料

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

ウ 地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

エ 外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・各分野の一般図書

オ ティーンズ資料

- ・各分野の基本的な参考資料及び入門的資料
- ・ティーンズ世代の発達段階に対応する分野の資料
- ・学習指導要領に沿った、学習に役立つ資料
- ・探究に役立つ資料

カ 逐次刊行物(新聞・雑誌)

- ・一般紙(誌)、学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要類、会社や研究所の研究技報類
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

キ 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム(県視聴覚ライブラリー資料を含む)

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

ク 電子書籍

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

ケ 特殊コレクション等

(7) 特殊コレクション

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる（『江戸幕府旧蔵書目録』（葵文庫）（昭和 45 年 4 月 18 日発行）による）。 明治元年府中（静岡）藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59 平成 25	関口壮吉 関口隆克	<ul style="list-style-type: none"> 第 3 代静岡県令（初代県知事）関口隆吉収集の図書・文書・記録類 837 部 2,455 冊からなる。 図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。 文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。 隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「久能文庫」として寄贈された。
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	<ul style="list-style-type: none"> 上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵（錦絵）など版画類約 5,100 枚

(イ) 主な本県ゆかりの貴重資料

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	<ul style="list-style-type: none"> 山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。
内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	<ul style="list-style-type: none"> 内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	<ul style="list-style-type: none"> 静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

(注) ^{やまなしとうせん}〔山梨稲川〕（1771～1826） 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

^{うちやままたつ}〔内山真龍〕（1740～1821） 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：静岡新聞社出版局編．静岡県歴史人物事典．静岡新聞社，1991．

Ⅱ 事業報告（令和7年度）

1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和7年度）

(1) 図書館をめぐる社会情勢

ア 公立図書館の現状

令和7年4月1日現在、全国の自治体数1,788に対する図書館設置自治体数は、令和6年度から市区で1増加して1,404、設置率は78.5%である。図書館数は、令和6年度から市区立で1増加、町村立では2減少し、3,300である。図書館法（昭和25年法律第118号）制定から75年が経過しているが、設置率は市区立の99.4%に比べて、町村立は59.1%と低い状況にある。

指定管理者制度を巡る現状については、（公社）日本図書館協会図書館政策企画委員会が毎年調査を行ってきたが、令和7年度末現在において最新の調査は令和6年2月に報告された「図書館における指定管理者制度の導入等の調査について2023（報告）」のままで更新されていない。

なお、県内の市町立図書館での導入は、令和6年度から増減なく3市1町（浜松市、御殿場市、裾野市、小山町）の18館である。

イ カムチャッカ半島付近の地震による津波警報等の発表

令和7年7月30日午前8時25分頃にカムチャッカ半島付近での地震発生により、静岡県内に津波注意報及び津波警報が発表された。また、沼津市、静岡市の海岸及び河口付近、浜松市中央区（舞阪地区、五島地区）には、避難指示（警報レベル4）が発表された。県内の各鉄道は運転の見合わせ、航空機・船舶等は欠航となるなどの影響はあったが、県内図書館は下田市、伊東市、富士市、静岡市、牧之原市、袋井市、湖西市、浜松市、松崎町の図書館が、休館（臨時休館含む）やBM（移動図書館）の運行中止、イベントの中止などの対応をとった。

ウ デジタル化の進展

コロナ禍により、非接触・非対面、来館不要の電子図書館サービスは全国的に導入が進んだ。（一社）電子出版制作・流通協議会の調査によると、公共図書館の電子図書館サービス（電子書籍サービス）導入自治体は、令和7年1月時点では585自治体（32.7%）であったが、令和7年7月時点では、592自治体（33.1%）へ増加した。県内では令和7年度に御殿場市1市が導入し、県を含む15自治体（41.7%）が導入済みである。

図書館のデジタル化関連の具体的な例としては、以下のものが挙げられる。

- ・国立国会図書館の、「国立国会図書館デジタルコレクション」は令和8年1月に新たに約54万点のテキストデータを追加し、全文検索の対象資料は約374万点となった。また、新たに50万点のテキスト化を開始しており、令和8年度中に順次全文検索が可能となる予定である。
- ・山梨県立図書館が、令和7年10月1日から「リモート接客サービス」を導入した。
- ・滝川市立図書館（北海道）が、令和7年8月2日から案内ロボット「Mars」を導入した
- ・魚津市立図書館が、令和7年4月11日～5月7日まで、「図書館AIコンシェルジュ」の実証実験を行った。

エ 読書バリアフリー法関連

令和元年6月28日 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）公布

令和2年12月22日 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進における留意事項について」発出

令和5年7月19日 国立国会図書館が事務局となる「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」が、「電子図書館のアクセシビリティガイドライン1.0」を公開。以後、更新に向けた作業が継続される予定。

令和6年1月5日 国立国会図書館が、国立国会図書館障害者用資料検索（愛称：みなサーチ）の正式版を公開

令和7年3月28日 文部科学省、厚生労働省は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（読書バリアフリー基本計画）の第二期を策定
第二期計画では、基本的な方針の「2. アクセシブルな書籍・電子書籍等の量的拡充・質の向上」に「生成AI等の近年急速に進化している技術による課題解決を図ることの重要性に留意する」が加えられた。

令和8年3月 静岡県は第6次静岡県障害者計画を策定した。今回の改定にあたり、初めて「静岡県読書バリアフリーの推進」の項目を設け、読書バリアフリー法第8条の規定に基づく「静岡県読書バリアフリーの推進に関する計画」として位置づけた。計画では、視覚障害者等の読書環境整備のため果たすべき県立図書館や関連機関等の役割を明らかにしている。

オ 著作権法関連

令和3年6月2日 「著作権法の一部を改正する法律」公布

令和4年5月1日 同法のうち、国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信の部分が施行

令和4年5月19日 国立国会図書館が「個人向けデジタル化資料送信サービス（略称：個人送信）」を開始。当初は閲覧のみ、令和5年1月18日から印刷機能の提供を開始

令和5年3月29日 文化庁が「図書館等公衆送信補償金規程」を認可

令和5年5月30日 図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会が「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」を制定

令和5年6月1日 同法のうち、各図書館等による図書館資料のメール送信等の部分が施行

令和6年8月1日 著作権法施行令の一部を改正する政令が施行

令和7年1月22日 （一社）図書館等公衆送信補償金管理協会（以下「SARLIB」という。）は、遅延していた特定図書館登録受付を開始

令和8年4月 文化庁が「未管理著作物裁定制度（著作権法第67条の3）」運用開始

図書館等公衆送信サービスは、国立国会図書館が令和7年2月20日より、東京都立図書館が令和7年7月4日よりサービスを開始し、令和8年2月27日現在、大学等も含めて計32館でサービスが提供されている。

カ 出版界等の動き

（公社）全国出版協会・出版科学研究所は令和8年1月26日2025年の出版市場規模を発表。紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は前年比1.6%減の1兆5,462億円であった。紙の出版物は前年比4.1%減の9,647億円で、1975年以来の1兆円割れとなった。電子出版は前年比2.7%増の5,815億円であった。内訳は、電子コミックは前年比2.9%増、電子書籍は同1.5%増、電子雑誌は同3.5%減となった。

また、令和7年8月からは毎日新聞、朝日新聞、産経新聞が、全国で土曜日の夕刊を休止した。（静岡県では、朝日新聞は令和6年10月から夕刊休止、産経新聞は夕刊未刊行地域）物流における人手不足、原材料費の高騰などが理由とされる。



キ 図書館・書店の連携

近年、全国的な書店減少と読書離れを背景に、国は図書館と書店の連携を重要施策と位置づけている。令和6年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024～賃上げと投資がけん引する成長型経済の実現～」(骨太方針2024)においては、「書籍を含む文字・活字文化の振興(書店と図書館等との連携促進及び読書バリアフリーの推進を含む。)や書店の活性化を図る」ことが盛り込まれた。同月、文部科学省は「図書館・書店等連携実践事例集」を公開した。

経済産業省では、令和6年3月に書店振興プロジェクトチームを立ち上げて検討を重ねてきたが、令和7年6月、この成果を関係7省庁の連名による「書店活性化プラン」として取りまとめた。この中では、「II. 地域における書店と図書館・自治体との連携の在り方」として、「読書環境整備に向けた関係機関による連携協働モデルの構築・普及」、「書店と図書館における連携の推進」が具体的な施策としてあげられている。

ク 図書館・学校図書館の運営充実

文部科学省は、今日の図書館・学校図書館の現状や課題を把握・分析し、運営の充実に向けた検討を行う「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」を令和6年10月1日に設置し、令和8年2月25日までに計10回の会議を開催した。そして「図書館が拓く未来の学びと地域社会」(報告書)をパブリックコメントを経て令和8年3月に公表した。この会議には委員として、当館館長(全国公共図書館協議会理事)が参加した。

ケ 社会情勢に関連した当館の対応

インターネット上に公開されている静岡県内自治体の行政資料PDFを自動収集するためにシステム(クローラ)を開発し、令和6年9月30日から、許諾のあった県機関、市町から収集した約35万件について公開を開始している。令和7年6月には、県内の全ての市町の許諾を得た。引き続き、システムの運用、資料の利活用の方法等について検討していく。

非来館型サービスとして実施しているインターネット予約による市町立図書館等受取サービスでは、令和7年度末現在、受取館23館、令和8年4月からは25館でサービスの提供を行っている。

令和8年3月「静岡県立中央図書館デジタルライブラリーふじのくにアーカイブ」を「静岡県立中央図書館デジタルアーカイブ」に改称した。

令和8年3月11日は東日本大震災から15年ということもあり、地震への安全対策を再確認するとともに、当館では、緊急地震速報受信機を設置し、利用者と職員の安全を守る対策を行った。

コ こども読書活動推進計画

静岡県では、『「本とともだち」プラン-第三次静岡県子ども読書活動推進計画(後期計画)』に基づき、こどもの読書活動を推進するための取組を行ってきたが、令和7年度で計画年度が終了することに伴い、これまでの成果と課題を踏まえて令和8年3月に『「本とともだち」プラン第四次静岡県子ども読書活動推進計画』を策定した。

(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組

東静岡駅南口への移転開館を目指していた新県立中央図書館の整備計画は、令和6年度に設計業務が完了し、令和6年10月に建築工事の入札公告を行ったが、応札者がなく不調となった。整備に充当予定だった国庫交付金の大幅な減少も見込まれたことから、計画の見直しを余儀なくされた。令和7年12月に見直しの方向性が示された。(詳細はp38参照)

これを受け、新図書館整備課とともに「新図書館課題検討チーム」と「現図書館課題検討チーム」を設置し、新図書館と現図書館の課題について検討を始めた。

(3) 県内市町の新図書館設置の動き

ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市立図書館（本館）	23	23	23	23	23
同（分館）	59	59	59	59	59
町立図書館	11	11	11	11	11
合 計	93	93	93	93	93

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門31、合計127館（分館を含む。）

イ 新図書館建設の動き

(7) 伊東市立図書館

令和4年1月 伊東市新図書館基本計画を策定

3月 伊東市新図書館基本設計の概要を公表。令和6年度中の開館を予定。

令和5年5月 建設工事の入札が不調となる。

8月 再入札に向けて検討したが、資材価格や人件費の高騰を考慮して、当面の間、入札を見送ることを市長が発表。

11月 現計画のコンセプトや概念は維持しつつ、縮小するための再設計を実施することを発表。最速で令和7年4月に入札、7月に着工、令和9年の開館を目指すこととなった。

令和7年5月 市長選挙が行われ、新図書館建設中止を公約とした候補が当選した。新市長就任直後、新図書館建設入札中止の方針を発表し、新図書館の建設は白紙となった。

(4) 新御殿場市立図書館（令和8年7月開館予定）

令和4年1月 基本計画及び基本・実施設計業務委託契約を締結

11月 御殿場市立図書館等整備基本計画を策定

令和5年8月 実施設計を発表

10月 建築工事の入札が不落

12月 再度入札で施工業者が決定、着工

令和7年9月 世界的な物流の混乱や国内での需要の高まりから、建物構造のメインとなる主要建材（鉄骨材）が供給不足になるなどの事態が発生し、開館予定時期を令和8年4月から7月に変更すると発表。

(4) 県内図書館その他の動き

ア 令和7年台風15号への対応

令和7年9月4日から9月5日昼過ぎを中心に、台風15号の影響で静岡県では暴風や記録的な大雨となった。また、牧之原市から吉田町にかけては、大気の状態が非常に不安定となり竜巻が発生するなど、突風による被害が発生した。

県内図書館では、牧之原市立図書館が大きな被害を受け、文化の森図書館「いろ葉」では浸水や停電による臨時休館・BM休止・予備資料被害が発生した。また、「いろ葉」が入る榛原文化センターが避難所となったため、職員は充電スポット業務などにも対応することとなった。ほかの図書館でも、9月5日の午後、台風の接近に備えて臨時休館、または閉館時刻を早めるなどの対応をする館がいくつかあった。牧之原市立図書館は、災害により借りている資料が汚損等した場合は、弁償が免除できる場合がある「紛失、汚損又は破損した図書館資料の弁償免除」制度を受け付けた。

イ その他

- ・静岡県立中央図書館は、令和7年開館100周年を迎えるにあたり、年度を通して記念事業を行った。
- ・静岡県立中央図書館は、令和7年10月、どんぐりひろばに「りんごの棚」を設置した。
- ・熱海市立図書館は、令和7年開館110周年を迎えるにあたり、9月から12月まで毎月記念講演会を実施した。
- ・下田市立図書館は、三島由紀夫生誕100年記念講演会・ライブを開催した。
- ・伊東市立図書館は、12月「りんごの棚」を設置した。
- ・函南町立図書館は、3月「りんごの棚」を設置した。
- ・御殿場市立図書館は、9月1日から電子図書館サービスを開始した。また、新図書館開館準備のため、12月28日に現図書館を閉館した。新図書館は令和8年7月開館予定。
- ・富士市立中央図書館は、4月から電子雑誌閲覧サービスを開始した。
- ・焼津市立大井川図書館は、「ゲーミングアワード2025」大賞を受賞した。
- ・島田市立図書館は、4月「りんごの棚」を設置した。
- ・島田市立川根図書館は、移転開館10周年記念事業展示「キンダーブックでみる戦後80年」を静岡福祉大学附属図書館による企画展として開催した。また、同じく移転開館10周年記念事業として、川根小学校特別講座「楽しい児童絵本と童謡講座」を開催した。
- ・牧之原市立文化の森図書館は、榛原高等学校共催「いろ葉」一周年記念行事及び来館者10万人セレモニーを開催した。
- ・浜松市立西図書館は、7月1日西伊場のスマートタウン内に移転オープンした。
- ・東都大学附属図書館沼津分館は、4月静岡県図書館協会に加盟した。
- ・県立農林環境専門職大学図書館は、10月31日におうだんくんサーチ（静岡県内図書館横断検索システム）検索対象館と宅配对象館に加わった。

(5) 静岡県図書館大会、関係団体実施事業等の開催

ア 第32回静岡県図書館大会兼令和7年度全国公共図書館研究集会（※詳細は9振興班(3)令和7年度第32回静岡県図書館大会p133を参照）

令和7年12月1日にグランシップで開催した。全国公共図書館研究集会を兼ねての開催となり、午前は開会式、表彰式のあと、日本大学文理学部教授の大場博幸氏に「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援」と題して講演いただいた。午後には6つの分科会で多彩な講師陣による講演を行い、全体で749人が参加した。なお、講演会と第6分科会が全国公共図書館研究集会として行われた。また、令和7年12月25日から令和8年2月10日までの間、講師の許諾の範囲内で、申込制によるYouTube配信を行った（累計閲覧回数1,907回。）。

イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、令和6年度から図書館大会の共催団体の一つとなり、第3分科会（子どもの読書活動）を担当した。例年実施している全体研修会では、2月14日に（株）福音館書店編集部石田栄吾氏に「月刊『たくさんのふしぎ』の40年～世界は『ふしぎ』にみちている～」と題して講演いただいた。

2 利用状況統計

(1) 県立中央図書館利用状況

令和7年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

年・月	開館日数	入館者数		新規登録者数	貸出人数	貸出数			
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	合計
7・4	26	12,360	475	188	1,788	7,931	811	192	8,934
7・5	28	15,155	541	1,162	1,867	8,531	770	213	9,514
7・6	27	14,688	544	340	1,673	7,748	702	132	8,582
7・7	28	14,195	507	247	1,974	8,455	731	168	9,354
7・8	28	17,106	611	617	2,097	9,386	744	210	10,340
7・9	26	12,902	496	185	1,718	7,647	618	182	8,447
7・10	28	19,017	679	150	1,828	8,046	646	199	8,891
7・11	27	21,436	794	144	1,738	7,546	670	149	8,365
7・12	25	16,302	652	133	1,677	7,779	742	151	8,672
8・1	11	5,222	475	70	1,025	5,466	583	84	6,133
8・2	25	12,648	506	141	1,699	8,363	887	114	9,364
8・3	27	12,062	447	126	1,614	7,514	824	128	8,466
合計	306	173,093	566	3,503	20,698	94,412	8,728	1,922	105,062

新規登録者数のうちWeb申込登録者数	2,235
令和7年度末有効登録者数	95,596

(2) 協力貸出

(単位：点)

年・月		7 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	8 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	299	312	411	387	373	297	342	356	211	213	414	369	3,984
	雑 誌	43	46	42	40	40	43	39	18	19	25	32	30	417
	視 聴 覚	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2	6
町立 図書館	図 書	42	53	39	54	63	48	48	42	31	37	56	56	569
	雑 誌	0	4	0	6	3	0	2	0	5	4	3	1	28
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学・専門 図書館	図 書	25	34	43	22	31	46	32	14	24	9	18	43	341
	雑 誌	1	4	4	2	4	2	7	2	8	2	7	7	50
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	図 書	366	399	493	463	467	391	422	412	266	259	488	468	4,894
	雑 誌	44	54	46	48	47	45	48	20	32	31	42	38	495
	視 聴 覚	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2	6
総計		410	453	539	512	514	436	470	433	298	290	532	508	5,395

※町立図書館には条例未設置町の図書室を含む。

(3) レファレンス

(単位：件)

年・月		7 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	8 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		166	232	133	151	232	171	265	118	169	80	167	246	2,130
(静岡県関係)		45	61	40	39	92	83	72	26	52	26	45	99	680
所蔵・所在調査		260	221	232	240	228	229	203	245	159	88	213	172	2,490
(静岡県関係)		100	80	52	35	51	45	30	41	34	19	40	46	573
合 計		426	453	365	391	460	400	468	363	328	168	380	418	4,620
(静岡県関係)		145	141	92	74	143	128	102	67	86	45	85	145	1,253

(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

区分	年・月												合計	
	7 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	8 ・ 1	2	3		
16mmフィルム	6	6	6	0	6	6	6	6	6	6	0	6	6	60
ビデオテープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	6	6	6	0	6	6	6	6	6	6	0	6	6	60

(5) 歴史文化情報センター利用状況

(単位：人、件)

年・月													合計
	7 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	8 ・ 1	2	3	
資料閲覧点数	18	10	11	0	29	20	30	26	18	9	18	0	189
資料掲載等許可件数	3	1	4	3	5	2	1	3	8	1	3	3	37
レファレンス件数	3	8	5	3	7	2	3	2	6	0	3	1	43

(6) 電子図書館利用状況

(単位：件)

年・月													合計
	7 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	8 ・ 1	2	3	
閲覧数	762	829	1,900	984	1,254	1,246	1,552	1,008	954	1,130	858	1,094	13,571
試し読み	21	18	771	16	12	38	51	27	37	25	29	26	1,071
リクエスト件数	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	6

3 図書館資料充実状況

(1) 図書資料

(単位：冊)

分類	令和6年度末蔵書数	令和7年度中増減				令和7年度末蔵書数		
		受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)	
一般資料	0 総記	66,190	1,501	8	286	1,779	67,969	6.8
	1 哲学	35,063	472	0	0	472	35,535	3.6
	2 歴史	65,114	790	28	△9	753	65,867	6.6
	3 社会科学	162,243	2,390	7	△4	2,379	164,622	16.6
	4 自然科学	57,674	1,217	210	△18	989	58,663	5.9
	5 技術	59,400	1,003	13	0	990	60,390	6.1
	6 産業	42,498	643	7	0	636	43,134	4.3
	7 芸術	45,746	872	62	△11	799	46,545	4.7
	8 言語	14,237	226	59	△15	152	14,389	1.4
	9 文学	65,498	974	9	0	965	66,463	6.7
	小計	613,663	10,088	403	229	9,914	623,577	62.7
児童資料	児童日本語(研究)	109,102	4,048	0	26	4,074	113,176	11.4
	児童日本語(貸出)	25,077	1,028	12	△255	761	25,838	2.6
	児童外国語(研究)	1,220	13	0	0	13	1,233	0.1
	児童外国語(貸出)	90	0	0	0	0	90	0.0
	小計	135,489	5,089	12	△229	4,848	140,337	14.1
K 旧分類資料	40,678	0	0	0	0	40,678	4.1	
S 地域資料	166,086	4,487	8	0	4,479	170,565	17.1	
G 外国語資料	12,921	277	0	0	277	13,198	1.3	
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0
	久能文庫	2,455	0	0	0	0	2,455	0.2
合計	975,103	19,941	423	0	19,518	994,621	100.0	

※比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	その他	合計
一般資料	9,152	777	12	138	9	0	10,088
児童資料	5,006	0	0	83	0	0	5,089
地域資料	1,056	2,067	259	106	2	997	4,487
外国語資料	238	39	0	0	0	0	277
合計	15,452	2,883	271	327	11	997	19,941

※平成 26 年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※地域資料のその他についてはp114 を参照

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区 分	令和6年度末 所蔵数	令和7年度受入数							令和7年度末 所蔵数
		購入	寄贈	分類換	区分換	払出	類換	合計	
視聴覚資料	4,650	43	25	662	0	1	0	729	5,379
内 訳	ビデオテープ	1,816	0	0	0	0	0	0	1,816
	DVD	2,427	37	9	660	0	1	0	3,132
	朗読CD等	405	6	16	2	0	0	0	429
	カセットテープ	2	0	0	0	0	0	0	2
電子資料	1,986	32	8	31	0	0	0	71	2,057
内 訳	一般	180	4	5	0	0	0	9	189
	児童資料	57	3	0	0	0	0	3	60
	新聞雑誌	655	25	0	0	0	0	25	680
	地域資料	741	0	3	31	0	0	34	775
	貴重資料	353	0	0	0	0	0	0	353
小計	6,636	75	33	693	0	1	0	800	7,436
マイクロフィルム	11,113	86	0	0	0	35	0	51	11,164
内 訳	新聞雑誌	7,417	86	0	0	35	0	51	7,468
	貴重資料・地域資料	3,696	0	0	0	0	0	0	3,696
合計	17,749	161	33	693	0	36	0	851	18,600

※平成 26 年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※マイクロフィルム（地域資料） マイクロフィッシュ 1 点を含む。

〈除籍数の内訳〉

(単位：点)

区 分	内 訳	点 数
一般資料	汚破損資料	10
	複本資料	390
	価値減少資料	1
	館長が除籍対象と認める資料	2
児童資料	汚破損資料	11
	複本資料	1
地域資料	複本資料	7
	第二種図書へ分類換え資料	1
視聴覚資料	汚破損資料	1
マイクロフィルム	汚破損マイクロフィルム	35
合計		459

(3) 逐次刊行物（新聞・雑誌）

(単位：タイトル)

総タイトル数			左記のうち令和7年度継続受入タイトル数								
			購入			寄贈			合計		
雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
9,965	56	10,021	540	22	562	1,123	20	1,143	1,663	42	1,705

※内訳はp107参照。

(4) 電子書籍

(単位：点)

分類	令和7年度末 電子書籍数
0 総記	294
1 哲学	312
2 歴史	385
3 社会科学	820
4 自然科学	374
5 技術	366
6 産業	212
7 芸術	285
8 言語	448
9 文学	92
未分類	16
合計	3,604

4 図書班

(1) 図書資料の充実

県立図書館として必要な資料の選定は全職員で定期的に行い、速やかに発注し、受け入れた。

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課の職員を0類、1・2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。令和7年度の一般資料受入冊数は10,088冊で、購入資料の平均単価は約4,465円（前年度は約4,240円）であった。受入冊数は前年度より2,181冊減少した。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、子どもコーナー「どんぐりひろば」配架用の本などの複本を1,028冊受け入れた。児童資料の受入冊数は5,089冊（日本語5,076冊）で、購入資料の平均単価は、1,996円であった。

新館用資料として、令和5年度から児童資料を、令和6年度からティーンズ向け資料を購入し始めたが、令和7年6月に新館建築計画の見直しにより、新館用資料購入費の引き上げがあり購入を中止した。

(2) 視聴覚資料の充実

視聴覚資料は35点を受け入れた。購入資料は、継続的に収集しているシリーズの追加や自然科学や芸術関係のDVDや朗読CDなどの資料を受け入れた。

(3) 図書館利用状況

ア 入館者数

令和7年度の入館者数は、173,093人で、前年度（155,892人）と比較して17,201人増加した。隣接する県立美術館で行われた「金曜ロードショーとジブリ展」が影響したものである。

イ 登録者数

令和7年度の新規登録者数は3,503人であった。前年度（2,586人）と比較して917人増加したが、電子申請での団体利用者登録が増加したものによる。

ウ 貸出状況

令和7年度の個人利用者への貸出点数は、p93の表のとおりである。

貸出状況は、前年度と比較して、人数では320人、点数では4,484点減少した。

(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

ア 予約・リクエストの状況

予約点数は20,164点（前年度20,291点）で、そのうちWeb予約は19,906点（前年度19,978点）と全体の9割以上を占めている。

令和7年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入	
			市町立	個人
図書・雑誌	20,055冊（19,797冊）	277冊	256冊	183冊
視 聴 覚	109点（109点）	0点	0点	0点
合計	20,164冊／点（19,906冊／点）	277冊	439冊／0点	

※予約の（ ）内は、Web予約の数

イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、5,395冊（前年度5,728冊）と減少した。県外図書館への貸出は、196件259冊（前年度230件332冊）と減少、公共機関等貸出については10件256冊（前年度4件82冊）であった。

県内外の図書館からの借受は、260件277冊（前年度208件220冊）と増加、うち国立国会図書館からの借受は2件2冊（前年度2件2冊）であった。

令和7年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国立国会図書館	—	2件／2冊
県外図書館	196件／259冊	66件／83冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 5,395冊・点 図書・雑誌 5,389冊 視聴覚資料 6点	192件／192冊
県内公共機関等	10件／256冊	—

(5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点収集（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）を行っている。子ども図書研究室は、こどもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室、平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

令和2年度からはグランシップ「えほんのひろば」移転に伴う、本館子どもコーナー「どんぐりひろば」開室のため、子ども図書研究室に配架していた貸出用資料を子どもコーナーに移動した。令和2年10月から毎週日曜12時30分から16時、令和4年度からは、土日祝日を含むすべての図書館開館日の14時から17時まで職員が在室し、開室している。

ア 収集状況

児童書蔵書数 140,337冊（令和8年3月31日現在）

イ 利用状況

年度	開室日数	入室者総数
令和6年度	304日	878人
令和7年度	306日	1,132人

ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。

※個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

エ 子ども図書研究室講演会

こどもと本を結びつける活動をしている人を支援するため、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員、ボランティア等から一般県民（中学生を除く15歳以上）までを対象とした講演会を、年1回実施している。

令和7年度は、瀧薫氏（社会福祉法人子どものアトリエ理事長、大阪芸術大学短期大学部教授）を講師に迎え、「豊かな心を育む絵本の世界」と題し、絵本がこどもの心の発達に与える影響について、様々な絵本を実際に読んだり、わらべうたの実演もしていただきながらご講演いただいた。本事業では初めてのライブ配信形式での開催とした。ライブ動画を録画し、後日動画を配信した。

日 時	7月15日（火） 14:00～16:00
会 場	会場で参加：静岡県立中央図書館 中集会室、 自宅等で参加：ライブ配信（Zoom）
講 師	瀧 薫 氏（社会福祉法人子どものアトリエ理事長、大阪芸術大学 短期大学部教授）
参加人数	会場4人、ライブ配信34組
動画配信	静岡県立中央図書館公式YouTubeチャンネル
配信期間	7月29日（火）から10月31日（金）まで
再生回数	921回

オ 新刊児童図書出張展示研修会（旧新刊児童図書巡回展示研修会）

『静岡県子ども読書活動推進計画（第三次計画）』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館を支援、児童資料の充実及び選書に携わる職員の資質向上を図るための研修会を実施している。当館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、当館職員による新刊児童図書紹介を行い、参加者からの資料相談にも応じた。

日 時	9月17日（水） 13:00～15:30
会 場	藤枝市立駅南図書館
講 師	資料課職員
参加人数	27人

カ 新刊児童図書巡回貸出事業

子ども図書研究室で全点購入している新刊児童図書をより広く有効活用するとともに、県内市町立図書館及び学校図書館職員のレベルアップ、県全体の児童サービスの向上を目指す目的で行った。1回300冊程度の資料を協力館に貸し出し、貸出期間で近隣の図書館及び学校図書館職員が児童資料を閲覧、選書等に役立ててもらおう。令和7年度は2館（東伊豆町立図書館、浜松市立中央図書館）で2回ずつ行った。当事業の利用者、県内図書館へ実施についてアンケートを行った。

令和7年度

会 場	東伊豆町立図書館、浜松市立中央図書館		
対 象	静岡県内の公共図書館職員、協力館近隣市町の学校教職員		
貸出資料	第1回	181冊（全点収集資料のうち選定候補となる図書）	
	第2回	407冊（全点収集資料）	
貸出期間 （利用人数）	協力館	東伊豆町立図書館	浜松市立中央図書館
	第1回	7月4日～24日（4人）	8月4日～31日（10人） 外部への公開：8月16日～18日
	第2回	8月1日～28日（7人）	9月3日～9月30日（80人） 外部への公開：9月5日～7日

キ 子ども図書研究室だより発行 No.108(R7.11)

配布先：県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関（三ヶ日青年の家等）、
図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

ク テーマ絵本貸出

平成23年7月より「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とした、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対するテーマ別絵本の貸出しを実施している。1セット20冊とし、各セットの絵本は重複しないよう配慮している。イベント等での展示や貸出しなど、実際にこどもが手にとって利用することを

想定したテーマ設定を行っており、具体的なテーマは「読み継がれてきた絵本」「食べもの」「お菓子」「日本の昔話」「世界の昔話」「グリム」「犬」「猫」「ねずみ」「くま」「虫」「夜」「月」「友だち」「兄弟姉妹」「誕生日」「山」「遊び」「おえかき」「音楽」「服」「字のない絵本」と現在22セットある。

令和7年度利用はなかった。

ケ 視察・見学等

令和7年度、視察・見学はなかった。

コ 講師派遣事業

県内各市町立図書館及び学校図書館等における児童図書資料に関わる研修に、県立中央図書館の児童サービス担当職員を講師として派遣する事業を平成30年度から試行的に開始し、令和元年に本格実施した。

令和7年度実績 3団体 63人受講

	団体名	実施日	人数	内容
1	吉田町教育委員会（読み聞かせボランティア・学校図書館司書）	7月17日（木）	30	知識の本について
2	さくらんぼ（静岡市立蒲原図書館ボランティア）	9月26日（金）	16	小学校高学年から中学生への読書案内
3	函南町立図書館	2月24日（火）	17	ブックトーク入門

サ 子ども図書新刊紹介（旧新刊児童図書紹介）

こどもの読書活動関係者に向けて職員が新刊児童図書の紹介を行い、参加者の情報交換や交流の場として開催している。令和7年度は「新刊児童図書紹介」から「子ども図書新刊紹介」に事業名を変更した。開催時間を30分繰り上げることで参加者の自由閲覧時間を確保した。

動画配信は「知識の本」「読み物」「絵本」の3本に分けて作成した。集合形式は、実際に手に取って内容を確認できる、詳しく話を聞くことができる等の点で好評を得た。一方、動画配信は、当館までの距離や時間の都合で参加できなかった方も参加できる、繰り返し見られる等の点で好評を得た。

回次	1	2	合計
実施日	8/2	2/25	
参加者	15人	7人	22人
配信期間	8/15～10/10	3/13～4/30	合計
再生回数	564回	330回	894回

シ 団体利用

子ども図書研究室を、全点収集資料を利用した選書会等の会場として、県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体に、予約制で提供している。

利用団体数	6団体
利用人数（延べ）	110人

ス 選定図書リストの公開

平成29年度から、子ども図書研究室の全点収集児童書のうち、こどもと本をつなぐ活動をしている方々の選書の参考になるよう、職員が選定した図書リストをWebサイトで公開している。

令和7年度は13回、301冊を選定図書として公開した。

セ 展示一覧

子ども図書研究室内に2つのスペースを設け、展示を行っている。季節の展示コーナーでは、県内市町立図書館及び学校図書館の展示に参考になるよう、少し先の季節の本を展示している。テーマ展示コーナーでは、子ども図書研究室講演会や静岡県図書館大会関連資料、課題図書等の他、その年に周年を迎える作家や作品に関連する展示を実施している。その他、著名な絵本作家等が亡くなられた際には、随時、追悼展示を行っている。

	季節の展示	テーマ展示	その他
4月	海の本	こどもの本に関する賞	
5月		令和6年度当館選定図書	
6月	新しい知識の絵本	子ども図書研究室講演会関連図書	
7月		2025 夏の課題図書等	
8月	きのこと木の実の本		
9月			
10月	新しいクリスマスとお正月の絵本	渡辺鉄太さん、渡辺茂男さんの本(静岡県図書館大会関連資料)	
11月			
12月	チョコレートの本	第37回読書感想画中央コンクール	
1月	卒園・卒業と入園・入学の本		
2月			
3月	雨の本	こどもの本に関する賞	

ソ その他

- ・静岡県私立幼稚園初任者研修 講師
- ・静岡県公立幼稚園等初任者研修 講師
- ・静岡県社会教育課「静岡県読み聞かせアドバイザー養成講座」 講師
- ・静岡市教育センター「学校司書研修会」 講師
- ・静岡県総合教育センター「みんなでつくろう学校図書館」 講師

(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」

子どもコーナー「どんぐりひろば」は、本館2階に位置し、一般児童書約3,000冊（読み物約2,000冊、知識の本約1,000冊）絵本約6,000冊を配架している。児童に対する直接サービス以外にも県立中央図書館移転までの新館における児童サービスの事前準備・調査・研究を行う。

ア 利用状況

年度	開室 日数	入室者 総数	新規 登録者数	貸出 人数	貸出数			
					図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚 (点)	合計
令和6年度	304	8,619	156	1,980	14,241	119	2	14,362
令和7年度	303	10,539	141	1,973	13,159	222	4	13,385

※「どんぐりひろば」の利用状況は本館利用状況に含まれる

イ おはなしかい活動実績（令和7年4月～令和8年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10：30～	44	227人	5.2人	職員が実施
毎週木曜日10：30～	17	55人	3.2人	4つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15：30～	45	67人	1.5人	職員が実施
第1及び第3日曜日 10：30～	17	151人	8.9人	2つのボランティアグループが交代で実施
その他 (6/29、10/26、 12/14、2/22)	4	72人	18.0人	<おはなしかいスペシャル> ボランティアグループが不定期で実施（絵本の読み聞かせの他、歌や芝居なども含む）。

ウ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの本	はるのえほん
5月	のりものの本	おかあさんのえほん
6月	虫の本／子ども図書研究室講演会関連資料	おとうさんのえほん
		あめのえほん
7月	知識の絵本	たなばたのえほん
		なつのえほん
8月		よるのえほん
		おつきさまのえほん
9月	おじいさん・おばあさんの本	
10月	おばけ・魔女の本	
11月	音楽の本	あきのえほん
12月	食べものの絵本	クリスマスのえほん
	馬と十二支の本	おしょうがつのえほん
1月	鬼と豆の本	ふゆのえほん
2月	木の本	
3月	花の本／竹下文子さん追悼展示	はるのえほん

エ りんごの棚の設置

すべてのこどもに読書の喜びを体験してもらうことを目的に、だれでも利用できる様々な種類の本を集めた「りんごの棚」を令和7年10月に開始した。大活字本、点字絵本、布の本、LLブック、デイジー資料を配架するとともに、資料案内やリーディングトラッカー、プレクストーク（デイジー再生機器）等のツールを置き、利用者にアクセシブルな資料の周知及び利用促進を行った。

オ その他

グランシップイベント「世界のこども劇場 2025」（8月1日～3日）に、「帰ってきた！えほんのひろば」として参加し、絵本の出張展示及びおはなしかいを実施した。おはなしかいはボランティアグループの協力を得て各日実施し、計89人の参加があった。

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

令和7年度の視聴覚資料の受入数はなかった。

再生機器のないレーザーディスク・Uマチックビデオ及び利用のないVHSビデオテープ437点を除籍した。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	令和6年度末 所蔵数	令和7年度受入数			令和7年度 除籍数	令和7年度末 所蔵数
		購入	寄贈	合計		
16ミリフィルム	1,436	0	0	0	0	1,436
ビデオテープ	3,328	0	0	0	370	2,958
D V D	72	0	0	0	0	72
その他※	295	0	0	0	67	228
合計	5,131	0	0	0	437	4,694

※その他（スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等）

イ 貸出数

(単位：点)

	社会教育関係	学校教育関係	合計
16ミリフィルム	48	12	60
ビデオテープ	0	0	0
D V D	0	0	0
その他	0	0	0
合計	48	12	60

(8) 展示他

特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施行事、時事等にあわせて展示をした。

展示期間	テーマ・時事
令和7年4月2日～4月29日	図書館記念日
5月1日～6月1日	古代エジプトの神秘
6月3日～7月6日	教科書展示（調査課地域調査班）
6月3日～6月29日	男女共同参画おすすめBOOK
7月1日～7月30日	英語で多読にチャレンジ！
7月8日～7月30日	創立100周年記念「100の本」第一弾 ようこそ、100年の図書館へ。
8月1日～8月28日	創立100周年記念「100の本」第二弾 100年前の本に触れる
8月1日～8月28日	「一郎くんの写真」と静岡の戦争 （調査課地域調査班と連携）
8月30日～9月28日	創立100周年記念「100の本」第三弾 100をキーワードにした本
10月1日～10月30日	ようこそスタジオジブリの森へ

11月1日～11月27日	SPAC秋のシリーズ シェイクスピアとその時代
11月29日～令和8年1月15日	秀長と秀吉（NHK大河ドラマ関連）
令和8年1月31日～2月26日	「富士山をカガクする」山梨県立図書館連携展示（企画振興課企画班）
2月28日～3月29日	2024・2025年新聞書評で話題！注目の本

(9) 資料データ整備

浙江省交換資料のうち平成10年から11年に受け入れた資料について、目録があるのみで書誌がなかった。令和5年度静岡県立大学グローバル地域センターの横井香織特任准教授より浙江省文庫の書誌作成について協力の申し出があった。令和5年度から書誌データ作成のため作業を依頼している。



10月1日 「りんごの棚」開設

5 新聞雑誌班

(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル10,021タイトルで、内1,705タイトル（購入562、寄贈1,143）を継続して収集し、保存している。そのうち、新聞は56タイトル（内42タイトル継続）である。

寄贈雑誌は35タイトルを新規に受け入れた。地域雑誌は、静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルを積極的に受け入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞（静岡版及び県内版替分）、中日新聞（東海本社版）、毎日新聞（静岡版）、読売新聞（静岡版）、日本経済新聞（地方版）を継続受入した。

（単位：タイトル）

分類	総タイトル数			左記のうち令和7年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,504	35	2,539	66	16	82	190	13	203	256	29	285
1 哲学	157	0	157	13	0	13	25	0	25	38	0	38
2 歴史	603	2	605	29	0	29	115	2	117	144	2	146
3 社会科学	2,608	11	2,619	141	2	143	326	3	329	467	5	472
4 自然科学	574	0	574	58	0	58	100	0	100	158	0	158
5 技術	1,104	4	1,108	99	1	100	109	2	111	208	3	211
6 産業	1,053	3	1,056	26	3	29	75	0	75	101	3	104
7 芸術	421	1	422	53	0	53	70	0	70	123	0	123
8 語学	80	0	80	9	0	9	8	0	8	17	0	17
9 文学	861	0	861	46	0	46	105	0	105	151	0	151
計	9,965	56	10,021	540	22	562	1,123	20	1,143	1,663	42	1,705

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

(2) 提供情報の充実

ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしており、利用者端末や当館Webサイトからキーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できる。

イ 特集展示

雑誌の特集展示は、定期的に関覧室の雑誌コーナー及び総合案内カウンター前で行い、利用者の興味関心が高まるような展示に努めている。

展示テーマは次のとおりであり、雑誌コーナーでは、季節や社会情勢に関連したテーマ展示を、総合案内カウンター前では、新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等を紹介している。

	雑誌コーナー	総合案内カウンター前
3・4月	芸術を楽しむ	雑誌『全国バンド図鑑』
5・6月	園芸・ガーデニング	雑誌『トランヴェール』
7・8月	100	雑誌『AZALEA Vision』
9・10月	動物・ペット	雑誌『日中友好協議会(NEWS LETTER)』
11・12月	冬のおたのしみ	雑誌『ははこぐさ』
1・2月	冬季オリンピック・パラリンピック	雑誌『文芸富士』
3・4月	はじめよう新生活	雑誌『てくてく太田川』

ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進し、利便性を高めるために、現在は25タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている（総タイトル数47）。目次を入力した地域雑誌はそれぞれの巻号の目次一覧を見ることができ、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されていることから、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入力に努める。

エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からWeb公開を始めた「静岡県内新聞雑誌総合目録」には、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報が掲載されている。県内で初めて所蔵する雑誌については書誌データを当館で入力し、そのデータを基に、県内各市町立図書館（室）が自館の所蔵情報を更新する。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、令和7年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修をYouTubeによるWeb配信で行った。

当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているため、検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるため、検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待している。

(3) その他

特別整理休館時に、劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理やシリカゲルの交換作業を行い、資料の適切な保管に努めている。

使用していたマイクロフィルムリーダーMicroSP7000MK IIの部品供給が終了したため、令和6年5月から新機種LegendScannerLS5100Rに機種変更した。

令和6年度から設置したワークステーション（障害者雇用）を活用しバーコード未貼付雑誌の貼付業務を開始した。

書庫狭隘化の解消のため、書庫10にあった大学紀要等の資料を外部保管とした。

6 一般調査班

(1) レファレンスサービス

ア 令和7年度レファレンスサービスの概要

令和7年度のレファレンス総件数は4,620件で、令和6年度から若干の減少となった。

質問形式別の件数を見ると、メールによる質問が減少しており、令和6年度と比べて77件減少した。メールによる質問は以前から減少傾向であり、インターネットによって自分で比較的容易に調査できる範囲が拡大したことなどによるものと考えられる。

調査種別では、所蔵・所在調査が2,490件、書誌・文献・事実調査は2,130件だった。令和6年度に大幅に減少した所蔵・所在調査の件数が下げ止まった一方、書誌・文献・事実調査の件数が減少した。

書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の31.9%である。分類別では、多い順に7類（芸術・スポーツ）、2類（歴史・人物・地理）、0類（叢書・新聞）、3類（社会科学）となり、これらで全体の約8割を占めた。

当館が調査・回答したレファレンス事例について、国立国会図書館のレファレンス協同データベースでの事例公開に積極的に取り組み、令和7年度だけで過去20年以上の公開件数を上回る188件の事例を公開した。AI等の日常生活への浸透に伴い、偽・誤情報などの問題が生じている現状もあることから、今後もレファレンス事例の公開の取組を継続し、典拠を示して回答するレファレンスサービスの意義を伝えるとともに、レファレンスサービスの認知度向上を図りたい。

令和7年度レファレンス件数

(単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	2,130	うち静岡県に関するもの	680
②所蔵・所在調査件数	2,490	うち静岡県に関するもの	573
合計	4,620	うち静岡県に関するもの	1,253

イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分でも調べられる、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題した「テーマ別調べ案内」を作成している。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるよう閲覧室内に配置しているほか、当館Webサイトでも「パスファインダー一覧」としてPDFで公開している。令和7年度は一部内容を見直し、改訂を行った。

ウ オンラインデータベースの充実

(ア) 導入オンラインデータベース

ジャパンナレッジLib、第一法規法情報総合データベース、TKCローライブラリー、朝日新聞クロスサーチ、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス、毎索、中日新聞・東京新聞記事データベース、医中誌Web、ヨミドクター、ルーラル電子図書館、官報情報検索サービス、ざっさくプラス、JDreamⅢ、レファコレ(人物レファレンス事典plus)、国立国会図書館デジタルコレクションの16種類のデータベースを導入している。

(イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	7/4	5	6	7	8	9	10	11	12	8/1	2	3	計
ログイン数	180	208	285	157	140	94	119	130	162	94	158	169	1,896
検索件数	6,031	5,167	7,743	8,396	16,145	2,283	7,675	3,275	30,195	3,561	10,947	15,639	117,057

※ログイン数は、第一法規法情報総合データベース、朝日新聞クロスサーチ、毎索、医中誌Web、ジャパンナレッジLib、TKCローライブラリー、JDreamⅢ、レファコレのもの。

※検索件数は、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス、中日・東京新聞記事データベース、ルーラル電子図書館、ざっさくプラス、国立国会図書館デジタルコレクションのもの。

(ウ) オンラインデータベース活用講座の実施

令和7年度は第一法規株式会社販売促進第一部の山内享郎氏を講師に招き、「第一法規法情報総合データベース」の活用方法の講座を行った。

実施日	内容	受講者数
10月18日（土）	「くらしに役立つ法律講座～法情報データベースの使い方・活かし方」	16人

(2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修（レファレンス基礎研修）と専門研修（レファレンス応用研修）を一般調査班が担当した。

基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「レファレンス概論」、「基礎的な参考図書を紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義と演習を行った。会場は、中部は当館、西部は静岡県総合教育センター、東部は三島市立図書館で、参加申込みの多かった中部を2グループに分け2回行ったため、計4回実施した。

応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修であり、「統計情報の探し方」と「レファレンス演習」の2つを行った。

レファレンス基礎研修 実施状況

実施日	地区	受講者人数	実施日	地区	受講者数
5月16日（金）	中部	22人	5月21日（水）	中部	20人
5月27日（火）	西部	17人	6月5日（木）	東部	16人

レファレンス応用研修 実施状況

実施日	会場	受講者数
10月29日（水）	静岡県立中央図書館	38人

イ 教職員対象の研修の実施

静岡県総合教育センター主催で行われた「紙とデジタルのベストミックスで情報活用能力を育む授業づくり（学校図書館活用研修）」に一般調査班員が講師として参加し、「著作権と教育活動・学校図書館」をテーマに講義を行った。参加者は主に高等学校の教員であったが、小中学校や特別支援学校の教員の参加もあった。講義では、著作権法の基本的事項や学校教育における著作権法の取扱い、近年の著作権法改正などについて説明を行った。

実施日	内容等	受講者数
9月26日（金）	学校図書館活用研修『著作権と教育活動・学校図書館』 会場：静岡県総合教育センター	30人

ウ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成22年度以降、県内市町立図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査班員を講師として派遣し基礎的な内容の講義や演習を行う「レファレンス等出前研修」を企画・実施している。

テーマは、「レファレンス概論」「参考図書で調べる」「資料をインターネットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つを設定し、自由に選択できるようにしている。

令和7年度の総受講者数は79人だった。

出前研修実施状況

実施日	会場	受講者数	実施日	会場	受講者数
12月3日（水）	沼津市立図書館	42人	12月17日（水）	島田市立島田図書館	17人
12月25日（木）	下田市立図書館	3人	1月30日（金）	三島市立図書館	17人

(3) 特別取扱資料等の保存と公開

ア 特別取扱資料の保存

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理しているが、今年度は、両書庫とも空調設備の更新を行った。また、害虫対策として、令和7年7月31日の図書館休館日に、エコミュアFTドライを使用して収蔵庫と貴重書庫の薫蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、職員の目視により平成23年度から計画的に修復及び保存作業を進めてきたが、デジタル化されている葵文庫・久能文庫資料について、令和2年度に専門業者による資料の破損や汚損状況の調査を行い、この調査結果をもとに、破損・汚損状況の激しい資料から順次、修復・整備し、引き続き貴重な資料の保存と公開の両立を図っていくこととした。今年度は『粗朶工』1冊の修復を行った。また、令和4年度に策定した中性紙保存箱への入替計画に基づき、令和7年度は久能文庫の冊子資料の後半分の入替作業を行った。

イ 貴重資料の閲覧・利用状況

令和7年度は、延べ28人が計143点を閲覧した。状態の悪い資料については利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っている。

ウ 貴重資料のマイクロフィルム化・デジタル化

資料の保存と公開の両立のため、貴重資料のマイクロフィルム化・デジタル化を計画的に進め、デジタルライブラリーでの画像公開を行っている。

令和7年度は、国文学研究資料館による国書データベースの構築に協力し、デジタル化及び同データベースでの画像公開を目的として、同館に対して久能文庫等の一般貴重資料の貸出しを行った。

エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等

令和7年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が73件あり、前年度の66件より7件増加した。その内訳は掲載55件（前年度52件）、放映18件（同14件）であった。

また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は43件（前年度45件）であった。浮世絵（『上村翁旧蔵浮世絵集』）、郷土関係資料（『九十五年前の伊豆（天保三年）』）などの申込みが例年ど

おり多かったが、その他では県内の歴史的な風景に関する資料（『静岡県の絵葉書』など）の申込みが多かった。

なお、展示等による館外貸出については次の4件（43点）を許可した。

施設	催事名等	資料名
静岡市歴史博物館	「明治維新と静岡」	『静岡街一覽之図』他 全9点
静岡市東海道広重美術館	「流行の仕掛人～蔦屋重三郎と版元の仕事～」	『上村翁旧蔵浮世絵集』 全3点
静岡市歴史博物館	「十返舎一九と蔦屋重三郎」	『吉原楊枝』他 全8点
静岡市東海道広重美術館	「三人の広重」	『上村翁旧蔵浮世絵集』 全23点

オ 貴重資料の展示

当館の貴重資料の周知と活用を図るため、平成23年1月から貴重資料の常設展示コーナー『しずおか』の貴重書で展示を行っている。今年度も、ブラウジング入口付近の展示ケースで毎回3点前後の資料を展示するとともに、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルを作成し、展示資料に添えた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書の展示・配架も行った。このコーナーは地域調査班と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下のとおりである。

実施日	企画名	展示品
令和7年 3月1日 ～ 4月29日	静岡県立葵文庫	『静岡県立葵文庫記念写真帖』『芳名録』他
5月1日 ～ 5月29日	新茶の季節	『栽茶説』『茶業須要』『静岡名物茶摘みえはがき』
5月31日 ～ 6月29日	ハルマ辞書	『蘭仏辞典』『ハルマ和解』『ゾーフハルマ』
7月1日 ～ 7月30日	蘭学から英学へ	『英蘭・蘭英辞典』『新ポケット英蘭辞典』他
8月30日 ～ 9月29日	厚生新編	『厚生新編』『家庭百科事典』『厚生新編（翻刻・影印）』
10月1日 ～ 11月1日	久能文庫の救荒書	『遠州救荒小録』『二物考』『農家心得草』
11月1日 ～ 11月27日	蔦屋の浮世絵	『全盛花姿画 卷六 大文字屋内 一トもと』他
11月29日 ～ 令和8年 1月15日	古活字版	『論語』『群書治要』『尚書』
1月31日 ～ 2月26日	広重の富士	『駿河薩タ之海上』『富士三十六景東海堂左り不二』他

カ 貴重書講座・見学

(7) 貴重書講座

演題 「静岡県立葵文庫とその事業」

講師 青木 祐一 氏（葵文庫の会（※）会員、学習院大学非常勤講師）

実施日 令和7年11月1日（土） 参加者 38人

大正14（1925）年に設立された静岡県立葵文庫は、江戸幕府旧蔵書や初代静岡県知事関口隆吉の収集資料などの貴重な資料を引き継ぎながら、郷土資料の収集や展覧会などの社会教育に関する各種の事業を展

開していた。本講座では、静岡県立葵文庫の構想段階の話や開館時の様子のほか、郷土資料や博物館、公文書保存に対する姿勢などを、資料を紹介しながらわかりやすく説明いただいた。参加者からは、「葵文庫の歴史と意義をわかりやすい資料と口調で説明していただき、よく理解できました」「葵文庫関係者の社会教育についての意識の高さに驚きました」「公共図書館の在り方に対する認識を再考させられました」等の感想があり、創立100周年を迎えた年にふさわしい、有意義な内容の講座を実施することができた。

(講演の内容はp17～20を参照)

(※) 葵文庫の会：元県立中央図書館職員を中心とする当館の貴重資料を調査、研究している団体。

(4) 貴重資料の紹介講座 (図書館見学)

随時実施する図書館見学での貴重資料の紹介は、葵文庫・久能文庫等の展示と解説を行い、資料を間近で見ることによって、将来を担う学生・生徒等に見聞を広めてもらうことを目的としている。

令和7年度は中学生・高校生の職場体験時とインターンシップ実習生の館内見学時に貴重資料の紹介を行った。

(4) 障害者サービス

サービスの提供については、今年度は新たに4人の障害者利用登録と1人のサピエ図書館登録、17件95冊の郵送貸出サービスの利用があった。資料・環境の整備については、新館用として大活字本297冊、DAISY図書7点を購入した。

(5) その他の関連事業

ア 視覚障害サポート・ボランティア養成講座

静岡県視覚障害者情報支援センターが主催する視覚障害サポート・ボランティア養成講座のプログラムの1つとして「調査実習」を一般調査班で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は新たに音訳・点訳ボランティアとしての活動を希望される方々で、それぞれ真剣に取り組んでいただいた。実施日、受講者数は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
11月11日 (火)	静岡県立中央図書館	3人

イ 関係機関との連携など

葵文庫の会会員との連絡会を令和7年11月1日(土)に実施した。図書館からは、貴重資料の利用状況、デジタル化の現状、貴重資料の常設展示等について報告した。その後、来年度の貴重書講座の予定及び講師依頼等について協議し、貴重資料等についての情報交換を行った。

ウ 郵送複写サービス

当館では、来館が難しい県民に対し所蔵資料の郵送複写サービスを行っており、県外の利用者からの申込みは、当館のみが所蔵する資料及び静岡県に関する資料(地域資料)に限り受け付けている。令和7年度は、年間の依頼申込みは97件786枚(うちマイクロフィルムは10件52枚)であった。

7 地域調査班

(1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に關係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。令和7年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問合せや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れのないよう努めている。収集部数は、1資料につき2部を原則とし、1部を貸出閲覧用、1部を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	令和6年度末蔵書数	令和7年度受入冊数（増減数）							令和7年度末蔵書数	
		購入	寄贈	分類換	区分換 ・管理換 ・その他	類換	除籍数	計	蔵書数	比率 (%)
0 総記	16,225	133	267	29	22	△5	0	446	16,671	9.8
1 哲学	1,919	29	37	0	9	△2	2	71	1,990	1.2
2 歴史	32,431	251	436	17	998	1	4	1,699	34,130	20.0
3 社会科学	53,601	169	656	106	65	△1	2	993	54,594	32.0
4 自然科学	7,828	27	122	13	1	0	0	163	7,991	4.7
5 技術	11,616	43	121	44	4	0	0	212	11,828	6.9
6 産業	16,583	40	113	36	3	3	0	195	16,778	9.8
7 芸術	9,517	159	177	14	3	1	0	354	9,871	5.8
8 言語	566	0	15	0	0	△1	0	14	580	0.3
9 文学	15,800	205	123	0	0	4	0	332	16,132	9.5
合計	166,086	1,056	2,067	259	1,105	0	8	4,479	170,565	100.0

※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがある。

※令和7年度受入冊数のうち「その他」997点は、これまで購入時にまとめて蔵書システムに登録してきた『駿河国駿東郡原宿渡辺家文書』1,555点のうち、デジタル化に伴い個別に登録を行った13点と、『静岡県関係地形図』のうち984点を計上した。

(2) 提供情報の充実

ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の約3割が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、過去に作成した書誌には目次データが未入力となっているものがあるため、遡及入力も継続的に行っている。

イ 二次資料の作成

当館所蔵の地域資料のうち、静岡県に關係する地図をまとめた『静岡県関係地図目録』について、令和8年3月付けで改訂・発行を行った。

また、例年改訂している『静岡県内住宅地図目録』についても改訂・発行を行った。

(3) 資料展示

ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、「6 一般調査班」における「(3) 特別取扱資料等の保存と公開」の「オ 貴重資料の展示」(p112)の項目を参照。

イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。

また、「地域資料特集展示コーナー もっと知りたい!ふじのくに」では、時事に合わせたテーマだけでなく、書庫にあって気付きにくい資料も紹介するなど、地域資料の周知や利用促進を図っている。

令和7年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容
令和7年 3月1日～4月29日	ふじのくにの絵本作家 スギヤマカナヨ氏、鈴木のりたけ氏ほか (令和6年度から継続)
5月1日～5月29日	静岡県立中央図書館のあゆみ
5月31日～7月21日	徳川慶喜と静岡
7月23日～8月28日	地域のことを調べてみよう
8月30日～9月29日	小泉八雲と静岡
10月1日～11月27日	しずおかの文化財
11月29日～12月27日	静岡県と全国障害者芸術・文化祭
令和8年 1月6日～2月26日	しずおかの画家 中村宏氏、石田徹也氏、天野喜孝氏ほか
2月28日～4月29日	しずおかの絵本作家 むらまつけーじ氏、竹山美奈子氏、マスダカルシ氏ほか

(4) 市町立図書館への支援

ア 地域資料MARCの提供

県内市町立図書館等における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館Webサイトに公開されるようになっており、各図書館をはじめ、個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため、レファレンス、地域資料の選書などにも活用することができる。

イ 運営相談等

県内市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受入れを行っている。

(5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点取組事業として、積極的に推進している。毎年、近世・近代の地誌や絵葉書などについてデジタル化・マイクロフィルム化を行い、当館デジタルライブラリ

一で一般公開を行うほか、虫食いや劣化破損等の見られる資料の修繕を行っている。現在は、令和5年度に作成したデジタル化計画を元にデジタル化を進めている。

静岡県及び県内各市町が発行し、Webサイトで公開しているPDFファイルについて、クロージング技術を用いて全収集した。(p127参照)

令和7年度に行った事業は次のとおりである。

事業	内訳	点数	内 訳
デジタル ライブラリー 登録・公開	自館作成分	4タイトル	『静岡県の教育 昭和4年』『静岡県の教育 昭和5年』『静岡県統計書 明治20年』『修善寺物語』
	業務委託分	80タイトル	『九十五年前の伊豆(天保三年)』(再登録)『廿日会御祭礼行列附』ほか
修繕		11タイトル	『曲金村御水帳一番』『百人組合火消一札』他11タイトル22点

※ 貴重資料のデジタル化・マイクロフィルム化について、令和7年度は事業を実施しなかった。

(6) 地域貴重資料の保存

令和4年度に策定した新館移転に向けた貴重資料の保存計画を基に、令和7年度は地域貴重資料の保存容器の作成及びドライクリーニングを実施した。

(7) 地域視聴覚資料の媒体変換

令和5年度にDVDへの媒体変換を行った資料について、受入作業を完了した。

(8) 歴史文化情報センター

12 歴史文化情報センター (p140参照)



貴重書常設展示

8 企画班

(1) 図書館職員研修

ア 基礎研修

(7) 図書館基礎研修

期日・会場	4月11日（金）・オンライン（ライブ配信）開催		
参加人数	109人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館職員の基礎知識」 静岡県立中央図書館職員 ・「図書館サービスと著作権 概論」 静岡県立中央図書館 調査課職員 ・県立中央図書館見学（YouTube 動画視聴） 		

(イ) おうだんくん基礎研修

期 日	配信期間 4月11日（金）～3月6日（金）		
会 場	YouTube によるオンデマンド開催		
参加人数	総再生回数 491回		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうだんくんシステム、ポータル」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員 ・「静岡県の図書館」 同 企画振興課振興班職員 ・「静岡県新聞雑誌総合目録」 同 資料課新聞雑誌班職員 ・「静岡県地域資料書誌提供システム」 同 調査課地域調査班職員 ・「おうだんくんサーチ・おうだんくん ILL」 同 企画振興課企画班職員 ・「相互貸借の基本」 同 資料課 図 書 班 職 員 ・「相互貸借の基本」 同 企画振興課振興班職員 		

(ウ) レファレンス基礎研修

期 日	5月16日（金）	5月21日（水）	5月27日（火）	6月5日（木）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		静岡県総合教育センター （あすなろ） 情報研修室	三島市立図書館 （生涯学習センター） 研修室・パソコン教室
参加人数	22人	20人	17人	16人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「レファレンス概論」 ・「基礎的な参考図書の紹介」 ・問題演習、解説 ・「インターネットで資料を調べる」 <p style="text-align: right;">静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員</p>			

イ 専門研修

(7) 図書館広報研修

期日・会場	6月24日（火）・静岡県立中央図書館 中集会室		
参加人数	31人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館の魅力を伝える」 押樋デザイン制作所 コミュニケーションデザイナー 押樋 良樹 氏 ・情報交換 		

(イ) 大学・専門図書館研修

期日・会場	9月11日（木）・静岡英和学院大学 北館 N201教室
参加人数	24人
内 容	・「大学図書館と著作権」 筑波大学教授 村井 麻衣子 氏 ・情報交換 ・会場図書館見学

(ウ) レファレンス応用研修

期日・会場	10月29日（水）・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	38人
内 容	・「統計情報の探し方」 ・「レファレンス演習」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員

(エ) 資料保存研修

期日・会場	7月18日（金）・沼津市立図書館 第1・2講座室
参加人数	午前23人・午後23人
内 容	・「図書修理研修会（単行本）一丸背洋装本の基本修理法」 キハラ株式会社製本講座講師 川人 拓 氏 ※午前午後同内容を2回実施

(オ) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	11月21日（金）・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	59人
内 容	・「YA世代の読書実態～発達段階や特性に応じた読書活動の支援について～」 相模原市教育委員会教育局生涯学習部図書館主査（司書） 清野 愛子 氏 ・情報交換

ウ 運営研修

館長研修会

期日・会場	4月22日（火）・オンライン（ライブ配信）開催
参加人数	55人
内 容	・「図書館サービスの論点整理」 千葉経済大学総合図書館館長・短期大学部教授 叶多 泰彦 氏

エ 特別研修

図書館情報交換会

期日・会場	10月17日（金）・牧之原市立図書交流館「いこっと」
参加人数	16人
内 容	・会場館見学 ・情報交換

オ その他

全国公共図書館研究集会（サービス部門／総合・経営部門）

※関東地区公共図書館協議会運営研修会・静岡県図書館大会と合同開催

期 日	12月1日（月）～2日（火）
会 場	静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ
内 容	<p>テーマ「図書館と書店の共存・共栄」</p> <p>1日目</p> <p>(ア) 講演会 「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援」 日本大学文理学部教授 大場 博幸 氏</p> <p>(イ) 事例報告 「静岡書店大賞：静岡県の読書推進に向けて」 第12回静岡書店大賞事務局長 河口 雅哉 氏</p> <p>(ウ) 調査報告 「人口減少社会における図書館と地域の関係性とこれからのあり方」 青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科教授 大谷 康晴 氏</p> <p>(エ) 研究協議 司会・コーディネーター 大場 博幸 氏 登壇者 河口 雅哉 氏、大谷 康晴 氏、 静岡県立中央図書館長 高橋 健二</p> <p>(オ) 情勢報告 公益社団法人日本図書館協会理事長 植松 貞夫 氏</p> <p>※(ア)講演会は静岡県図書館大会の全体会の一部として、(イ)事例報告～(オ)情勢報告は第6分科会として実施</p> <p>2日目 静岡県立中央図書館見学ツアー（希望者のみ）</p>
参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会：666人 ・事例報告・調査報告・研究協議・情勢報告：101人 ・見学ツアー：44人

(2) 利用者からの意見

ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提案件数	2	1	2	2	2	5	1	2	1	0	1	1	20
回答・改善件数	2	0	0	2	1	3	1	2	1	0	0	1	13

提案件数は、昨年度から5件増加し20件となった。資料収集や利用マナーなどのサービスに関する提案のほか、新館移転に関する提案も寄せられた。早期回答を心がけるとともに、新図書館整備課とも連携し提案への対応を行った。

イ 利用者実態調査

(7) 調査の概要

当館では、平成9年度から継続的に利用者に対してアンケートを実施し、利用者の来館目的や利用資料等について調査してきた。

令和3年度からは、これまで来館者に対して紙で行っていたアンケートを廃止し、ふじのくに電子申請サービスを利用し、電子申請でアンケートを行っている。集計作業の効率化や、市外利用者(市町受取サービス利用者等)、当館を利用したことがない人等から多く意見を集めることなど、電子申請のメリットを生かしたアンケートを実施することができた。

(4) 調査期間

11月1日(土)～11月30日(日) 30日間

(5) 分析結果

【付属資料】「令和7年度『静岡県立中央図書館アンケート』集計結果」(p128-130)

(3) イベント等

ア 図書館講座、講演会等

(7) 図書館講座 葵レク

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
8月2日(土) *オンデマンド配信 8月15日(金)～ 10月10日(金)	子ども図書新刊紹介①	当館職員	—	10人	15人 564回
10月16日(木) ～28日(火) (全4回)	くずし字解読講座 「初めて古文書に触れる 人のために」	当館職員(歴史文化情報センター)	20人	23人	19人
10月18日(土)	オンラインデータベース 活用講座「くらしに役立つ 法律講座」	山内 享郎 氏 (第一法規(株))	20人	18人	16人
10月25日(土)	静岡県立中央図書館創立 100周年記念講演	鈴木 善彦 氏 (学)新静岡学園 理事長)	70人	77人	63人
11月1日(土)	貴重書講座 「静岡県立葵文庫とその 事業」	青木 祐一 氏 (葵文庫の会会員)	70人	47人	38人
11月2日(日)	城址講座 新発見の「駿府御城内絵 図」について～絵図から見 えた、天守の姿～	加藤 理文 氏 (公財)日本城郭 協会常務理事)	200人	220人	166人
2月25日(水) *オンデマンド配信 3月13日(金)～ 4月30日(木)	子ども図書新刊紹介②	当館職員	—	5人	7人 330回

(イ) 子ども図書研究室講演会

内 容	開催方法	募集定員	応募	参加
テーマ「豊かな心を育む絵本の世界」 講 師 瀧 薫 氏 (社会福祉法人子どものアトリエ理事長、 大阪芸術大学短期大学部教授)	ライブ配信	会場視聴 40人	6人	4人
	7月15日(火)	個別視聴 90組	46組	34組
	後日動画配信 7月29日(火) ～10月31日(金)	人数制限なし	—	921回

(ウ) その他

図書館カフェの出店

令和7年10月25日(土)静岡県立中央図書館記念講演の開催に併せて、地元のコーヒー店 hugcoffee に協力いただき、葵の広場(インフォメーションホール)にて開催した。(令和5年度から3度目の開催)

イ 展示

期間	名称	連携機関等	開催場所
4月2日(水) ～4月29日(火・祝日)	さくら写真展	静岡県さくらの会	葵の広場
5月31日(土) ～6月29日(日)	JICA海外協力隊写真展	JICA静岡デスク	葵の広場
6月3日(火) ～6月29日(日)	男女共同参画おすすめBOOK	男女共同参画関連施設情報担当者連絡会	閲覧室
7月1日(火) ～7月30日(水)	英語で多読にチャレンジ!	館内企画	閲覧室
7月23日(水) ～8月28日(木)	草薙神社龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室
7月23日(水) ～8月28日(木)	ユニバーサルデザイン絵本作品展	静岡文化芸術大学	総合案内カウンター前
8月1日(金) ～8月28日(木)	「一郎くんの写真」と静岡の戦争	福音館書店	閲覧室
8月5日(火) ～8月17日(日)	統計グラフコンクール作品展	県統計活用課	葵の広場
8月30日(土) ～9月28日(日)	海洋プラスチックごみ防止「6R県民運動」	県廃棄物リサイクル課	閲覧室
9月2日(火) ～9月28日(日)	ものづくりレガシー展	静岡県立工科短期大学校	葵の広場
10月1日(水) ～10月30日(木)	SPAC秋のシーズン2025-2026	SPAC	閲覧室
10月7日(火) ～11月3日(月・祝)	特定歴史公文書企画展示「公文書に見る静岡県の昭和100年」	県法務文書課	葵の広場
11月1日(土) ～11月27日(木)	城址講座関連展示	館内企画	総合案内カウンター前
11月1日(土) ～11月27日(木)	世界児童画展	静岡県立大学	展示室
11月1日(土) ～11月27日(木)	「犯罪被害者支援週間」企画展示	県くらし交通安全課	閲覧室
12月3日(水) ～1月15日(木)	静岡書店大賞受賞作品展示	静岡書店大賞実行委員会	総合案内カウンター前

12月5日(金) ～2月15日(日)	創立100周年特別企画！お宝発見？！収蔵庫に眠る珍品・奇品	館内企画	展示室
1月31日(土) ～2月26日(木)	静岡県立中央図書館・山梨県立図書館連携展示「富士山をカガクする」	山梨県立図書館	総合案内カウンター前
2月17日(火) ～3月15日(日)	静岡発！昭和の幼児指導絵本『あそび』展	平野雅彦元静岡大学客員教授	展示室
2月28日(土) ～3月29日(日)	静岡県優良図書展示	県社会教育課	総合案内カウンター前
3月3日(火) ～3月29日(日)	さくら写真展	静岡県さくらの会	葵の広場

ウ 図書館特別企画

(7) 夏休み子ども図書スペシャルウィーク

・開催期間 令和7年7月28日(月)～8月8日(金)

開催日	内容	講師等	募集	応募	参加
7月28日(月)	ユニバーサルデザイン 絵本手作り教室	林 左和子 氏 (静岡文化芸術大学)	15組 約30人	15組 37人	14組 34人
8月1日(金)	草薙神社龍勢花火について学ぼう！	草薙神社龍勢保存会	15組 約30人	15組 28人	15組 27人
8月2日(土)	親子で挑戦！英検4級	静岡県立中央図書館長	15組 約30人	14組 30人	12組 25人
8月2日(土)	親子図書館ツアー	静岡県立中央図書館職員	15組 約30人	14組 36人	10組 27人
8月3日(日)	作って見せる！工作マジック	マジシャン蓬生 氏	15組 約30人	15組 35人	10組 28人
8月5日(火)	ふじっぴーの親子グラフ教室	静岡県統計活用課職員	15組 約30人	10組 22人	8組 21人
8月8日(金)	親子植物教室～種を遠くに飛ばそう！～	早川 宗志 氏 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)	15組約 30人	12組 26人	7組 17人

(4) ふじのくに文化の丘フェスタ

・開催期間 令和7年10月14日(火)～11月3日(月・祝日)

開催日	内容	講師・連携機関等	備考
10月1日(水) ～10月30日(木)	S P A C秋のシーズン2025-2026	S P A C	展示
10月7日(火) ～11月3日(月・祝)	特定歴史公文書企画展示「公文書に見る静岡県の昭和100年」	県法務文書課	展示
10月16日(木) ～28日(火) (全4回)	くずし字解読講座 初めて古文書に触れる人のために	当館職員(歴史文化情報センター)	葵レク
10月18日(土)	オンラインデータベース活用講座 くらしに役立つ法律講座	山内 享郎 氏 (第一法規株式会社)	葵レク
10月25日(土)	静岡県立中央図書館創立100周年記念講演	鈴木 善彦 氏 (学校法人新静岡学園理事長) 他	葵レク

10月25日(土)	図書館カフェ	hugcoffee	
11月1日(土)	貴重書講座 静岡県立葵文庫とその事業	青木 祐一 氏 (葵文庫の会会員)	葵レク
11月1日(土) ～11月27日(木)	城址講座関連展示	館内企画	展示
11月1日(土) ～11月27日(木)	世界児童画展	静岡県立大学	展示
11月1日(土)	あそびのじかん くれよんであそぼう！	静岡県立大学	世界児童画展併催イベント
11月2日(日)	城址講座 新発見の「駿府御城内絵図」について ～絵図から見えた、天守の姿～	加藤 理文 氏 (公益財団法人日本城郭協会常務理事)	葵レク
10月14日(火) ～11月3日(月・祝日)	文化の丘スタンプラリー(後日抽選)	ムセイオン静岡	応募総数 96 通

(4) 図書館サポーター

ア 登録状況(過去3年)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
読み聞かせ	24人	22人	17人
館内サービス	1人	1人	1人
環 境	2人	2人	1人

イ 活動内容

- 読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施など。
館内サービス : 生涯学習等の発表。呈茶や資料紹介ポップ作成等。
環 境 : 生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。

ウ 活動実績

- 読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施。
(活動実績p104参照)
館内サービス : 葵の広場における呈茶サービスの実施。
環 境 : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における壁面装飾。

(5) 職場体験学習等

ア 職場体験学習

(7) 図書館主催

校種等	7月24日(木) ～7月25日(金)	8月6日(水) ～8月7日(木)	合計
中学生	4人	2人	6人
高校生	20人	26人	46人
合計	24人	28人	52人

(イ) 個別申込

受け入れなし

イ インターンシップ（大学生）

(ア) 図書館主催 受入れなし

(イ) 県主催

期間	大学・学部名	人数
8月14日（木）	信州大学人文学部	1人
	千葉大学文学部	1人
合計		2人

ウ 社会体験研修（中堅教諭等資質向上研修（I期））

・実施日 8月21日（木）・22日（金）、県立高等学校教諭1人

エ 施設見学・視察

校種等	校数・団体数	人数（引率者含む）
小学校	2	150人
高等学校	1	71人
図書館・県関係者	6	27人
その他の団体	1	3人
合計	10	251人

(6) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより（文化の丘）

年2回（9月初旬、2月初旬）発行。当館の事業（サービスや講座など）を広報し、図書館利用の促進を図った。令和8年2月発行分ではムセイオン静岡の連携機関のひとつである静岡県立大学の学生広報大使が昨年に続き誌面作りを1ページ担当し、幅広い世代への広報の促進を図った。

No. 378（令和7年9月）・No. 379（令和8年2月）発行 各2,000部

配布先：県内教育委員会、県内市町立図書館等

イ 当館Webサイトの運用等

一般利用者向けWebサイトや県内図書館向け「おうだんくんシステム」の各種サービスを滞りなく運用・提供した。

ウ 公式X（旧Twitter）の運用

令和2年7月からTwitterによる広報を試行し、同年8月1日から本格運用を開始した。令和7年度末現在、投稿数は2,104回（前年度比+439回）、フォロワー数は1,494アカウント（前年度比+147アカウント）である。

(7) ムセイオン静岡

ア 趣旨

ムセイオン静岡とは、静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県埋蔵文化財センター、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”、静岡県舞台芸術センター（SPAC）及びふじのくに地球環境史ミュージアムの7つの教育文化機関による自主協働プログラム。静岡市の谷田の丘陵地帯及びその周辺地域を、本県の文化振興やまちづくりに貢献する地域に発展さ

せるため、平成21年3月に「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結し、相互に協力して文化を創造し、国内外に発信する活動を展開している。「ムセイオン」は、“Museum”（博物館、美術館）の語源で、「学堂」を意味する。当初は4機関で始まり、平成21年度に2機関、平成28年度に1機関が加わり、現在の7機関となった。

なお、事務局は平成28年度から静岡県立大学が担当していたが、令和4年度から輪番制となった。

イ 令和7年度事業実績

(7) 共通イベント

- ・「ふじのくに文化の丘フェスタ2025」（10月14日～11月3日）

(イ) 連携イベント等

- ・静岡県立中央図書館×ふじのくに地球環境史ミュージアム
8月8日 夏休み子ども図書スペシャルウィーク「親子植物教室」
- ・静岡県立中央図書館×静岡県立美術館
受講者作品連携展示
7月29日～8月31日 静岡県立美術館：「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」作品展示
8月21日～8月28日 静岡県立中央図書館：「風景画からはじまるあなたの物語」作品展示
(当館展示「ユニバーサルデザイン絵本作品展」の中で実施)
- ・静岡県立中央図書館×SPAC
10月1日～10月30日 SPAC秋のシーズン2025-2026
- ・静岡県立中央図書館×静岡県立大学
11月1日～11月27日 世界児童画展&「あそびのじかん くれよんであそぼう」
- ・静岡県立中央図書館×静岡県立大学
2月1日発行 学生広報大使による「文化の丘」誌面作成

(8) 浙江図書館との友好提携

ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は当館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結んできた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや当館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

イ 令和7年度の実績

(7) 上記の友好提携に基づく図書交換

寄贈：30冊及び当館刊行物等、受贈：38冊及び逐次刊行物3タイトル（静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換）

(イ) 受贈図書の「浙江省文庫」への配架

(9) 山梨県立図書館との連携協定

ア 趣旨

富士山の文化振興に貢献するため平成27年6月、「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」を締結。両館で所蔵する富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えるとともに、富士山の自然、文化を情報発信している。また、令和3年6月の期間更新に際して、連携及び協力を通じて両館の発展に資することが目的に加えられた。

令和6年6月に3回目の期間更新を行った。

イ 令和7年度事業実績

(7) 連携推進協議会

- ・第1回（7月3日 山梨県立図書館）
- ・第2回（2月10日 静岡県立中央図書館）

(4) 静岡県・山梨県関係資料の相互利用による企画展示

- ・「富士山をカガクする」

（1月31日～2月26日・静岡県立中央図書館、2月13日～3月15日・山梨県立図書館）

(10) 市町立図書館等受取サービス

当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」を行っている。

平成27年10月から受取館4館で先行導入し、平成28年6月に受取館を拡大して本格導入に移行をした。以降、順次受取館を拡大している。なお、サービス導入にあわせて貸出カードの郵送申込みを可能にしたほか、令和3年度からはWeb上での利用者登録の申込みも可能にした。

令和7年度利用実績（遠隔地貸出資料数）

区 分	延べ利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	対応時期
小山町立図書館	4	25	R8. 2～
御殿場市立図書館	103	376	R5. 7～
裾野市立鈴木図書館	44	152	R4. 5～
沼津市立図書館	128	410	H28. 6～
富士市立中央図書館	189	590	H28. 6～
富士宮市立中央図書館	89	300	H27. 10～
三島市立図書館	278	961	H28. 6～
函南町立図書館	80	343	H27. 10～
熱海市立図書館	89	226	R7. 4～
伊東市立伊東図書館	79	299	H28. 6～
松崎町立図書館	34	144	R4. 5～
下田市立図書館	71	239	R2. 12～
焼津市立焼津図書館	243	842	R2. 12～
藤枝市立駅南図書館	259	800	H28. 6～
島田市立島田図書館	51	148	R5. 7～
菊川市立小笠図書館	37	161	R7. 4～
掛川市立中央図書館	240	1,026	H28. 6～
袋井市立袋井図書館	173	438	R4. 5～
磐田市立中央図書館	363	1,085	H27. 10～
浜松市立城北図書館	619	2,492	H27. 10～
湖西市立中央図書館	72	183	R2. 12～
県総合教育センター図書室	9	20	H28. 6～

静岡県庁(県民サービスセンター)	200	515	R3.4～
合 計	3,454	11,775	

(11) 図書館DX

ア 貸出カード(バーコード)のスマートフォン表示

当館Webサイトのマイライブラリーにログインすることにより、貸出カードのバーコードをスマートフォン等に表示して、貸出時等に利用することができる。令和3年9月1日に開始した。令和7年度のバーコード表示回数は11,685回である。

イ 利用者登録等Web申込

利用者登録の手続きをWeb上で完結することができる。令和3年10月1日に開始した。令和7年度は静岡県内各学校(小学校を除く)に在籍している生徒等を対象に、クラス単位、学年単位または学校単位での申込みの募集を行い、申込みのあった6校について一括登録を実施した(Webによる登録者数p93参照)。

ウ 電子図書館

当館に登録している利用者であれば、当館Webサイトのマイライブラリーで電子書籍を閲覧することができる。令和3年10月1日に開始した(電子図書館利用状況p95、電子書籍数p98参照)。

エ 県市町発行PDFファイル自動収集(クローリング)

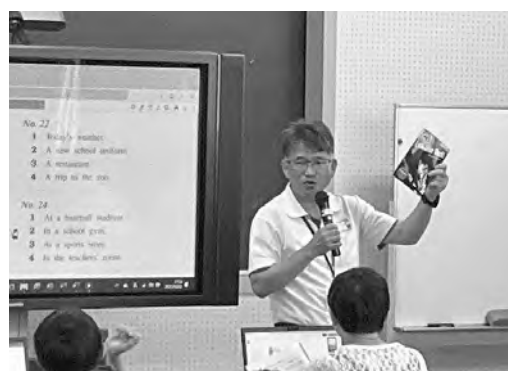
静岡県及び県内各市町が発行し、Webサイトで公開しているPDFファイルについて、クローリング技術を用いて全収集を行う。令和4年3月に収集を開始した。

収集した資料のうち公開が可能なPDFファイルについては、令和6年9月30日から当館Webサイトで公開を開始した。

令和7年度末時点の収集実績は2,357,062件、公開数は639,890件である。



草薙神社龍勢花火について学ぼう！



親子で挑戦！英検4級

夏休み子ども図書スペシャルウィーク

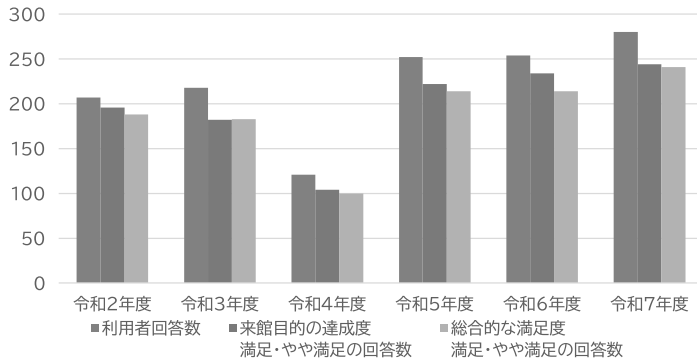
令和7年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果

実施:令和7年11月1日(土)~11月30日(日) 有効回答数 350(うち当館のサービス利用者 280)

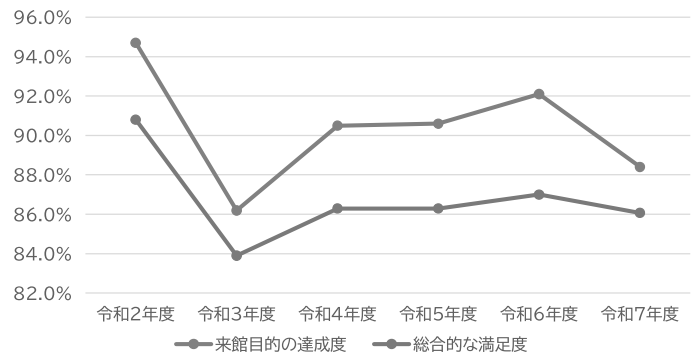
1 総括

質問	満足	やや満足	やや不満	不満	合計	満足とやや満足の割合		増減率 (A)-(B)
						令和7年度(A)	令和6年度(B)	
来館(利用)目的の達成度	113	131	25	7	276	88.4%	92.1%	-3.7%
	40.9%	47.5%	9.1%	2.5%				
総合的な満足度	103	138	31	8	280	86.1%	87.0%	-0.9%
	36.8%	49.3%	11.1%	2.9%				
平均						87.2%	89.6%	-2.3%

年度別利用者回答数・「満足」「やや満足」の回答数の推移



年度別「満足」「やや満足」の回答割合の推移



2 回答者及び利用者(設問4で当館を利用したことが「ある」と回答した者。以下同じ)の属性

(1)年齢

項目	回答者数 (A)	うち利用者						当館Webサイト 利用者(E)	Web利用者の 割合(E)/(B)
		利用者数 (B)	利用者の割合 (A)/(B)	令和7年度 構成比(C)	令和6年度 構成比(D)	構成比増減率 (C)-(D)			
10歳代	24	18	75.0%	6.4%	10.6%	-4.2%	7	38.9%	
20歳代	36	30	83.3%	10.7%	15.4%	-4.6%	17	56.7%	
30歳代	44	35	79.5%	12.5%	14.6%	-2.1%	18	51.4%	
40歳代	62	53	85.5%	18.9%	13.0%	+5.9%	29	54.7%	
50歳代	97	72	74.2%	25.7%	27.6%	-1.8%	40	55.6%	
60歳代	71	59	83.1%	21.1%	16.9%	+4.1%	35	59.3%	
70歳代	14	12	85.7%	4.3%	2.0%	+2.7%	7	58.3%	
80歳代以上	2	1	50.0%	0.4%			1	100.0%	
合計	350	280	80.0%	100.0%	100.0%		154	55.0%	

(2)職業

項目	回答者数 (A)	うち利用者						当館Webサイト 利用者(E)	Web利用者の 割合(E)/(B)
		利用者数 (B)	利用者の割合 (A)/(B)	令和7年度 構成比(C)	令和6年度 構成比(D)	構成比増減率 (C)-(D)			
小学生	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0	0	0.0%	
中学生	4	2	50.0%	0.7%	2.8%	-2.0%	0	0.0%	
高校生	15	12	80.0%	4.3%	7.1%	-2.8%	5	41.7%	
大学生・専門学校生	12	10	83.3%	3.6%	4.7%	-1.2%	8	80.0%	
会社員・団体職員	48	45	93.8%	16.1%	17.3%	-1.3%	31	68.9%	
公務員(教員を除く)	182	133	73.1%	47.5%	38.6%	+8.9%	57	42.9%	
教員・研究職	16	14	87.5%	5.0%	9.8%	-4.8%	7	50.0%	
自営業	14	13	92.9%	4.6%	3.1%	+1.5%	10	76.9%	
家事専業	5	4	80.0%	1.4%	1.6%	-0.1%	3	75.0%	
パート	20	16	80.0%	5.7%	5.1%	+0.6%	12	75.0%	
無職	23	20	87.0%	7.1%	7.5%	-0.3%	13	65.0%	
回答しない	9	9	100.0%	3.2%	1.2%	+2.0%	6	66.7%	
その他	2	2	100.0%	0.7%	1.2%	-0.5%	2	100.0%	
合計	350	280	80.0%	100.0%	100.0%		154	55.0%	

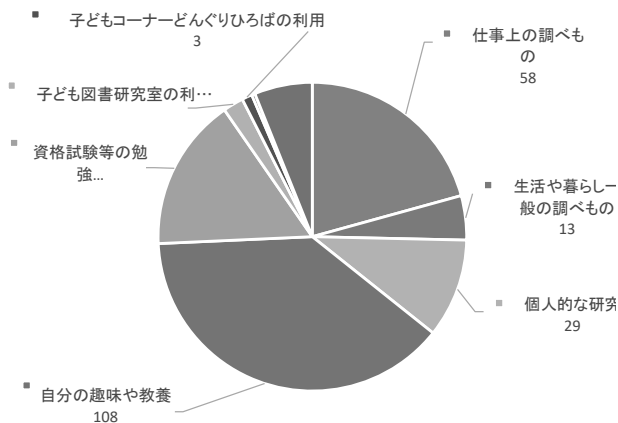
(3)住所

項目	回答者数 (A)	うち利用者					当館Webサイト 利用者(E)	Web利用者の 割合(F)/(B)
		利用者数 (B)	利用者の割合 (A)/(B)	令和7年度 構成比(C)	令和6年度 構成比(D)	構成比増減率 (C)-(D)		
静岡市 計	221	193	87.3%	63.1%	67.7%	-4.6%	94	48.7%
葵区	79	67	84.8%	22.6%	20.1%	+2.5%	32	47.8%
駿河区	71	64	90.1%	20.3%	25.2%	-4.9%	25	39.1%
清水区	71	62	87.3%	20.3%	22.4%	-2.2%	37	59.7%
県東部市町	47	35	74.5%	13.4%	31.1%	+5.5%	26	74.3%
県中部市町	37	24	64.9%	10.6%			16	66.7%
県西部市町	44	27	61.4%	12.6%			18	66.7%
県外	1	1	100.0%	0.3%	1.2%	-0.9%	0	0.0%
合計	350	280	80.0%	100.0%	100.0%		154	55.0%

3 当館の満足度について

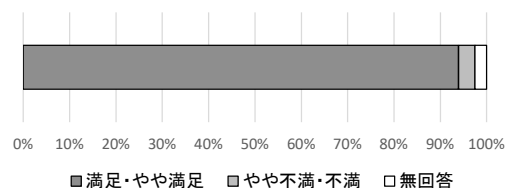
(1)来館(利用)目的(最も近いものを1つ選択)

項目	利用者 回答数	令和7年度 構成比(A)	令和6年度 構成比(B)	構成比増減率 (A)-(B)
仕事上の調べもの	58	20.7%	15.7%	+5.0%
生活や暮らし一般の調べもの	13	4.6%	5.5%	-0.9%
個人的な研究	29	10.4%	12.2%	-1.8%
自分の趣味や教養	108	38.6%	29.1%	+9.4%
資格試験等の勉強	45	16.1%	26.4%	-10.3%
子ども図書研究室の利用	6	2.1%	1.6%	+0.6%
子どもコーナーどんぐりひろばの利用	3	1.1%	2.8%	-1.7%
その他	1	0.4%	5.9%	-5.5%
回答しない	17	6.1%	0.8%	+5.3%
合計	280	100.0%	100.0%	



(2)職員の対応や業務知識

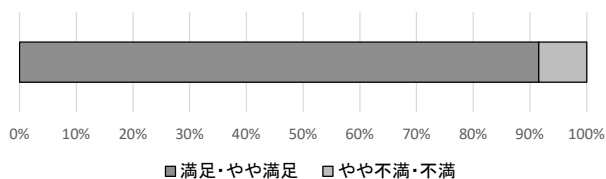
項目	利用者回答数			令和7年 構成比(A)	令和6年度 構成比(B)	構成比増減率 (A)-(B)
	満足	やや満足	小計			
満足傾向	148	115	263	93.9%	95.7%	-1.8%
不満傾向	7	3	10	3.6%	2.8%	+0.8%
無回答			7	2.5%	1.5%	+1.0%
合計			280	100.0%	100.0%	



(3)当館ウェブサイトについて(有効回答数154)

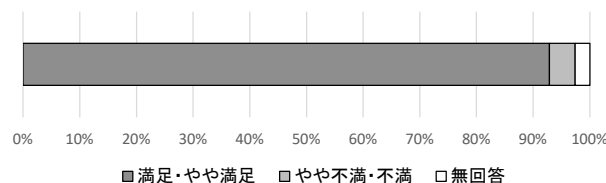
ア 当館Webサイトで調べたいものや知りたい内容の見つかりやすさ

項目	利用者回答数			構成比
	満足	やや満足	小計	
満足傾向	73	68	141	91.6%
不満傾向	12	1	13	8.4%
合計			154	100.0%



イ 当館Webサイトの記事の内容及びコンテンツの満足度

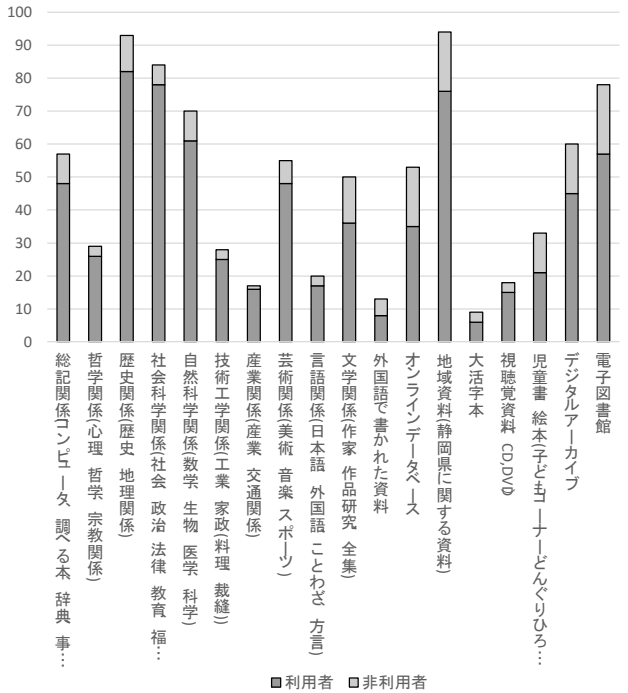
項目	利用者回答数			構成比
	満足	やや満足	小計	
満足傾向	62	81	143	92.9%
不満傾向	7	0	7	4.5%
無回答			4	2.6%
合計			154	100.0%



3 当館に求めること

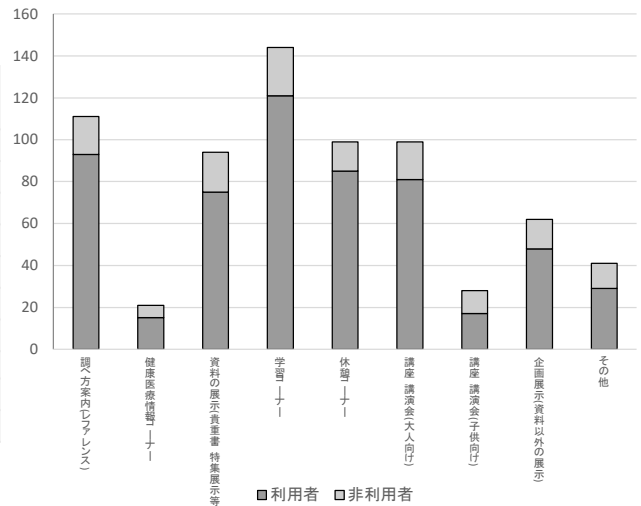
(1)資料の充実(3つまで選択)

項目	有効回答			全体の回答数の構成比
	全体の回答数	うち利用者の回答数	うち非利用者の回答数	
総記関係(コンピュータ、調べる本、辞典、事典)	57	48	9	6.6%
哲学関係(心理、哲学、宗教関係)	29	26	3	3.4%
歴史関係(歴史、地理関係)	93	82	11	10.8%
社会科学関係(社会、政治・法律、教育、福祉、習俗)	84	78	6	9.8%
自然科学関係(数学、生物、医学、科学)	70	61	9	8.1%
技術工学関係(工業、家政(料理、裁縫))	28	25	3	3.3%
産業関係(産業、交通関係)	17	16	1	2.0%
芸術関係(美術、音楽、スポーツ)	55	48	7	6.4%
言語関係(日本語、外国語、ことわざ、方言)	20	17	3	2.3%
文学関係(作家・作品研究、全集)	50	36	14	5.8%
外国語で書かれた資料	13	8	5	1.5%
オンラインデータベース	53	35	18	6.2%
地域資料(静岡県に関する資料)	94	76	18	10.9%
大活字本	9	6	3	1.0%
視聴覚資料(CD,DVD)	18	15	3	2.1%
児童書・絵本(子どもコーナーどんぐりひろばの資料)	33	21	12	3.8%
デジタルアーカイブ	60	45	15	7.0%
電子図書館	78	57	21	9.1%
合計	861	700	161	100.0%



(2)サービスの充実(3つまで選択)

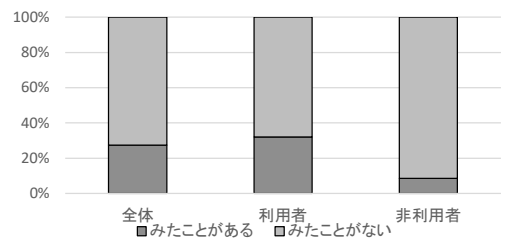
項目	有効回答			全体の回答数の構成比
	全体の回答数	うち利用者の回答数	うち非利用者の回答数	
調べ方案内(レファレンス)	111	93	18	15.9%
健康医療情報コーナー	21	15	6	3.0%
資料の展示(貴重書・特集展示等)	94	75	19	13.4%
学習コーナー	144	121	23	20.6%
休憩コーナー	99	85	14	14.2%
講座・講演会(大人向け)	99	81	18	14.2%
講座・講演会(子供向け)	28	17	11	4.0%
企画展示(資料以外の展示)	62	48	14	8.9%
その他	41	29	12	5.9%
合計	699	564	135	100.0%



4 当館の「新着資料の案内」について

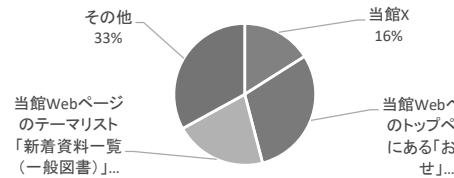
(1)当館の「新着資料の案内」をみたことがあるかどうか

項目	全体		利用者のみ		非利用者のみ	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
みたことがある	96	27.4%	90	32.1%	6	8.6%
みたことがない	254	72.6%	190	67.9%	64	91.4%
合計	350	100.0%	280	100.0%	70	100.0%



(2)当館の「新着資料の案内」を知ったきっかけ(複数回答可)

項目	回答数	構成比
当館X	16	16.0%
当館Webページのトップページにある「お知らせ」	30	30.0%
当館Webページのテーマリスト「新着資料一覧(一般図書)」	21	21.0%
その他	33	33.0%
合計	100	100.0%



いただいたご意見は当館のサービスをより良いものとしていくため、今後の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。上記の他に、多くの貴重なご意見をいただきました。

9 振興班

(1) 市町立図書館振興

ア 市町立図書館運営の支援・協力

(7) 市町立図書館運営の支援

a 図書館活動振興に関わる運営相談

市町立図書館等からの運営等に関する様々な問合せに対して、図書館活動の振興の面から助言や情報提供を行った。質問の受付手段は特に限定していないが、協力車による訪問時や電話が多い。

令和7年度は、日々の図書館運営に関する問合せが中心となった。弁償・紛失に関する対応、図書館協議会に関わること、著作権についてなど相談内容は多岐にわたった。

令和4年度から開始した「公立図書館（室）への照会・回答」を継続して実施した。第1回は19件、第2回は30件の照会があった。

なお、令和7年度の全相談件数は246件だった。

b 図書館設置条例未制定自治体への支援

静岡県内唯一の図書館条例未制定自治体である川根本町に対して支援を行っている。

令和7年度はオンライン運営相談（Zoom）を2回行った。1回目（7月17日）はグループで行い、他の図書館の活動状況などの情報提供をした。2回目（3月11日）は、個別に行い、図書館設置条例についての情報共有、現図書室でのサービス向上にあたって現状を伺いながらの助言を行った。その他、協力貸出、相互貸借の物流の支援を行った。

(4) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

協力車事業では、まず、市町立図書館等へ訪問する協力車の定期訪問（8コース、(2)協力車訪問事業と資料搬送事業 p131～133 参照）を設定し、年6回の訪問を実施した。また、地域館・分館については、政令指定都市は3年に1回、その他の市は2年に1回とし、令和7年度は、21館を訪問した。協力車の運行により、情報提供・情報収集・運営相談等を計画的に行い、県内市町立図書館との良好な関係構築やきめ細かな支援につながった。

なお、定期的な協力車訪問とは別にオンライン相談（Zoom）を7月に開催した。複数館のグループで行ったことで、協力車訪問と同様の当館による情報提供に加え、各館相互の課題や取組を共有することができた。

(7) 参考資料・二次資料の作成と提供

『図書館協力ハンドブック PLUM2025』、『令和7年度静岡県の図書館』を発行した。

(1) その他

事業企画等で参考になる県内図書館の情報を提供する、X『静岡．図書館気分』を5月に開始した。展示やイベント情報を投稿している。

利用者に図書館の魅力を伝え、図書館に行こうという気分となることも目的としている。

イ 図書館職員研修（p117-119 参照）

ウ 図書館活動の振興・奨励

(7) 静岡県図書館大会（令和7年度第32回静岡県図書館大会 p133-134 参照）

(4) 読書活動の広報

(7) 読み聞かせグループ活動との連携

(2) 協力車訪問事業と資料搬送事業

ア 令和7年度訪問館数

(単位：館)

市立図書館(中央館)	町立図書館	専門図書館	合計
23	11	1	35

イ 令和7年度協力車運行状況

定期訪問 コース名	訪問館数	訪問回数	定期訪問 コース名	訪問館数	訪問回数
伊豆	8館	6回	中部	4館	6回
駿豆	4館	6回	東遠	4館	6回
岳駿	4館	6回	中遠	5館	6回
東部	4館	6回	西遠	2館	6回
合計		48回(延べ日数54日)			
分館・地域館訪問	定期訪問内での実施とは別に3コース実施(延べ日数4日)				

ウ 令和7年度市内巡回と県民サービスセンター搬送

静岡市内の図書館等を巡回し、当館への返却本や県内図書館間の相互貸借資料を週1回原則火曜日に搬送した。また、市町立図書館等受取サービス受取館の一つとなっている県民サービスセンターへの資料搬送を週1回原則木曜日に実施した。

令和7年度は、試行的に市内巡回を一部木曜日に県民サービスセンター搬送と兼ねて実施したが、水曜日に実施している宅配日に資料の発送が間に合わなくなるため、今年度限りとする。

	訪問館	回数
市内巡回	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県議会図書室、静岡県男女共同参画センター図書室、静岡県立大学附属図書館、グランシップ返却ポスト、県民サービスセンター 静岡大学附属図書館、静岡県立大学短期大学部附属図書館(隔週) 静岡県視覚障害者情報支援センター(随時) 	49回
県民サービスセンター搬送(静岡県庁)		39回

エ 協力車訪問、市内巡回等と宅配による資料搬送数(過去3年)

令和7年度から、資料搬送は原則宅配で行うこととし、協力車による搬送は当館が指定した一部の資料のみとした。

(7) 県立資料搬送数

(単位：点)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市立図書館	9,866	9,200	8,814
町立図書館	1,192	1,002	1,082
その他(川根本町・大学・専門図書館)	1,058	1,254	894
合計	12,116	11,456	10,790

(1) 市町等資料搬送数

(単位：点)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市立図書館	31,196	32,026	30,538
町立図書館	5,148	5,126	5,534
その他(川根本町・大学・専門図書館)	814	860	958
合計	37,158	38,012	37,030

(7) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数

(単位：点)

各窓口	令和5年度	令和6年度	令和7年度	開始日
市町立図書館	3,241	2,841	2,874	H11.5.1
総合教育センター“あすなろ”	82	21	15	H11.5.1
県民サービスセンター	813	447	433	H11.11.1

男女共同参画センター“あざれあ”	270	363	324	H13. 2. 15
グランシップ返却ポスト	1,165	1,178	1,114	H14. 8. 13
静岡大学	250	378	266	H18. 4. 1
静岡県立大学短期大学部附属図書館	23	25	64	H31. 4. 1
合 計	5,844	5,253	5,090	

(I) 市町立図書館等受取サービス（遠隔地貸出）資料搬送数（単位：点）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
22,500	22,046	23,550

※利用者が直接県立中央図書館に返却した資料数を含む。

(3) 令和7年度 第32回 静岡県図書館大会

期日・会場：令和7年12月1日(月)10:00～15:30 第6分科会のみ 17:00 まで
 グランシップ中ホールほか（参加者 749 人）

主 催：静岡県教育委員会、静岡県図書館協会、静岡県読書推進運動協議会、
 静岡県読み聞かせネットワーク（令和6年度より）、
 日本図書館協会（令和7年度のみ）、関東地区公共図書館協議会（令和7年度のみ）

後 日 配 信：令和7年12月25日（木）～令和8年2月10日（火）

講師の許諾が得られた講演は、YouTubeにて配信した。（累計閲覧数 1,907 回）
 併せて配布資料は、静岡県図書館大会の Web サイトにて公開した。

ア 講演会 【後日配信：要申込み、資料：申込み不要】

演 題	「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援」
講 師	大場 博幸 氏（日本大学文理学部教授）

イ 分科会

第1	図書館サービス①（参加者 112 人）【後日配信：申込み不要、資料：配布資料なし】 「みんなの図書館とまちづくり」 講師 土肥 潤也 氏（みんなの図書館さんかく館長）
第2	図書館サービス②（参加者 69 人）【後日配信：申込み不要、資料：申込み不要】 「誰もが楽しめる電子図書館 ～将来性と活用のヒント～」 講師 家禰 淳一 氏（愛知大学文学部人文社会科学科教授）
第3	子どもの読書活動（参加者 171 人）【後日配信：申込み不要、資料：配布資料なし】 「へなそうるの森から くらしと物語」 講師 渡辺 鉄太 氏（児童文学者・翻訳家）
第4	学校図書館（参加者 122 人）【後日配信：申込み不要、資料：申込み不要】 「POP 王に学ぶ！学校図書館で活かす POP の力」 講師 内田 剛 氏（ブックジャーナリスト）
第5	大学図書館（参加者 116 人）【後日配信：要申込み、資料：要申込み】 「図書館と展示～企画展示が導く知識との出会い～」 講師 河合 郁子 氏（東京都足立区 図書館サービスデザイン担当課長） 的場 ひろし 氏（静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科教授）

第6	<p>全国公共図書館研究集会（参加者 101人）【後日配信：要申込み、資料：申込み不要】</p> <p>事例報告「静岡書店大賞：静岡県の読書推進に向けて」 講師：河口 雅哉 氏（第12回静岡書店大賞事務局長）</p> <p>調査報告「人口減少社会における図書館と地域の関係性とこれからのあり方」 講師：大谷 康晴 氏（青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科教授）</p> <p>研究協議 司会・コーディネーター：大場 博幸 氏 登壇者：河口 雅哉 氏、大谷 康晴 氏、高橋 健二 氏（静岡県立中央図書館館長） 情勢報告 植松 貞夫 氏（公益社団法人日本図書館協会理事長）</p>
----	---

ウ 表彰

全体会にて表彰式（一部）、及び大会資料にて表彰者氏名の紹介をした。（p136 参照）

- ・優良読書グループ表彰（公社）読書推進運動協議会長賞
静岡県読書推進運動協議会長賞
- ・社会教育功労者表彰（文部科学省）
- ・全国公共図書館協議会表彰
- ・静岡県図書館協会表彰

(4) 関係団体との連携

ア 大学・専門図書館との連携

大学・専門図書館と市町立図書館間の連絡・調整を行い、相互貸借や情報交換など図書館サービスの充実を図った。

(7) 相互貸借等の充実

当館からの協力貸出、大学・専門図書館（市内巡回訪問館等）と県内市町立図書館間の相互貸借についての支援（搬送、宅配）を継続して行い、利用者への資料提供数を増やした。

令和7年度は、県立農林環境専門職大学図書館がおうだんくんサーチ（静岡県内図書館横断検索システム）検索対象館及び、宅配対象館に加わり、調査・提供範囲が拡充された。

(4) 静岡県図書館大会の開催

大学・専門図書館からも静岡県図書館大会運営委員が選出されて、分科会の企画・運営の中心となった。分科会の内容充実、円滑な大会運営等が図られた。

イ 静岡県図書館協会

県内図書館との連絡・調整を行い、情報交換や図書館大会の主催など、図書館振興を図った。

令和7年度、東都大学附属図書館沼津分館が協会に加盟した。

(7) 静岡県図書館大会の開催

委嘱された県図書館大会運営委員（協会加盟館（室）からの選出）は当館と協力し、講師との交渉や図書館大会当日の運営等の業務を担当した。

(4) 図書館職員研修（p117-119 参照）

(ウ) 『静岡県図書館協会加盟館職員名簿』の発行

(エ) 『静岡県図書館協会 会報』(86・87号)発行

(オ) 表彰

図書館に永く勤務し、貢献した職員や図書館協議会委員に対して、その功績を称え表彰を行った。賞状は受賞者に送付し、図書館大会で所属及び氏名を紹介した。

(カ) その他

静岡県内の図書館ネットワークを周知するポスターを更新し加盟館に配布した。図書館内外に掲示した。

ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内の優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

(7) 優良読書グループ表彰

(公社)読書推進運動協議会長賞及び静岡県読書推進運動協議会長賞の選考及び表彰式。

(4) 静岡県図書館大会の開催

県図書館大会運営委員の委嘱を受け、当館と協力して大会運営に携わった。

(ウ) 「静岡県 読書活動だより」の発行

(エ) 「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」の共催

(オ) 夏休み子ども図書スペシャルウィークの協賛 (別項 p122 参照)

エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、外部からの問合せに対する案内や事務局と情報交換等を行った。

(7) 研修会の支援

当館を会場とし、その開催に協力した。

期日・会場：令和8年2月14日(土)・県立中央図書館会議室 (参加者 84人)

演題：「月刊「たくさんのふしぎ」の40年～世界は「ふしぎ」にみちている～」

講師：石田栄吾氏 ((株)福音館書店編集部)

(4) 静岡県図書館大会の開催

令和6年度より、主催者に加わるとともに、県図書館大会運営委員の委嘱を受け、当館と協力して大会運営に携わった。



令和7年度 第32回静岡県図書館大会

令和7年12月1日(月) グランシップ中ホールほか

(5) 表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)

(ア) 静岡県図書館大会

優良読書グループ表彰	
・(公社)読書推進運動協議会長賞 富士市学校読み聞かせネットワーク(富士市)	
・静岡県読書推進運動協議会長賞 上野小PTCA読書サポーター・トトロの森(富士宮市)	
くまさんクラブ(静岡市)	まきのはらし図書館友の会(牧之原市)
時間のはこぶね おはなし会(河津町)	おはなしの会 ピロシキ(南伊豆町)
函南町点字グループ(函南町)	
全国公共図書館協議会表彰	
増田 曜子(静岡県立中央図書館)	志村 典子(三島市立図書館)
木本 千珠子(三島市立図書館)	
※県図書館協会加盟館一覧順、所属は令和7年3月31日現在	
静岡県図書館協会表彰	
眞子 みな(静岡県立中央図書館)	太田 明穂(菊川市立図書館菊川文庫)
殿岡 容子(静岡県立中央図書館)	中山 元博(掛川市立中央図書館)
野沢 佳奈子(静岡県立中央図書館)	米山 弘味(掛川市立大須賀図書館)
飯塚 享子(静岡県立中央図書館)	芹澤 由美子(袋井市立浅羽図書館)
飯塚 悦子(伊豆市立中伊豆図書館)	伊与田 都巳(浜松市立中央図書館)
石田 康基(三島市立図書館)	鈴木 紀予(浜松市立中央図書館)
名倉 和美(裾野市民文化センター図書室)	瀬崎 安史(浜松市立中央図書館)
伊海 律子(沼津市立図書館)	池川 里果(浜松市立中央図書館)
内藤 真由美(沼津市立図書館)	山田 恵(東伊豆町立図書館)
藤澤 都雪(富士市立西図書館)	斉藤 のぞみ(静岡大学附属図書館)
鈴木 富貴(富士市立中央図書館)	柴田 佳寿江(浜松医科大学附属図書館)
柘次金 優子(富士市立富士文庫)	宮崎 智加
鈴木 綾乃(富士宮市立中央図書館)	(聖隷クリストファー大学図書館)
高橋 沙織(富士宮市立中央図書館)	清水 明
伊藤 優(静岡市立中央図書館)	(静岡県立大学短期大学部附属図書館)
平田 磨美(静岡市立御幸町図書館)	片瀬 紀子
坂田 祐季(静岡市立藁科図書館)	(静岡県立大学短期大学部附属図書館)
※県図書館協会加盟館一覧順、所属は令和7年9月1日(退職者は3月31日)現在	

(イ) その他

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)(文部科学大臣表彰)	
図書館の部	長泉町民図書館

10 総務班

(1) 図書館協議会

ア 委員

任期：令和6年8月1日から令和8年7月31日まで

氏名	現職	備考
太田 桂	静岡県都市教育長協議会長 (富士市教育委員会教育長)	学識経験者
小久江暁子	袋井市教育委員会生涯学習課長 (元袋井市立袋井図書館兼浅羽図書館長)	社会教育関係者
片瀬 愛理	常葉大学教育学部生涯学習学科生涯学習専攻	社会教育関係者
鈴木 千明	磐田市立富士見小学校図書館ボランティア 磐田市立城山中学校図書館ボランティア 読み聞かせボランティア	社会教育関係者
鈴木 玲子	静岡県人づくり支援員 静岡県家庭教育支援員 静岡県子ども読書アドバイザー	家庭教育関係者
高山 ひさ乃	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立安東小学校長)	学校教育関係者
土居 由知	静岡県視覚障害者情報支援センター長	学識経験者
轟木堅一郎	静岡県立大学教授(同附属図書館長)	学識経験者
増田 剛	(株)静岡新聞社 編集局出版部長	学識経験者
吉見光太郎	静岡県書店商業組合理事長 (株)吉見書店代表取締役 静岡教科書(株)代表取締役	学識経験者

(令和8年5月20日現在)

イ 協議会

(7) 第1回

日時：令和7年6月13日(金) 午後1時30分～午後4時

出席者：委員7人

議事：1 県立中央図書館の状況及び令和7年度の主要施策について
2 各課の業務紹介と令和7年度重点取組について

(イ) 第2回

日時：令和8年2月20日(金) 午後1時30分～午後4時

出席者：委員7人

議事：1 県立中央図書館の状況について
2 令和7年度の主要施策報告・重点取組の評価について
3 令和8年度の基本方針と主要施策について
4 デジタルアーカイブの基本方針について

(2) 施設設備の維持管理

子どもコーナー他空調設備更新工事(令和7年11月～令和8年3月)

子どもコーナー、貴重書庫、収蔵庫の空調設備を更新した。

※新図書館整備課執行工事

(3) 施設利用状況

令和7年度 各施設の外部利用人数

(単位：人)

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室A	小集会室B	合 計
上半期	0	211	231	150	229	821
下半期	0	296	363	278	298	1,235
合 計	0	507	594	428	527	2,056

当館所蔵資料より



『静岡県立葵文庫記念写真帖』(S010/17)より

「静岡県立葵文庫新築落成記念絵葉書」

1925年(大正14年) 静岡県立葵文庫

11 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。5～6人で構成される館内組織横断型の委員会を設置し、事業にあたっている。令和7年度は、特集展示や静岡県看護協会の「まちの保健室」、出張図書館を実施し、利用者に健康医療情報を届ける役割を果たした。

(1) サービス内容

ア 健康医療情報コーナー

(7) 内容

- ・参考図書（辞書事典類）
- ・ヘルスリテラシー関連資料（ナラティブ関連資料を含む）
- ・入門書・図解シリーズ
- ・健康医療情報関係雑誌 10誌
- ・特集展示（月ごとのテーマ展示）関連資料の展示・資料リスト配布

(イ) 特集展示のテーマ一覧

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
3～5月	認知症	10～11月	自律神経と体の不調
6～7月	フレイル・ロコモ・サルコペニア	12～2月	食と健康
8～9月	こどものこころと健康	3～5月	糖尿病

イ オンラインデータベース

- ・医中誌Web [特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会]
国内発行の医学・歯学・薬学・看護学・心理学及び関連分野（スポーツ医学・獣医学など）の定期刊行物、延べ約8,000誌から収録した1,600万件以上の論文情報を検索できる。
- ・ヨミドクター [読売新聞社]
読売新聞の医療・介護・健康情報サイト。医療大全、病院の実力、医療相談室、介護シニアなどのコンテンツがあり、様々な記事が掲載されている。
- ・JDreamIII [株式会社ジーサーチ]
国内外の科学技術や医学薬学関係の文献情報を検索できる日本最大級の科学技術文献データベースである。約1億件の文献情報を検索できる。

(2) 関連事業

ア 出張図書館

県立図書館が所蔵する健康医療に関する資料の展示、新規利用者登録、貸出処理等

- ・「世界お茶まつり 2025」での出張図書館

実施日：令和7年10月24日（金）10：00～16：00

会場：グランシップ 大ホール 海

イ 外部機関との共催事業など

- ・まちの保健室（県看護協会による健康相談会）

実施日：令和7年7月30日（水） 参加人数：22人

12 歴史文化情報センター（地域調査班）

(1) 県史編さん収集資料の保存・整理・公開

ア 保存・整理

当センターは静岡県史編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約16万点以上の資料を保管している。保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。また、CH、マイクロフィルム、DVD、ハードディスクの保存状況について確認した。

イ 公開

古文書類については、目録作成が終了したものから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたものをインターネット等で公開している。

ウ 利用促進

資料紹介を貴重書展示コーナーにて年2回実施した（令和7年8月1日～8月28日「富士山上空に現れたオーロラ」、令和8年2月28日～3月29日「日本の日和待湊と方角石」）ほか、くずし字解読講座を全4回実施した。また、『葵』誌上で資料紹介を行った。

エ 移転に伴う資料整理

当センターは令和5年度に県立中央図書館に移転しており、保管資料の整理作業を継続して実施した。

(2) 利用状況

令和7年度の古文書閲覧件数189件、資料掲載等許可申請37件、レファレンス43件であった。

レファレンスの内訳は以下のとおりである。

ア レファレンス受付方法

方法	割合(%)
電話	61.9
来館	9.5
はがき・封書	0
メール	28.6

イ レファレンス内容

内容	割合(%)
県史の内容等	14.3
歴史・民俗について	61.9
資料利用について	23.8

ウ レファレンス対象

対象	割合(%)
一般(県内)	23.8
一般(県外)	31.1
県庁内	7.1
研究者・学生	7.1
自治体	19.0
新聞社・出版社等	4.8
その他	7.1

13 資料紹介 ^{くさやま}草山化する伊豆の山々—正徳5年の^{うりゅうの}瓜生野村大城小四郎上申書—

歴史文化情報センター

はじめに

伊豆市瓜生野の大城雅美家文書は昭和 62、63 年の県史調査により、4,000 点を超える文書が整理されており、質量ともに伊豆を代表する文書群と言える。大城家は江戸時代、代々瓜生野村の名主役を務めてきた家柄で、文書群の中には瓜生野金山や分一番所（荷物改番所）に関するものなど特色ある資料も含まれている。本稿では、その中から江戸時代前期、正徳 5（1715）年 11 月に当主大城小四郎が奉行所宛に提出した上申書を取り上げる。上申書は文言の一部が微妙に異なる三通が伝来している。

上申書の内容は、伊豆の山々が草原となっていく、いわゆる「草山化」の現状及び原因、弊害、対策について述べたものである。宛先の奉行所が具体的にどこを指すのかは不明で、実際に提出されたかどうかも確認できない。しかしながらこの上申書は以下の点で他に例のないユニークな内容を持っている。

- ① 生産活動の当事者である百姓自身が記したものである
- ② 草山化の実態を数字を挙げて明らかにしている
- ③ 近世前期の伊豆地域の困窮化とその原因が草山化にあることを明確に指摘している
- ④ 草山化が困窮化につながるメカニズムを多角的に分析している

本稿では、瓜生野村をめぐる山野利用の考察も含め、上申書の内容を分析していきたい。

1 伊豆の山々の草山化

近年の研究により、江戸時代の山野では全国的に森林の減少が進み、草山化が進行していたことが明らかにされている。その背景には、江戸時代の特徴である家族労働主体の集約的農業が大量の肥料を必要としていたことがあった。当時の主な肥料は草肥である。百姓たちは、山野に火をかけ（野焼）、草山化することによって肥料の供給源を確保した。一般に、田畑の面積に対してその約十倍の山野が必要と言われる。江戸時代初期の新田開発の進展は、山野の草山化を急速に進展させた。

伊豆地域の草山化の実態についてはこれまであまり明らかにされてこなかった。管見の限りでは唯一『伊東市史』の中で、赤沢村の絵図に基づき、村の背後にそびえる山々に広範な「芝地」が広がっていたことが指摘されている。一方で市町村史等によれば、伊豆地域ではかなり広範に野焼が行われていたことが確認されている。

2 大城小四郎上申書の内容

（1）草山化する伊豆の山々

では、上申書の内容を見ていこう。上申書は冒頭で、50～60 年前の伊豆の山々の状況について述べている。正徳 5 年から 50～60 年前とすると、明暦・万治・寛文期にあたる。当時、百姓たちは山から材木や薪を切り出し、江戸へ出荷していた。大都市江戸では都市化が進展し、木材や薪の需要が高まっていた時期である。当時は集落近くの山々から刈敷・肥草・萱・馬草などが簡単に手に入り、多くの収穫につながっていた。刈敷とは、春の苗代づくりの際に田へ敷き込む木の新芽や若葉、青草などを指す。萱は屋根材として用いられた。刈敷・肥草等はいずれも馬で運び出され、その一部は販売されて百姓たちの貴重な収入源となった（駄賃稼ぎ）。

(2) 草山化の弊害

しかし、百姓たちが広範に野焼を進めた結果、以下のような弊害が生じてきた。なお、上申書では野火と記しているが、通常野火は山林火災を意味する語であり、ここでは野焼として話を進める。

- ① 木材や薪を身近な山から入手することが困難となり、百姓たちは集落近くに林を造成せざるを得なくなった。その結果、鹿や猪などによる食害に悩まされるようになった。
- ② 奥山まで入って、刈敷・馬草等を刈るため、運び出しに非常に手間がかかるようになった。草自体も乏しくなった。
- ③ 早い時期に火入れをすると草が乏しく、草の成長を待つと田に入れるのが遅くなった。
- ④ 馬による駄賃稼ぎが困難となり、その結果、牛馬の数が十分の一に減少。百姓は奥山から草を自ら背負って運ばざるを得なくなり、草の確保はさらに困難になった。

以上のことから大城小四郎は「伊豆国野火出候事困窮之元_ニ而御座候」と野焼が伊豆全体の困窮の原因であると断じている。

領主側は基本的に野焼を禁じていた。しかし、上申書によれば、野焼は山深い場所で行われるため領主の目が届かなかったようだ。さらに伊豆地域全体に及ぶ領主交替、いわゆる「元禄の地方直し」がこれに拍車をかけた。元禄の地方直しとは、幕府が財政再建のため、それまで旗本に米で与えていた給与を支配地の付与に切り替えた政策である。伊豆はその影響をもろに受け、弱小旗本による分割統治が広がり、領主の支配力が弱まった。

(3) 草山化の実態

上申書では野焼の範囲が奥山へと拡大したことで、伊豆国の横14~15里、廻り40~50里の山が皆「芝山」となったと述べている。

上申書はさらに具体例を挙げている。たとえば海岸沿いの内浦組から宇久須組までは平地14~15里、山地（嶺・洞）30~40里の行程であり、山地部にはかつて木が生えていたが、今は「皆芝山」となった。伊豆の中央部の湯ヶ島・市山村では集落から1~2里が草山化し、立木のある範囲は長さ10里余、横5~7里にまで縮小した。現在のペースで毎年5~10間ずつ火入れが行われると、早晚「天城山之木も尽可申」と予測している。



(4) 草山化への対策

上申書では、野焼を停止すれば8~9年で山林は回復し、江戸への薪の販売も再開でき、肥草も復活すると述べている。さらに、野焼の肥料を使わなくても枯草・肥草等を馬に踏ませれば良質な肥料は確保できるので問題ないとしている。実際、市山・湯ヶ島の村々では2~3里野焼をしているが、刈り取った草をほとんど田に入れず、残りを捨てたり天城山の御林へ持ち込んだりしていると述べて

いる。野焼の草が田地に良いと主張する百姓もいるが、それは山中に田畑を持つ者が近くて便利なため主張しているにすぎず、そのような者は1村に1、2人程度であるとしている。

3 山野利用の実態

次に、上申書の背景となった瓜生野村の山野利用の実態を他の大城家文書から見ていく。瓜生野村は田方平野の南にあり、山々に接する村である。享保14(1729)年3月の村明細帳によれば、瓜生野村が単独で占有する山野はなく、代わりに入会地(複数の村による共有地)から薪・馬草・肥草・刈敷などを得ていた。大芝山と呼ばれる天城山戸田峠から熊坂に至る峰を中心とする一帯である。面積およそ500町歩。大芝山を利用していた村は、上修善寺・下修善寺・堀切・大沢・熊坂・瓜生野の6ヶ村である。

享保3(1718)年9月22日、大芝山の利用をめぐり、瓜生野村と上修善寺村・堀切村との間で争論が生じ、幕府の最高裁定機関である評定所^{ひょうじょうしょ}の裁定が下された。経緯は以下のとおりである。

同年2月6日、上修善寺村の者が大芝山内の郷土洞において、瓜生野村の再三の制止にもかかわらず、前例のない野焼を実施。さらに2月19日にも野焼を行った。加えて2月21日には、堀切村も石神において野焼を実施した。これらの場所はいずれも瓜生野村の最寄りであり、同村では馬草・刈敷・肥草等の採取に重大な支障が生じるとして評定所に出訴した。

評定所の審理において、瓜生野村は当該地が入会地の範囲に属すると主張したのに対し、上修善寺村・堀切村は自村の占有地であると主張。評定所では村境については双方の証拠とも客観性に欠け、境界線は不分明であると判断。その上で、本来野焼は禁止であり、やむを得ず実施する場合でも入会村を立ち合わせるのがルールである。にもかかわらず、両村が瓜生野村を立ち合わせずに野焼を行った点は問題であるとして、両村の名主に^{てぐま}手鎖を命じている。

この出来事は、上申書が作成された時期と近く、当時瓜生野村が近隣村による野焼によって生産活動が脅かされていたことが明らかとなった。

まとめ

以上、大城小四郎の上申書の分析から、以下のことが明らかとなった。

1つ目は近世前期、伊豆地域全般で草山化が進行しており、その原因は農業の発展による肥料利用の増大にあったこと、また領主側は表面的には野焼を規制していたものの、実際には条件付きで容認していたこと。

2つ目は、草山化が伊豆の村々の困窮化をもたらしたメカニズムである。具体的には、①集落の最寄りに薪炭供給地として林を設定したため猪や鹿による食害が発生するようになったこと、②草が乏しくなり肥料不足をきたすようになったこと、③採草場が遠くなり運搬の負担増を強いられるようになったこと、④駄賃稼ぎの減少が牛馬の減少をもたらし、これに拍車をかけたこと等である。

上申書の背景には、大城小四郎自身が村役人として隣村との山野利用のトラブル(特に野焼)に苦慮している事情があったと思われる。上申書は生産活動の当事者である百姓自身の切実な課題を反映したものである。今後は、伊豆の山野にかかわるより客観的な史料や数量的データを集め、より詳しく上申書の内容を検証していくことが課題である。

【史料】

乍恐奉願上候事

一、伊豆国五六拾年以前山々ニ而材木并薪江戸へ相廻シ商売仕候、駄賃等迄村々百姓勝手ニ罷成候、就夫居村之山御田地刈敷山ニ仕、手間不掛刈敷肥草大分御田地江入申ニ付、作毛能御座候所ニ年々奥山へ野火入候ニ付木薪無御座迷惑仕候、居在所刈敷山を林ニ仕替、奥山ニ而萱刈敷・馬草・肥草年中刈候得共、日手間大分掛り存知之通ニ御田地刈入候事不罷成、其上居在所林ニ成候故、猪鹿御田地を荒申候、奥野年々冬春ノ野火入候故小草ニ罷成、只今者刈敷・馬草取ニ忒三里宛入込候故、駄数先年之半分も刈取申事不罷成古枯草も無之、刈溜り無御座、殊ニ山中悪地ニ而肥草大分入申候、其上冬春之内早ク火入申時分は刈敷無御座候、草生ひを待候而者田地仕付時分遅ク罷成、肥草僅宛入候間作物悪敷迷惑仕候、就又御代官ノ野火堅ク御止メ被為遊候得共、在々五三里方近村入合之場ニ而野火出シ候者不知御僉議難成候、近年ハ村々御知行所ニ相渡り御支配方別々ニ而弥野火出シ候者御詮義難成、深山迄焼入芝野ニ罷成木之根迄無御座候、只今洞嶺ニ忒三ヶ所御座候、野火入不申候得者八九年之内ニ者江戸商売真木切出シ申百姓勝手ニ罷成、其上苗木生草も長ク罷成、御田地肥草自由ニ御座候、右之通り山々草木無御座候、五六拾年以前駄賃肥草取候稼御座候故、牛馬在々ニ大分抱申候得共、只今者先年之拾分一程ニ牛馬減シ候ニ付、農時分百姓歩行ニ而肥草負来候故、御田地へ肥草思ふ様ニ入候事不罷成候、伊豆国野火出候事困窮之元ニ御座候、村々御田地之義ハ所ニ方横五町拾町ニ而国中大分者山ニ御座候、横拾四五里廻リ四五拾里程者皆山ニ御座候得共、野火故芝山ニ罷成國中困窮致候事

一、五六十年以前迄者伊豆国西方内浦組方南方宇久須組迄道法平地拾四五里山ニ入候而者嶺々洞々之高下三四拾里程も御座候積り、此分内木山ニ御座候ニ唯今ハ皆芝山ニ罷成候、其上狩野組之村々者御田地近所方木立候野火入候ニ付、湯ヶ嶋・市山村之内天城山も居所方壹貳里ハ野火ニ而者草野ニ罷成候、残り木立長拾里余程、横ハ五七里程も御座候、只今之様ニ野火出シ候ハ、年々と五間拾間宛木立へ火入候ハ、天城山之木も尽可申と奉存候、尤百姓焼野草御田地相応之様ニ申付も御座候、御田地之際方木立候時分焼野草無御座候、枯草皮草馬屋入馬ニ踏セ候得者、御田地之肥ニ能御座候、焼野之草なしニ被為仰付候而も御田地者弥能仕付可申と奉存候、縦壹貳在所不作ニ御座候共國中御救と奉存候、市山・湯ヶ嶋年々に二三里之山野火ニ而焼候得共、御田地へ者万々一程茂入不申、残りハ捨り、天城山御林江拾間貳拾間宛焼入草ニ罷成候、焼野草御田地ニ能と申百姓ハ山入ニ壹反ニ反程も持候者明白田植候ニ縦今日田之近所ニ而刈入間ニ逢申故、勝手ニ申者者壹村ニ而も壹貳人宛御座候、已上

正徳五年未十一月

豆州君沢郡瓜生野村

小四郎

御奉行所様

(歴史文化情報センター請求番号：29003 - 50 - 69C、29003 - 54 - 66L、29003 - 110 - 70J)

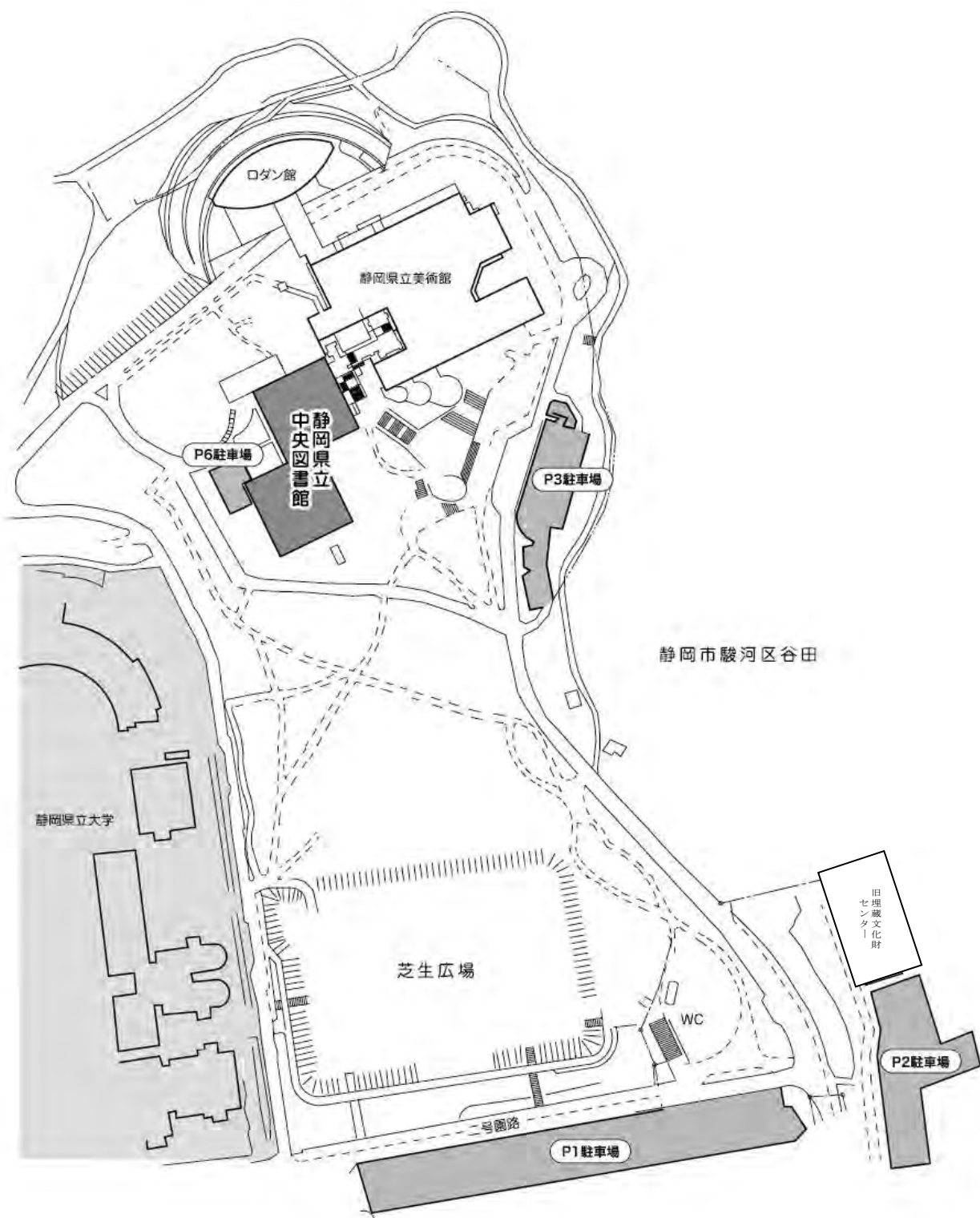
【参考文献】

- 千葉徳爾『はげ山の研究 増補改訂』(そしえて 1991. 3) 県立中央図書館請求記号：656. 7/2
- 伊東市史編集委員会『伊東市史 通史編 伊東の歴史2 江戸時代』(伊東市 2019. 3) 県立中央図書館請求記号：S212/13
- 修善寺町教育委員会『修善寺町史料 第五集 伊豆国君沢郡瓜生野村』(修善寺町教育委員会 1968. 8) 県立中央図書館請求記号：S212/19

(文責 柴雅房)

Ⅲ 施設及びサービス案内 (令和8年度)

1 図書館配置図



2 施設の概要

(1) 静岡県立中央図書館

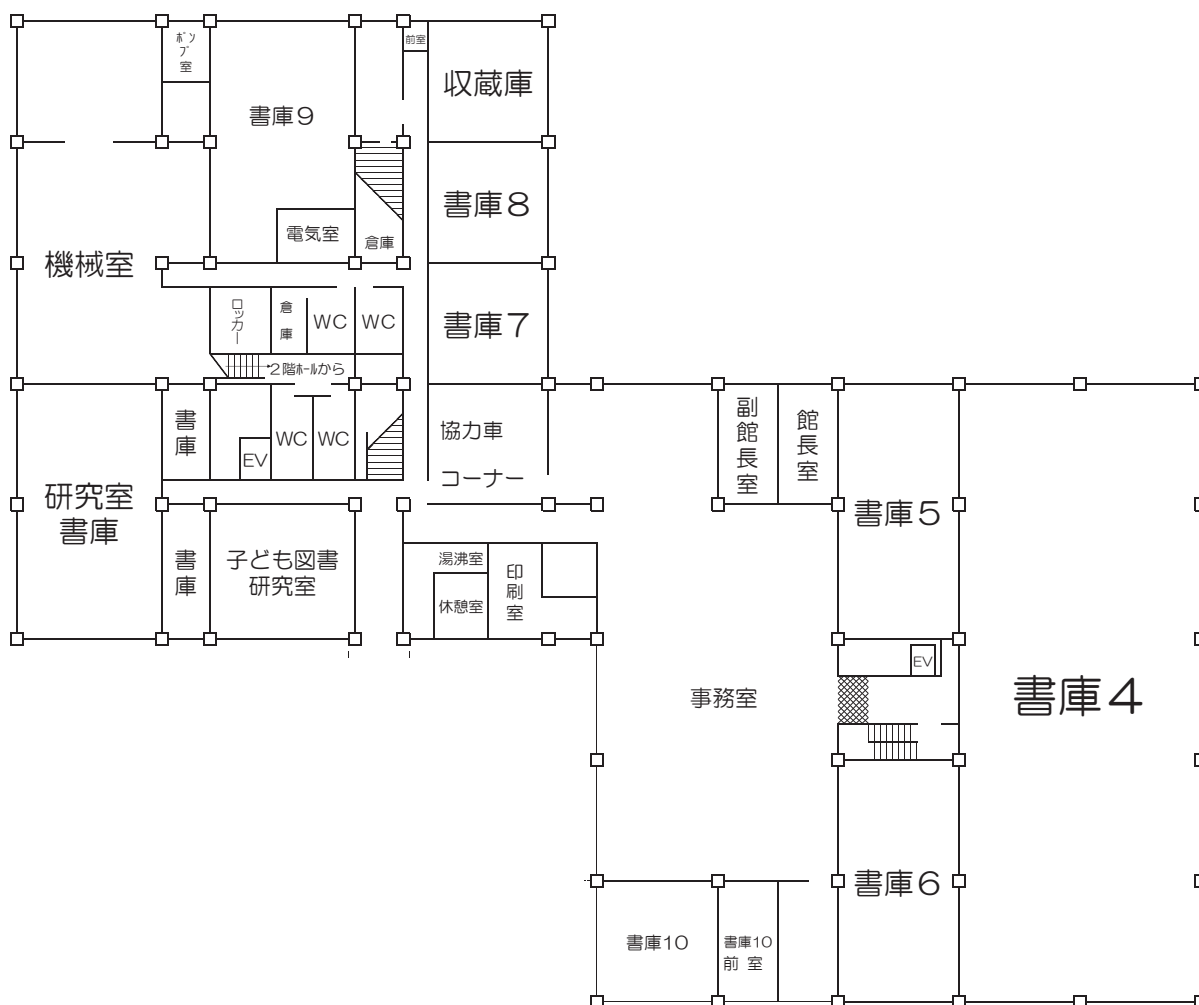
- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m²
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m² 188席) 書庫 (延2,515.56 m²) 子ども図書研究室 (92.00 m²) 事務室 (593.60 m²)

.....

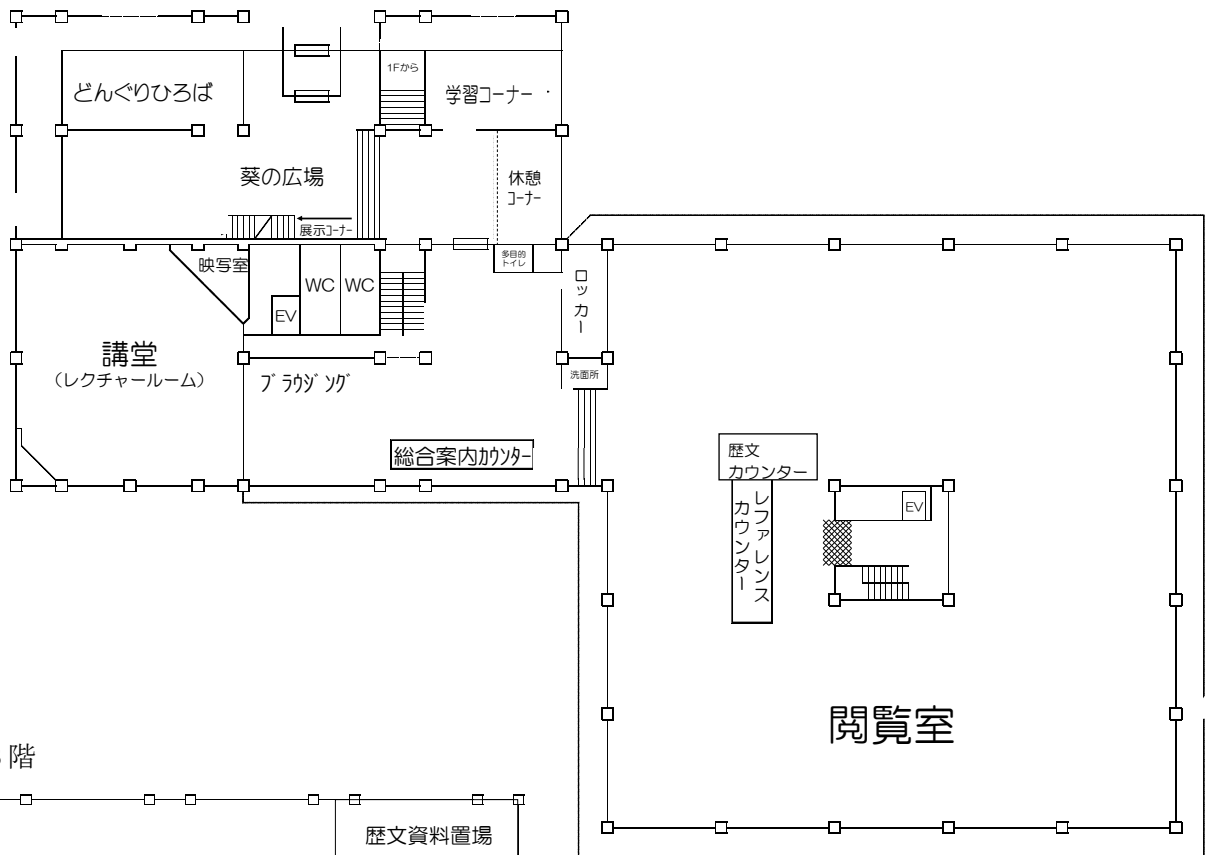
講堂 (276人) 会議室 (120人)
 中集会室 (50人) 小集会室A (30人) 小集会室B (20人)
 展示室 (延壁90 m²)

- ・平面図 (以下のとおり)

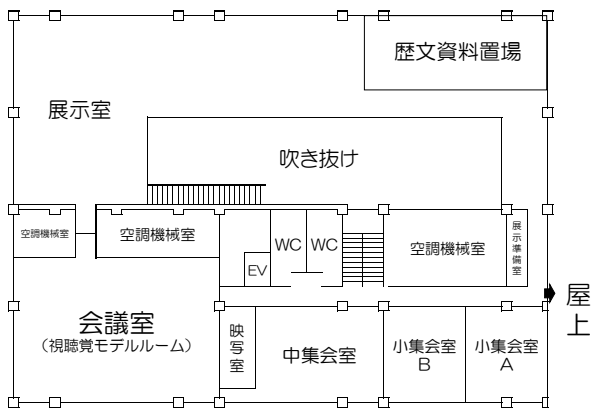
1階



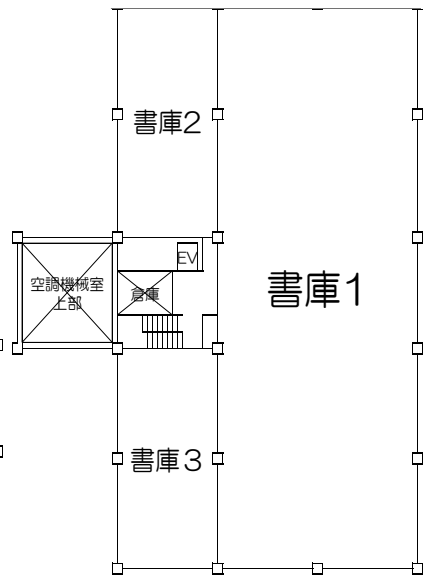
2階



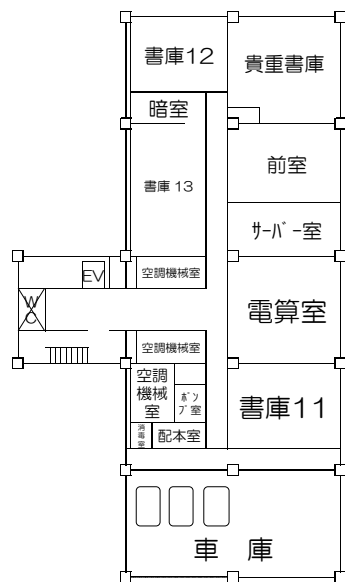
3階



B M階

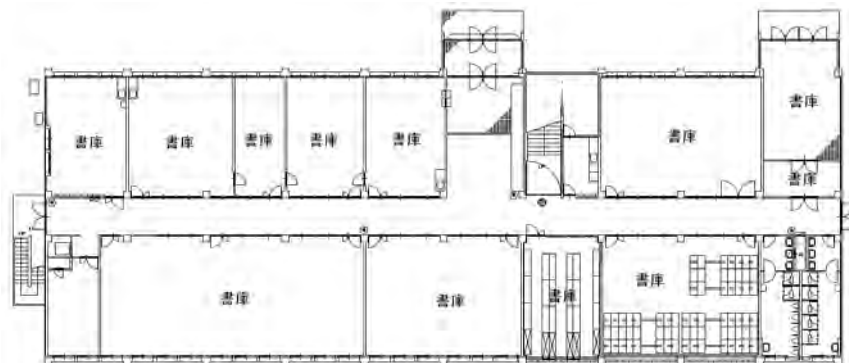


B階



(2) 旧埋蔵文化財センター

- ・鉄筋コンクリート 地上2階
- ・延面積 2,176.73 m²
- ・主な施設 1階部分を書庫として使用 (1,070.52 m²)



(3) その他建物

- ・自転車置場 107.10 m²
- ・旧埋蔵文化財センター機械室 154.68 m²
- ・ " プレハブ棟 328.06 m²

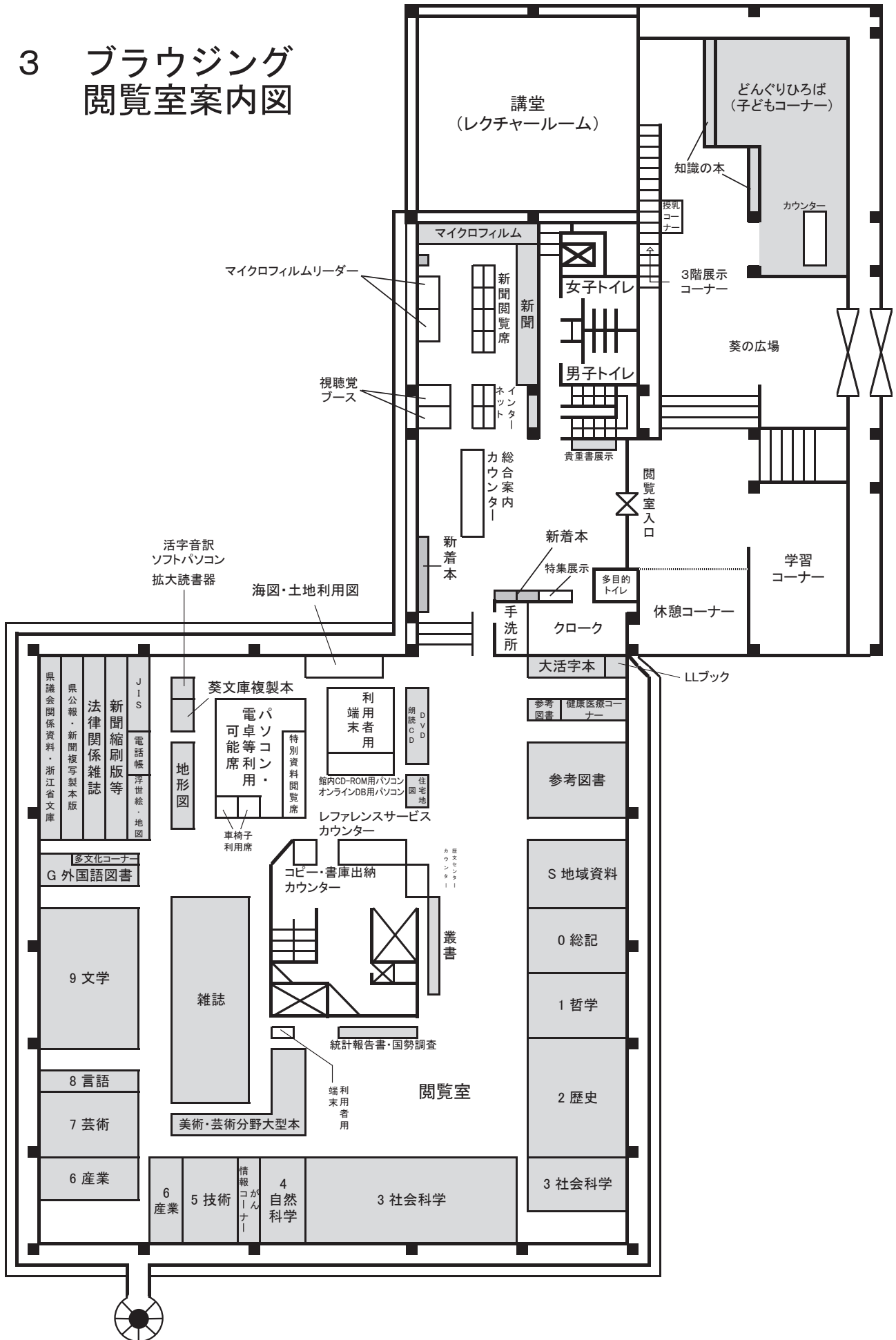


南面



北面

3 ブラウジング 閲覧室案内図



4 利用案内（令和8年度）

◆開館時間

午前9時～午後5時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前9時～午後7時）

◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第1・3・5月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

◆資料

●一般図書・外国語図書・地域資料・児童資料・電子書籍

●新聞・雑誌・マイクロフィルム

●DVD・朗読CD等視聴覚資料

●特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）

原本の閲覧については事前に可否の確認と予約が必要
問合せ先 調査課一般調査班

◆閲覧・貸出・複写

●閲覧室には約10万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約200席

●図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人20点まで、22日以内

視聴覚資料の貸出しは一人3点まで、22日以内
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（運転免許証等）

●資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

◎歴史文化情報センター

・利用時間

図書館開館日の平日 午前9時～午後5時

資料の出納受付は午後4時まで

出納資料の返却は午後4時30分まで

土日祝日は事前予約した資料の閲覧複写のみ可能

（資料の追加、レファレンス等は不可）

・資料

県史編さん時の収集資料（古文書複写物、写真等）

・業務内容

県史編さん時の収集資料の保存・整理・公開に関すること
刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問合せへの回答

◎子どもコーナー「どんぐりひろば」

・利用時間

図書館開館日の午前9時～午後5時

・資料

絵本 約6,000冊

読み物 約2,000冊

知識の本 約1,000冊

・特徴

授乳室あり、一部カーペット敷き

定期イベントとしておはなしかいを開催

◎子ども図書研究室

・利用時間

図書館開館日の午前9時～午後5時

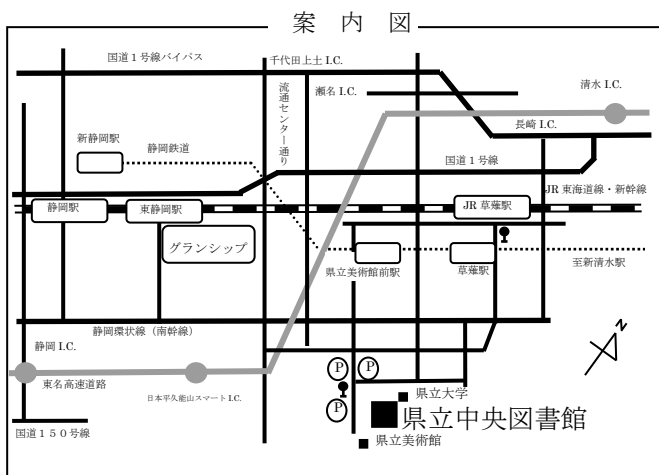
・資料

児童書約14万冊

・特徴

平成15年度以降に刊行された児童書（コミック、ゲーム
攻略本、学習参考書等を除く）を全点収集

中学生を除く15歳以上の方が利用可



所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268

総目次 (51号 (平成29年6月1日発行) ~59号 (令和7年6月1日発行))

注：50号までの目次については、「葵」50号 (平成28年6月1日発行) に収録しています。

平成29年度 (51号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 河原崎 全 1	
1 当館の概要…………… 2	
1 沿革	
2 平成29年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系	
3 組織図 4 職員 5 予算	
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要	
II 事業報告 (平成28年度)	
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年…… 11	
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	
(2) 静岡県立中央図書館の今後の在り方・整備をめぐって	
(3) 県内市町の新図書館設置の動き	
(4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催	
2 利用状況統計…………… 15	
(1) 静岡県立中央図書館利用状況	
(2) 協力貸出 (3) レファレンス	
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	
(5) 歴史文化情報センター利用状況	
3 図書館資料充実状況…………… 18	
(1) 図書資料	
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等	
4 図書係…………… 21	
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実	
(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエスト・相互貸借	
(5) 子ども図書研究室	
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」	
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他	
5 新聞雑誌係…………… 28	
(1) 逐次刊行物の充実 (2) 提供情報の充実	
(3) その他	
6 一般調査係…………… 30	
(1) レファレンスサービス	
(2) 市町立図書館などへの支援	
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	
(4) その他の関連事業	
7 地域調査係…………… 35	
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実	
(3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援	
(5) 地域資料のデジタル化	
(6) 16mmフィルムの媒体変換	
8 企画係…………… 37	
(1) 図書館職員研修	
(2) 利用者からの意見	
(3) イベント等 (4) 図書館サポーター	
(5) 職場体験学習等 (6) 図書館広報	
(7) ムセイオン静岡	
(8) 浙江図書館との友好提携	
(9) 山梨県立図書館との連携協定	
(10) 市町立図書館等受取サービス	
付属資料 平成28年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果	
9 振興係…………… 51	
(1) 市町立図書館振興	
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業	
(4) 平成28年度 静岡県図書館大会	
10 総務係…………… 55	
(1) 図書館協議会	
11 管理係…………… 56	
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況	
12 健康医療情報サービス…………… 57	
(1) サービス内容 (2) 関連事業	
13 歴史文化情報センター…………… 58	
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開	
(2) 利用状況	
14 資料紹介	
戦前の静岡県史資料等 (その3) …… 59	
III 施設及びサービス案内…………… 67	
1 図書館配置図 2 施設の概要	
3 閲覧室案内図	
4 利用案内 (平成29年度)	
表紙……上村翁旧蔵浮世絵集第34集「徳川家累代御台所ノ図」	

平成30年度 (52号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 三科 守 1	
1 当館の概要…………… 2	
1 沿革	
2 平成30年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系	
3 組織図 4 職員 5 予算	
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要	
II 事業報告 (平成29年度)	
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年…… 12	
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	
(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組と臨時休館	
(3) 県内市町の新図書館設置の動き	
(4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催	
2 利用状況統計…………… 17	
(1) 静岡県立中央図書館利用状況	
(2) 協力貸出 (3) レファレンス	
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	
(5) 歴史文化情報センター利用状況	
3 図書館資料充実状況…………… 20	
(1) 図書資料	
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等	
(3) 逐次刊行物 (新聞・雑誌)	
4 図書班…………… 21	
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実	
(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエスト・相互貸借	
(5) 子ども図書研究室	
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」	
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他	
5 新聞雑誌班…………… 29	
(1) 逐次刊行物 (新聞・雑誌) の充実	
(2) 提供情報の充実	
(3) 臨時休館時の作業等	
6 一般調査班…………… 31	
(1) レファレンスサービス	
(2) 市町立図書館などへの支援	
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	
(4) その他の関連事業	
7 地域調査班…………… 36	
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実	
(3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援	
(5) 地域資料のデジタル化	
(6) 16mm・8mmフィルムの媒体変換	
(7) 歴史文化情報センター	
(8) 臨時休館中の作業	
8 企画班…………… 38	
(1) 図書館職員研修	
(2) 利用者からの意見	
(3) イベント等 (4) 図書館サポーター	
(5) 職場体験学習等 (6) 図書館広報	
(7) ムセイオン静岡	
(8) 浙江図書館との友好提携	
(9) 山梨県立図書館との連携協定	
(10) 市町立図書館等受取サービス	
9 振興班…………… 46	
(1) 市町立図書館振興	
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業	
(4) 平成29年度 静岡県図書館大会	
10 総務班…………… 50	
(1) 図書館協議会	
(2) 施設設備の維持管理 (3) 施設利用状況	
11 健康医療情報サービス…………… 52	
(1) サービス内容 (2) 関連事業	
12 歴史文化情報センター (地域調査班) …… 53	
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開	
(2) 利用状況	
13 資料紹介 戦前の静岡県史資料等 (その4) …… 54	
14 資料紹介 『米利堅 (めりけん) 紀行』(AJ-13) の書誌情報に関する考察…………… 58	
15 「文化力の拠点」施設における新県立中央図書館基本構想 …… 64	
III 施設及びサービス案内…………… 74	
1 図書館配置図 2 施設の概要	
3 ブラウジング案内図	
4 利用案内 (平成30年度)	
表紙……「論語」	

令和元年度 (53号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 三科 守 1	
1 当館の概要…………… 2	
1 沿革	
2 令和元年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系	
3 組織図 4 職員 5 予算	
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要	
II 事業報告 (平成30年度)	
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(平成30年度) …… 13	
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	
(2) 静岡県立中央図書館の安全対策と新館整備に向けた取組	
(3) 県内市町の新図書館設置の動き	
(4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催	
2 利用状況統計…………… 20	
(1) 静岡県立中央図書館利用状況	
(2) 協力貸出 (3) レファレンス	
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	
(5) 歴史文化情報センター利用状況	
3 図書館資料充実状況…………… 23	
(1) 図書資料	
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等	
(3) 逐次刊行物 (新聞・雑誌)	
4 図書班…………… 25	
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実	
(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエスト・相互貸借	
(5) 子ども図書研究室	
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」	
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) 展示他	
5 新聞雑誌班…………… 32	
(1) 逐次刊行物 (新聞・雑誌) の充実	
(2) 提供情報の充実 (3) その他	
6 一般調査班…………… 34	
(1) レファレンスサービス	
(2) 市町立図書館などへの支援	
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	
(4) その他の関連事業	
7 地域調査班…………… 39	
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実	
(3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援	
(5) 地域資料のデジタル化	
(6) 歴史文化情報センター	
8 企画班…………… 41	
(1) 図書館職員研修	
(2) 利用者からの意見	
(3) イベント等 (4) 図書館サポーター	
(5) 職場体験学習等 (6) 図書館広報	
(7) ムセイオン静岡	
(8) 浙江図書館との友好提携	
(9) 山梨県立図書館との連携協定	
(10) 市町立図書館等受取サービス	
9 振興班…………… 49	
(1) 市町立図書館振興	
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業	
(4) 平成30年度 静岡県図書館大会	
10 総務班…………… 53	
(1) 図書館協議会	
(2) 施設設備の維持管理 (3) 施設利用状況	
11 健康医療情報サービス…………… 56	
(1) サービス内容 (2) 関連事業	
12 歴史文化情報センター (地域調査班) …… 57	
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開	
(2) 利用状況	
13 資料紹介 戦前の静岡県史資料等 (その5) …… 58	
14 「文化力の拠点」における新県立中央図書館基本計画 …… 64	
III 施設及びサービス案内…………… 95	
1 図書館配置図 2 施設の概要	
3 ブラウジング・閲覧室案内図	
4 利用案内 (令和元年度)	
表紙……「西国立志編」	

令和2年度(54号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 三科 守 1
I 当館の概要(令和2年度) 2
1 沿革
2 令和2年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料(1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告(令和2年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和2年度) 13
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組
(3)県内市町の新図書館設置の動き
(4)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 18
(1)静岡県立中央図書館利用状況
(2)協力貸出 (3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5)歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 21
(1)図書資料
(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌)
4 図書班 23
(1)図書資料の充実 (2)視聴覚資料の充実
(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借
(5)子ども図書研究室
(6)グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7)静岡県視聴覚ライブラリー (8)展示他
5 新聞雑誌班 30
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実
(2)提供情報の充実 (3)その他
6 一般調査班 32
(1)レファレンスサービス
(2)市町立図書館などへの支援
(3)特別取扱資料等の保存と公開
(4)その他の関連事業
7 地域調査班 37
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実
(3)資料展示 (4)市町立図書館への支援
(5)地域資料のデジタル化
(6)歴史文化情報センター
8 企画班 39
(1)図書館職員研修
(2)利用者からの意見
(3)イベント等 (4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡
(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス
(11)海外技術研修員の受入れ
付属資料 令和元年度「静岡県立中央図書館
来館者アンケート」集計結果
9 振興班 51
(1)市町立図書館振興
(2)関係団体との連携 (3)協力車事業
(4)令和元年度 静岡県図書館大会
10 総務班 56
(1)図書館協議会
(2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス 58
(1)サービス内容 (2)関連事業
12 歴史文化情報センター(地域調査班) 59
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開
(2)利用状況
13 資料紹介 戦前の静岡県史資料等(その6) 58
III 施設及びサービス案内 95
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 ブラウジング・閲覧室内図
4 利用案内(令和2年度)
表紙 「上村翁旧蔵浮世絵集」

令和3年度(55号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 三科 守 1
I 当館の概要(令和3年度) 2
1 沿革
2 令和3年度基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料(1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告(令和3年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和3年度) 13
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組
(3)県内市町の新図書館設置の動き
(4)静岡県の新型コロナウイルスの影響
(5)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う当館の取組
(6)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 21
(1)県立中央図書館利用状況
(2)協力貸出 (3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5)歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 24
(1)図書資料
(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌)
4 図書班 28
(1)図書資料の充実 (2)視聴覚資料の充実
(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借(含協力貸出)
(5)子ども図書研究室
(6)グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7)子どもコーナー「どんぐりひろば」
(8)静岡県視聴覚ライブラリー (9)展示他
5 新聞雑誌班 33
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実
(2)提供情報の充実 (3)その他
6 一般調査班 35
(1)レファレンスサービス
(2)市町立図書館などへの支援
(3)特別取扱資料等の保存と公開
(4)その他の関連事業
7 地域調査班 40
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実
(3)資料展示 (4)市町立図書館への支援
(5)地域資料のデジタル化
(6)歴史文化情報センター
8 企画班 43
(1)図書館職員研修
(2)利用者からの意見
(3)イベント等 (4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡
(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス
付属資料 令和2年度「静岡県立中央図書館
来館者アンケート」集計結果
9 振興班 53
(1)市町立図書館振興
(2)関係団体との連携 (3)協力車事業
(4)令和2年度 静岡県図書館大会(中止)
(5)表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)
10 総務班 57
(1)図書館協議会
(2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス 59
(1)サービス内容 (2)関連事業
12 歴史文化情報センター(地域調査班) 61
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開
(2)利用状況
13 資料紹介 近代行政文書について 62
14 新県立図書館整備計画 66
III 特集 貴重書研究「駿府の木戸」 96
IV 施設及びサービス案内 104
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 ブラウジング・閲覧室内図
4 利用案内(令和3年度)
表紙 「上村翁旧蔵浮世絵集」

令和4年度(56号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 柴 雅房 1
I 当館の概要(令和4年度) 2
1 沿革
2 令和4年度基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料(1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告(令和4年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和4年度) 13
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組
(3)県内市町の新図書館設置の動き
(4)静岡県の新型コロナウイルスの影響
(5)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 19
(1)県立中央図書館利用状況
(2)協力貸出 (3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5)歴史文化情報センター利用状況
(6)電子図書館利用状況
3 図書館資料充実状況 22
(1)図書資料
(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌) (4)電子書籍
4 図書班 25
(1)図書資料の充実 (2)視聴覚資料の充実
(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借(含協力貸出)
(5)子ども図書研究室
(6)子どもコーナー「どんぐりひろば」
(7)静岡県視聴覚ライブラリー (8)展示他
5 新聞雑誌班 33
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実
(2)提供情報の充実 (3)その他
6 一般調査班 35
(1)レファレンスサービス
(2)市町立図書館などへの支援
(3)特別取扱資料等の保存と公開
(4)その他の関連事業
7 地域調査班 40
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実
(3)資料展示 (4)市町立図書館への支援
(5)地域資料のデジタル化
(6)歴史文化情報センター
8 企画班 43
(1)図書館職員研修
(2)利用者からの意見
(3)イベント等 (4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡
(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス
付属資料 令和3年度「静岡県立中央図書館
来館者アンケート」集計結果
9 振興班 54
(1)市町立図書館振興
(2)関係団体との連携 (3)協力車事業
(4)令和3年度 静岡県図書館大会
(5)表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)
10 総務班 58
(1)図書館協議会
(2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス 60
(1)サービス内容 (2)関連事業
12 歴史文化情報センター(地域調査班) 61
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開
(2)利用状況
13 資料紹介 近代行政文書について 62
14 新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議報告書 66
III 特集 貴重書研究「葵文庫(江戸幕府旧蔵書)の洋学資料～近代化をめざした江戸幕府～」 72
IV 施設及びサービス案内(令和4年度) 80
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 ブラウジング・閲覧室内図
4 利用案内(令和4年度)
表紙 「上村翁旧蔵浮世絵集」

令和5年度(57号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 柴 雅房 1
I 当館の概要(令和5年度) 2
1 沿革
2 令和5年度基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料(1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告(令和4年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和4年度) 13
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組
(3)県内市町の新図書館設置の動き
(4)県内図書館その他の動き
(5)静岡県の新型コロナウイルス感染症の影響
(6)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 20
(1)県立中央図書館利用状況
(2)協力貸出 (3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5)歴史文化情報センター利用状況
(6)電子図書館利用状況
3 図書館資料充実状況 23
(1)図書資料
(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌) (4)電子書籍
4 図書班 26
(1)図書資料の充実 (2)視聴覚資料の充実
(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借(含協力貸出)
(5)子ども図書研究室
(6)子どもコーナー「どんぐりひろば」
(7)静岡県視聴覚ライブラリー (8)展示他
5 新聞雑誌班 34
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実
(2)提供情報の充実 (3)その他
6 一般調査班 36
(1)レファレンスサービス
(2)市町立図書館などへの支援
(3)特別取扱資料等の保存と公開
(4)障害者サービス
(5)その他の関連事業
7 地域調査班 42
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実
(3)資料展示 (4)市町立図書館への支援
(5)地域資料のデジタル化
(6)歴史文化情報センター
8 企画班 45
(1)図書館職員研修
(2)利用者からの意見
(3)イベント等 (4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡
(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス
(11)図書館DX
【付属資料】令和4年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果
9 振興班 58
(1)市町立図書館振興
(2)関係団体との連携 (3)協力車事業
(4)令和4年度 静岡県図書館大会
(5)表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)
10 総務班 63
(1)図書館協議会
(2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス 65
(1)サービス内容 (2)関連事業
12 歴史文化情報センター(地域調査班) 66
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開
(2)利用状況
13 資料紹介 近年整理完了の布達資料について 67
14 新静岡県立中央図書館の整備状況について(図書館雑誌 2023.5.から抜粋) 71
III 施設及びサービス案内(令和5年度) 80
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 ブラウジング・閲覧室内図
4 利用案内(令和5年度)
表紙……「上村翁旧蔵浮世絵集(52)」

令和6年度(58号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 高橋 健二 1
I 当館の概要(令和6年度) 2
1 沿革
2 令和6年度基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料(1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告(令和5年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和5年度) 13
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組
(3)県内市町の新図書館設置の動き
(4)県内図書館その他の動き
(5)静岡県の新型コロナウイルス感染症の影響
(6)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 19
(1)県立中央図書館利用状況
(2)協力貸出 (3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5)歴史文化情報センター利用状況
(6)電子図書館利用状況
3 図書館資料充実状況 22
(1)図書資料
(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌) (4)電子書籍
4 図書班 25
(1)図書資料の充実 (2)視聴覚資料の充実
(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借(含協力貸出)
(5)子ども図書研究室
(6)子どもコーナー「どんぐりひろば」
(7)静岡県視聴覚ライブラリー (8)展示他
5 新聞雑誌班 32
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実
(2)提供情報の充実 (3)その他
6 一般調査班 34
(1)レファレンスサービス
(2)市町立図書館などへの支援
(3)特別取扱資料等の保存と公開
(4)障害者サービス
(5)その他の関連事業
7 地域調査班 40
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実
(3)資料展示 (4)市町立図書館への支援
(5)地域資料のデジタル化 (6)地域貴重資料の保存 (7)地域視聴覚資料の媒体変換
(8)歴史文化情報センター
8 企画班 43
(1)図書館職員研修 (2)利用者からの意見
(3)イベント等 (4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡
(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス
(11)図書館DX
【付属資料】令和5年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果
9 振興班 56
(1)市町立図書館振興
(2)関係団体との連携 (3)協力車事業
(4)令和5年度 静岡県図書館大会
(5)表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)
10 総務班 62
(1)図書館協議会
(2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス 64
(1)サービス内容 (2)関連事業
12 歴史文化情報センター(地域調査班) 65
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開
(2)利用状況
13 資料紹介 歴史文化情報センターの移転と中世CH資料の改装 67
14 特集 貴重書講座スペシャル講演録 欧米への江戸幕府の眼差しー葵文庫の洋書を中心にー 71
III 施設及びサービス案内(令和6年度) 74
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 ブラウジング・閲覧室内図
4 利用案内(令和6年度)
表紙……「三國通覧図説」

令和7年度(59号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 高橋 健二 1
I 当館の概要(令和7年度) 2
1 沿革
2 令和7年度基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料(1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告(令和6年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和6年度) 13
(1)図書館をめぐる社会情勢
(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組
(3)県内市町の新図書館設置の動き
(4)県内図書館その他の動き
(5)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 21
(1)県立中央図書館利用状況
(2)協力貸出 (3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5)歴史文化情報センター利用状況
(6)電子図書館利用状況
3 図書館資料充実状況 24
(1)図書資料
(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌) (4)電子書籍
4 図書班 27
(1)図書資料の充実 (2)視聴覚資料の充実
(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借(含協力貸出)
(5)子ども図書研究室
(6)子どもコーナー「どんぐりひろば」
(7)静岡県視聴覚ライブラリー (8)展示他
(9)資料データ整備
5 新聞雑誌班 34
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実
(2)提供情報の充実 (3)その他
6 一般調査班 36
(1)レファレンスサービス
(2)市町立図書館などへの支援
(3)特別取扱資料等の保存と公開
(4)障害者サービス
(5)その他の関連事業
7 地域調査班 41
(1)地域資料の充実 (2)提供情報の充実
(3)資料展示 (4)市町立図書館への支援
(5)地域資料のデジタル化 (6)地域貴重資料の保存 (7)地域視聴覚資料の媒体変換
(8)歴史文化情報センター
8 企画班 44
(1)図書館職員研修 (2)利用者からの意見
(3)イベント等 (4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等 (6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡
(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス
(11)図書館DX
【付属資料】令和6年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果
9 振興班 56
(1)市町立図書館振興 (2)協力車事業
(3)令和6年度第31回静岡県図書館大会
(4)関係団体との連携
(5)表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)
10 総務班 61
(1)図書館協議会
(2)施設設備の維持管理 (3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス 63
(1)サービス内容 (2)関連事業
12 歴史文化情報センター(地域調査班) 64
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開
(2)利用状況
13 資料紹介 新貨を流通させるー大村正敏家「金銀引替御用」関係文書 67
III 特集
1 令和6年度葵レク貴重書講座 70
2 寄稿 「浙江省文庫の価値」 74
IV 施設及びサービス案内(令和7年度) 76
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 ブラウジング・閲覧室内図
4 利用案内(令和7年度)
表紙……「仏露辞典」下巻

表紙の図版 静岡県立中央図書館創立 100 周年記念ロゴ

静岡県立中央図書館創立 100 周年を記念して、Web サイト、イベントのポスター、チラシ等に使用するロゴを作成しました。当館職員（親族を含む）から寄せられた 18 点の候補作品について、全職員で投票を行った結果、次の作品を採用することに決まりました。（令和 6 年 12 月）



作成者 中釜 はるひ さん

武蔵野美術大学 造形学部視覚伝達デザイン学科 4 年生（※作成当時）

作成者の言葉

静岡県立中央図書館創立 100 周年おめでとうございます。

今回の 100 周年ロゴマークは静岡の富士山を中心にデザインを構成しました。富士山にかかる朝日で 100 周年の「100」を、開いた本の形で中央図書館の「中」を表しています。また、色は駿河湾の深さをイメージした紺碧と快晴の富士山をイメージしたスカイブルーを使い、グラデーションで歴史を重ねていく図書館を表現しました。

葵 60 号

令和 8 年 6 月 1 日発行

編集・発行 静岡県立中央図書館

〒 422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1

電話 (054) 262-1242(代)

F A X (054) 264-4268

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

静岡県立中央図書館



創立**100**周年